

大塚遺跡 西中上遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第158集



2007

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



おおつか
大塚遺跡
にしなかがみ
西中上遺跡

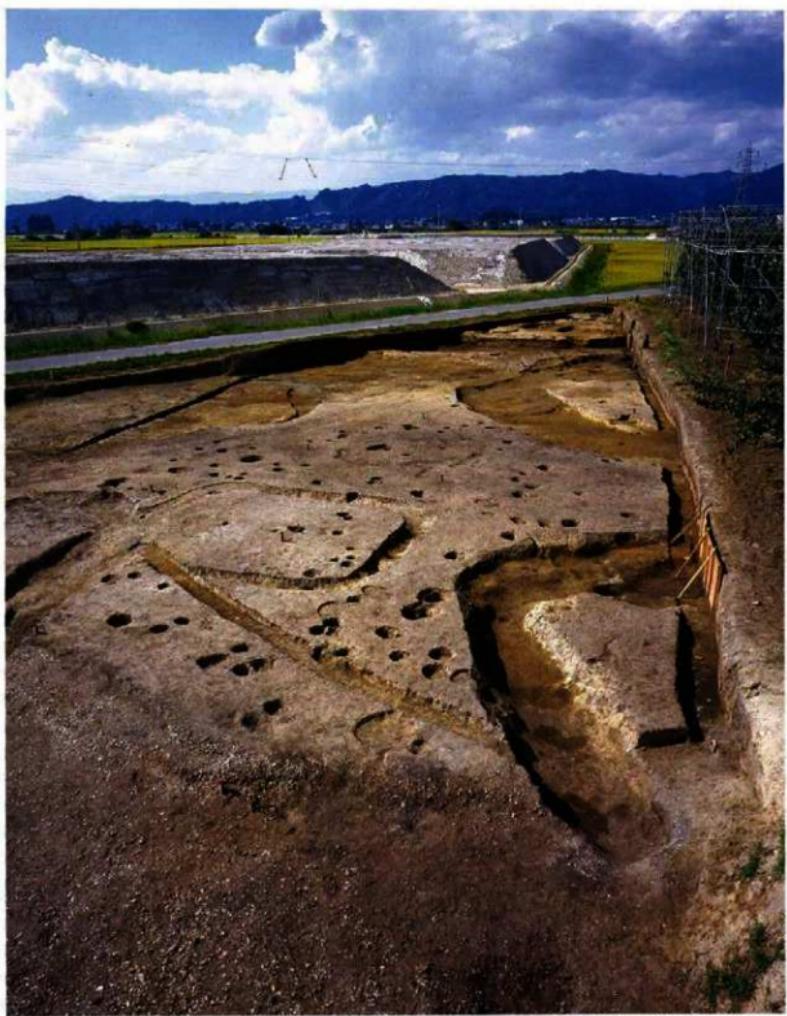
発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第158集

平成19年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

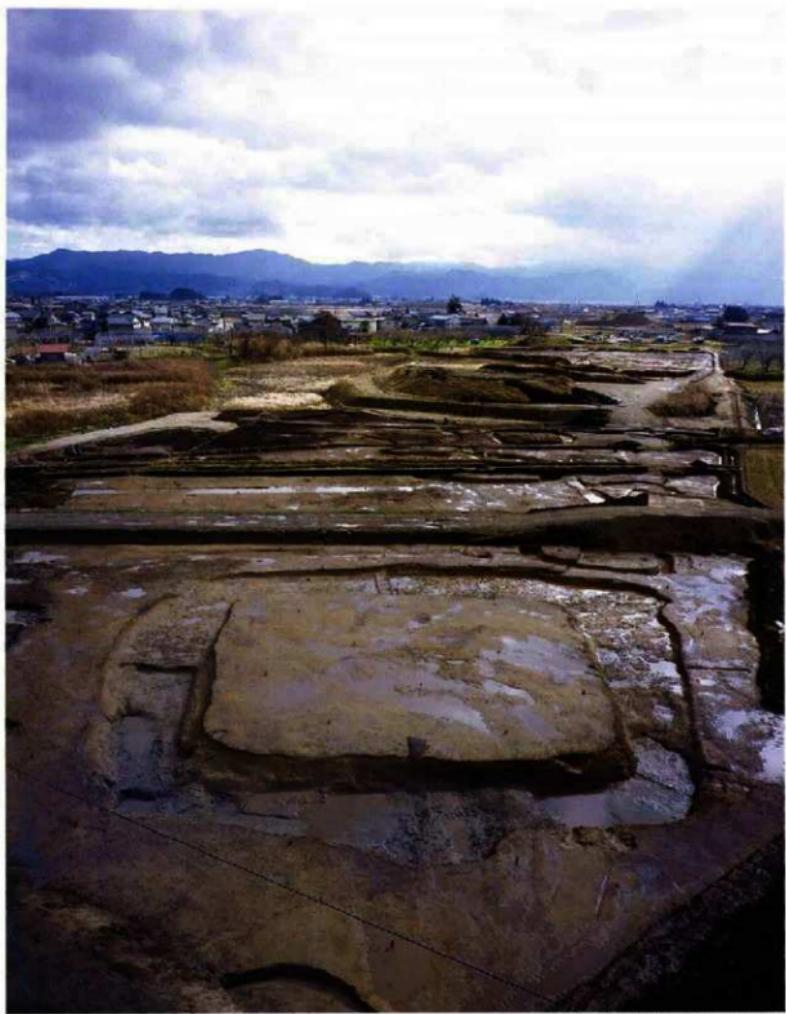




大塚道路A区発掘状況（南より）



大塚道路 SH 257完掘状況（東より）



大塚遺跡 調査区完掘状況（北西より）



大塚遺跡 周溝出土土器



大塚遺跡 S D703出土土器



西中上遺跡 SD 3 遺物出土狀況



西中上遺跡・大塚遺跡上空より（上南より・下上が北）



西中上遺跡 SD 3 出土土器



西中上渚跡出土 墓賓・刻賓土器

序

本書は財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した大塚遺跡・西中上遺跡の調査成果をまとめたものです。

大塚遺跡と西中上遺跡は山形県南部の置賜盆地の東北部に位置する南陽市に所在します。南陽市は、北部は山地で南に沃野が開け、さくらんぼ・ラフランス・ぶどうなどの果樹栽培が盛んで、県内でも有数の「果樹栽培のまち」として知られています。また、開湯900年余の伝統のある赤湯温泉や宮内熊野大社、風光明媚な県南県立自然公園など歴史と観光の町でもあります。

遺跡の周辺には、蒲生田古墳群や、県内最大の前方後円墳で国指定史跡である稲荷森古墳、そして全国でも稀な低湿地性集落が発見された押出遺跡があり、この遺跡から出土したクッキー状の炭化物と彩漆土器などの出土品は国の重要文化財に指定されています。

この度、一般国道113号赤湯バイパス改築事業に伴い、工事に先立って大塚遺跡と西中上遺跡の発掘調査を実施しました。調査では、大塚遺跡からは古墳あるいは周溝墓と考えられる方形や円形に巡る古墳時代の溝が15基確認され、朱色に塗られた土器などが出土しました。そして、西中上遺跡からは、奈良から平安時代にかけての井戸跡、土坑、溝跡などが確認され、多くの須恵器や土師器、黒色土器などの遺物が溝跡を中心に出土しました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産と言えます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えいくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査において御協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 山口常夫

本書は、一般国道113号赤湯バイパス改築事業に係る「大塚遺跡」・「西中上遺跡」の発掘調査報告書である。

既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

調査は国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

出土遺物、調査記録類は報告書作成後、山形県教育委員会に移管する。

調査要項

遺跡名	①大塚遺跡 ②西中上遺跡
遺跡番号	①平成4年度登録 ②平成8年度登録
所在地	①山形県南陽市大字萩生田字大塚 ②山形県南陽市大字高梨字西中上
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
受託期間	平成16年4月1日～平成17年3月31日 平成18年4月1日～平成19年3月31日
現地調査	①平成16年5月11日～平成16年12月17日 ②平成16年8月18日～平成16年12月17日
調査担当者	平成16年度　調査第三課長　渋谷 孝雄 主任調査研究員　氏家 信行(調査主任) 調査研究員　高桑 弘美 調査研究員　犬飼 遼 調査員　吉田江美子 調査員　柏谷 孝 平成18年度　調査第一課長　野尻 優 調査研究主幹　長橋 至 主任調査研究員　氏家 信行(調査主任) 調査員　吉田江美子
調査指導	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
調査協力	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所 山形県教育庁国際教育事務所 南陽市教育委員会

凡　　例

- 1 本書の作成は氏家信行・吉田江美子・佐藤正俊が当たり、本文執筆はⅡ-1・2を佐藤正俊が、Ⅲ-1～4を吉田江美子が担当し、その他は氏家信行が担当した。
- 2 造構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系(世界測地系)により、高さは標高で表す。また、方位は座標北を表す。
- 3 本書で使用した造構の分類記号は下記のとおりである。

SH…周溝	SG…河川跡	SD…溝跡
SK…土坑	SE…井戸跡	SX…性格不明造構
RP…登録土器	P…土器	S…碟

- 4 造構・造物実測図の縮尺などは各図に示し、各々スケールを付した。なお、造構実測図中の造物実測図は1/8で採録している。
- 5 写真図版は任意の縮尺で採録した。
- 6 土層図の色調記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色誌」によった。
- 7 発掘調査及び本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。(敬称略)
辻秀人、手代木美穂
- 8 委託業務は下記のとおりである。

基準点測量業務	株式会社中央測量設計事務所
地形・造構撮影業務	日本特殊撮影(大塚遺跡)
	株式会社ワクニ(西中上遺跡)
造構写真実測業務	株式会社セビアス
図版収集業務	国際航業株式会社
理化学分析業務	パリノサーヴェイ株式会社

目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過	1
2 調査の概要	2
II 遺跡の概観	
1 地理的景観	4
2 歴史的景観	5
III 大塚遺跡	
1 遺跡の層序	11
2 遺構と遺物の分布	12
3 検出遺構	21
4 出土遺物	55
5 調査のまとめ	81
IV 西中上遺跡	
1 遺跡の層序	82
2 遺構と遺物の分布	83
3 検出遺構	85
4 出土遺物	111
5 調査のまとめ	161
付 編「大塚遺跡の自然化学分析」	
報告書抄録	卷末
西中上遺跡遺構配置図	付図

表

表1 大塚遺跡土器觀察表(1)	76	表8 西中上遺跡土器觀察表(3)	154
表2 大塚遺跡土器觀察表(2)	77	表9 西中上遺跡土器觀察表(4)	155
表3 大塚遺跡土器觀察表(3)	78	表10 西中上遺跡土器觀察表(5)	156
表4 大塚遺跡土器觀察表(4)	79	表11 西中上遺跡土器觀察表(6)	157
表5 大塚遺跡縄文土器觀察表	80	表12 西中上遺跡土器觀察表(7)	158
表6 西中上遺跡土器觀察表(1)	152	表13 西中上遺跡土器觀察表(8)	159
表7 西中上遺跡土器觀察表(2)	153	表14 西中上遺跡土器觀察表(9)	160

図 版

第1図 調査区概要図	3	第35図 SD706溝跡	52
第2図 地形分類図	7	第36図 SG256河川跡	53
第3図 遺跡位置図	9	第37図 SH 1・2・SD787出土土器	60
第4図 大塚遺跡層序	11	第38図 SH 3・4・5・257出土土器	61
第5図 大塚道路遺構分布図	13	第39図 SH257出土土器	62
第6図 遺構平面図(分割1)	14	第40図 SH262・263・330出土土器	63
第7図 遺構平面図(分割2)	15	第41図 SX782出土土器	64
第8図 遺構平面図(分割3)	16	第42図 SD703出土土器	65
第9図 遺構平面図(分割4)	17	第43図 SD703出土土器	66
第10図 遺構平面図(分割5)	18	第44図 SD703出土土器	67
第11図 遺構平面図(分割6)	19	第45図 SD706出土土器	68
第12図 遺構平面図(分割7)	20	第46図 SD706・773出土土器	69
第13図 SH 1周溝	26	第47図 SG256・SK出土土器	70
第14図 SH 2周溝(1)	27	第48図 SK古墳時代・古代漆構外出土土器	71
第15図 SH 2周溝(2)	28	第49図 SH 1・2 出土绳文土器	72
第16図 SH 3周溝	29	第50図 SH 2 出土绳文土器	73
第17図 SH 4・5周溝	30	第51図 SH 3・4・5・SK・SX・SD・SP出土绳文土器	74
第18図 SH257周溝(1)	31	第52図 遺構外出土绳文土器・石器	75
第19図 SH257周溝(2)	33	第53図 西上中遺跡層序	82
第20図 SH258周溝	35	第54図 西上中遺跡分布図	84
第21図 SH260周溝	36	第55図 SE64・143井戸跡	91
第22図 SH262周溝(1)	37	第56図 SK10・16・21・25・27土坑	92
第23図 SH268周溝(2)	39	第57図 SK28・29・31・38・39土坑	93
第24図 SH263周溝(1)	40	第58図 SK48・49・94・97・103土坑	94
第25図 SH263周溝(2)	41	第59図 SK126・151・153・161土坑	95
第26図 SH261・808周溝	43	第60図 SK218・219土坑	96
第27図 SH330周溝	44	第61図 SX154・165性格不明遺構	97
第28図 SH331周溝・SX809性格不明遺構	45	第62図 SD 1～3 溝跡(1)	98
第29図 SH748周溝	46	第63図 SD 1～3 溝跡(2)	99
第30図 SK57・500・702・778・810土坑 ・SX782性格不明遺構	47	第64図 SD 3 遺物分布図(1層)	101
第31図 SD703溝跡(1)	48	第65図 SD 3 遺物分布図(2層)	102
第32図 SD703溝跡(2)	49	第66図 SD 3 遺物分布図(3層)	103
第33図 SD703溝跡(3)	50	第67図 SD 3 遺物分布図(4層)	104
第34図 SD703溝跡(4)	51	第68図 SD 5 溝跡	105
		第69図 SD 6 溝跡(1)	107

第70図 SD 6 溝跡(2)	108	第89図 SD 3 出土土器(12)	133
第71図 SD13・15・41溝跡・SK18土坑	109	第90図 SD 3 出土土器(13)	134
第72図 SD55・58・59・65・66溝跡	110	第91図 SD 3 出土土器(14)	135
第73図 SE64・SK21・58・39・49出土土器	117	第92図 SD 3 出土土器(15)	136
第74図 SK94・103・126・151・153出土土器	118	第93図 SD 3 出土土器(16)	137
第75図 SK153・161・218出土土器	119	第94図 SD 3 出土土器(17)	138
第76図 SK218・219・67・72・157出土土器	120	第95図 SD 5 出土土器(1)	139
第77図 SK223・SX154・165・24・93・142・220出土土器	121	第96図 SD 5 出土土器(2)	140
第78図 SD 3 出土土器(1)	122	第97図 SD 5 出土土器(3)	141
第79図 SD 3 出土土器(2)	123	第98図 SD 5 出土土器(4)	142
第80図 SD 3 出土土器(3)	124	第99図 SD 5・6 出土土器	143
第81図 SD 3 出土土器(4)	125	第100図 SD 6 出土土器	144
第82図 SD 3 出土土器(5)	126	第101図 SD 6・65・222出土土器	145
第83図 SD 3 出土土器(6)	127	第102図 SD222・61・193出土土器	146
第84図 SD 3 出土土器(7)	128	第103図 造構外出土土器(1)	147
第85図 SD 3 出土土器(8)	129	第104図 造構外出土土器(2)	148
第86図 SD 3 出土土器(9)	130	第105図 造構外出土土器(3)	149
第87図 SD 3 出土土器(10)	131	第106図 造構外出土土器(4)	150
第88図 SD 3 出土土器(11)	132	第107図 造構外出土土器(5)	151

写真図版

卷頭写真1 大塚遺跡A区完掘状況

写真図版9 四面神社

卷頭写真2 大塚遺跡SH257完掘状況

写真図版10 A区SH 1 (1)

卷頭写真3 大塚遺跡調査区完掘状況

写真図版11 A区SH 1 (2)

卷頭写真4 人跡遺跡圓溝出土土器・SD703出土土器

写真図版12 A区SH 2 (1)

卷頭写真5 西中上遺跡SD 3 遺物出土状況

写真図版13 A区SH 2 (2)

卷頭写真6 西中上遺跡・大塚遺跡荀跡写真

写真図版14 A区SH 3 (1)

卷頭写真7 西中上遺跡SD 3 出土土器

写真図版15 A区SH 3 (2)

卷頭写真8 西中上遺跡出土石器・劍首土器

写真図版16 A区SH 4

大塚遺跡

写真図版17 A区SH 5 (1)

写真図版1 通路遠景

写真図版18 A区SH 5 (2)

写真図版2 A区造構検出・B区SH257検出

写真図版19 B区SH257 (1)

写真図版3 C・D・E区造構検出状況

写真図版20 B区SH257 (2)

写真図版4 B・C・E区東側検出・A区基本層序

写真図版21 D区SH258

写真図版5 A区完掘状況

写真図版22 C区SH331 (1)

写真図版6 C・D・E区完掘状況

写真図版23 C区SH331 (2)

写真図版7 造構荀跡写真

写真図版24 C・D区SH262 (1)

写真図版8 完掘状況空中写真

写真図版25 C・D区SH262 (2)

- 写真図版26 D区SH260
写真図版27 D区SH260・261
写真図版28 E区SH263(1)
写真図版29 E区SH263(2)
写真図版30 E区SH748
写真図版31 E区SH330
写真図版32 E区SD703(1)
写真図版33 E区SD703(2)
写真図版34 E区SD706
写真図版35 B～D区SG256
写真図版36 SX782・SD13・16
写真図版37 SH出土 古墳時代土師器
写真図版38 古墳時代土師器(1)
写真図版39 古墳時代土師器(2)
写真図版40 古墳時代土師器(3)
写真図版41 SD703出土土器
写真図版42 SD703出土土器
写真図版43 SD706・SH出土土器
写真図版44 SH出土土器
写真図版45 SX・SK・SP・道構外出土土器
写真図版46 織文土器・石器
西中上道跡
写真図版47 道跡遠景
写真図版48 調査区猪塚写真
写真図版49 調査区・SD 3 空中写真
写真図版50 道構検出状況
写真図版51 SD 3(1)
写真図版52 SD 3(2)
写真図版53 SD 5
写真図版54 SD 1・6・13
写真図版55 SD 2・4・41・SK218・219
写真図版56 SE64・SK49・153
写真図版57 SK126・161・154・94・RP53
写真図版58 SD 5 出土土器
写真図版59 SE・SK出土土器
写真図版60 SK出土土器
写真図版61 SK出土土器
写真図版62 SD出土土器
写真図版63 西中上道跡出土土器
写真図版64 SD 3 出土土器(1)
写真図版65 SD 3 出土土器(2)
写真図版66 SD 3 出土土器(3)
写真図版67 SD 3 出土土器(4)
写真図版68 SD 3 出土土器(5)
写真図版69 SD 3 出土土器(6)
写真図版70 SD 3 出土土器(7)
写真図版71 SD 3・5 出土土器
写真図版72 SD 5 出土土器(2)
写真図版73 SD 3・5 墓石・刻畫土器
写真図版74 墓石・刻畫土器・道構外出土土器
写真図版75 道構外出土土器
写真図版76 道構外出土土器

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

大塚遺跡及び西中上遺跡は、南陽市南東部の荻生田、高梨地区に所在し、宮内扇状地の自然堤防上に立地している。今回の調査は、一般国道113号赤湯バイパス改築事業に伴う緊急発掘調査として実施された。

赤湯バイパスは、地域高規格道路「新潟山形南部連絡道路（延長約80km）」の一部として計画された南陽市大字竹原から高畠町大字深沼に至る延長7.2kmの一般国道113号の自動車専用道路で、南陽市内の交通混雑の解消と共に東北中央自動車道と一体となり地域間交流の促進や置賜地方の活性化などの効果が期待されている。

この計画に基づいて山形県教育委員会は、当時の建設省山形工事事務所（現国土交通省山形河川国道事務所）と協議を行った結果、平成7年と8年の2ヵ年で亘って、遺跡の保護を図ることを目的に赤湯バイパス予定路線について遺跡の範囲と事業計画区域の平面的な関係を確認する表面踏査（A調査）を行った。

その結果、東から順に東畠A遺跡・東畠B遺跡・鶴の木館跡・百刈田遺跡・西中上遺跡・大塚（旧六角壇）遺跡・中落合遺跡・檜原遺跡・庚塚遺跡・天王遺跡・上大作裏遺跡が確認され、東畠B遺跡を除く10遺跡が赤湯バイパスの路線内に含まれることが分った。これを基に協議を進め、平成12年度からは開発計画との調整を図るために、路線内の用地取得や果樹の伐採終了後、重機械を使ってのトレンチ調査を行い、遺構や遺物の広がりと確認面までの深さを把握する試掘調査（B調査）を実施することとしたが、東畠A遺跡を始めとする9遺跡については、記録保存を目的とする緊急発掘調査を行うことで協議が整った。発掘調査にあたっては、山形県教育委員会・山形河川国道事務所・財團法人山形県埋蔵文化財センターの三者協議の結果、山形県埋蔵文化財センターに発掘調査を委託することで合意に達した。

記録保存

試掘調査は、大塚遺跡が平成14・15年の二回、西中上遺跡は平成14年に山形県教育委員会によってそれぞれ実施された。大塚遺跡は遺跡範囲内の事業予定地内に二ヵ年で計12本のトレンチを設定し試掘した結果、市道荻生田岡根線の南側を主に7本のトレンチから川跡、溝跡、土坑と考えられる遺構が検出され、土師器や須恵器の土器片が出土した。西中上遺跡も12本のトレンチを設定し、試掘したところ7本のトレンチから住居跡、溝跡、土坑と考えられる遺構が検出され、土師器や須恵器が出土した。

この結果、大塚・西中上の両遺跡共に奈良・平安時代の集落跡であり、遺跡の範囲は大塚遺跡が東西100m・南北210m、西中上遺跡は東西200m・南北320mと推測され、事業に係る遺跡の範囲内について記録保存が必要と判断された。

この結果を受け、山形県埋蔵文化財センターと国土交通省山形河川国道事務所との間で、調査の経費や調査の日程などの細部にわたって調整を進め、平成16年度に発掘調査を実施した。

なお、「大塚遺跡」という名称は平成18年度から「六角壇遺跡」に代わって用いられることになった。よって平成17年度以前の文献などには「六角壇遺跡」の名称で記載されている。

六角壇遺跡

2 調査の概要

調査に先立って、平成16年4月12日と4月19日そして、4月23日に国土交通省山形河川国道事務所と山形県埋蔵文化財センターによる平成16年度赤湯バイパス関係遺跡の発掘調査に関する調整及び打ち合わせを行った。その結果、大塚遺跡と西中上遺跡の発掘調査は道路建設工事の工程の関係から、先に大塚遺跡を調査し、その後に西中上遺跡を行うことで合意した。以下に大塚遺跡と西中上遺跡の調査概要を述べる。

＜大塚遺跡＞

調査開始後、調査区内の遺構数及び遺構規模が当初の計画より多大であること、また調査以前より工事用取付け道路が施工されていた調査区西側に遺構の広がりがみられ面積が当初の5300m²から8200m²に増加することが判明し、計画の変更を余儀なくされた。そのため当初の調査計画を変更し、現地調査は平成16年5月11日から8月31日まで、また10月4日から12月17日まで、実働129日間実施した。

世界測地系 調査は重機による表土除去・面整理・遺構プラン検出・遺構精査・記録の順で進めていった。表土除去後、南に隣接する西中上遺跡と共に用方眼(グリッド)杭を設定した。グリッドは世界測地系をもとに5m×5mを1単位とし、平面直角座標系X系:X=216745000、Y=61120000をX=116G、Y=171Gとし、東西軸(X軸)は西から東へ、南北軸(Y軸)は南から北へ、昇順でアラビア数字による番号を割り当てた。

調査区は南北に長く、一般道路・私道・水路等によって区画に分断されていたため、調査区を北からA～E区と設定した。

調査区A～E区 8月31日までにA区とB～E区東半の調査を終了し、9月9日に1回目の空中写真撮影を実施、その後A区の引渡しを行った。そして、代替工事用取付け道路設置後の10月からB～E区西半について調査を再開、12月までに調査の全工程を終了した。調査終了前の11月27日には調査説明会を西中上遺跡と合同で開催し、約60人の参加者を得た。12月16日に2回目の空中写真撮影を実施し、翌17日に西中上遺跡と共に機材撤収を行った。

＜西中上遺跡＞

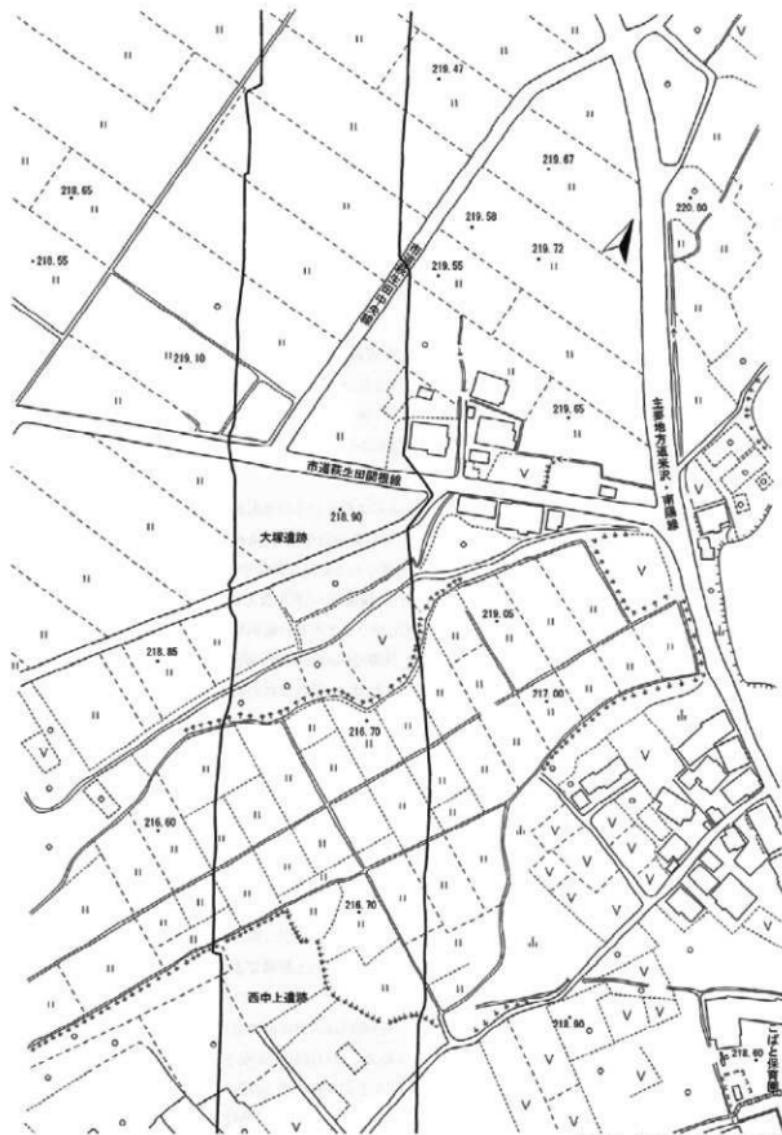
調査対象区域は東側の個遺部分を除く、面積約4000m²について平成16年8月18日～12月17日までの実働82日間で実施した。

調査は、対象部分について重機を使用して表土除去をした後、隣接する大塚遺跡を踏襲して5m×5mを1単位とする方眼グリッドを設定した。

その後、人手により土を丁寧に削り遺構を検出する面整理作業を行い、検出された遺構に登録番号を付け、土層観察のため覆土をベルト状に残したり、半蔵した後完掘した。

遺物は、完形品及び一括土器について登録番号を付し、他は遺構毎またはグリッド毎に取り上げた。また、遺構の精査と併行して、デジタル化のための遺構平面・断面のデジタル写真や、記録保存のための写真撮影などの諸記録作業や遺物取り上げを行った。

調査も終盤に近づいた11月27日に調査の成果を広く公表する調査説明会を大塚遺跡と合同で開催し、悪天候のなか多くの参加者を得た。そして、調査終了が近づいた12月10日に調査区全体の空中写真撮影を実施し、12月17日に調査を終了、大塚遺跡と共に機材撤収を行った。



第1図 調査区概要図(1:2,000)

II 遺跡の概観

I 地理的景観

大塚遺跡と西中上遺跡は、南陽市大字萩生田・高梨地内に所在し、JR赤湯駅から南西約1.2kmの地点に位置し、標高は218.50~219.0mを測る。吉野川と上無川、鐵機川によって形成された宮内扇状地で旧吉野川の右岸に大塚遺跡、左岸に西中上遺跡が旧吉野川の自然堤防上に立地する。現況は、大塚遺跡が水田・果樹・畑地、西中上遺跡は畑地で旧吉野川を挟み両遺跡は直線距離で約100m離れている。

遺跡が所在する南陽市は、山形県の南部、置賜地方の東北部に位置し、東西15km・南北24kmの三角形状の市域をなす。周囲は山々に囲まれ、東に脊梁山脈である奥羽山脈、南には山形県の「母なる川」最上川の源流となる吾妻連邦、南西に飯豊連邦、北西には朝日連邦などの峰々が連なっている。気候は盆地特有の内陸型気候を示し、平均風速は低いが寒暖の差があり、積雪も比較的多く年間の降水量が1,500mm前後を計る。

市の北部は山地や丘陵地帯であるが、南部は約6分1が米沢盆地の北東部を占める低地である。市南部の低地は、南北に縱断する国道13号線付近を境に、東側は泥炭層が堆積する大谷地低湿地が形成され、西側には、宮内扇状地と称される肥沃な沖積平野が広がる。

宮内扇状地は、北から南へ流れる吉野川、鐵機川、上無川などの中小河川の作用によって開拓され、西方の小沢などが形成した小扇状地が分布する複合扇状地となっている。標高は扇頂部の宮内地区で245m前後、扇底部で中落合・長瀬地区の224m程、扇端部の間根・露崎地区で約210mを測り、緩やかに最上川の方へ傾斜している。また、それぞれの流域には流路に沿って自然堤防の微高地が延びている。

吉野川や鐵機川によって形成された自然堤防は、流路の作用から形状に大きな違いが認められる。現在も吉野川は、高梨(大塚遺跡と西中上遺跡の間)・沖田・間・露崎地区の西側に旧河道として残っており、この旧河道を挟んで高梨・沖田地区から東側の赤湯地区にかけては自然堤防が鳥足状の三角州地帯の様相を示し、激しい流路の変遷があったと考えられる。そして、扇状地の東端を流れる吉野川の右岸、JR赤湯駅から南東部には植荷森古墳をはじめとする集落遺跡が偏在しており、安定した大規模な自然堤防が広がっていたことが窺われる。また、露崎・官崎・沖田・鍋田地区では、最上川の影響により流路が大きく変化し、間・沖田地区が島状に残る。各地区的自然堤防周辺には、長期に亘って後背湿地が続いたと推測でき、現在も旧河道の一部を堰き止め築堤した九堤・古峰堤・沖田堤などは灌漑用水として使われている。

他方、鐵機川と上無川によって出来た自然堤防は吉野川旧河道の北西、国道113号線とフランジャー井戸の間にある。鐵機川流域は、広範囲に自然堤防が形成され、東側に矢ノ目・長瀬・西落合・砂塚の各地区が、西側は大仏・大作地区などがある。流域の周辺はやや湿地が広がる河間低地に囲まれ、西側は後背湿地になっている。上無川の自然堤防は、東側ではほぼ東西に延び萩生田・板井・間根地区が所在するが、北側と西側は後背湿地によって囲まれている様相をしめす。流

路にさほどの変化が無く、安定した期間が長く続いたと考えられる。

長期に亘る河川流路の変化によって開拓された扇状地に、自然堤防や後背湿地または河間低地が形成された地域の大規模で安定した自然堤防の微高地に遺跡は立地している。

但し、各時代によって河川流路の変化や埋没が自然堤防の縮小あるいは後退を招くため、生活の拠点である集落や土地（低地等）の利用・開発、生産活動、交通、交易さらには墓地造営などに大きな影響を与えるとともに、新たな活動拠点を得ることにもなる。

2 歴史的景観

大塚遺跡と西中上遺跡が所在する南陽市南部は、吉野川と上無川、織機川によって形成された宮内扇状地の扇端部にあたり、豊富な水と肥沃な扇状地により太古から集落が営まれてきたと考えられ、南陽市には今まで約260箇所の遺跡が確認されているが、その内の約3分の1が宮内扇状地の吉野川や織機川、旧吉野川河道を中心とする流域の自然堤防上に立地している。

約260箇所の
遺跡

旧石器時代では、長岡丘陵に立地する長岡山遺跡から石刃が採集されている。縄文時代早期から前期前半の遺跡は山間地や丘陵縁辺部に広く分布し、沖積地には確認されていない。その後、縄文時代の前期後半から西部の梨郷・漆山地区の小扇状地や大作地区の自然堤防に、高原山遺跡・掛在家遺跡など沖積地に進出してくる。そして、中期後半になると、宮内地区の丘陵縁辺部に漆山遺跡・久保遺跡など、吉野川右岸の赤湯地区の自然堤防に東六角遺跡・諏訪前遺跡などの集落が営まれる。平成15・16年度の百刈田遺跡の調査で中期後半の大木10式期を中心とする集落跡が確認されたことは、縄文時代中期の遺跡の増加と広がりの特徴から推測すると宮内扇状地の扇頂部から扇尖部まで広がることが考えられる。後期・晚期では、沖積地での遺跡が北前遺跡と塩釜前遺跡のみで極端に減少し、大半が吉野川上流域の山間地や丘陵部に点在する。

旧石器～縄文
時代の遺跡

弥生時代の遺跡は、天王山式並行の土器が出土した沢田遺跡や石包丁が出土している萩生田遺跡の他、平成17年度の百刈田遺跡第3次調査で中期の再葬墓が、同じく庚塙遺跡からは後期の堅穴住居跡が確認された。この地域は、宮内扇状地の中央部に位置しており、背後に湿地の河間低地が大きく広がり自然堤防を集落の拠点として早い段階から低地を開発し耕作を行っていたことが窺える。

弥生時代の遺跡

古墳時代の遺跡では、宮内扇状地の北東部・北部・西部の丘陵地帯の南や東緩傾面に5世紀～6世紀代の経塚山古墳・天王山古墳・蒲生田古墳などの古墳群が点在するが、終末期の奈良時代まで続く鳥帽子山古墳・二色根古墳なども存在する。また、国指定史跡となっている福荷森古墳が沖積地の吉野川右岸、赤湯地区長岡に所在している。福荷森古墳は日本海側北限を示す前方後円墳で、全長96mを測り県内最大、東北でも6番目の大きさの4世紀後半の古墳で高環土器や底部穿孔の壺形土器が出土し、現在は史跡公園として整備されている。その他、諏訪前遺跡・鳥貫遺跡・沢田遺跡・百刈田遺跡の4遺跡で古墳時代の聚落跡が確認されている。いずれも扇尖部で東側の吉野川と吉野川旧河道に挟まれた自然堤防に所在し、福荷森古墳から西方へ約1.3kmの地点に位置する。中でも沢田遺跡からは焼失住居跡とともに土師器の高环や壺などが出土し、5世紀代の南小泉Ⅱ式に比定され、いずれの遺跡もこの時期に相当する。福荷森古墳の周辺に集落が偏在しており、密接な関連性があったと推測される。

古墳時代の遺跡

国指定史跡
福荷森古墳

今回、吉野川旧河道の右岸の自然堤防に立地する大塚遺跡の発掘調査で新たに長さ約12~28mを測る方形周溝墓が15基程確認された。これは、沖積地に大きな古墳や方形周溝墓群が存在し、周りの丘陵縁辺部一帯に群集墳が分布していることが推測され、宮内扇状地における墳墓研究を進めるうえで特異な地勢を示す。また、大塚遺跡から方形周溝墓が発見されたことは、織機川・上無川流域の自然堤防上にも古墳時代の集落が存在する可能性を窺わせる。

奈良・平安時代の遺跡

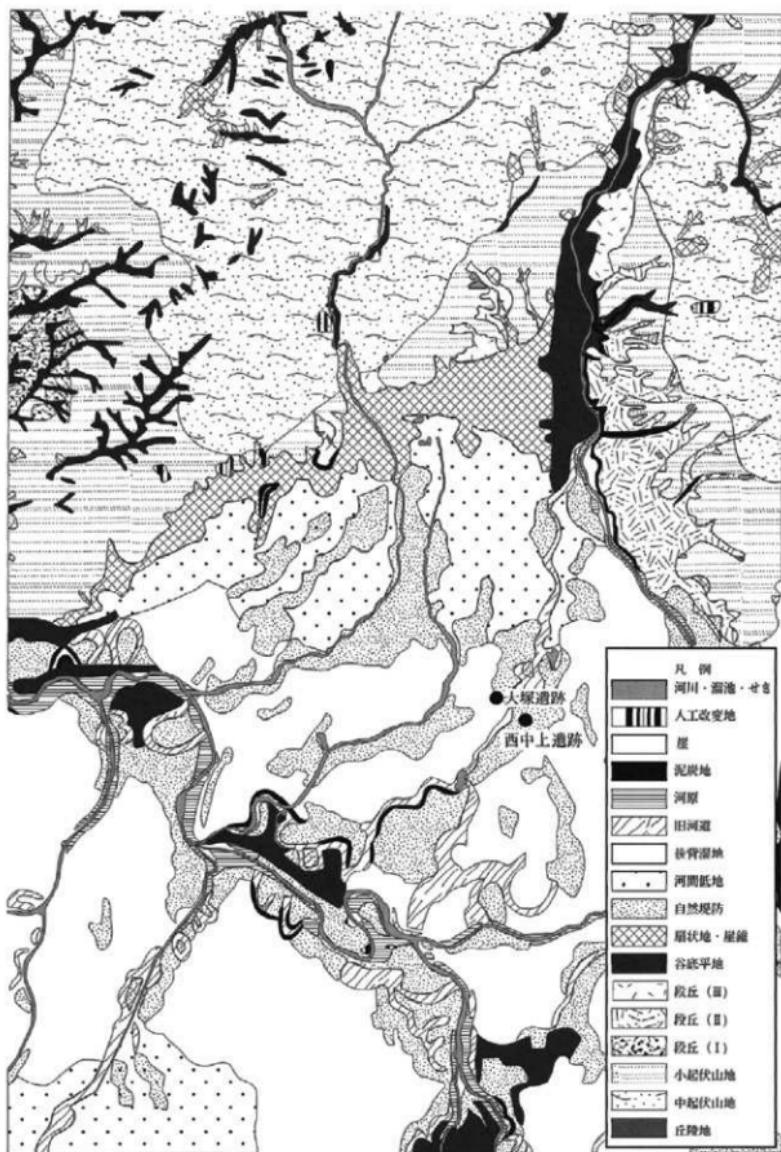
奈良・平安時代の遺跡は、宮内扇状地の扇頂部から扇尖部にかけて庚塙遺跡・捨原遺跡・中落合遺跡・沢田遺跡・西中上遺跡・植木場一遺跡・富貴田遺跡など多く確認され、吉野川・織機川流域の自然堤防上に濃密な広がりを見せており、南陽市周辺は置鷹郡ないし宮城郡と呼ばれる「郡山」という地名から沖縄地区には第Ⅲ期の8世紀末から9世紀末にかけて古代置鷹群衆があったとみられている地域であることから、古代に入り沖積平野の開発が一層進められ、条里制を基とする計画的な村落も造られていったと考えられる。また、北西部丘陵の鶴舞地区には、平野空跡など須恵器の窯跡が点在し、集落などへの供給基地となっている。

中世の遺跡

中世の遺跡は、扇状地の東部から北部・西部へと続く丘陵地帯と宮内扇状地の扇尖部及び扇端部そして吉野川・織機川・吉野川旧河道沿いに多くの城館跡が存在する。那若狭屋敷・中屋敷・中落合館などは扇尖部の吉野川旧河道の両岸に、畿内館・大野原館・沖田館・宮崎館・植木場一遺跡などが扇端部の最上川に隣接して位置する。また、郡山・中ノ目地区には矢の目館・熊の前館・鶴の木館など南北に並んで配置されていることは、旧河道が組合せられた地区から長岡丘陵南端と中ノ目地区の間まで続いている。これらの館跡も河川に面して立地していたと考えられる。最上川や吉野川旧河道に面した館跡は、舟運を利用した生産物資の補給や輸送あるいは人的往来など、物流の拠点としての役割を果たしていたと推測される。多くの城館跡に対し、沖積地での集落跡は余り確認されていない。要因として平安時代の遺跡などと重複しているか、集落内での遺物出土量が少ないと、地上からの確認が困難であると考えられる。

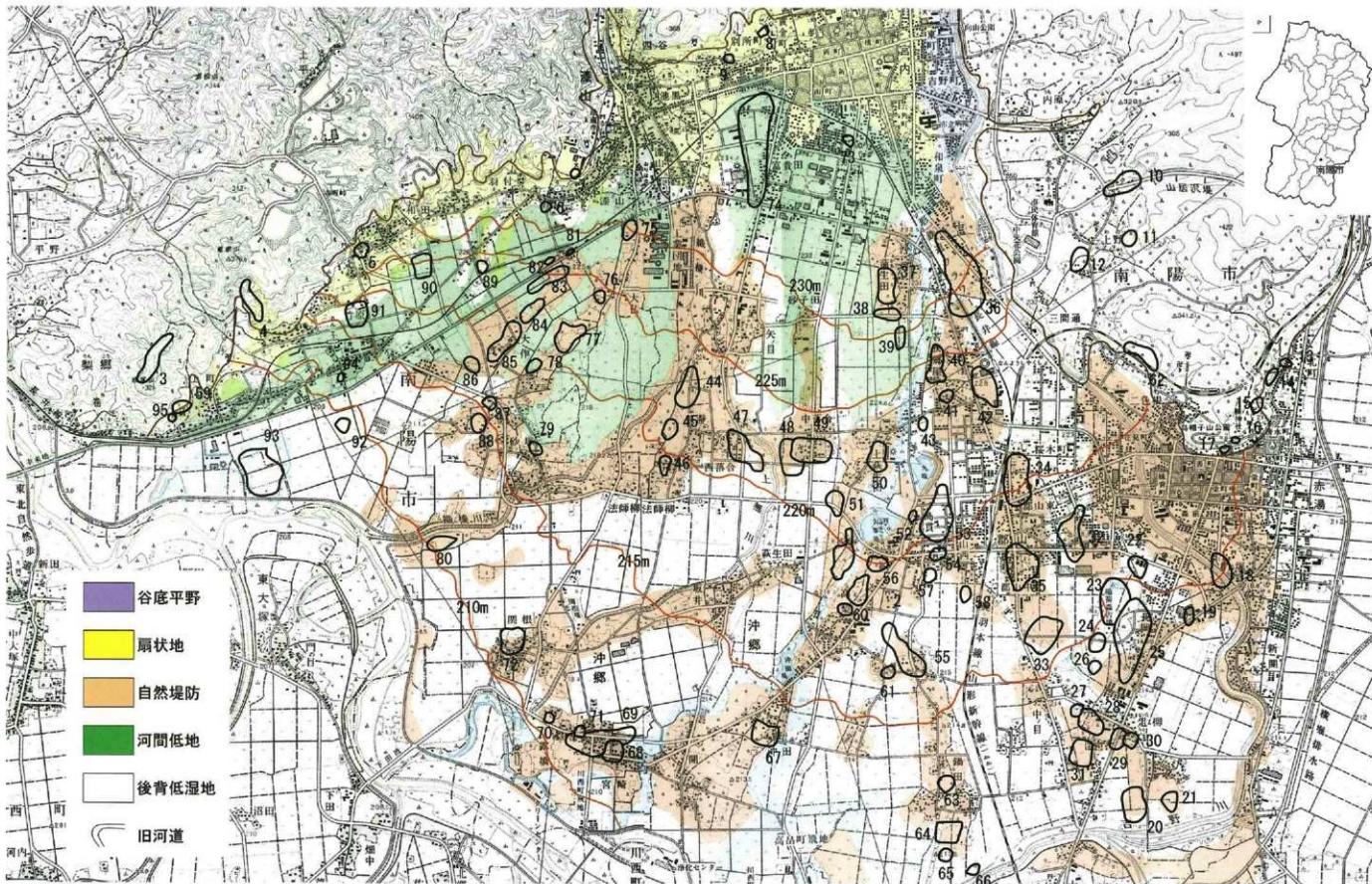
注

- 1) 第3回廻巡の遺跡は、国土地理院発行2万5千分の1の地形図「赤湯」「羽前小松」を基に、「土地分類基本調査一赤湯・上山一」「地形分類図」(1983年阿子町効外・山形県)の多少加筆・修正を加えて、自然堤防・旧河川を中心にして作成した。
 - 2) 和鳥誠一は、遺跡の分布や立地など現地形と古地形を参考に、多摩丘陵から下米吉台地にかけて広範囲に調査を行って、丘陵・台地・沖積地など地形ごとの遺跡の縮小や拡大、時期別にみる遺跡の減少や増大、土器型式ごとの遺跡分布など総合的な遺跡論を述べている。(1958年和鳥誠一・岡本勇『横浜市史』第1巻・横浜市教育委員会)
 - 3) 遺跡や遺物の分布論は、構文時代を中心に1960年代半ばから論議され始め、高橋謙が中期後半から後期まで岡山県吉備地方の型式別の集落分布、向坂鋼二は静岡県遠江地方の土器型式の分布圖と生活圈の闇を論じた。また、中部地方長野県の八ヶ岳山麓一帯の、尖石遺跡など中期を主体とする遺跡について、集落間の構造と形成を地域圏の立場から検討した藤森栄一などの諸氏がいる。これを受けて水野正好は、中部地方の中期を中心に住居の間仕切りと生活、集落構造と宗教構造、集落間の地縁関係など多義にわたって述べている。1970年代の始めには、分布論についての基礎的研究の方向が出版されたと言える。これらの事について岡本勇は、横浜市港北ニュータウン地域内の発掘調査の中で「遺跡のパターン化」として実践するよう提唱している。
- 岡本 勇 1972 「序」[港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告書]横浜市埋蔵文化財調査委員会
 高橋 謙 1965 「構文時代における集落分布」考古学研究第12巻1号 考古学研究会
 藤森栄一 1960 「集落の形成」[図説世界文化史大系第20巻 日本書紀]角川書店
 水野正好 1969 「構文時代集落復元の基礎的操作」[構文時代中期特刊]古代文化第21巻3・4号古代学会
 向坂鋼二 1958 「土器型式の分布」考古学手帖第2号 考古学手帖同人会
 1970 「原始時代郷土の生活」[郷土史講座1 郷土史研究と考古学]朝倉書房



第2図 地形分類図(山形県「春湯・上山」)

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	大塚	集落跡	古墳～平安	49	中落合館	館 路	中世
2	西中上	集落跡	奈良・平安	50	秋生田	集落跡	奈良・奈良
3	錦織山古墳	古墳群	古墳	51	柳ノ木	散布地	奈良・平安
4	天王山古墳	古墳群	古墳	52	鳥置	集落跡	古墳～平安
5	羽里堂	散布地	縄文	53	沢田	集落跡	弥生・古墳～平安
6	前田	散布地	縄文	54	郡山中腹	散布地	奈良・平安
7	鹿山	集落跡	縄文中期	55	百町田遺跡	集落跡	縄・弥・古・奈・平
8	劉所A	散布地	平安	56	古原敷	散布地	奈良
9	劉所B	散布地	縄文	57	沢口	集落跡	奈良・平安
10	瀬生田古墳	古墳群	古墳	58	岡ノ上	散布地	奈良
11	山居沢A	散布地	平安	59	小山A	散布地	縄文
12	上野	集落跡	縄文・中近世	60	春松屋敷	散布地	奈良・平安
13	夷平	散布地	縄文晚期	61	前小屋	散布地	縄文
14	北町	散布地	縄文前期	62	二色根古墳	古墳群	奈良
15	稻荷前	散布地	縄文前期	63	大屋敷	散布地	平安
16	上ノ山	散布地	縄文	64	國內城館	館 路	中世
17	島帽子山古墳	古墳群	奈良	65	國內田	散布地	平安
18	們理館	館 路	中世	66	窪田尻	散布地	平安
19	太子堂	散布地	平安	67	沖田館	館 路	中世
20	東畠A	集落跡	奈良・平安・近世	68	宮崎船	館 路	中世
21	東畠B	散布地	平安	69	福木場一	船跡外	奈良・平安・宝町
22	李の木	包蔵地	縄文・平安	70	露橋A館	館 路	中世
23	長岡山	集落跡	財石器	71	露橋B館	館 路	中世
24	稻荷森古墳	古 墳	古墳前期	72	同閑館	館 路	中世
25	箕阿森山東	散布地	縄文・平安	73	大清水	散布地	縄文・平安
26	長岡南森	散布地	縄文中期・古墳	74	富貴田	集落跡	縄文・奈良
27	中ノ日	散布地	奈良・平安	75	東高堰	散布地	弥生中期・平安
28	内城館	館 路	中世	76	大仏	散布地	縄文後期
29	熊の前	館 路	中世	77	天王	散布地	奈良・平安
30	木上	散布地	奈良・平安	78	中野	散布地	縄文中期
31	鶴の木館	館 路	宝町末～江戸初	79	下八フロ	散布地	縄文
32	東六角	集落跡	縄中・古墳・平安	80	北郷田	散布地	縄文
33	早種田	散布地	奈良	81	大根在家	散布地	平安
34	頭筋前	集落跡	縄中・古墳・平安	82	四百刈	散布地	縄文
35	矢の日館	館 路	宝町	83	高山原	集落跡	縄文前期・平安
36	觀音堂	散布地	縄文・平安	84	根在家	根跡	縄・弥生～奈良
37	瀬生田館	館 路	中世	85	上大作農	散布地	縄文・平安
38	南館館ノ内	散布地	縄文・平安	86	清水ノ下	散布地	古墳後期
39	当時作	散布地	縄文・奈良・平安	87	塙釜	集落跡	縄文中期
40	若狭鄰屋敷	館 路	中世	88	塙前	散布地	縄文晚期・弥生
41	中屋敷	館 路	中世	89	西高田	散布地	平安
42	廢越	散布地	縄文・奈良・平安	90	割田館	館 路	中世
43	西田	散布地	平安	91	鶴鳴小船	館 路	中世
44	庚塙	集落跡	弥生・縄周～平安	92	松木塙	散布地	平安
45	北前	散布地	縄文晚期	93	鶴鳴南館	館 路	中世
46	長嶺館	館 路	中世	94	藏底	散布地	奈良
47	柏原	散布地	縄文	95	小山西	散布地	平安
48	中落合	集落跡	奈良・平安				



第3図 遺跡位置図(国土地理院発行2万5千分の1地形図「赤瀬」(羽前小松)を使用)

III 大塚遺跡

I 遺跡の層序

大塚遺跡は、吉野川が形成した宮内扇状地の扇央部に位置し、旧吉野川右岸の自然堤防上の水田・果樹園地帯に立地する。

層序は調査区北よりA区の東側壁面、B区の116-150G付近、C区の118-144G付近、E区の124-140G付近、以上計4箇所で確認した。

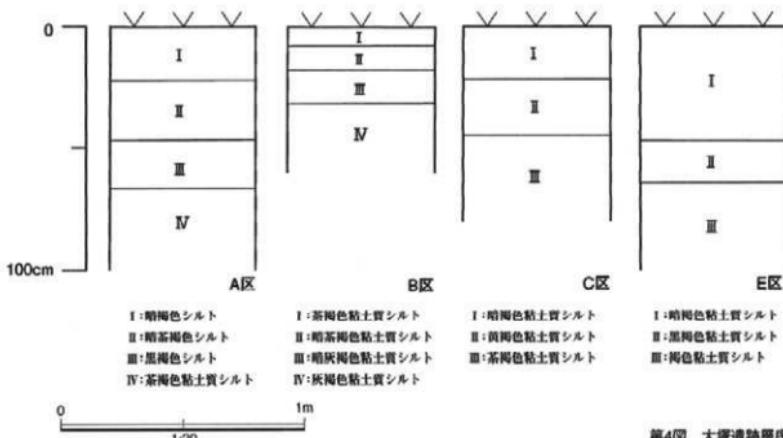
A区では4層の層序であるが、I層はシルトの果樹園の耕作土、シルトのII層ならびに粘土質シルトのIII層は整地層と見られる。そしてIV層は上面が遺構確認面となり、その土質は砂質シルトである。

B区でも4層の層序であり、そのI層は水田耕作土の粘土質シルト、II層およびIII層はともに粘土質シルトで整地層と見られる。そしてIV層上面が遺構確認面となり、土質は粘質シルトである。

C区は3層の層序であり、I層は果樹園耕作土である粘土質シルト、II層上面が遺構確認面である。II層及びIII層は細砂が混入する粘土質シルトである。

E区も3層の層序を確認、I層は果樹園耕作土の粘土質シルト、II層は整地層と見られる粘土質シルト、III層上面が遺構確認面となり、土質は粘土質シルトである。

以上が4箇所の層序の概略であるが、調査区全体で堆積層が確認できる箇所はほとんどなく、耕作土層および整地層の直下に遺構確認面が見られることから遺構面が近現代の圃場整備等による削平を受けている可能性が考えられる。遺構確認面の深さは約50cm~70cmを測る。



第4図 大塚遺跡層序

2 遺構と遺物の分布

大塚遺跡の発掘調査で確認された主な遺構は周溝15基をはじめ、溝跡、土坑、ピット、河川跡等である。本遺跡の調査区は農道と農業用水路により5つに分割されていたため、それらをA~E区の5区に設定した。また用水路など水田耕作、あるいは果樹栽培に伴う擾乱も数多く受けていた。

遺構の分布状況として際立つのは古墳時代の周溝が調査区西半に高い密度で検出されたことである。周溝の分布状況からみてB・C区では西側、A区では東西北側の調査区外に周溝の分布域が広がる可能性も考えられ、また本遺跡から西へ100mの位置には墳丘とみられる台形の盛土が存在し頂上に四面神社が建立されている。

ところでこれらの周溝には真北方向に対し東への傾きが約0度・30度・40度・50度・その他、と分類できるグループ性が見られるが、その一方でこれら周溝間での切合・重複は皆無であるのも特徴である。

また遺構確認面は標高2183m~2195m、概ね218m台後半で推移しており調査区内に大きな高低差はないものの、A区の周溝の削平が著しいためA区を中心とした調査区北側では南側と比べ当時の生活面が今回の遺構確認より高かったものと見られる。しかし今回の調査では周溝以外に明確に古墳時代に属すると思われる遺構は確認できなかった。

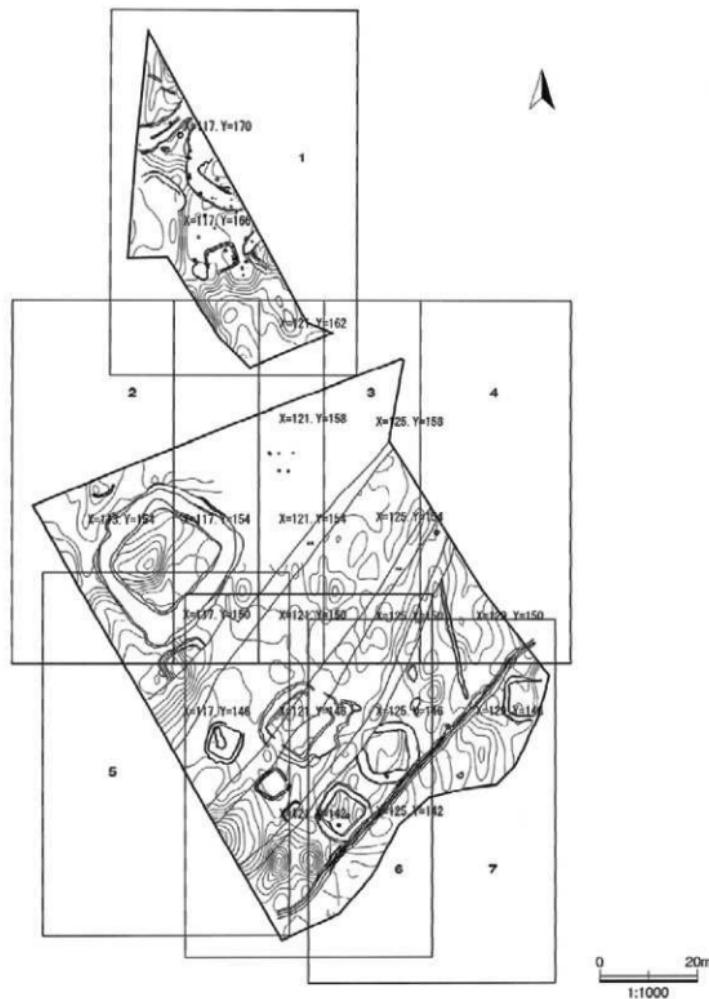
古代の遺構について、平安時代の遺構と考えられるのはSD703・706・787の溝3条、SX782のみであり、かつSD703・706は床面から遺物が出土していないため詳細な時代を確定するには至らない。

B~D区東半は河川跡SG256の存在を確認することできたが、そのためかこの付近では人為的遺構の確認はほぼ無いに等しい。

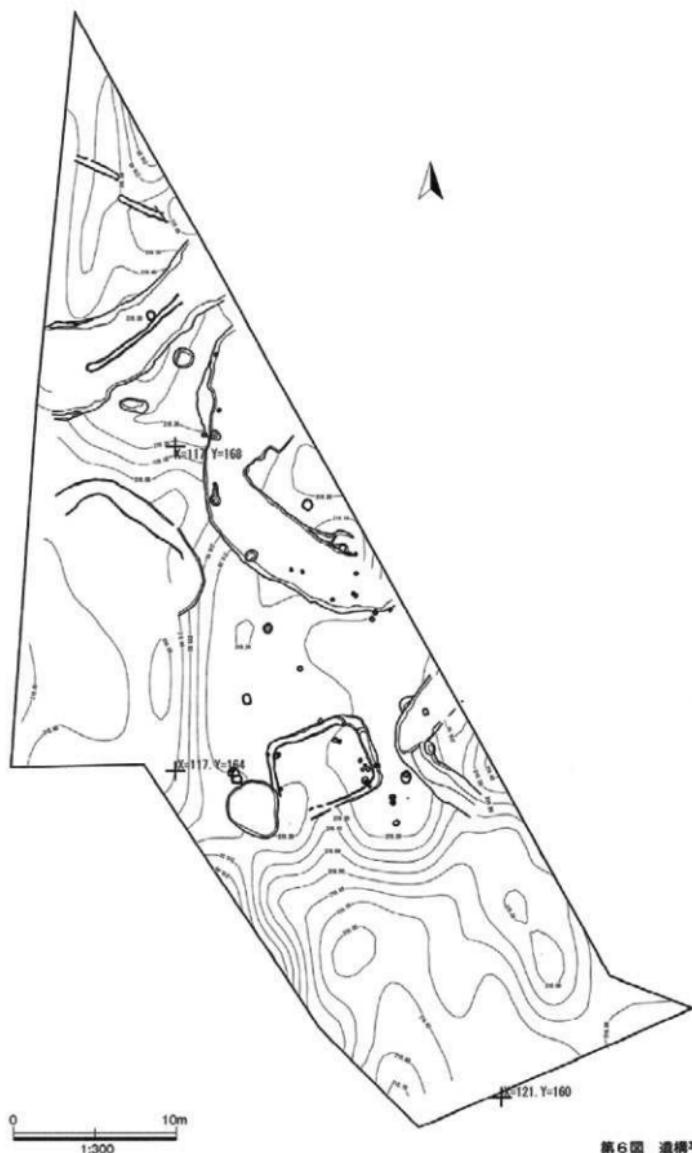
結果、本調査では人の居住を窺わせる遺構は確認できなかった。

統いて出土遺物についてだが、大塚遺跡では縄文時代、古墳時代、古代の遺物が出土し、出土総数は整理箱にして25箱、登録遺物は183点を数える。しかし遺構内からの出土遺物は大半が覆土からの出土で、破片遺物が大多数で完形品が全くないことから、明確な年代決定が困難な遺構が数多い。またひとつある遺構から縄文土器・古墳時代土器・平安時代土器が出土している遺構も存在する。特にA区においては周溝内の覆土中からは数多くの縄文土器が出土するが、古墳時代の土器においては破片遺物が1,2点遺構底面から出土するあるいは床面に遺物は皆無という状態にあった。B区からE区にかけても周溝上層から数多くの奈良~平安時代の須恵器壊片や壊の破片が、下層や床面直上からごく少量の古墳時代土器破片が出土している、あるいは床面からは全く遺物が出土しない遺構もあった。そのため遺物からの年代決定も非常に困難であった。

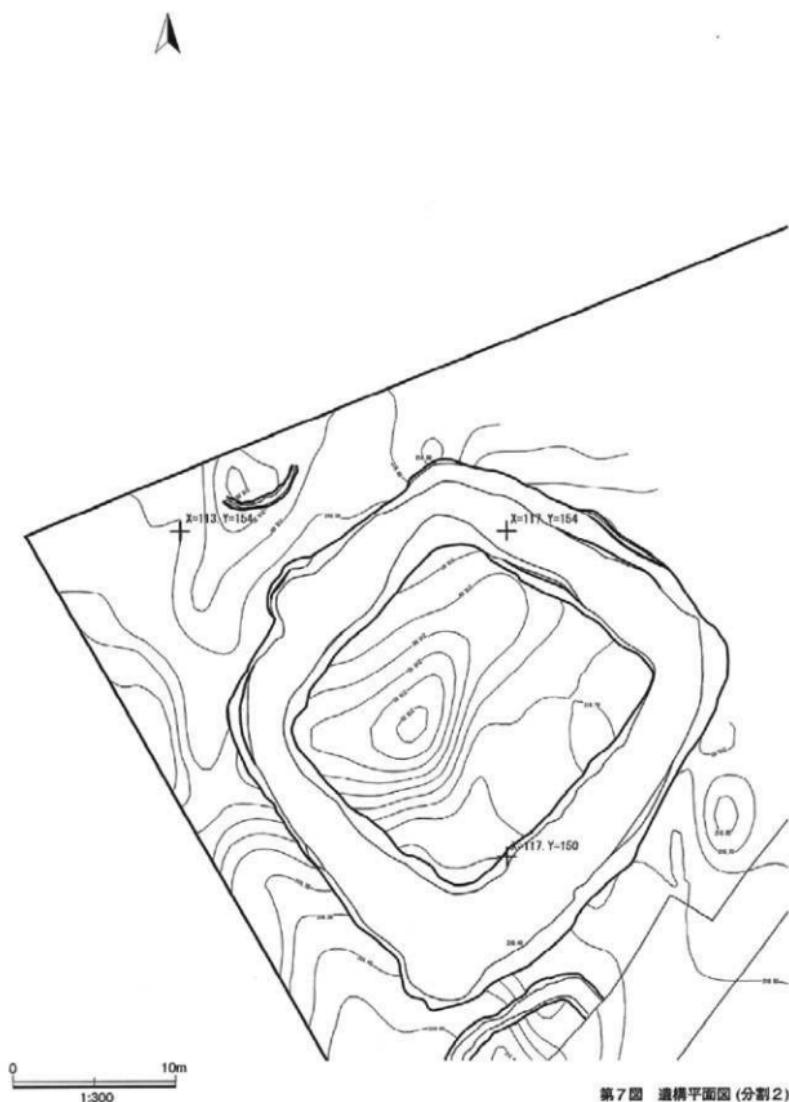
大塚遺跡の遺構と遺物の分布について述べたが、遺物の出土が僅かであり大半が破片遺物であることから、このたびの報告書では残念ながら遺構の年代決定について曖昧にならざるを得ない状況となつた。



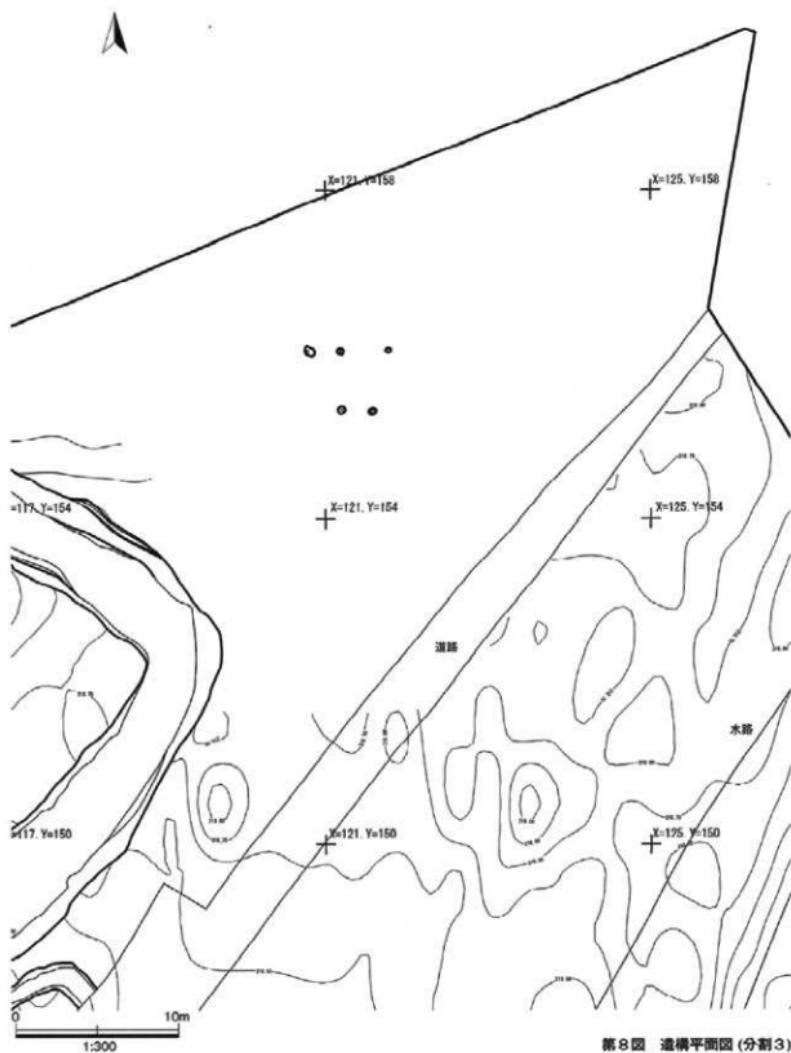
第5図 大塚遺跡 遺構分布図



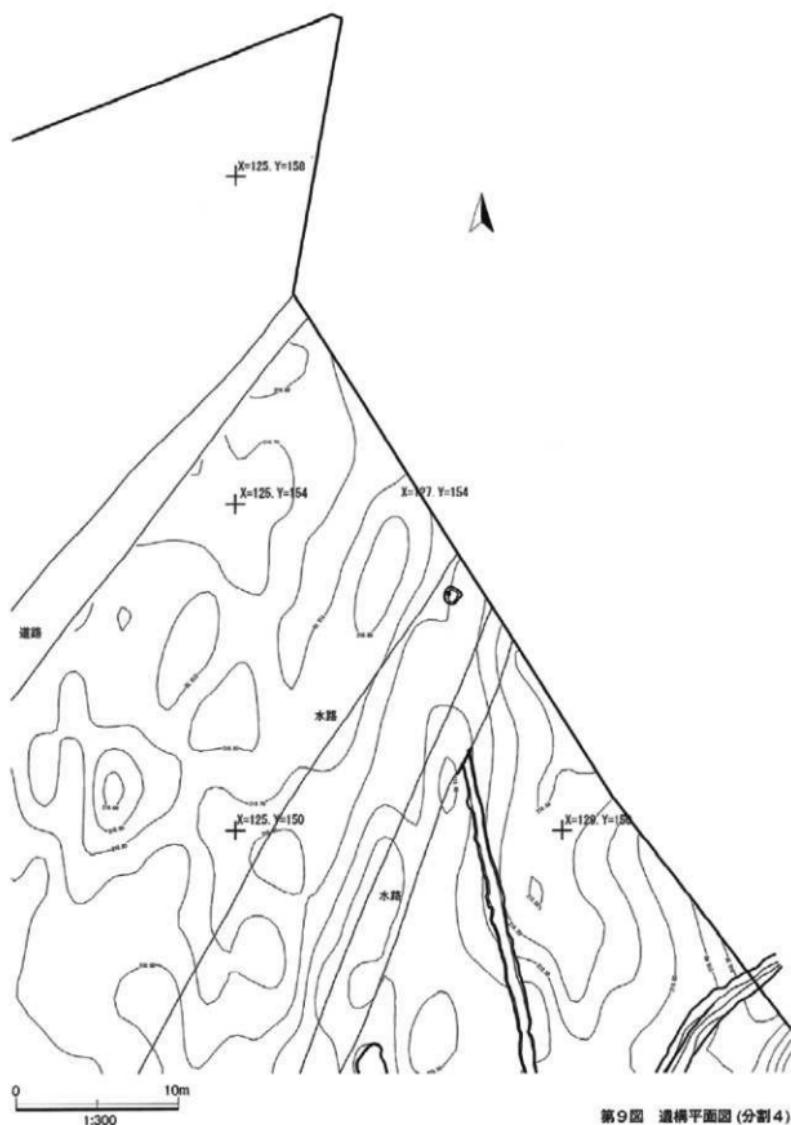
第6図 造構平面図(分割1)



第7図 造構平面図(分割2)



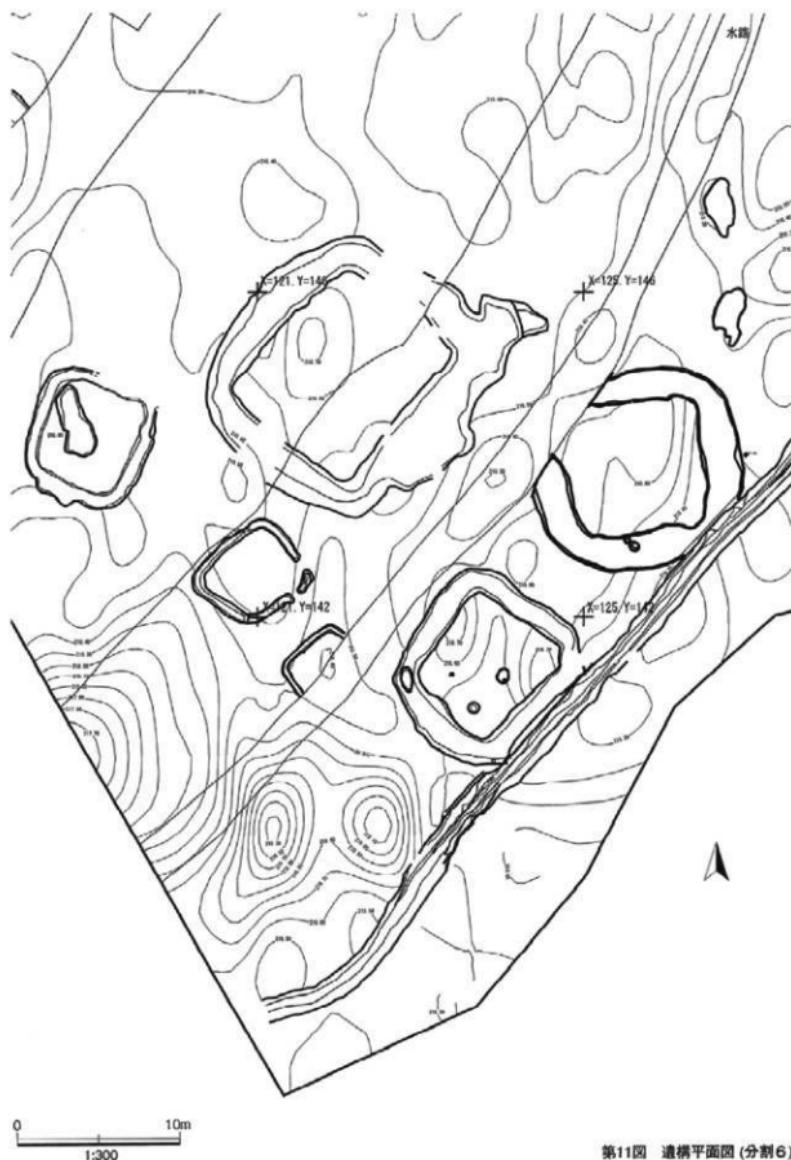
第8図 遺構平面図(分割3)



第9図 遺構平面図(分割4)



第10図 造構平面図(分割5)



第11図 遺構平面図(分割6)



第12図 造構平面図(分割7)

3 検出遺構

(1)周溝

大塚遺跡では調査区内において合計15基の周溝が確認された。近現代の圃場整備等による削平や農作による擾乱により遺構の遺存状態は良好とはいえない、また遺物の出土も僅少である。しかしこれらは概ね古墳時代前期に属するものと推察される。

SH1(第13図、写真図版10・11)

A区北端で検出された。遺構の大部分が調査区外にあり、溝の一部のみの検出となつたために全体の形状・規模は不明だが形状や埋土、遺物等から周溝とした。プラン検出当初は方形と考えたものの、精査後円形周溝の可能性も出てきた。溝の規模は、幅4.0m前後、深さ40~50cmほどである。周溝内の覆土は自然堆積によるものと見られ、上層が粘質土層、中間層は粘質土層、下層は礫・粗砂層から構成される。溝形は横長のU字型を呈し、溝底面は広く平坦で、溝外側壁の立ち上がりが緩やかであるが主体部側壁の立ち上がりは急角度である。

出土遺物は、床面と下層からの遺物の出土ではなく、中間層からは古墳時代前期の小型丸底壺(2)・器台(1)が、上層から古墳時代中期の朱彩の小型丸底壺(3)、古代の須恵器(4~8)、そして上層下層ともに绳文時代の上器破片(177~186)が出土している。平安時代の土器器环(10)が出土したSD787がSH1の溝内に存在することから、平安時代までにSH1の溝は埋没していると理解できる。主体部は隨所で果樹栽培施設による擾乱を、周溝では整地における削平を受けているため遺構の遺存状態は良くない。

SH2(第14・15図、写真図版12・13)

A区中央東側で検出された。SH2は削平が著しく一部溝が消失していたこと、周溝の半分以上は調査区外にあることから遺構全体を検出できなかつたが、西角が存在する方形の周溝であることを確認することができた。周溝はN-42°・Eの方向を向く。溝の規模は削平の顯著な部分を除き、幅約3.7~6.0m、深さ約20~30cmである。周溝の規模は確認できないが外辺15m内辺8m程度の規模と推測できる。溝の断面は緩やかな弧を描き底面は広く平坦だが、外側壁よりも主体部側の立ち上がりが急角度である。主体部については土坑・ピットは存在したものいざれも單一層で皿状の浅いもので遺物も出土しなかつた。溝内南東部にピット5箇所(SP801~805)を検出したが遺物は出土せず時代は不明である。周溝内の覆土は自然堆積によるものと見られ、大別して上層の粘質土層と下層の砂質土層の2層で構成される。

上層・下層ともに繩文土器の破片(187~210)が数多く出土し、底面では古墳時代前期の丸底型土器器一部(12)が出土している。

SH3(第16図、写真図版14・15)

A区東南で検出された。遺構の大部分が調査区外にあるため規模は不明だが、西角が存在し方形の周溝であることが確認できる。南端は暗渠によって擾乱を受けている。周溝はN-42°・Eの方向を向く。溝の規模は幅約15.5~29m、深さ約30~50cm。溝形は、北辺においては横長のU字型を呈しており底面は比較的広く平坦であるが、若干主体部側壁の立ち上がりが急角度であり、外側壁には中場がある。西辺では、緩いV字型であり底面が狭く、やはり主体部側の立ち上がりが急角度である。周溝内の覆土は自然堆積によるものと見られ、粘質土層と粘質土層の2層で構成されて

15基の周溝

円形の周溝の可能性

朱彩土器

方形の周溝

古墳時代前期の丸底型土器

円形周溝の可能性

いる。

古墳時代前期の朱彩土器 上層・下層共に繩文土器破片(213・214)が出土した。底面では古墳時代前期の朱影の小型丸底壺の一部(15)が出土している。

SH4(第17図、写真図版16)

A区中央西で検出された。遺構の大半は削平により消失しているが、東角と北辺の一部が残存していたため方形の周溝として確認された。そのため周溝の規模、溝の幅・深さは不明である。残存する北辺より推定して周溝はN-42°-Eの方向を向く。正確な溝形は不明であるが、残存している部分から推測して底面の広い横長のU字型を呈していたと思われる。

周溝内の覆土は自然堆積によるものとみられ、概ね粘土層と粘質土層で構成されている。下層では時代不明土器破片(16)が出土している。

SH5(第17図、写真図版17-18)

A区南側で検出された。南西部に擾乱を受けているが、A区では周溝全体が検出された唯一の方形の周溝である。東西外辺7m内辺5.6m、南北に外辺5.4m内辺4.3mの規模を持つ東西軸の長い方形の周溝で、やや南に開く台形を呈す。N-70°-Eの方向に傾く。溝形は横長のU字型、あるいは緩い弧を描いている。溝幅は約0.3~0.65m、深さ4~17cmと浅い。周溝の北東角約2mにわたり溝の床面が浅くなる部分がある。

周溝内の覆土は自然堆積によるものと見られ既ね2層の粘質土で構成されている。

底面から繩文土器の破片数点(216~219)と時代不明の土器(17)が出土している。SH5周辺と主体部では多数ピットが検出され、柱穴痕をもつピットもあったが、遺物の出土がない、あるいは繩文土器が堆積土上層から出土するなど時代は特定には至らない。ただしSP108についてはSH5の周溝を切っているためSH5の埋土が堆積した後に掘りこまれたと理解できる。

SH257(第18-19図、写真図版19-20)

本遺跡最大の方形周溝 B区西側で検出された、本遺跡最大の方形周溝である。周溝の規模は、東西方向の最大外辺29m内辺18m南北方向の外辺26m内辺16mと東西軸の長い方形の周溝で南に開く台形を呈している。N-42°-Eの方向に傾く。溝形は概ね床面が平らな横長のU字型を呈しており、溝幅は約9~13m、深さ20~100cm、底面は標高にして北辺部分が217.65m、南辺部分が218.45mと約80cmの高低差があり、南辺と比べ北辺の溝が深くなっている様子が顕著である。

周溝内の覆土は自然堆積によるものと見られ、粘性が高い粘土層・粘質土・砂質土の数層から構成されている。中間層には灰白色の粘土層が諸所に見られた。底面からは、古墳時代前期の甕(18)、高坏の脚部(22,23)、朱彩の小型丸底壺類等(19,20)が出土している。中間層、上層からは古代の土器器皿・蓋、須恵器器皿・蓋、甕の破片等(26~42)が出土している。

SH257周溝内は湧水が著しく、地山は水を含む柔らかい粘土であったため調査中の床面観察が非常に困難であったが、大きな凹凸はないと思われる。主体部には農作等による擾乱が若干見られたものの遺構と認定されるものはなかった。

SH258(第20図、写真図版21)

B区東南で検出された。北半のみであるが東西方向の外辺10.5m内辺7.5mの方形の周溝であることが確認された。N-55°-Eの方向に傾く。溝幅は約130~140cm、深さ約40cmである。溝形はやや横長のU字型を呈し、底面はほぼ平坦である。周溝内の覆土は自然堆積によるものとみられ、数層の

粘質土層と砂質土層から構成される。

覆土中に土器片の出土は見られたものの、床面での遺物の出土はなかった。

SH260(第21図、写真図版26・27)

D区北西で検出された。東西方向の外辺6.5m内辺5.2m、南北方向の外辺5.5m内辺4.2mのやや東西軸の長い方形の周溝で、N 55° -Eの方向に傾く。溝幅は約50~80cm、深さは最深約50cmである。南辺・東辺の2箇所で溝が消失する部分があり、それについてブリッジを形成している可能性がある。またこの溝の底面について最大30cm以上の高低差があり、溝形は浅い部分は横長のU字型を、深い部分についてはV字型を呈する。そのため浅い部分について床面は緩やかな弧を描き、深い部分については急角度の立ち上がりを見せ床面は幅狭い。

ブリッジ

周溝内の覆土は概ね自然堆積によるものと見られ、粘土層と粘質土層によって構成されている。出土遺物はない。

主体部に土坑等が見られたものの、皿状の浅く不整形な形状のものであり出土遺物はない。

SH261(第26図、写真図版27)

D区南西で検出される。南半は用水路によって削平されているが、東西方向の外辺4.6m内辺4.2mの方形の周溝であることが確認され、N 55° -Eの方向に傾く。溝幅は約35~50cm、深さは25~35cm、溝形はU字型を呈し、立ち上がりは内外壁とともに急角度であり、底面は平坦である。

周溝内の覆土は概ね3層の粘質土層と砂質土層から構成される自然堆積によるものと見られ、出土遺物はない。

SH262(第22・23図、写真図版24・25)

C区とD区に跨った状態で検出された。遺構の中央を用水路が東西に縱貫しているため周溝内と溝東辺・西辺が大幅に削平され、また南辺の一部が農業用排水管によって搅乱を受けている。東角においてやや溝が崩れていたが四方角部分をもつ方形の周溝として確認した。周溝はN 42° -Eの方向に傾く。東西方向が外辺約16m内辺約11m、南北方向が外辺約15m内辺約9mと東西軸の長い方形である。溝幅約250~280cm、深さ約40~50cmである。また、用水路断面において遺構断面観察を行ったところ、遺構確認面よりさらに25cm上まで溝の堆積が確認できた。溝形は横長のU字型を呈し、底面は平坦であり、主体部側壁の立ち上がりは急角度である。

東西軸の長い
方形周溝

周溝内の覆土は数層の粘質土層と砂質土層で構成される自然堆積によるものと見られ、中間層に灰白色の粘土の堆積が諸所で見られる。出土遺物について床面からの出土はなかったが、中間層より古墳時代前期と思われる土師器壺あるいは窓の体部(43)、また比較的浅い部分より古代の土師器・須恵器の壺等(44~52)が出土している。

SH263(第24・25図、写真図版28・29)

E区西側で検出された。南辺端をSD703に切られ、一部果樹栽培による搅乱を受けているが、ほぼ周溝全体が検出され、方形の周溝と確認された。N 42° -Eの方向に傾く。東西向外辺約11m内辺7.4m、南北の内辺は7mであり、やや東西軸の長い方形の周溝と見られる。溝幅は50~80cm、深さ約55cm、溝形は横長のU字型を呈する。床面は平坦で、主体部側壁の立ち上がりが外壁と比べ若干急角度である。

周溝内の覆土は数層の粘質土層から構成される自然堆積によるものとみられる。

出土遺物について覆土上層に押しつぶされた状態で出土した古墳時代前期と思われる小型壺

(53)と時代不明の土器片(54)が出土している。

主体部分の打ち固められた層

主体部分には堅く打ち固められたと見られる層があり層存在し、その土中からは時代不明の土器(55)が出土している。そのほかにも皿状の土坑が確認されたが遺物の出土はなかった。

SH330(第27図、写真図版31)

E区東端で検出された。削平・搅乱により東辺と北辺の一部を失っているものの、南北外辺9m、内辺7mの方形の周溝であることが確認でき、造構はほぼ真北方向を向く。溝幅は約90~130cm、深さ約20~45cm、溝形は横長のU字型あるいは緩やかな弧を描くがわずかに主体部側壁の立ち上がりが急角度である。周溝の底面に大きな凹凸はない。

朱彩された壺の頭部

覆土は2~3層の粘質シルト層から形成され、自然堆積によるものと見られる。主体部では造構の存在を確認できなかった。出土遺物について西辺堆積土中間層から朱彩された壺の頭部を見られる古墳時代前期の土器が出土している。

SH331(第28図、写真図版22~23)

C区西端で検出された。東辺の一部が確認調査により消失したものの、東西外辺約8m内辺6m、南北外辺約7.5m内辺5.5mの東西軸の長い方形の周溝である。N20°Eの方向に傾く。溝幅は約70~130cm、深さ約15~40cm、溝形は横長のU字型を呈しており、底面は平坦で大きな凹凸はない。また主体部側壁の立ち上がりは急角度である。

S X 8 0 9

覆土はほぼ3層の粘質土からなり、自然堆積によるものと見られる。遺物の出土はなかった。主体部部分にはSX809が確認された。南北長軸約420m東西短軸160m深さ約20cmの不整形で、主体部内での位置は北側に偏りを見せる。覆土は2層からなる粘質土で、遺物等の出土はなかった。

SH748(第29図、写真図版30)

E区中央で検出された。南東角をSD703に、北西角を用水路に削平されている。また数箇所に大きく果樹栽培施設等による搅乱を受けているが、方形の周溝の大部分を残している。東西外辺約13m内辺8m、南北外辺約12.5m内辺8mと若干東西軸の長い方形である。造構はほぼ真北方向を向く。溝幅は約190~240cm、深さ約10~30cm、溝形は横長のU字形を呈し、底面は平坦で大きな凹凸はない。

周溝内の覆土はほぼ3層の粘質土からなり、自然堆積によるものと見られる。遺物の出土はなかった。また主体部には土坑やビットが確認されたが遺物の出土はなかった。

SH808(第26図、写真図版22)

円形の周溝

B区北端で検出された。南半のみの確認ではあるが円形の周溝とみられる。溝幅は約50~60cm、深さ約30cm、溝形はU字型を呈し、底面に目立った凹凸はない。覆土は5層ほどの粘質土からなる自然堆積によるものとみられる。遺物等の出土はない。

(2) 土坑

SK500(第30図)

D区東端で検出された。直径およそ100cmの不整形、深さは20cm程度である。覆土は粘質シルトの1層から構成されている。出土した遺物は須恵器の壺(154)と甕(155)の破片のみである。

SK702(第30図)

E区中央、SD703の北隣で検出された。造構は円形で直径60cm・深さ50cmほどである。覆土は粘

質シルトとシルトの2層で構成され、自然堆積によるものと見られる。遺物は出土していない。

(3) 性格不明遺構

SX782(第30図、写真図版36)

E区南・SH5西側で検出された。遺構は円形に近いものの不整形で、深さ約10cmと浅く皿状を呈している。覆土は粘質土からなる自然堆積によるものと見られる。遺物は古墳時代後期の高杯・小型壺など(57~62)、古代の須恵器・黒色土器の壺(63~69)や壺の破片(70~72)、楕円土器(220~222)などが出土している。

古墳時代後期

(4) 溝跡

溝跡遺構と認定したのはE区の4条であるが、時代を特定できたのは2条である。

SD703(第31~34図、写真図版32・33)

E区で約78mにわたって検出された。遺構は西端で北方向へ曲がるもの北東から南西へほぼ直線に伸び、調査区外に延長すると思われる。切りあいからSH263・748より新しい遺構と考えられる。溝幅は約150~240cm、深さ約100cm、溝形はV字型を呈する。覆土は4~5層の粘質土からなり、自然堆積によるものと見られる。底面からの出土遺物はなく、覆土から平安時代の土師器・須恵器の壺・壺等(73~115)、古墳時代前期の器台あるいは高杯脚部(116)が出土している。そのため時代の特定には検討が必要である。

V字形溝

SD706(第35図、写真図版34)

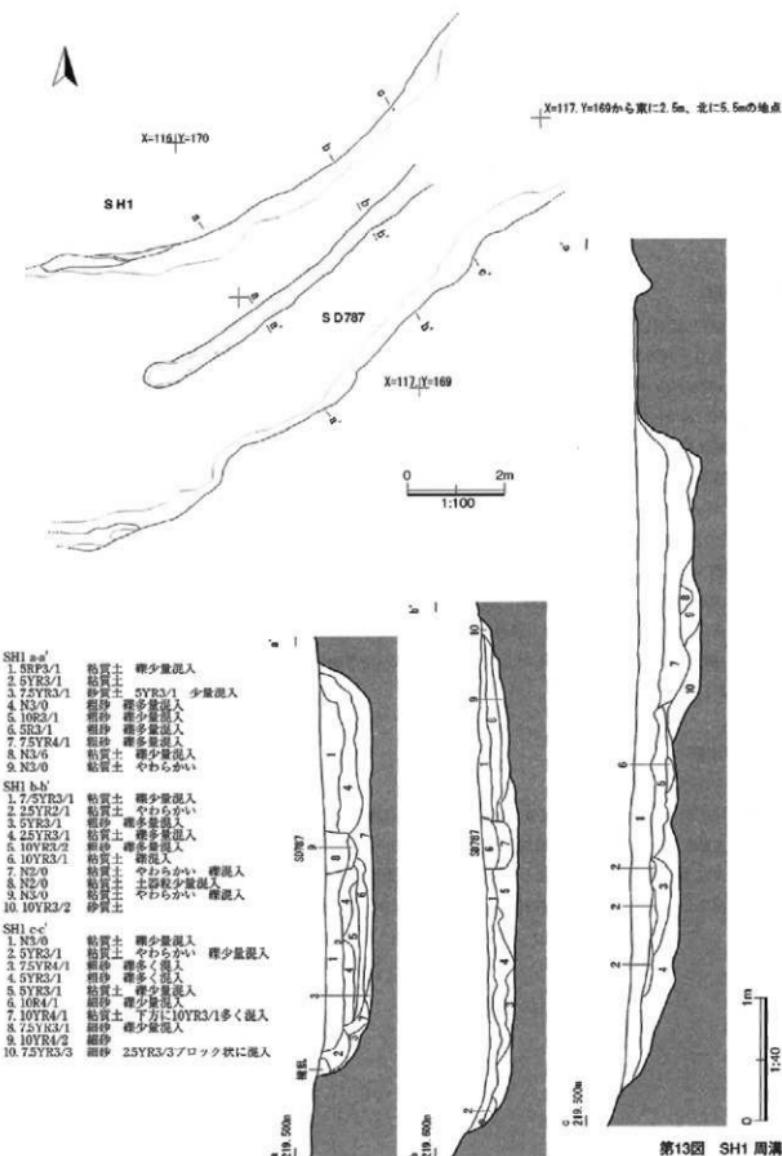
E区の東約25mにわたって検出された。調査区を西へ15°傾いて南北へ直線的に走る。溝幅は70~90cm、深さは5~10cmと浅い。溝形はほぼ緩やかなU字型を呈する。覆土は1~2層からなる粘土で構成され自然堆積によるものとみられる。覆土から、奈良~平安時代の須恵器壺、蓋、壺の破片等(117~138)が出土した。

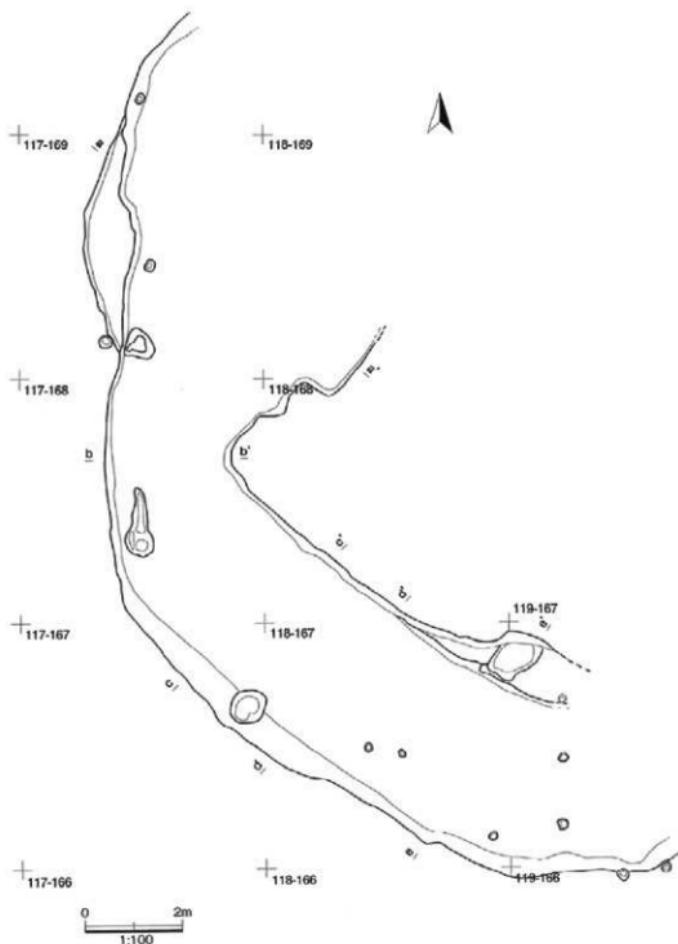
(5) 河川跡

SG256(第36図、写真図版35)

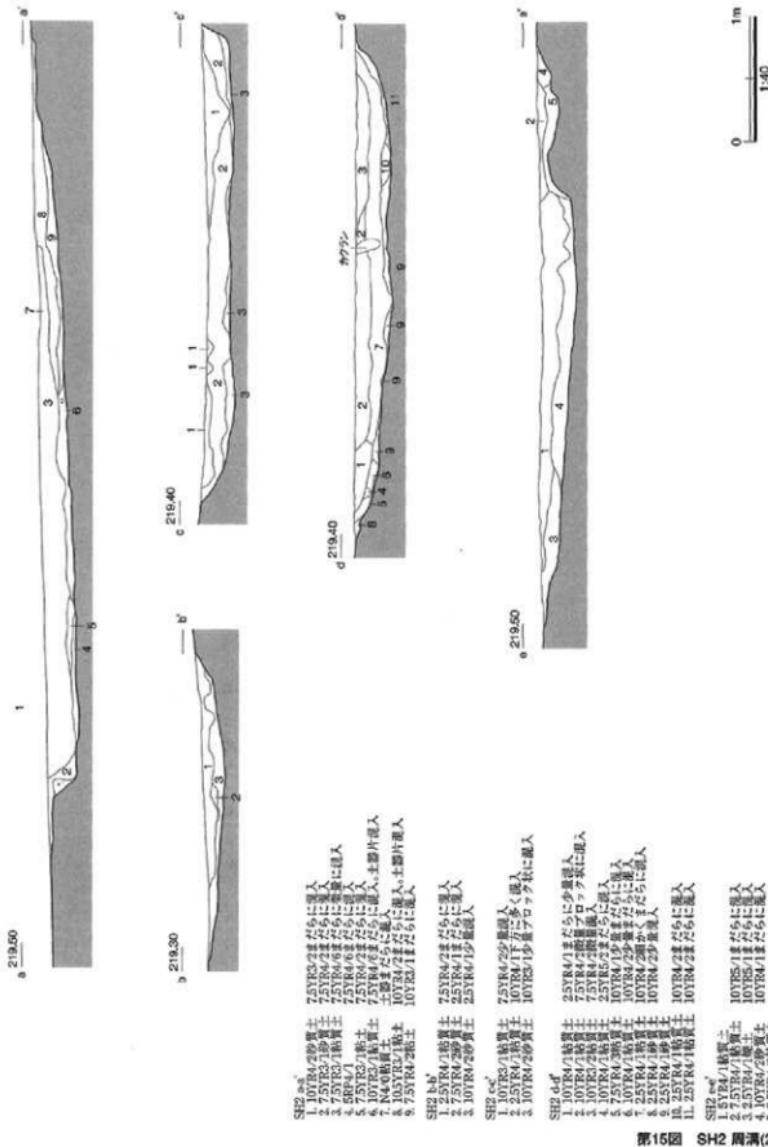
B区からD区にかけての調査区東側で検出された。河川は蛇行をしながら北西から南東に流路をとり、遺跡南側の旧吉野川河川道に流れ込んでいたとみられる。川幅は8~11mで深さは20~50cmと浅い。覆土は粘土や粘質土などから構成される。出土した遺物は少量で破片遺物が大半を占める。出土した遺物の年代は楕円時代から平安時代にわたる。

旧吉野川河川道

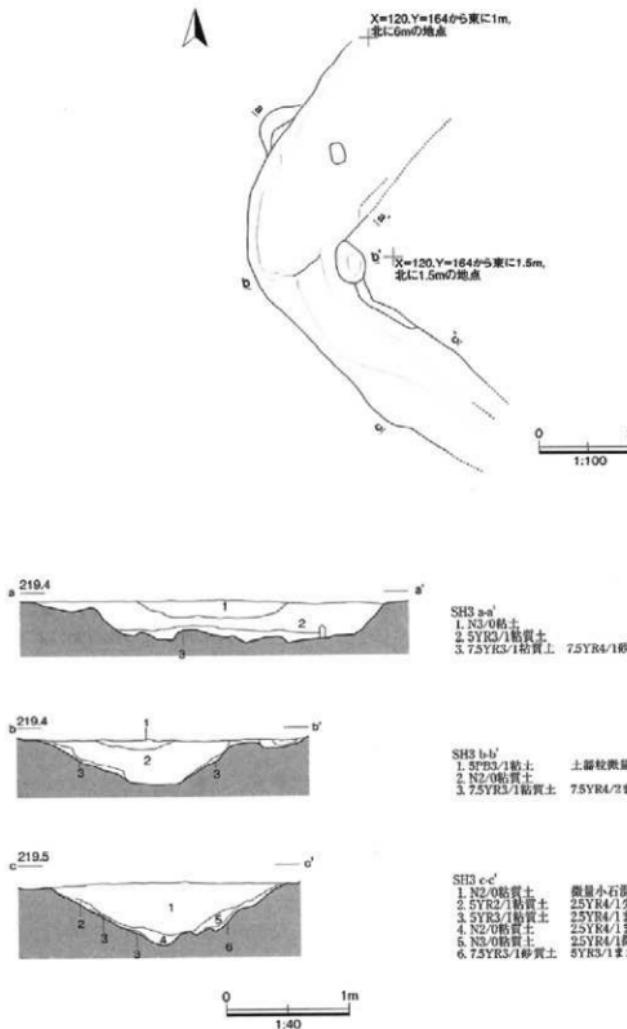




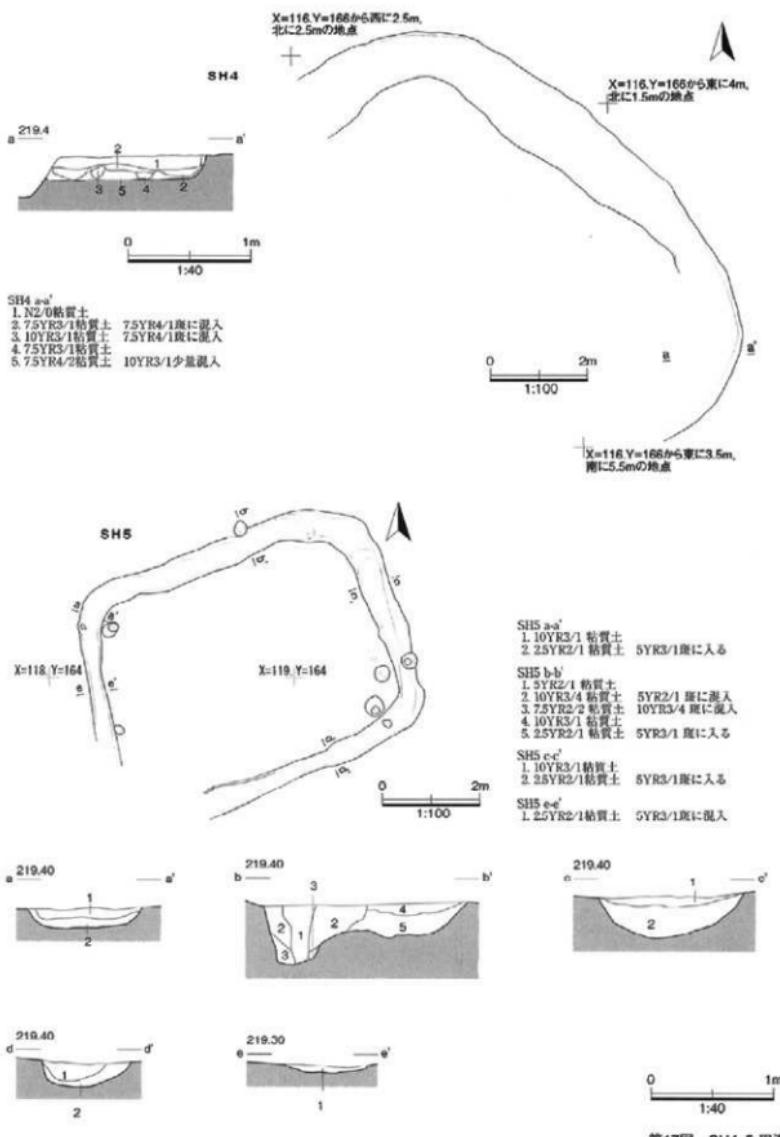
第14図 SH2 周溝 (1)



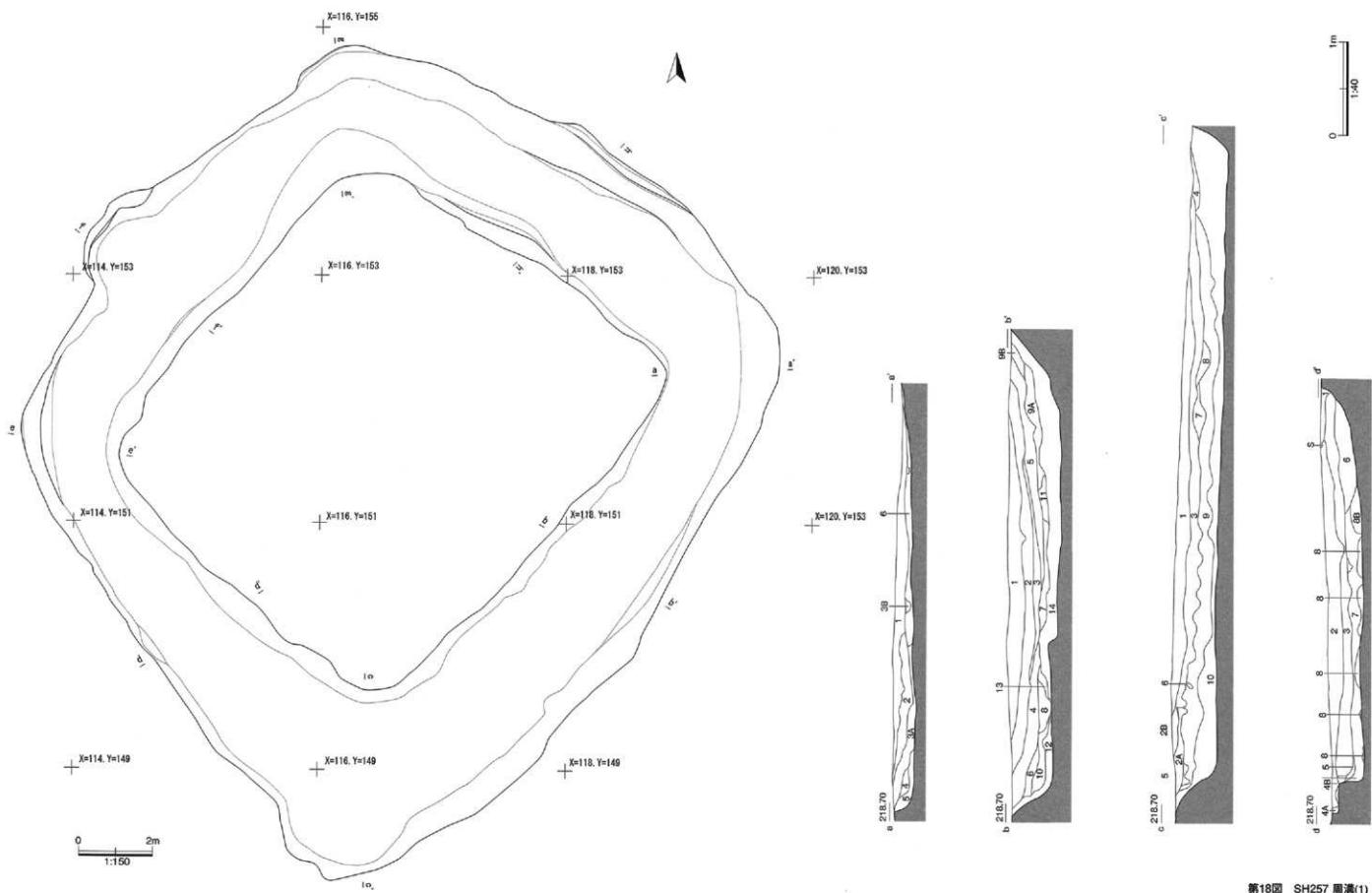
第15回 SH2 周満(2)



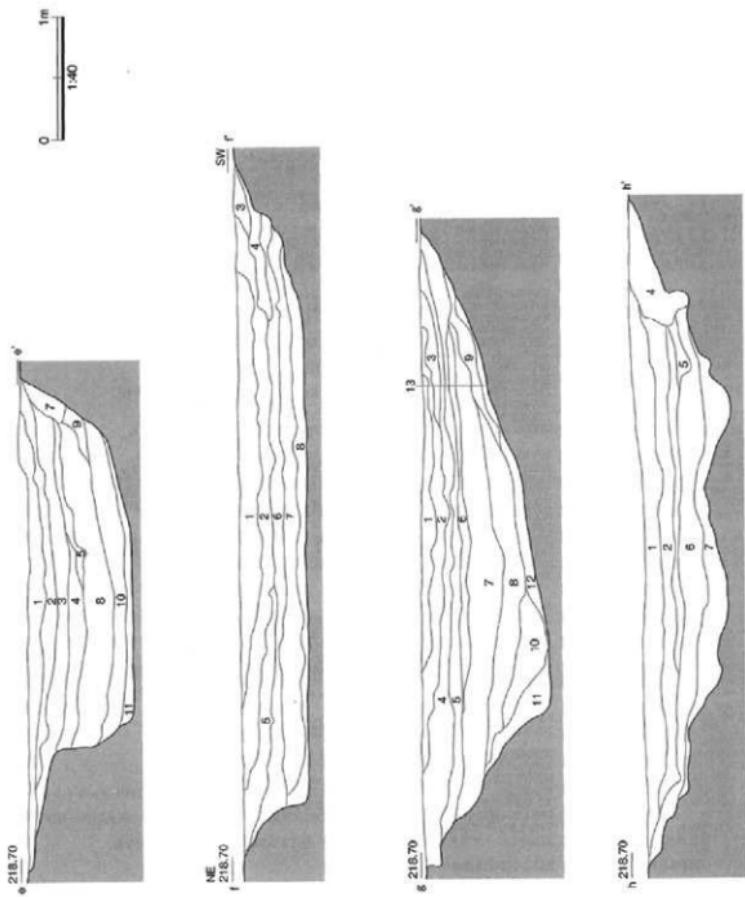
第16図 SH3周溝



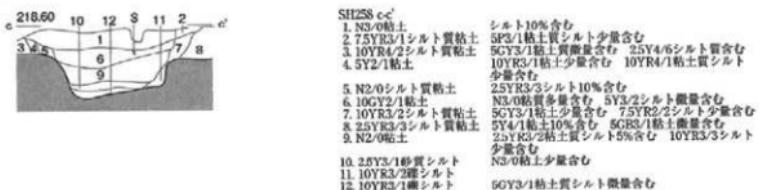
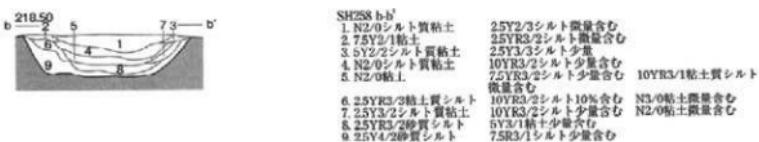
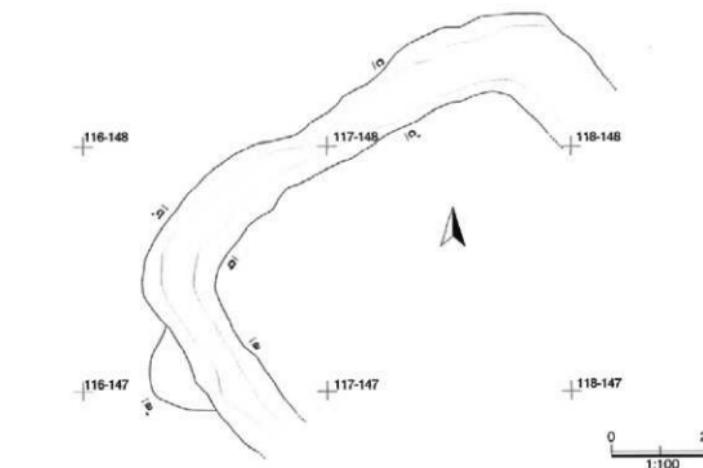
第17図 SH4・5周溝



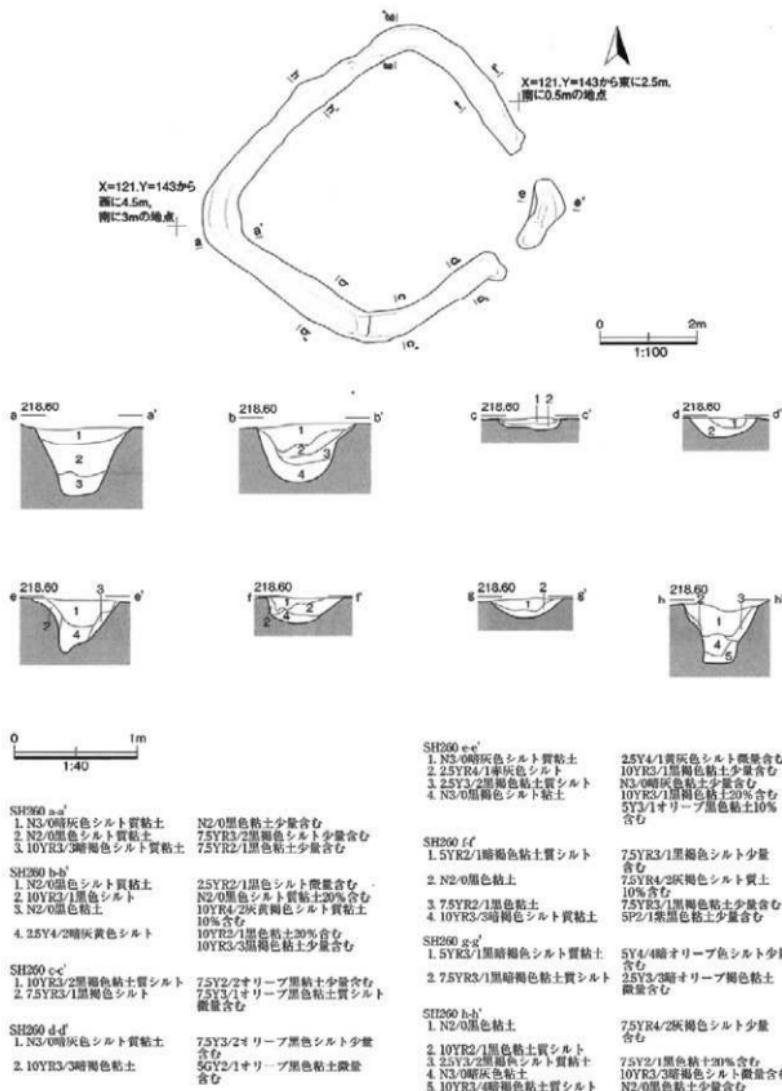
第18図 SH257周溝(1)



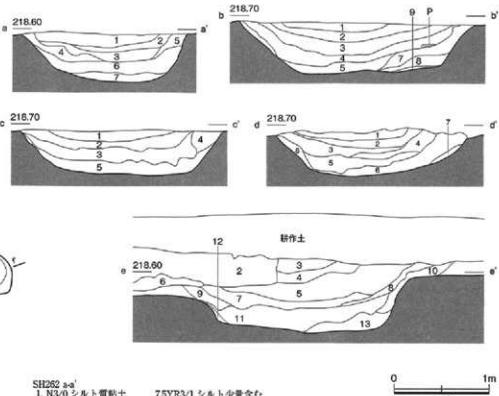
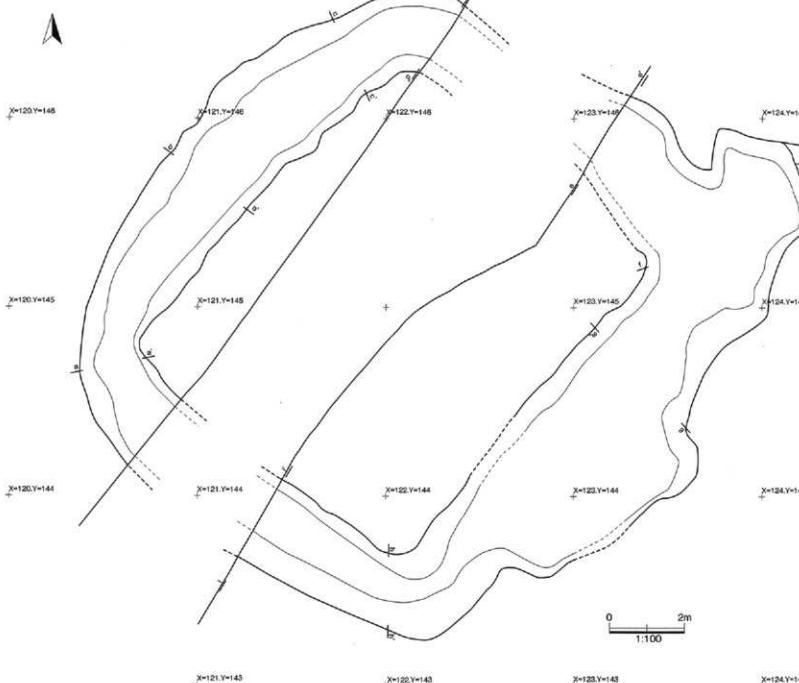
第19図 SH257 周溝(2)



第20図 SH258 周溝



第21図 SH260 周溝



SH262 a-a'

- 1. N2/0 シルト質粘土
- 2. N2/0 シルト質粘土
- 3. N2/0 粘土シルト
- 4. 7SYR4/3 粘土シルト
- 5. 7SYR4/4 シルト
- 6. 7SYR4/6 粘土シルト
- 7. 10YR4/2 粘土質シルト

SH262 b-b'

- 1. N2/0 シルト質粘土
- 2. N2/0 シルト質粘土
- 3. N2/0 粘土シルト
- 4. 10YR3/2 粘土少量含む
- 5. 10YR3/2 粘土少量含む
- 6. 10YR3/2 粘土少量含む
- 7. 10YR3/2 粘土少量含む
- 8. 10YR3/2 粘土少量含む
- 9. 10YR3/2 黒褐色シルト

SH262 c-c'

- 1. N2/0 シルト質粘土
- 2. N2/0 粘土
- 3. N2/0 粘土
- 4. 10YR4/2 粘土シルト多量含む
- 5. 10YR4/2 粘土シルト
- 6. 10YR4/2 粘土シルト
- 7. 10YR4/2 粘土シルト

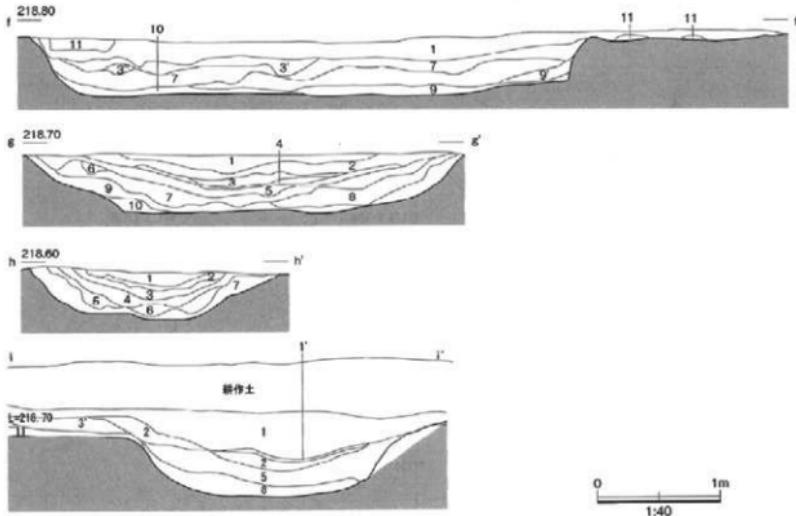
SH262 d-d'

- 1. N2/0 シルト質粘土
- 2. N2/0 粘土
- 3. N2/0 粘土
- 4. N2/0 粘土
- 5. N2/0 粘土
- 6. N2/0 粘土
- 7. N2/0 粘土
- 8. N2/0 粘土
- 9. N2/0 粘土
- 10. N2/0 粘土
- 11. N2/0 粘土
- 12. 稼作土
- 13. N2/0 粘土

SH262 e-e'

- 1. 7SYR3/1 粘土質粘土
- 2. 3GY3/1 粘土
- 3. 3GY3/1 粘土
- 4. 7SYR2/2 粘土
- 5. 10YR3/1 粘土
- 6. N2/0 粘土
- 7. N2/0 粘土
- 8. N2/0 粘土
- 9. N2/0 粘土
- 10. 7SYR2/2 シルト質粘土
- 11. 10YR3/1 粘土
- 12. 7SYR2/1 粘質シルト
- 13. 10YR2/1 シルト質粘土

第22図 SH262 周溝(1)



SH262 ff'

- 1. 10YR3/1黒褐色粘土 10YR4/4シルトと腐土状に1%含む
- 2. 10YR2/1黒色粘土 10YR4/4シルトと腐土状に1%含む 腐化物混入
- 3. 10YR3/1黒褐色粘土 10YR4/4シルトと腐土、ブロック状に3%腐化物あり
- 4. 10YR3/1粘土と10YR4/3粘質シルトとの混乱層
- 5. 10YR4/2灰青褐色粘土 10YR3/1粘土、ブロック状に10%含む
- 6. 10YR2/1黒色粘土 10YR4/4細砂と腐土に3%含む 腐化物あり
- 7. 10YR2/1黒色粘土 10YR4/4シルト、細砂と腐土に混入
- 8. 10YR4/4褐色砂と10YE2/1粘土との混亂層
- 9. 7SYR3/3褐色砂 10YR2/1粘土をブロック状に5%含む 10YR4/3粘土ブロック状に3%含む
- 10. 7SYR3/3褐色砂 10YR3/1粘土をブロック状に5%含む
- 11. 10YR4/4褐色シルト 10YR3/1粘土を腐土状に10%含む

SH262 gg'

- 1. 10YR3/1黒褐色粘土 10YR4/4シルトと腐土状に1%含む
- 2. 10YR2/1黒色粘土 10YR4/4シルトと腐土状に1%含む 腐化物混入
- 3. 10YR3/1黒褐色粘土 10YR4/4シルト、腐土、ブロック状に3%腐化物あり
- 4. 10YR4/2灰青褐色粘土 10YR4/4シルトと腐土に10%含む
- 5. 10YR2/1黒色粘土 10YR4/4細砂と腐土状に5%含む 腐化物あり
- 6. 10YR2/1黒色粘土 10YR4/4シルト、細砂と腐土に混入
- 7. 10YR4/4褐色砂
- 8. 10YR4/4褐色砂と10YE2/1粘土との混亂層
- 9. 7SYR3/3褐色砂 10YR2/1粘土をブロック状に5%含む 10YR4/3粘土ブロック状に3%含む
- 10. 7SYR3/3褐色砂 10YR3/1粘土をブロック状に5%含む

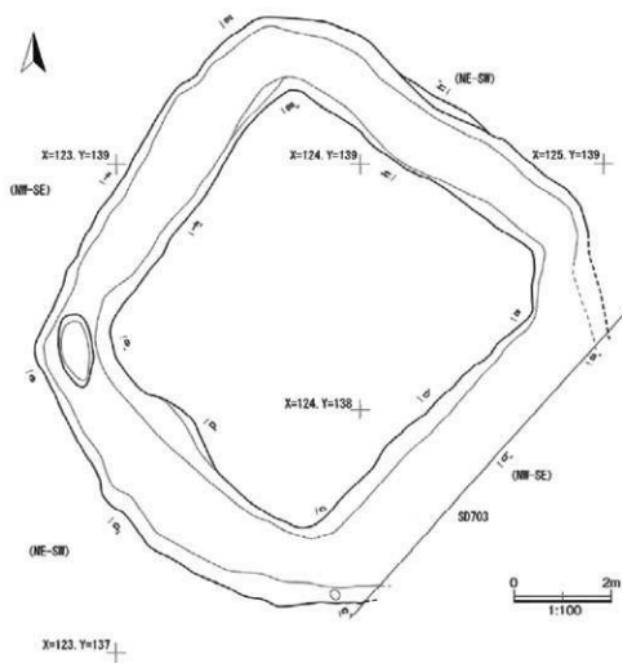
SH262 h-h'

- 1. 2SYR3/1黒褐色粘土 10YR3/2黒褐色シルトを少量含む
- 2. 10YR4/3にい黄褐色粘土 10YR4/2シルトと黑色粘土少量含む
- 3. 5SY3/1オリーブ褐色粘土 7SYR3/3オリーブ褐色粘土シルト少量含む
- 4. 5CY2/1オリーブ褐色粘土 5SY3/1オリーブ黒色粘土シルト少量含む
- 5. 5Y2/1黒色シルト質粘土 2SY3/3オリーブ粘シルト少量含む
- 6. 5YR3/4暗赤褐色シルト N2-0黒色シルトを少量含む
- 7. 10YR4/3にい黄褐色砂質シルト N2-0黒色粘土を少量含む

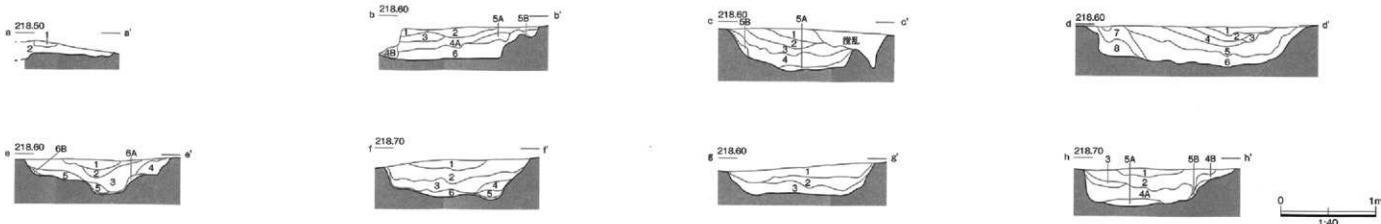
SH262 i-i'

- 1. 10YR4/1粘土 10YR4/2粘土を帯状にはさむ
- 2. 10YR4/3にい黄褐色粘土 10YR3/1粘土を帯状に5%含む
- 3. 10YR3/3黒褐色粘土 10YR4/3粘土を帯状に3%含む
- 4. 10YR2/1黒色粘土 10YR4/4細砂と腐土状に3%含む 腐化物あり
- 5. 10YR4/4褐色砂と10YE2/1粘土との混亂層
- 6. 10YR4/3にい黄褐色粘土 10YR3/1粘土状に5%含む

第23図 SH262周溝(2)



第24図 SH263周溝(1)



SH263 a-a'
1.5Y3/2オリーブ黒色粘土
2.10YR4/2灰オリーブシルト 2.5Y3/1粘土5%含む

- SH263 a-a
1. 5Y3/2オリーブ黒色粘土
2. 10YR4/2灰オリーブシルト 2.5Y3/1粘±5%含む

SH263-2 b'-	
1. 2SY5/2粘土	7.5Y2/2粘土少量含む
2. 10YR2/1シルト質粘土	
3. 5YR2/1シルト質粘土	
4. A2.0/シルト質粘土	2.5Y3/3シルト少量含む
5. 10YR2/1シルト質粘土	4B.5Y2/2粘土
5.7.5YR3/1シルト質粘土	2.5GY4/1シルト質粘土少量含む
6. 7.5YR3/3粘土質シルト	
10YR3/2粘土少量含む	
9.0/シルト質粘土少量含む	

- | | | |
|------------|--|---|
| SH283 b-b' | 1. 25Y3/2粘土
2. 10YR2/3シルト質粘土
3. 10YR3/1シルト質粘土
4. 10A/1シルト質粘土
5. 10A/3YR1/1粘土質シルト
6. 75YR3/2粘土質シルト
6. 75YR3/3粘土質シルト | 7.5Y2/2粘土少量含む
25Y3/3シルト少量含む 4B. 5Y2/2粘土
25GY4/1シルト質粘土少量含む
10YR3/2粘土少量含む
9D. 0シルト質粘土少量含む |
|------------|--|---|

SH263 c-s	
1. 5Y3/2シルト	7.5YR3/1粘土少量含む
2. 7.5Y3/2粘土質シルト	
3. 10YR4/1シルト質粘土	
4. 5YR4/1シルト	N3/0シルト質粘土少量含む 7.5YR3/1粘土質シルト少量含む
5A. 10YR3/2シルト質粘土	
5B. 10YR4/2シルト	

- | | | |
|--|---|--|
| SH263 c-c' | 7.5YR2/2シルト
2. 7.5Y3/2粘土質シルト
3. 10YR2/1シルト質粘土
4. 5YR4/1シルト | 7.5YR3/1粘土少量含む
N3/0シルト質粘土少量含む
7.5YR3/1粘土質シルト少量含む |
| 5A. 10YR3/2シルト質粘土
5B. 10YR4/2シルト質粘土 | | |

SH263 d-d'	
1. 10YR4/2 貧粘土	25YR3/3シルト質粘土少量含む
2. 5SYR1/3シルト質粘土	5SY3/1シルト質粘土少量含む
3. 5SYR2/1粘土	
4. 5SYR2/1シルト質粘土	25Y3/2粘土10%含む
5. N2-0 シルト質粘土	5PYR3/2シルト質粘土50%含む
6. 10YR4/2シルト質粘土	5P1/1粘土少量含む 10YR4/2粘土質粘土少量含む
7. 25YR4/2シルト質粘土	10YR3/2シルト質粘土少量含む
8. 10YR4/4シルト質粘土	N2/0粘土質粘土少量含む
9. 10YR4/2シルト質粘土	10YR4/2シルト質粘土10%含む

- | | |
|---------------------|--------|
| SH263/2 | |
| 1. 10YR4/2 | 粘土 |
| 2. 5YR3/1シルト | 質粘土少含む |
| 3. 5YR3/1シルト | 質粘土多含む |
| 4. 7YR3/2シルト | 質粘土 |
| 5. N2/0シルト | 質粘土 |
| 6. 10YR4/3砂質シルト | 含む |
| 7. 25YR4/1粘土質粘土 | 含む |
| 8. 10YR4/1シルト質粘土 | 含む |
| 9. 10YR4/2シルト質粘土 | 少含む |
| 10. 5YR3/3シルト質粘土少含む | |
| 11. 5YR3/3シルト質粘土多含む | |

SH263 e-e'	
1. 5YR3/1シルト質粘土	7.5YR3/1粘土質シルト 少量含む
2. NO/2シルト質粘土	10YR3/1粘土質シルト10%含む 5YR3/1粘土質シルト少量含む
3. N3/0シルト	10YR4/3粘土少量含む
4. 7.5YR3/2粘土質シルト	5Y2/1シルト少量含む
5. 7.5YR3/2シルト質粘土	10YR3/1粘土少量含む
6. 10YR3/4砂礫土	
7. 5V3/1砂質シルト	

- | | |
|-----------------|--|
| SH263 e-e' | |
| 1. 5YR3/1シルト質粘土 | 75YR3/1粘土質シルト 少量含む |
| 2. N2/0シルト質粘土 | 10YR3/1粘土質シルト10%含む
5YR3/1粘土質シルト少量含む |
| 3. N3/0シルト | 10YR4/3粘土少量含む |
| 4. 7YR5/2粘土質シルト | 5YR2/1粘土少量含む |
| 5. 7YR5/2シルト質粘土 | 10YR3/1粘土少量含む |
| 6A. 10YR3/4砂砾 | |
| 6B. 5Y3/4鉄質シルト | |

SH263 f-f	
1. 10GY2/3暗褐色粘土	10Y3/2暗褐色質シルト 5%含む
2. 10G3/1黒褐色粘土質粘土	10YR4/1粘土質シルト 5%含む 5PY2/3暗褐色シルト 10%含む
3. 10YR3/4暗褐色粘土質シルト	10YR4/1暗褐色シルト
4. 10YR2/3暗褐色粘土質シルト	5PY2/3暗褐色シルト含む 10YR3/2褐色砂質シルト 10%含む 10YR2/1褐色砂質シルト化粧土含む
5. 10YR4/2灰黃褐色シルト	10YR3/2褐色砂質シルト 10%含む 10YR2/1褐色砂質シルト化粧土含む
6. 10YR2/3深集葉腐泥	

- | | |
|--------------------|----------------------|
| SH263 ff | |
| 1. 10GY3/3暗褐色粘土 | 10Y3/2黄褐色砂质粘土 5%含む |
| 2. 10G3/1绿黑褐色粘土质土 | 10Y4/4深褐色粘土 5%含む |
| 3. 10YR3/2褐色粘土质粘土 | 5PY2/3褐色砂质土 10%含む |
| 4. 10YR3/3暗褐色粘土质粘土 | 10Y4/4褐色砂质土 5%含む |
| | 5%10YR3/4粘土质含む |
| 5. 10YR4/2灰黄色砂质土 | 10YR3/2褐色砂质粘土 10%含む |
| 6. 10YR3/2黄褐色粘土质土 | 10YR2/1深褐色砂质粘土 10%含む |

SH263	g/g ²
1. 7.5Y3/2暗緑褐色粘土	10YR3/1黒褐色シルト質粘土 少量含む
2. 10YR4/2灰黄褐色粘土シルト	N3/2暗褐色シルト質粘土少量含む 10YR2/1褐色粘土少量含む
3. 5YR4/4にかい赤褐色シルト	25Y4/1褐色粘土 75YR4/2褐色淤泥シルト少量含む

- SH263 g/g¹
 1. 7.5Y3/2褐色褐色粘土
 2. 10YR4/2灰黄褐色粘土シルト
 3. 5YR4/4において赤褐色シルト
 10YR3/1墨褐色シルト質粘土少量含む
 N3/0暗褐色シルト質粘土少量含む
 10YR2/1綠褐色粘土少量含む
 2.5Y4/1褐色粘土
 7.5YR4/2褐色砂質シルト少量含む

SH263 b-h'	
1.	10YR4/4シルト
2.	10YR3-1シルト質粘土
3.	7.5YR2-3粘土
4.	10YR4-2シルト質粘土
5.	7.5YR2-2シルト質粘土
6.	7.5YR2-2シルト質粘土
7.	7.5YR2-2シルト質粘土
8.	7.5YR2-2シルト質粘土

- | | |
|---------------------|---------------------|
| SH263 b-h | |
| 1. 10YR4/4シルト | 5P4/1粘土質シルト50%含む |
| 2. 10YR3.1/シルト質粘土 | 7.5YE3/2シルト少量を含む |
| 3. 7.5YR2.3粘土 | 7.5YR4/2シルト少量を含む |
| 4. 10YR4/2シルト質粘土 | 2.5Y3/1粘土質シルト10%含む |
| 4b. 7.5YR5/2粘土質粘土 | 7.5YR2/1粘土質シルト少量含む |
| SA. 7.5YR3.2/シルト質粘土 | 10Y2/2粘土少量含む |
| SA. 7.5YR2.2/シルト質粘土 | 7.5YR4/3粘土質シルト40%含む |

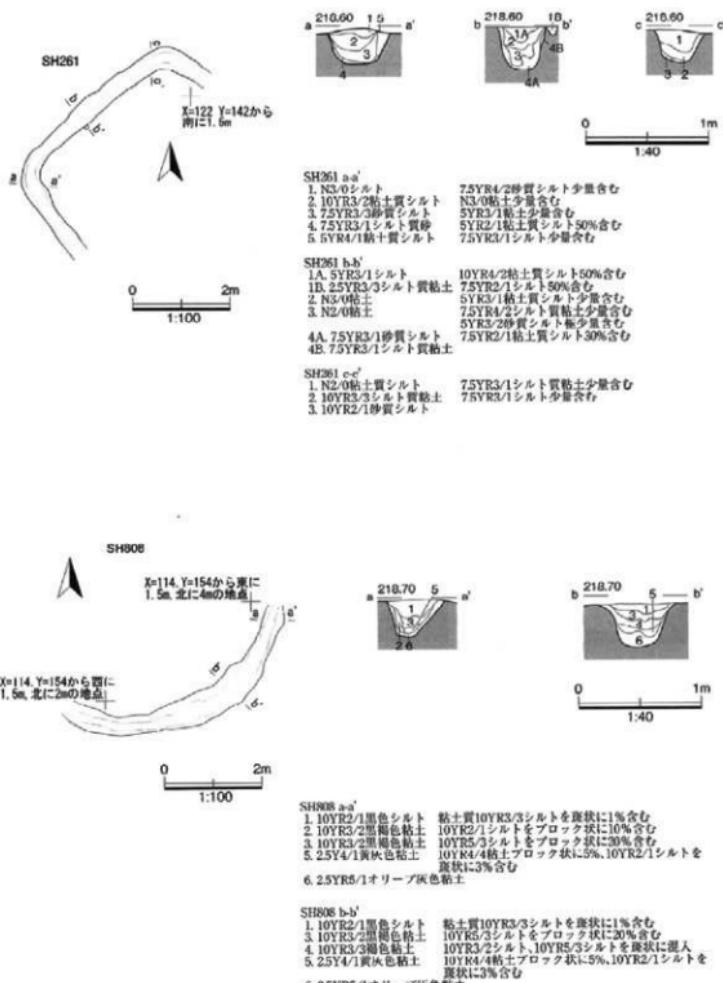


SH263主体部
 1. 10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/1シルトをブロック状に含む。
 2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR4/3砂質シルトを混入。
 3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 砂質。

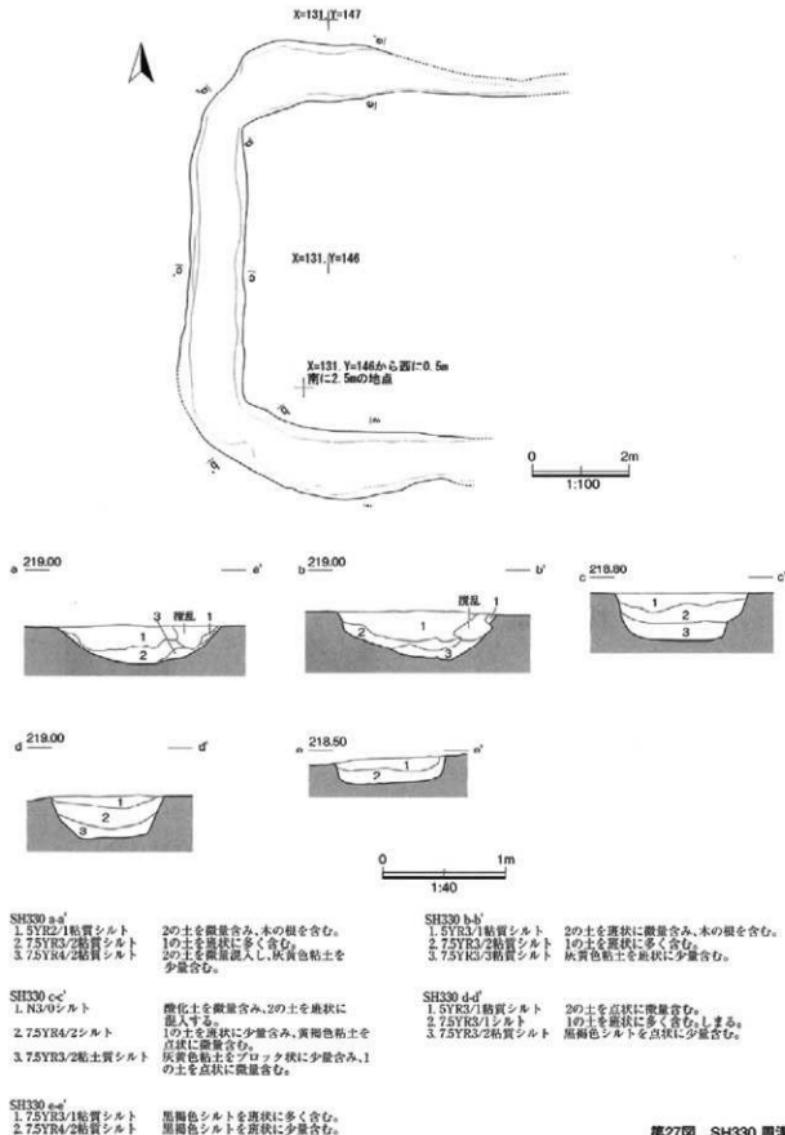
A geological cross-section labeled "SK813" at the top center. The diagram shows a series of horizontal layers representing different geological units. From bottom to top, the layers are labeled: 4 / 2, 5, 1, 2, 3, and 1. Layer 4 / 2 is the thickest and contains a prominent vertical dashed line. Layer 5 is thin and sits above layer 4 / 2. Layer 1 appears twice, once in the middle and once near the top. Layer 2 is thin and sits between layers 1 and 3. Layer 3 is thin and sits above layer 2. Layer 5 is thin and sits above layer 4 / 2.

SK813	
1. 10YR3/2黒褐色粘土	10YR2/1シルト、10YR4/3にぶい黄褐色
2. 10YR3/2無褐色粘土	シルトが斑状となる混乱層
3. 10YR3/2黒褐色粘土	10YR3/3シルトをブロック状に含む。
4. 10YR3/2黒褐色粘土	炭酸化物を含む。
5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	10YR4/3砂質シルトを斑状に含む。
	10YR4/3砂質シルトを斑状に含む。
	10YR3/2粘土をロッカク層に5%含む。

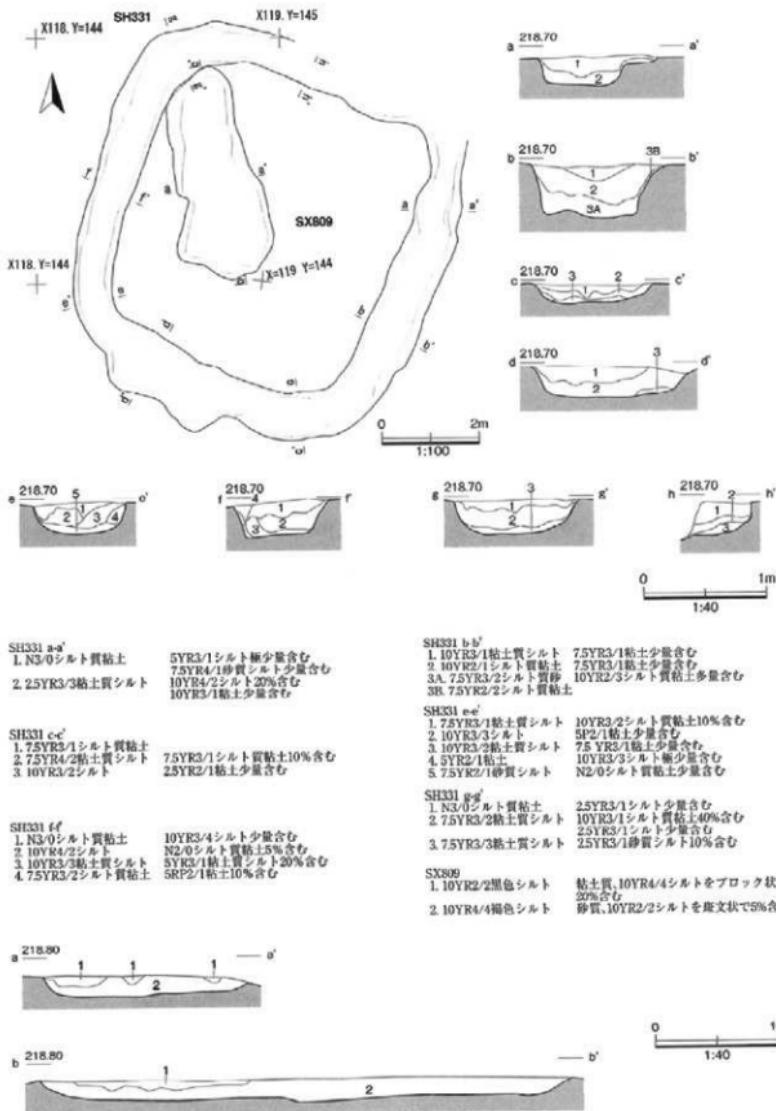
第25回 SW262 用満(2)



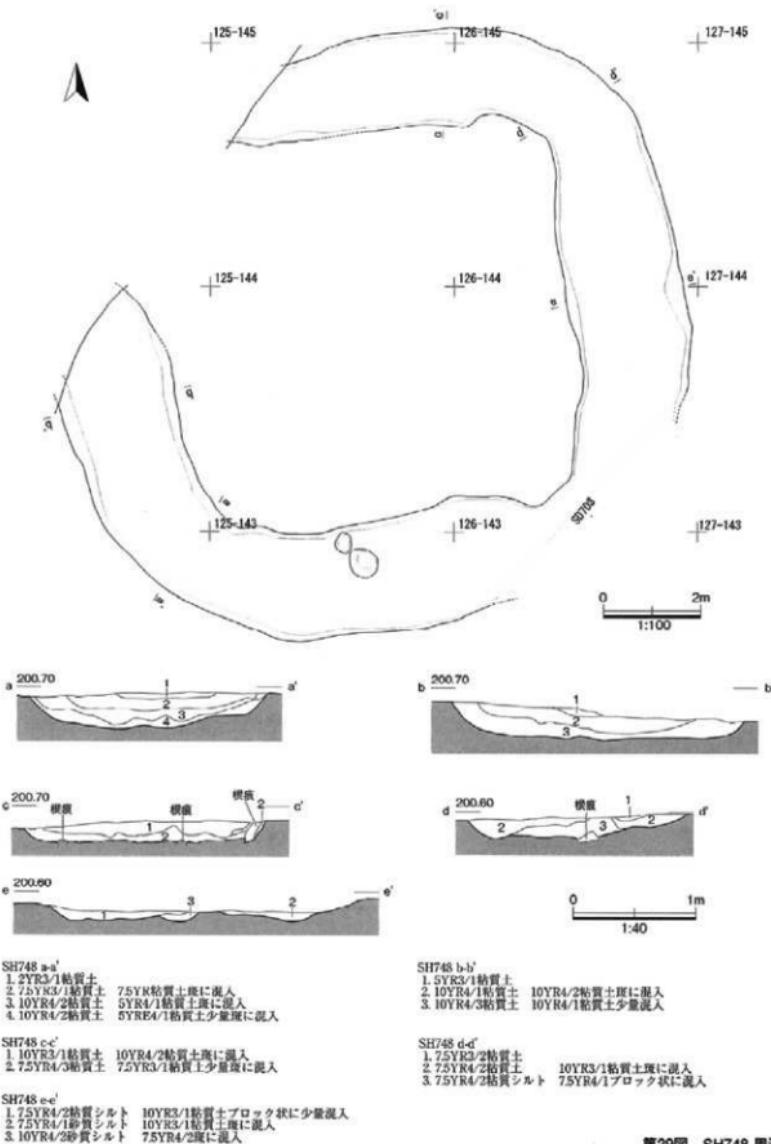
第26図 SH261・808 周溝



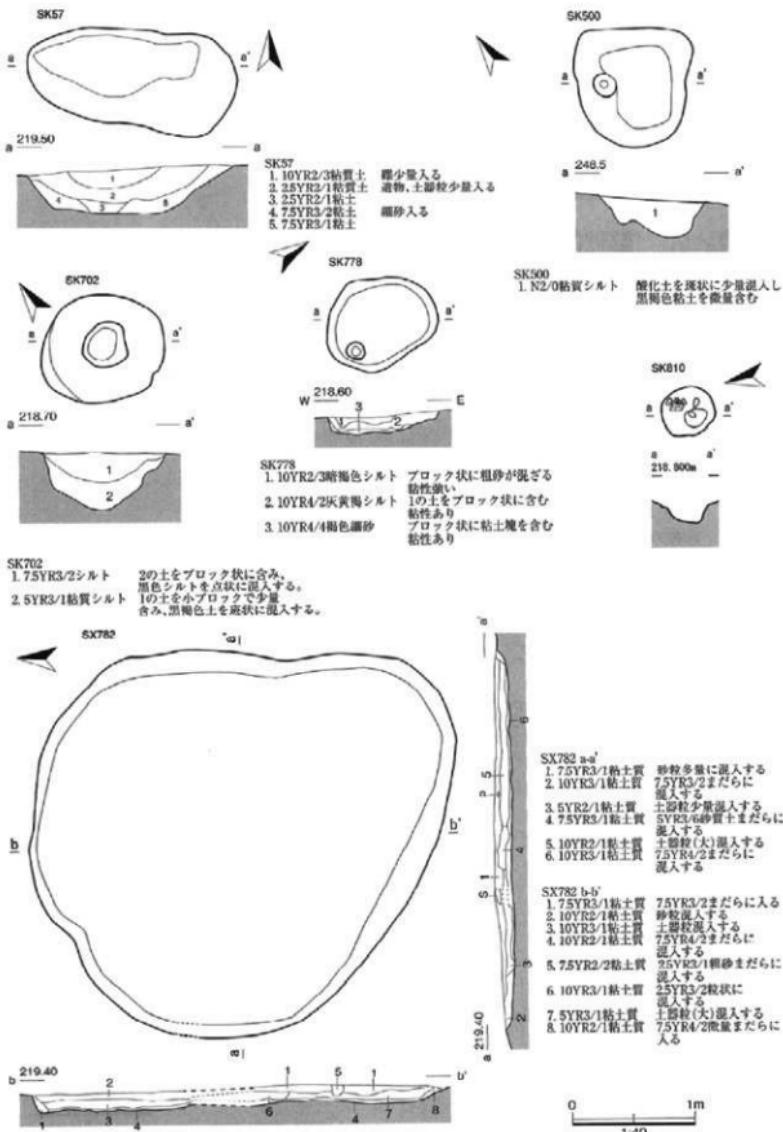
第27図 SH330周溝



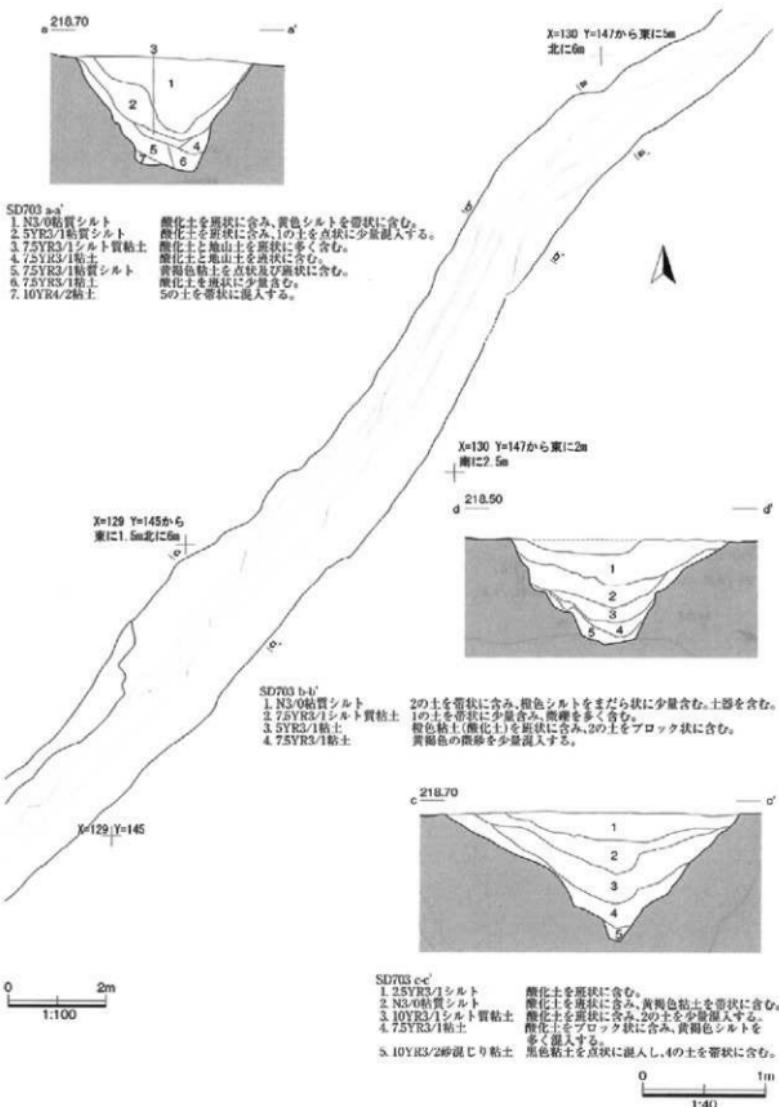
第28図 SH331周溝・SX809性格不明遺構



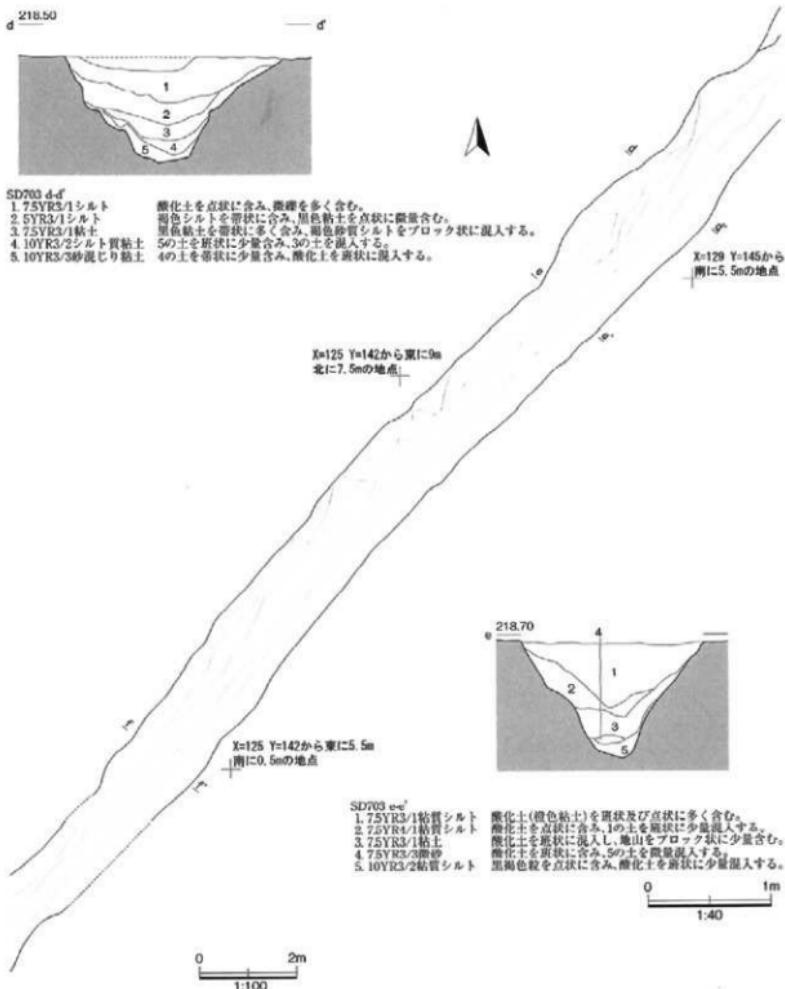
第29図 SH748周溝



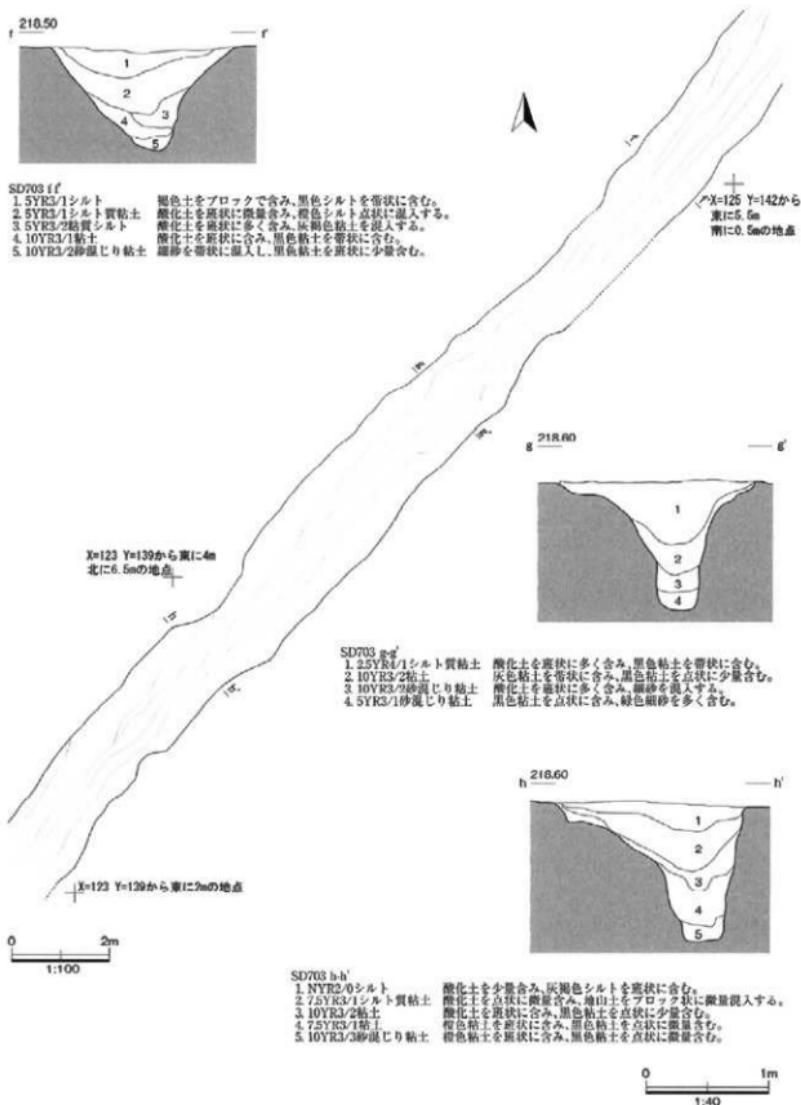
第30図 SK57・500・702・778・810 土抗・SX782 性格不明遺構



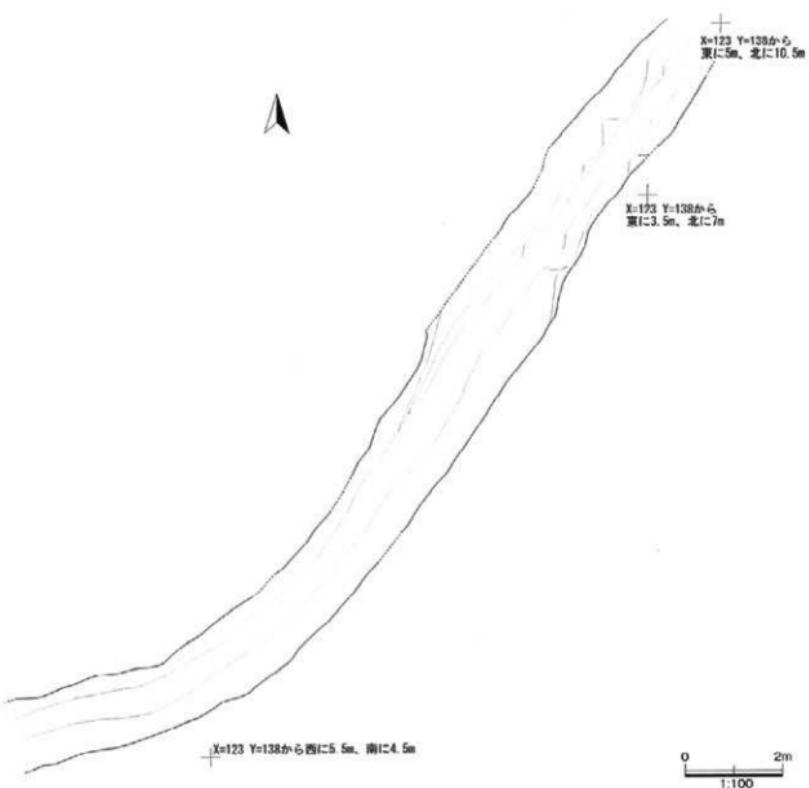
第31図 SD703 溝跡(1)



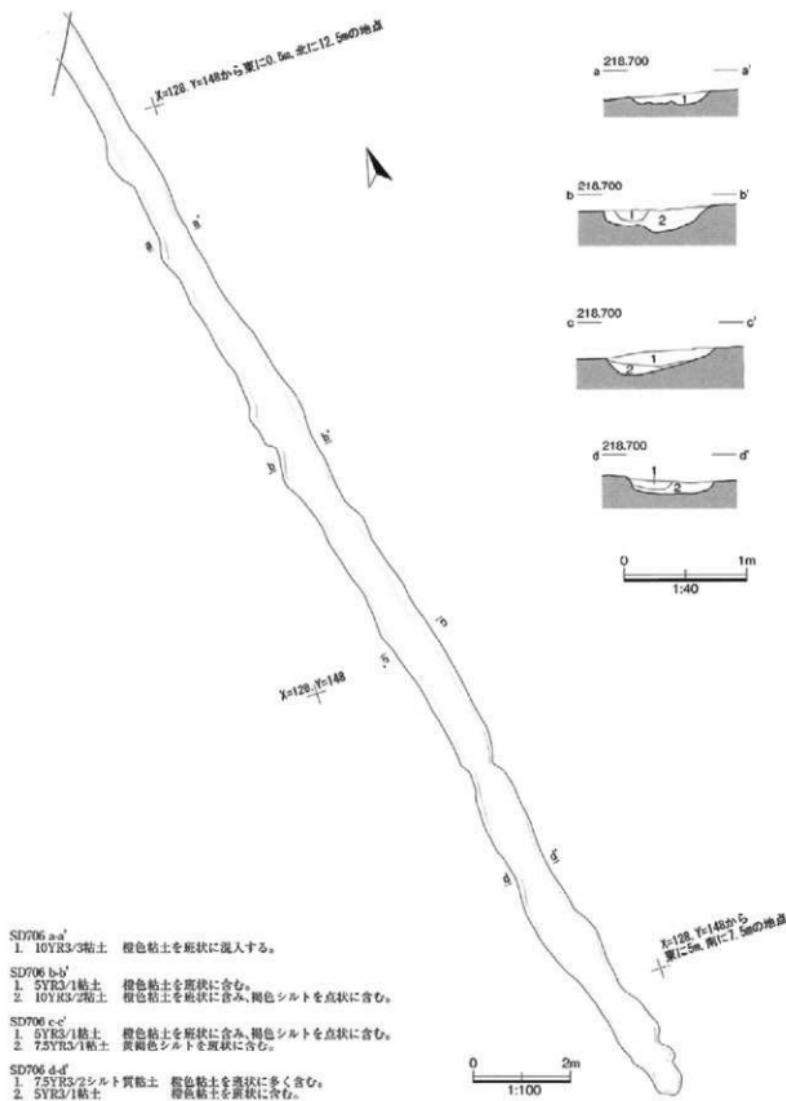
第32図 SD703 溝跡(2)



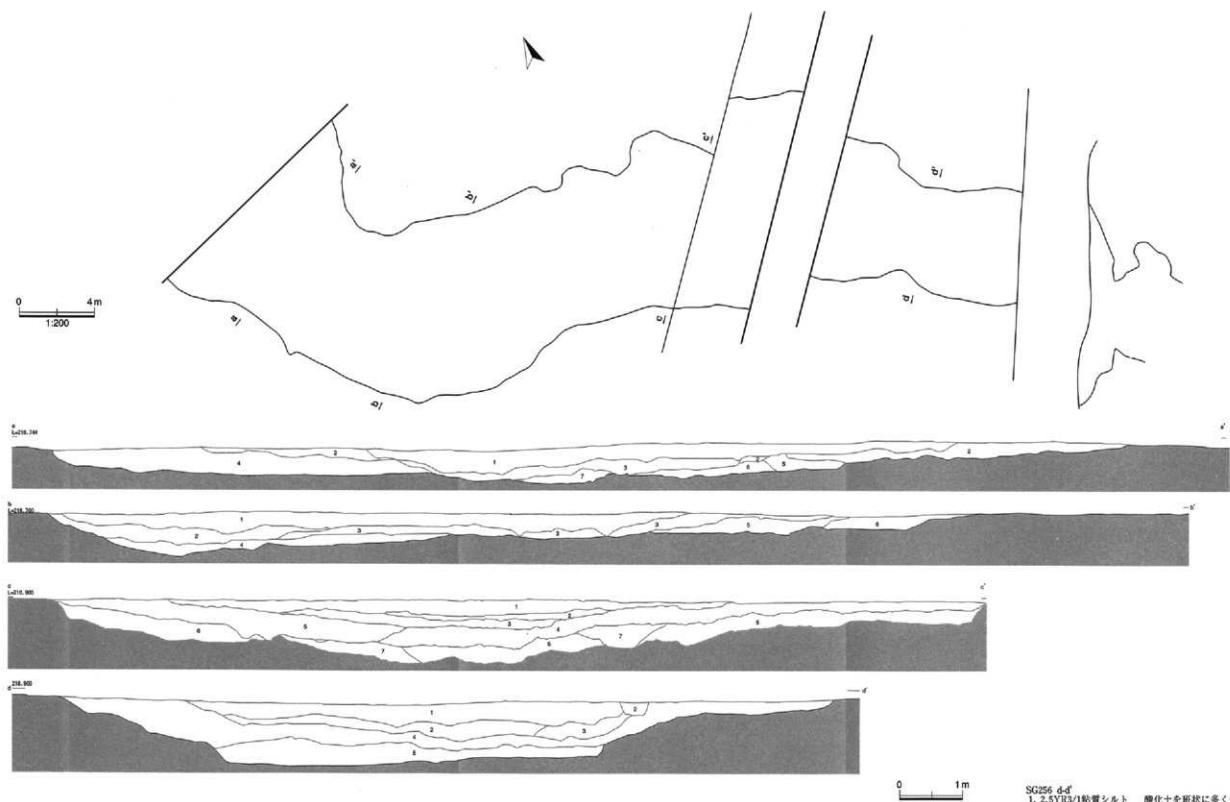
第33図 SD703 溝跡(3)



第34図 SD703 溝跡(4)



第35図 SD706 溝跡



第36図 SG256 河川跡

4 出土遺物

(1) 古墳時代の遺物

古墳時代の土器が出土しているが、完形品はない。土器は土師器の小型丸底壺・器台・高杯・壺・甕から構成され、その出土は層構からが大半を占める。

SH1(第37図1~3)

遺構床面直上から出土した、あるいは完形の遺物はない。

器台(1)は小ぶりな环部と直線的に伸びる脚部と貫通孔をもつが、脚部の透孔は省略されている可能性がある。小型丸底壺(2)は頸部と体部上半分が残存し、土器表面には朱彩が施されている。外面は細い工具によるハケメ、内面はナナ調整だが輪積み痕が鮮明に残る。頸部は直線的に外傾し、口縁端部で外反すると見られる。小型丸底壺(3)は覆土上層で出土し、土器表面には朱彩が一部残存する。体部の形状は所謂「算盤玉型」と見られ、底部近くには焼成後内から外への刺突・穿孔の痕跡が見られる。

SH2(第37図11~12)

遺構床面直上から出土した遺物はなく、いずれも破片のみであるが、2点とも器壁が薄く焼成は良好である。(12)は小型丸底型土器の可能性が考えられる。

SH3(第38図15~16)

(15)はほぼ遺構床面直上で確認された。小型丸底壺体部の一部とみられ、その表面にはミガキ調整とともに若干の朱彩が残る。(16)は覆土中からの出土で器種は不明である。

SH5(第38図17)

(17)は覆土中で確認された。器種は不明である。

SH257(第38図18~25)

完形品はなかったものの、遺構床面直上から(18~19·20·21·22·24)が、覆土中からは(23·25)が出土した。

壺(18)について、下半分については不明だが体部は球胴型でやや下膨れ気味と見られ、また口縁部はほぼ垂直に伸びてから大きく外反し端部は丸くおさめられる。土器の焼成は良好で、内外面とともに摩滅しているがハケメ調整が確認できる。使用痕は見られない。(19·20)はともに小型丸底壺の頸部から口縁部と見られる。頸部はほぼ外上方に直行するが口縁でやや内弯し、外面にミガキ調整があり朱彩が残る。(21)も小型丸底壺の体部上半と思われ、土器表面には若干ながら白色の薄い器壁が残る。(24)は破片遺物のため器種は不明であるが、表面にミガキ調整が確認できる。4点とも破片ではあるが、焼成は良好で器壁は薄い。高杯(22)は脚部のみの出土であるが中空の棒状脚部をもつ。土器表面は摩滅しているが工具によるミガキ調整が見られる。

高杯(23)は脚部のみの出土であるが中空の棒状脚を持つ。摩滅が著しく表面調整は確認できない。(25)は破片遺物であるが有段の鉢の可能性が考えられる。土器外面にはミガキ調整が確認でき、焼成は良好である。

SH262(第40図43)

遺構覆土中からの出土のみで、完形品の遺物はない。壺あるいは甕(43)は上半分が欠損しているものの、底径が小さく体部は球胴型であると見られる。全体的に土器表面は摩滅しているが外

朱 彩
算盤玉型

球 膨 型

面に底部から体部にかけて焼成時に出来た黒斑部分にハケメ・ケズリ調整が確認できる。使用痕は見られない。

SH263(第40図53)

小盤あるいは壺(53)が覆土中から出土しており、上半分は欠損しているものの、底径が小さく球胴型の体部をもつと見られる。全体的に土器表面は摩滅しているが外面に底部から体部にかけて焼成時に出来た黒斑部分にハケメ・ケズリ調整が確認できる。使用痕は見られない。

SH330(第40図56)

(56)は造構覆土中からの出土で、壺の頸部のみの出土である。外面全体には朱彩が施されハケメ調整が認められる。頸部は僅かに外傾して直線的に伸びているが、口唇部分については直線的に欠損しているため口縁は単純口縁ではなく有段口縁の可能性が考えられる。頸部から体部にかけては強く屈曲している。

SX782(第41図57~62)

いずれも覆土中からの出土であり、完形品の遺物はない。高杯(57)は脚部のみの出土である
 顧正達跡
 助作遺跡
 矢賀A遺跡
 が、脚部は中空で短脚化し、内外面はともにケズリ調整されている。坏部は黒色加工している。顧正達跡(天童市)・助作遺跡(鶴岡市)等出土品から類例がみられることにより古墳時代後期後半以降の所産とみられる。(59)~(61)は小型壺あるいは頸部の屈曲が弱い。矢賀A遺跡(鶴岡市)出土品にその類例がみられることから後期中葉に属すると見られる。(59)は破片遺物であるが内面に煮炊痕と思われる汚れが見られる。(61)は外面にハケメ調整が確認できるが内面は摩滅し煮炊痕が見られる。(58)は破片遺物で器種は不明、(62)は壺の破片と見られるが摩滅が著しく詳細は不明である。

SD703(第44図116)

(116)は覆土中からの出土で、器台あるいは高杯の脚部と推測される。摩滅しているため表面調整等は不明である。

SD773(第46図139)

焼成前穿孔
 (139)は覆土中からの出土で、小型丸底壺体部の一部とみられ底部は焼成前穿孔が行われたと思われる。摩滅が著しいため表面調整等は不明だが古墳時代前期に属すると思われる。

ここまで古墳時代の土器について造構ごとに遺物の特徴を述べてきたが、統いて周溝から出土した土器の年代観について器種ごとに考察する。なおここでは古墳時代前期の土器編年・分類について宮城・福島県側の「辻編年」(辻秀人1996)を使用し、以下用語等はことわりがなければこれに従う。

下構遺跡
 【器台・高杯】供膳具として器台(1)と高杯(22・23)が出土している。(1)は小ぶりなつくりからⅢ-3~4期に属するであろう。(22)は中空の棒状脚を持つことからⅢ-3期、(23)は中央の棒状脚からⅢ-4期に相当するとみられ、県内では下構遺跡(河北町)ST7出土遺物にその類例が見られる。

【壺型土器】中~小型壺(18・43・53・56)と小型丸底壺(2・3・15・19・20・21・24)の2種が出土している。

諏訪前遺跡
 (18)について頸部から口縁部の形状について、前期前葉の諏訪前遺跡(南陽市)・板橋2遺跡(天

重市)SK660、後業の畠田遺跡(鶴岡市)ST232でも同様の口縁をもつ甕が出土しているが、器壁が肉厚であることからのⅢ-3期に属するものと思われる。(43・53)についても同様の時期と推察される。(56)は有段口縁であると思われるが残存部分は僅少であり、また有段口縁は前期Ⅱ～Ⅲ期の長期間にわたり出土例が見られるため、これについては前期に属する遺物とするが詳細な時期決定は今後の課題とする。

(19・20)について窓IIに分類され、Ⅲ-3期あるいは4期の段階に属すると思われる。(15・24)は胴部が横長の小型丸底甕の一部とみられ、県内の類例としてⅢ-2期とされる今堀遺跡(山形市) ST702出土遺物があげられるが、残存部分が僅少であり時期の特定は難しい。(21)については(19)と比べ小ぶりなため窓Iに分類されると思われるがやはり残存する部分が少なく、前期に属すると思われるが詳細な時期決定は今後の課題とする。

SH1上層から出土している土器(2・3)について、ともに類例として北陸塗町編年13期に相当する萩原遺跡(山形市)ST4出土遺物があげられるが、これらについてもそれらと同じ中期中葉に属するであろうと推察する。特に(3)について両遺跡出土品とともに焼成後内側から外へ刺突・穿孔している痕跡が認められる。

以上周溝出土の遺物の年代観について述べた。破片遺物のため年代が決定できないものも数多くあるが、床面直上からの出土遺物については概ね古墳時代前期後業の4世紀後半(辻幅年Ⅲ-3~4)の所産と推察される。

(2) 古代の遺物

古代の土器が出土した造構は周溝と溝に大別できる。周溝から出土したものは覆土上層出土のみである。また溝から出土したものについても床面直上のものはほとんどなく覆土からの出土が大多数である。

SH1(第37図4~8)

土師器・須恵器の坏が出土している。低い器高と大きな底径、回転ヘラ切の須恵器坏(5・6)については8世紀半ば以降、底径が小さく回転糸切の土師器坏(7・8)は9世紀後半に属すると見られる。しかし、須恵器有台鉢(4)については口縁端部にかえしが付帯するなど県内では出土類例はなく時期については今後見当の必要がある。

SD787(第37図9~10)

須恵器無台坏(9)は底径が大きく回転ヘラ切であることから8~9世紀初頭、土師器無台坏(10)は底径が小さく回転糸切であることから9世紀後半の所産と見られる。

SH2(第37図14)

須恵器壺(14)と見られるが、破片遺物のため詳細は不明である。

SH257(第38・39図26~42)

須恵器無台坏(26~31)と土師器無台坏(33・34)、黒色土器蓋(35)、須恵器壺・壺類(36・37)、須恵器横瓶(38)、土師器長脚甕(39~42)が出土している。須恵器坏(26~30)は回転ヘラ切で底径が大きく、(31)も回転糸切ではあるが比較的底径は大きい。これらの特徴から8~9世紀初頭に、(32)についても底部は欠損しているものの体部の形状から9~10世紀初頭に属するとみられる。土師器坏では、(34)について回転ヘラ切で底径が大きいことから8~9世紀初頭と、(33)は底径の小ささ

板 横 2 遺 跡
畠 田 遺 跡

萩 原 遺 跡
焼 成 後 突 孔

4 世 紀 後 半

覆 土 上 層 か ら の
出 土

口 縁 端 部 の
か え し

い回転糸切の底部をもつことから9世紀後半以降の所産と見られる。壺・甕・瓶類については遺物の形状が不明であるため年代特定には至らない。

SH262(第40図45~52)

須恵器無台坏(45~50)、土師器双耳坏の把手(51)、黒色土器有台坏(52)が出土している。須恵器無台坏6点中、(45~48)の4点について底径が大きく回転ヘラ切、(49)についても底部は欠損しているが底径は大きく、また黒色有台坏(52)についても同様の特徴を持つとみられ、これらについて8~9世紀初頭のものと思われる。(50)についてはやや底径が小さく回転糸切であることから新しい段階の9世紀前半の所産であろう。双耳坏(51)については把手のみの出土で年代特定には至らない。

SH263(第40図54~55)

2点ともに甕の一部と見られるが、破片遺物のため年代特定には至らない。

SX782(第41図63~72)

須恵器無台坏(63~66)、土師器無台坏(67)、黒色土器坏(68~69)、須恵器甕(71)、長胴甕(72)が出土している。須恵器坏(63~65)は底径の小さい回転糸切であることから9世紀後半以降と思われ、坏(66~69)についても時期を違わないと見る。小型甕(70)について残存する底部が回転糸切であるため9世紀以降のものであろう。(71~72)については破片遺物のため年代特定には至らない。

SD703(第42~44図73~115)

須恵器坏(73~95)、土師器坏(96~102)、黒色土器(103~106)、須恵器蓋(107)、須恵器甕(108~110)壺・瓶類(110~111~115)、土師器長胴甕(113~114)が出土している。(73~74・75~86)は回転ヘラ切で大きな底径をもつことから8世紀台、(83~84~85)についてはやや底径が小さくなるためやや時代が新しくなると思われる。(76~77~78~80~81~87)は底部が回転糸切であるが底径が小さくはないので9世紀前半の範疇と見られる。土師器坏(96~102)の多くは回転糸切で底径が小さいことから、9世紀後半~10世紀のものと見られる。その他の土器は破片遺物であるために年代を確定するには至らない。

SD706(第45~46図117~138)

須恵器坏(117~131)、須恵器蓋(132)、須恵器甕(133~136)、黒色土器甕(137)、土師器甕(138)が出土している。(117~119・123~126・129)については回転ヘラ切で底径の広いタイプであることから8~9世紀初頭に属するものと見られる。(120~122)については回転糸切で底径が小さくなることから9世紀後半のものと思われる。(127~128・130~138)について残存する破片では年代決定することは難しい。

SG256(第47図140~145・149~150・151~153)

須恵器坏(140~145)、黒色土器坏(149)、土師器甕(150~151)、須恵器瓶(153)が出土している。坏では底径が広く8世紀台のものと思われるもの(140)や、回転糸切で底径が小さい9世紀後半のものであろうものまで幅広い時期に属する土器が出土している。

(3) 縄文時代の遺物

本遺跡から出土した縄文時代の遺物は、土器と石器を合わせて約1箱となる。その大部分は調

査区北側のA区、SH1からSH5の周溝覆土層などから出土している。恐らく、周溝を構築する際に流入したものとみられる。

土 器(第49~52図177~231)

土器は、表面の磨耗が激しく遺存状態も悪いことから、文様など識別の可能なもの55点について選別し掲載した。土器の時期は、主文様が渦巻文となる縄文時代中期中葉であるが、中に縄文時代前期初頭もある。分類は1類から5類に分類し細分した。

1類土器(225) 摺糸側面圧痕によって文様を施している。

文様は、原体が不明であるが恐らくLとRの摺糸側面圧痕によって菱形、渦巻、交差するや矢羽根状の文様を描いて、口縁部から頸部にかけて重複している。胎土には若干の纖維を含む。

2類土器(184~190・204~206・209) 半截竹管の工具を使用して、沈線や刺突などの文様を出し、主文様が渦巻文となる一群である。

190は口唇直下に刺突を2列並行に施し、胴部には弧状に文様を描く(184)などがある。やや平行に走る(204)がある。206~209は小形のキャリバー型を呈する。

3類土器(177~179・182~183・187~188・200~210・211~224) 粘土紐を貼付して区画文など描かれるが、2類土器と同様に渦巻文様が主体となる文様構成になる。

182~183・188~200は、口縁部と体部の文様帶を区画するため頸部付近に施され、直線と波状の組み合わせとなる。体部に弧線を施す(179~188)。

4類土器 粘土紐貼付の隆帯を調整し、渦巻文様を主体に文様を描出している。隆帯の調整方法によってさらに2つに細分する。

4a類(181~185・192~193・195~197~199~201~205~207~214~218~221~229~231)粘土紐を貼付した後、両側縁を半截竹管の工具の背で調整を施す。193~229は短沈線などを斜状に施し、砂目が少なく密な胎土を示し、僅かに朱塗りの痕跡が認められる。

4b類(178~189~191~194~196~208~212~222~223~227~228~230) 粘土紐を盛り上げ、両側縁が丁寧な研磨調整を図っている。

5類土器(180~186~202~203~213~215~216~217~219~220~226) 地文が縄文となるものと、底部の破片を一括した。

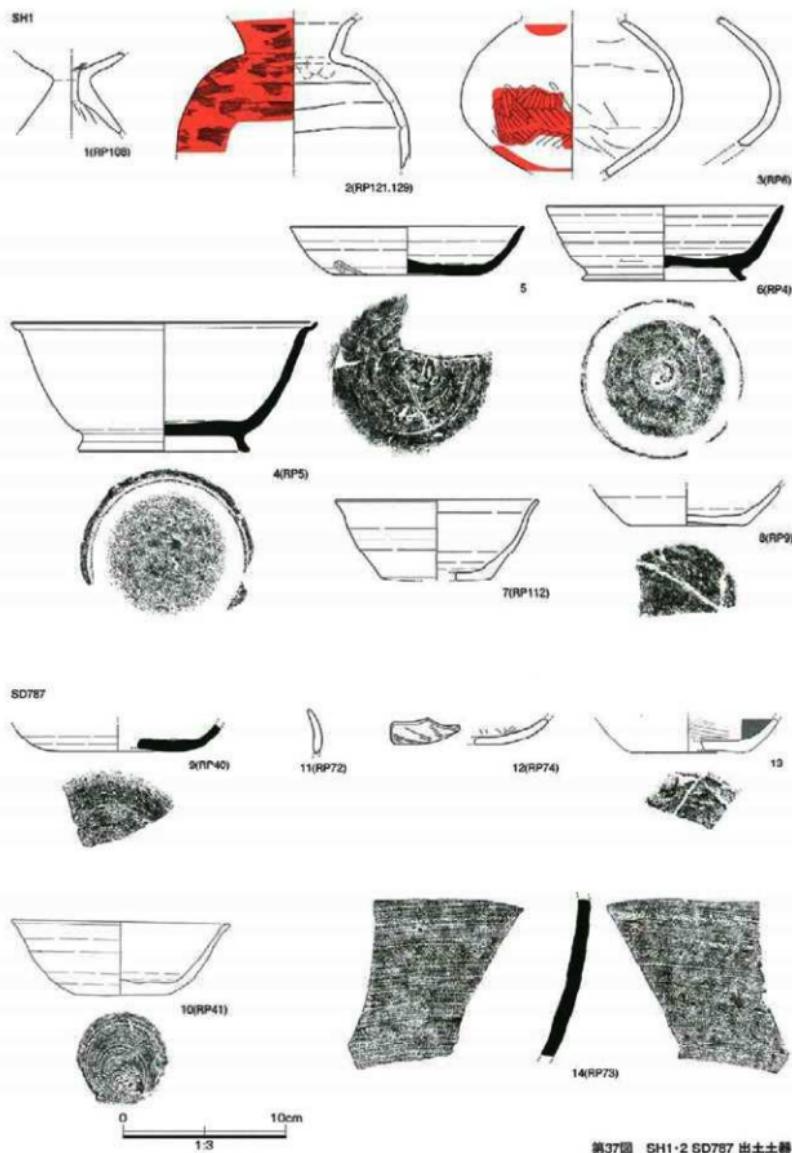
土器の時期は、1類土器が摺糸側面圧痕によって渦巻文など、文様を構成することから縄文時代前期初頭花積下層式に相当し、県内飯豊町野山II遺跡出土の土器(1977・秋)に類似する。2類土器から5類土器は縄文時代中期中葉の時期である。文様構成の相違から3類土器が大木8a式、2~4a類土器が大木8b式(新段階)で、中でも193と229は馬高系の土器で福島県法正尻遺跡III群1類土器(1991・松本茂)に類似する。4b類土器が大木9式(古段階)に比定され、5類土器は2類土器から4類土器の何れかの時期に属する。

石 器(第52図232~234)

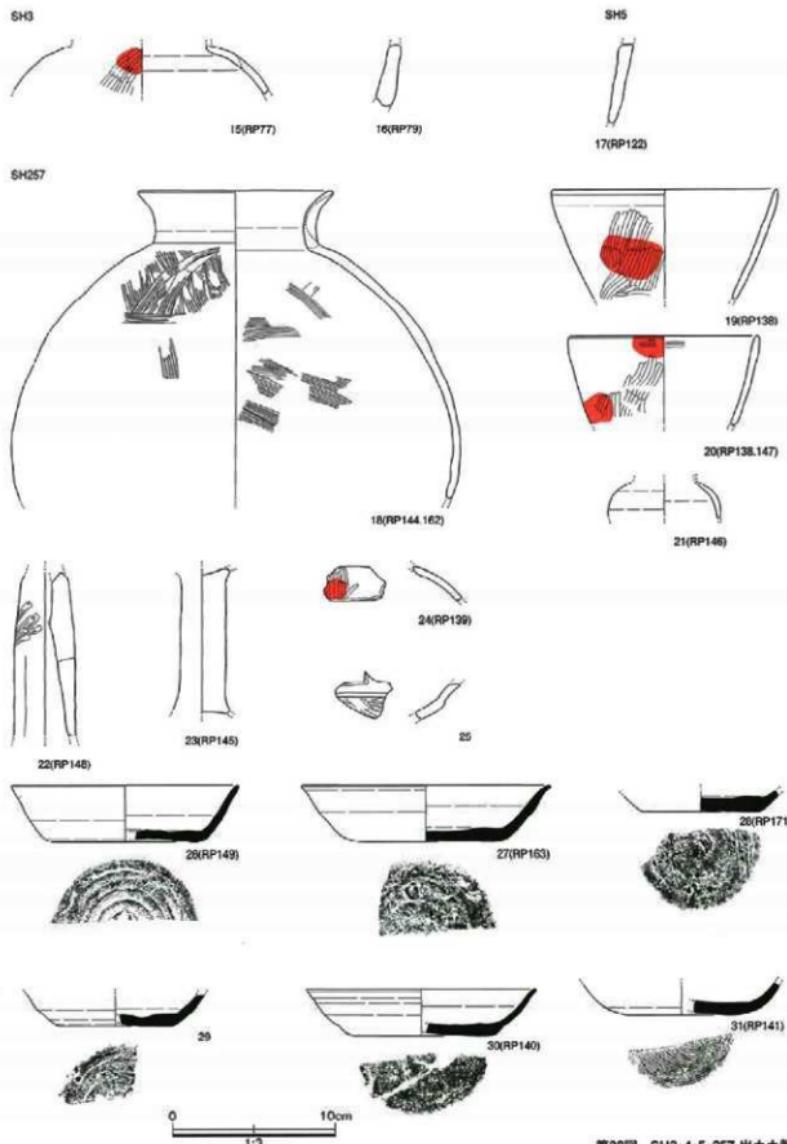
石器は、完成品が3点で洞片18点、第二の道具と言われる礫石器が検出されてない。

石 鋏(232~233)いずれも縦型の片面加工で、両刃縁に交互調離が施され、非対称となる。

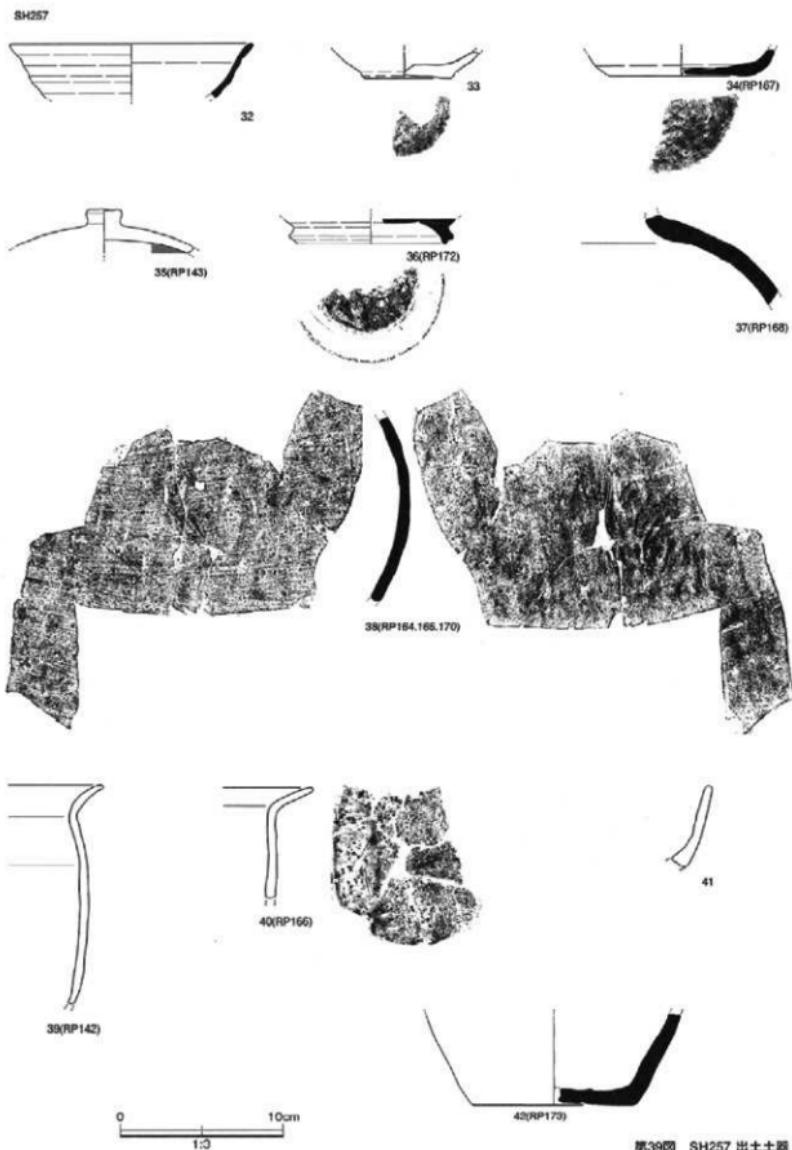
石 錐(234) 片面加工で、両縁辺に調整加工を施し、尖頭部の断面が四辺形となる。



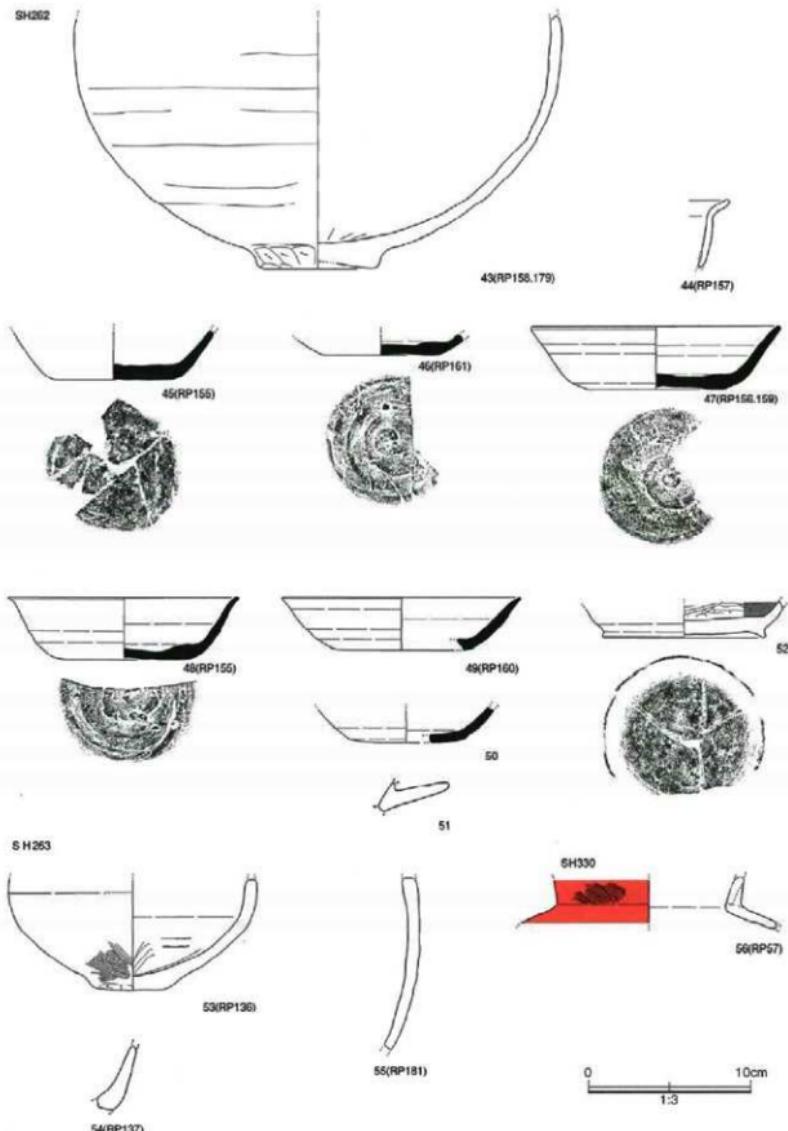
第37図 SH1・2 SD787 出土土器



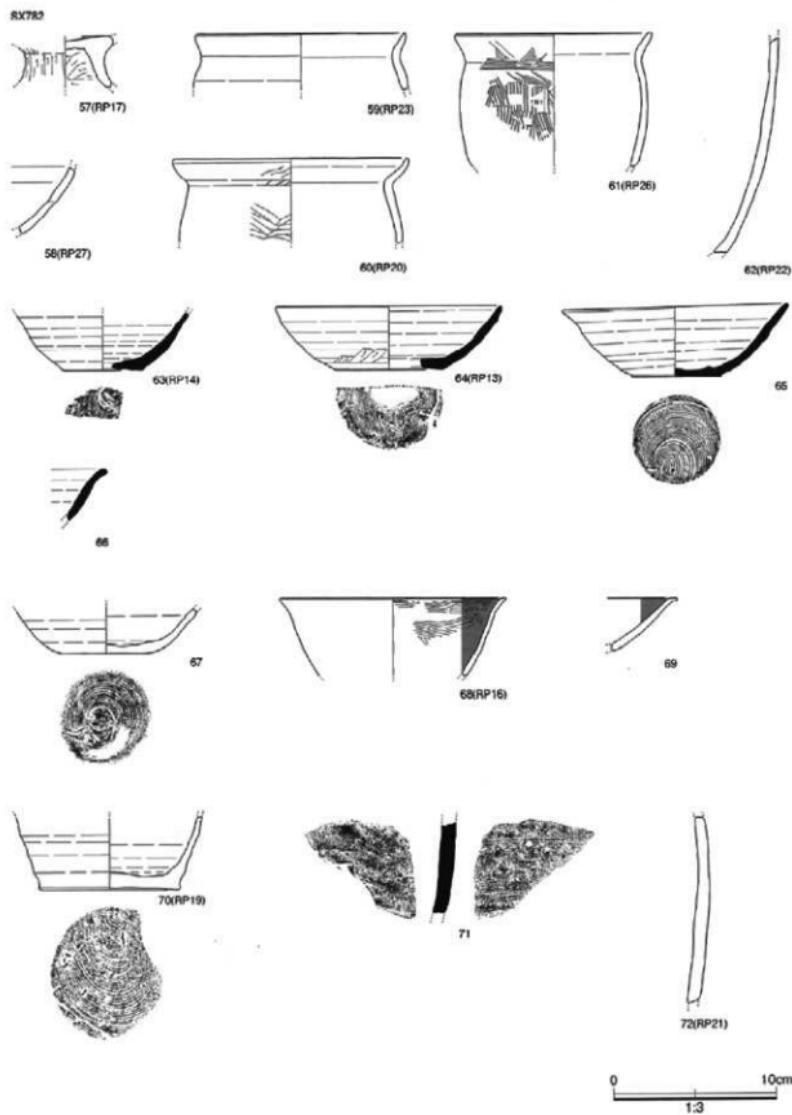
第30図 SH3-4-5-257 出土土器



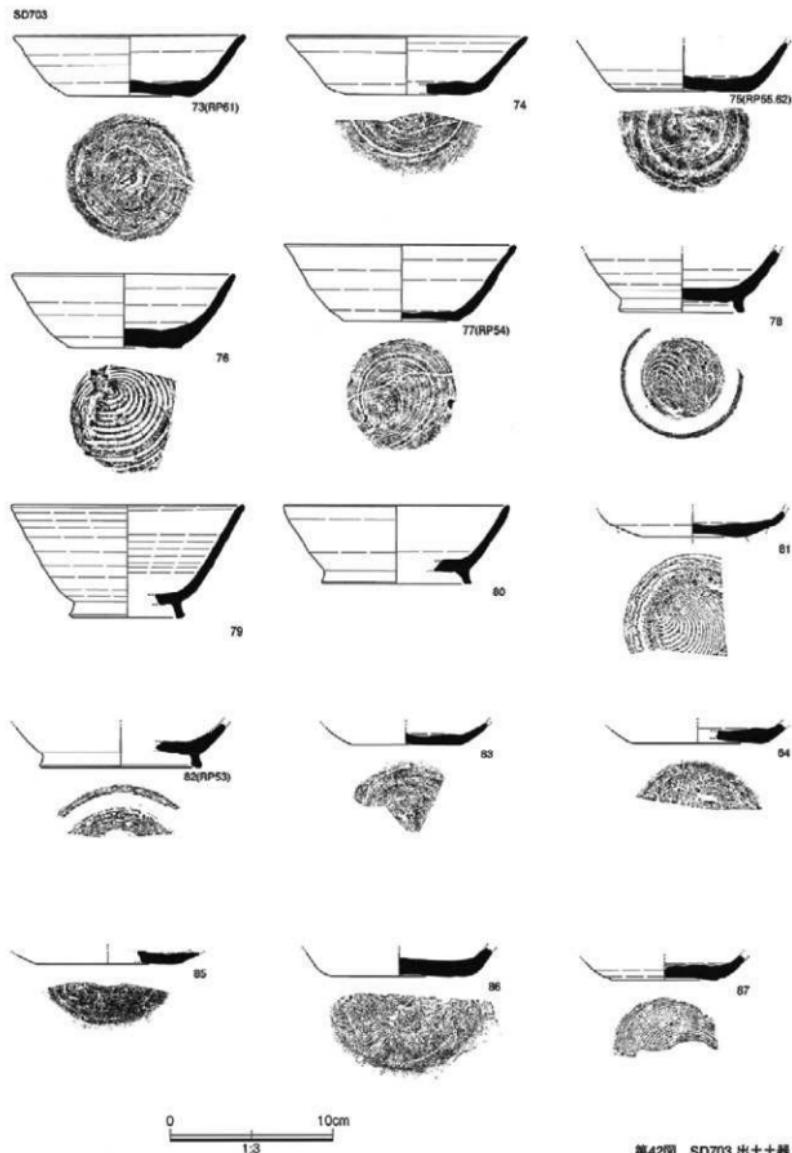
第39図 SH257 出土土器



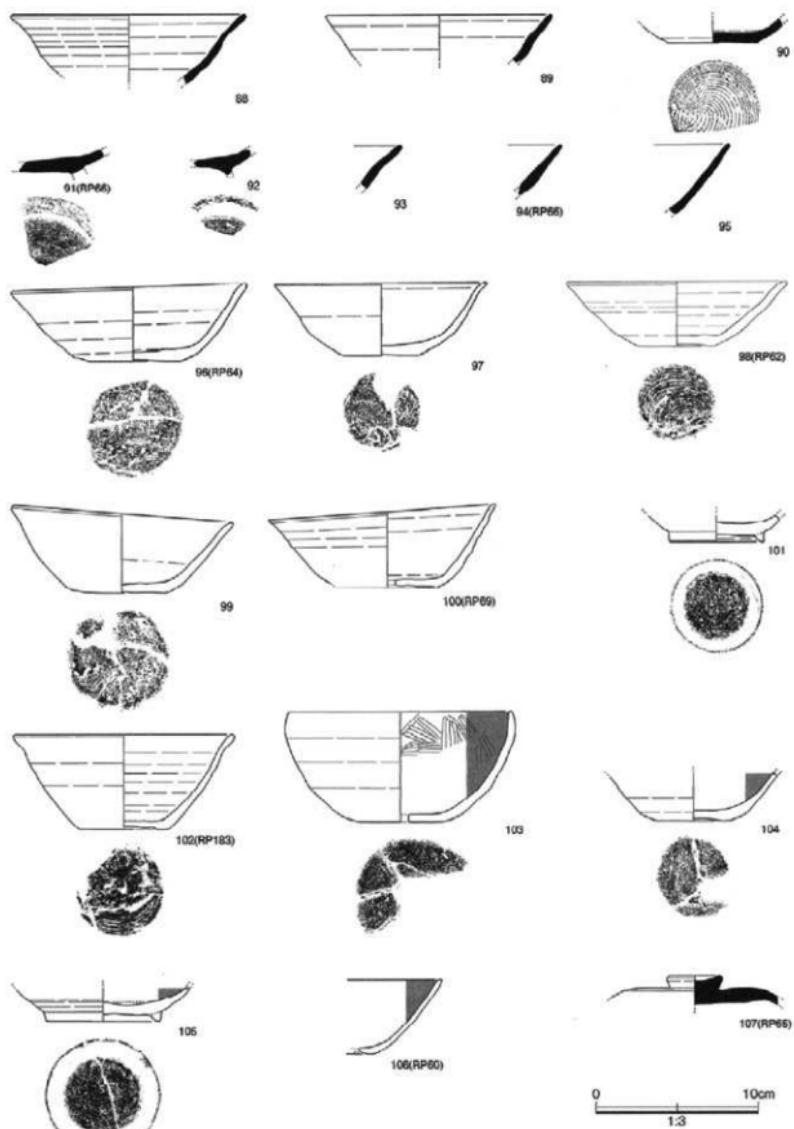
第40図 SH262・263・330 出土土器



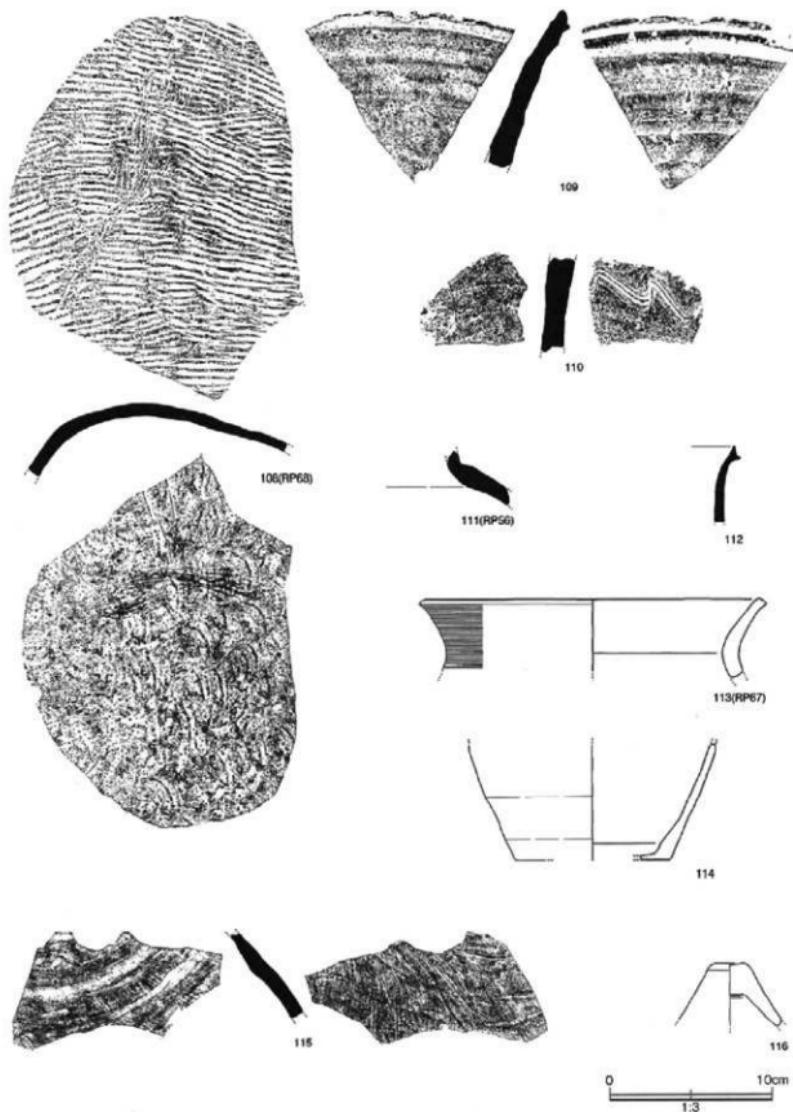
第41図 SX782 出土土器



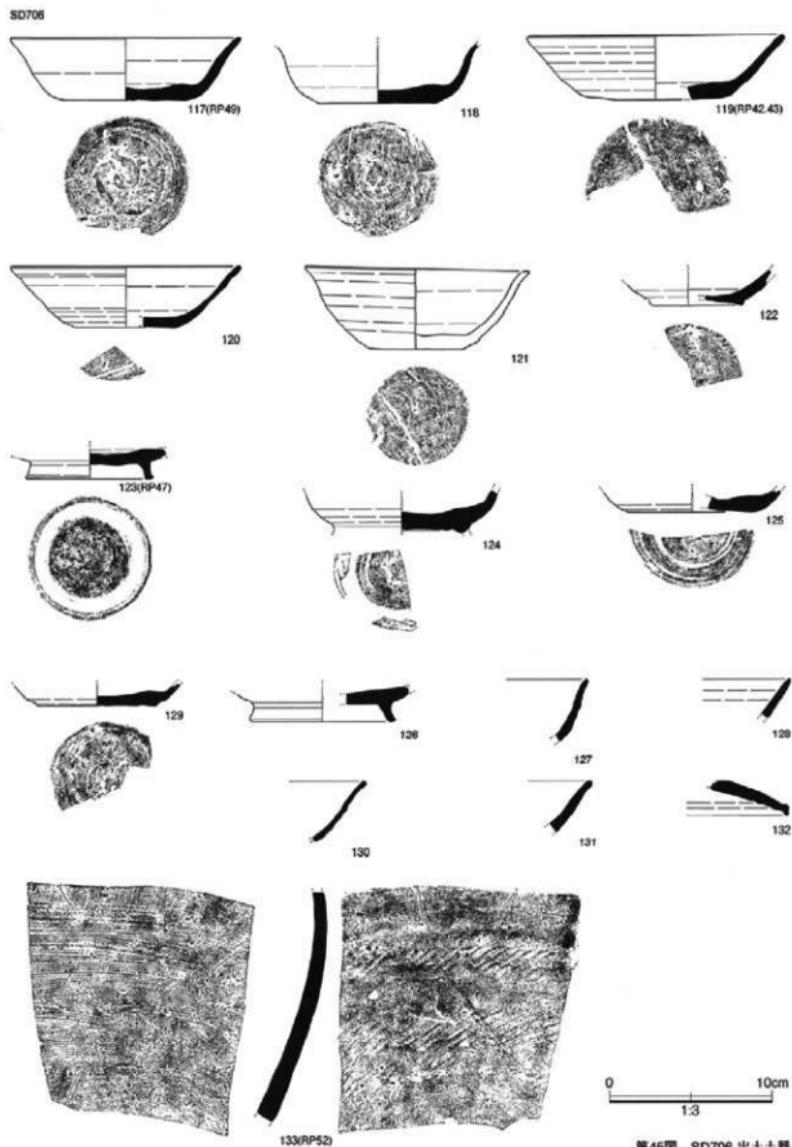
第42図 SD703 出土土器



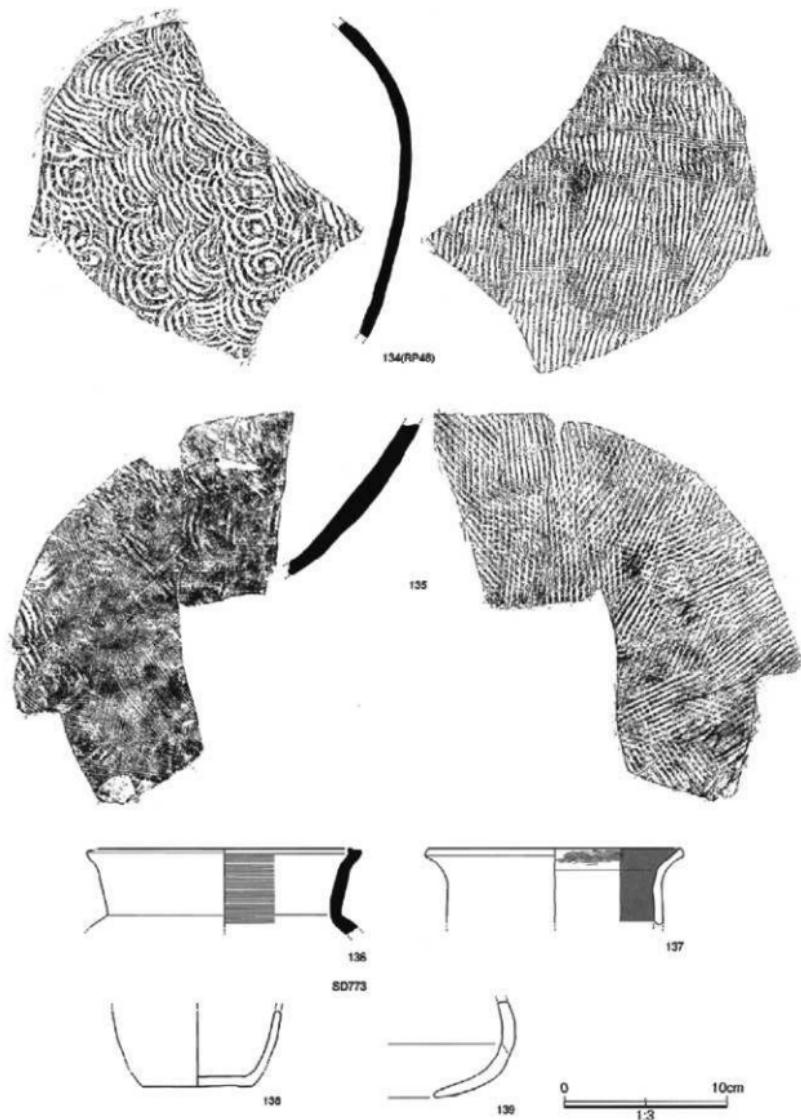
第43図 SD703 出出土器



第44図 SD703 出土土器



第45図 SD706 出土土器

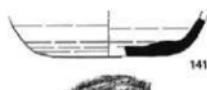


第46図 SD706-773 出土土器

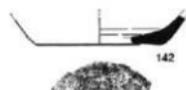
SG256



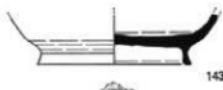
140



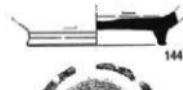
141



142



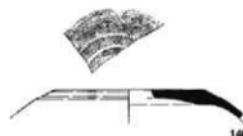
143



144



145



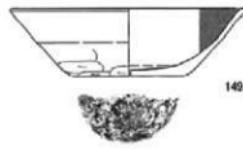
146



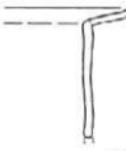
147



148



149



150



151



152

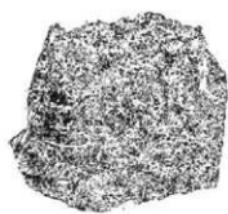


153

SK500

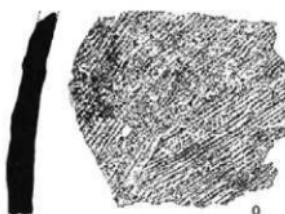


154



155

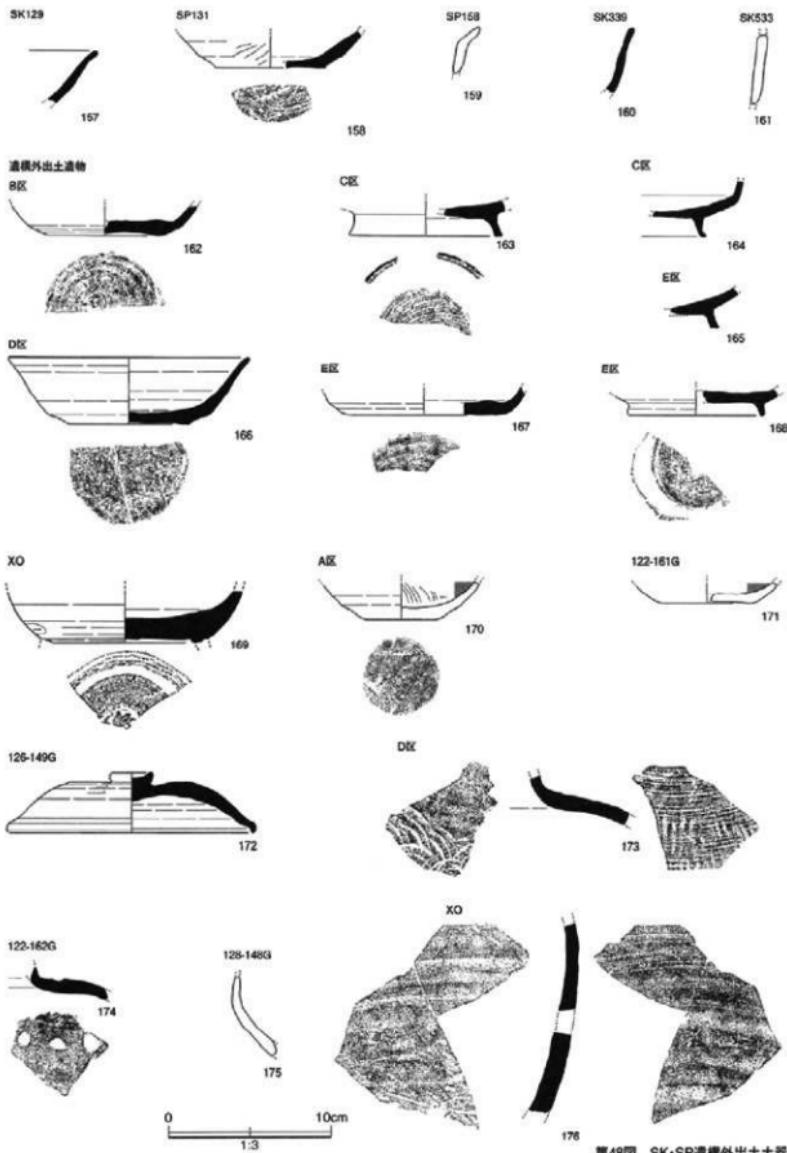
SK502



156

0
10cm
1:3

第47図 SG256・SK 出土土器

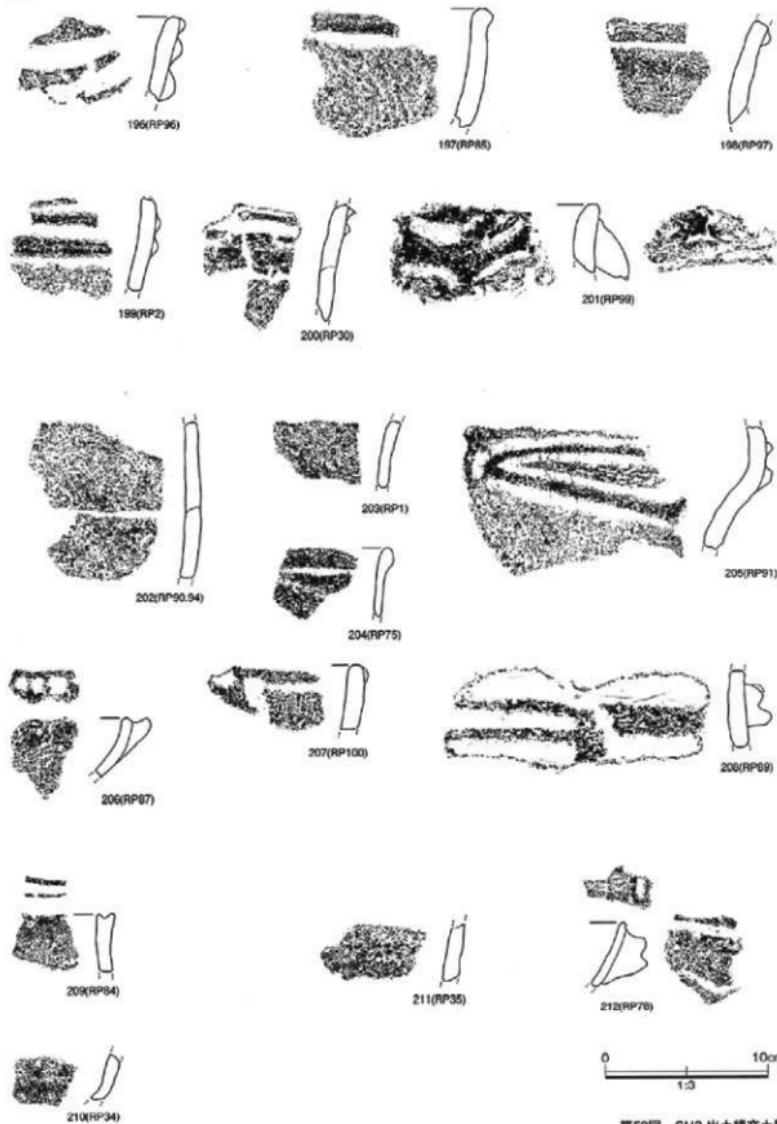


第48図 SK-SP遺構外出土土器

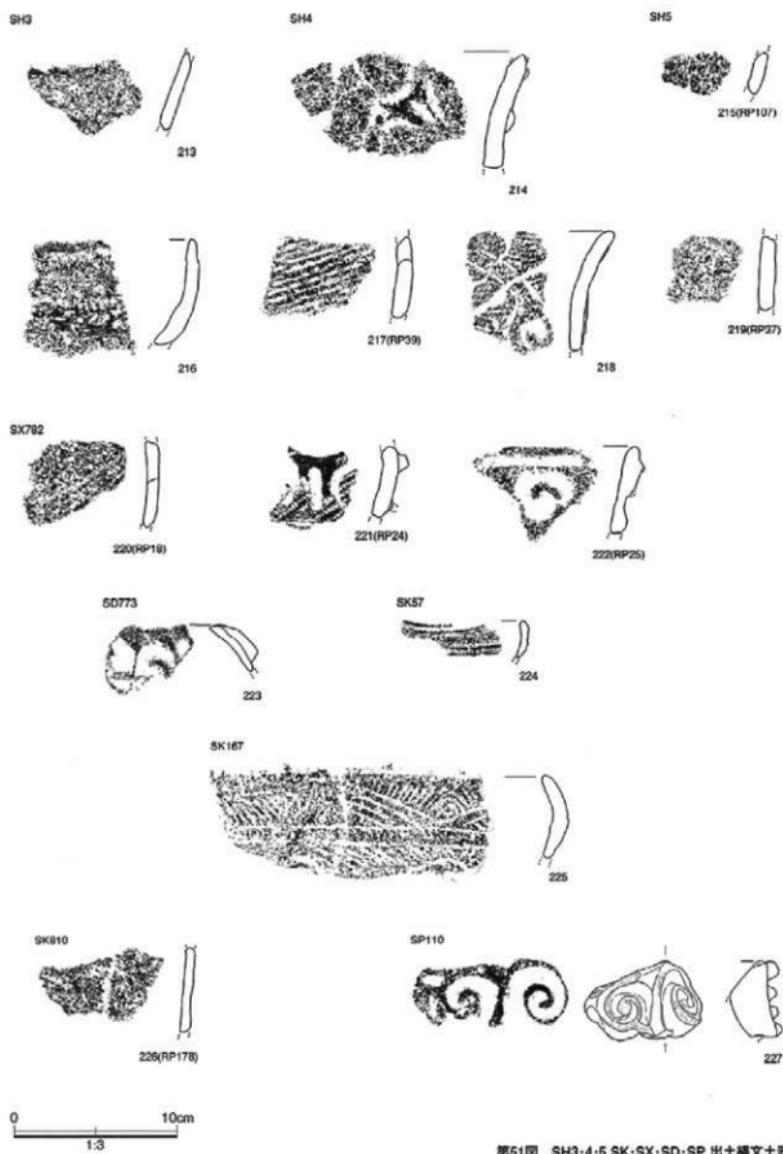


第49図 SH1-2 出土陶文土器

SH2

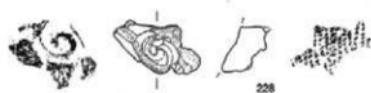


第50図 SH2 出土純文土器



第51図 SH3・4・5 SK・SX・SD・SP 出土縄文土器

11B-1053



228

11B-1169



229

A区



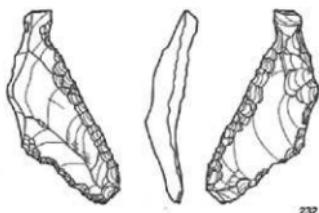
230



231

0
1:3
10cm

10B-1183



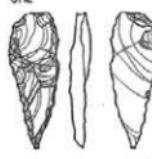
232

XO



233

5H2



234

0
1:2
5cm

第52図 造構外出土陶文土器・石器

表1 大塚遺跡土器觀察表(1)

掉回 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値(mm)			調査方法		底部	出土 地点	登録 番号	備考	
				口径	底径	器高	器厚	外面					
37	1	土師器	高台			6				SH1	RP108	表面摩滅	
	2	土師器	小型丸底盤			7	ハケ	ナデ		SH1	RP121・129		
	3	土師器	小型丸底盤			5	ミガキ	ヘラ		SH1	RP6	朱彩土器 燒成後底部穿孔	
	4	須恵器	有台鉢	188	106	80	5	ロクロ	ロクロ	高台	SH1	RP5	
	5	須恵器	無台坏	44	92	30	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH1		
	6	須恵器	有台坏	148	100	47	4	ロクロ	ロクロ	高台	SH1 F1	RP4	
	7	土師器	無台坏	125	(64)	49	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SH1	RP112	
	8	土師器	無台坏	72		5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SH1 F1	RP9		
	9	須恵器	無台坏	(50)		5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD787	RP40	底部切離し後調整	
	10	土師器	無台坏	134	56	47	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD787	RP41	
	11	土師器	器種不明			5				SH2	RP72	表面摩滅	
	12	土師器	小形丸底盤 土器?			5	ハラ	ヘラ	ヘラ	SH2	RP74		
	13	黒色土器	無台坏	70		4	ロクロ	ミガキ	ロクロ	SH2			
	14	須恵器	壺			8	カケメケズリ	ロクロ		SH2	RP73		
38	15	土師器	小型丸底盤			5	ミガキ			SH3 Y	RP77	朱彩土器	
	16	土師器	壺			10				SH3	RP79	表面摩滅	
	17	土師器	器種不明			7				SH5	RP122	表面摩滅	
	18	土師器	壺	120		6	ハケ	ハケ		SH257 Y	RP144-142		
	19	土師器	小型丸底盤	(140)		4	ミガキ			SH257 Y	RP138	朱彩土器	
	20	土師器	小型丸底盤	(120)		4	ミガキ			SH257 Y	RP136-147	朱彩土器	
	21	土師器	小形丸底盤			3				SH257 Y	RP146	表面摩滅	
	22	土師器	高杯			10	ハケ			SH257 Y	RP148		
	23	土師器	高杯			28				SH257	RP145	表面摩滅	
	24	土師器	小型丸底盤?			4	ミガキ			SH257 Y	RP139	朱彩土器	
	25	土師器	有台坏?			6	ミガキ			SH257			
	26	須恵器	無台坏	40	90	35	4	ロクロ	ロクロ		SH257	RP149	
	27	須恵器	無台坏	(40)	(88)	35	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH257	RP163	
	28	須恵器	無台坏	(95)	72	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH257	RP171		
	29	須恵器	無台坏	74		5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH257 F1			
	30	須恵器	無台坏	141	84	29	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH257	RP140	
	31	須恵器	無台坏	(68)		4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SH257	RP141		
39	32	須恵器	壺	150	(105)	4	ロクロ	ロクロ		SH257 F1			
	33	土師器	無台坏	(38)		5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SH257			
	34	土師器	無台坏	88		6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH257	RP167		
	35	黒色土器	壺?			8	ロクロ	ミガキ		SH257	RP143		
	36	須恵器	瓶?	92		8			高台	SH257	RP172	表面摩滅	
	37	須恵器	壺			10	ロクロ	ロクロ		SH257	RP168		
	38	須恵器	横取			7	ケズリ	ヘラ		SH257 F1	RP164-165-157		
	39	土師器	具嗣壺			6	ハラ	ハラ		SH257	RP142		
	40	土師器	具嗣壺			4	ハケ	ハケ		SH257	RP166		
	41	土師器	具嗣壺			6				SH257			
	42	須恵器	壺?	(156)	100	9		ヘラ		SH257 F2	RP173	表面摩滅	
40	43	土師器	壺			76	ハケ-ケズリ	ヘラ	ケズリ	SH262	RP158-159		
	44	土師器	小型壺			4				SH262	RP157	表面摩滅	

表2 大塚遺跡土器観察表(2)

博物 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値 (mm)			調整技法		底部	出土 地点	登録 番号	備考	
				口径	底径	高さ	器厚	外面					
40	45	須恵器	無台杯	72	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH262	RP155			
	46	須恵器	無台杯	(76)	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH262	RP161			
	47	須恵器	無台杯	154	84	39	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH262	RP156-159 底部切離し後調整	
	48	須恵器	無台杯	143	80	39	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH262	RP155	
	49	須恵器	無台杯	(148)	(76)	(33)	6	ロクロ	ロクロ		SH262	RP160	
	50	須恵器	無台杯	70	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SH262				
	51	土師器	双耳環		8	ナデ			SH262				
	52	黒色土器	有台环	100	6	ロクロ	ミガキ	高台	SH262			底部回転ヘラ切	
	53	土師器	小型甌	46	7	ハケ	ハケ		SH263	RP136			
	54	土師器	甌?		8				SH263	RP137	表面摩滅		
	55	土師器	甌		7				SH263	RP181	表面摩滅		
	56	土師器	甌		7	ハケ			SH330	RP57	朱彩土器		
41	57	黒色土器	高杯		7	ケズリ	ケズリ		SX782	RP17	环部内黑色		
	58	土師器	器種不明		4	ハケ	ナデ		SX782	RP27			
	59	土師器	小型甌	(130)	5	ナデ	ナデ		SX782	RP23	内面に煮炊痕か?		
	60	土師器	小型甌	(146)	6	ミガキ	ナデ		SX782	RP20			
	61	土師器	小型甌	(120)	4	ハケ			SX782	RP26	内面に煮炊痕有		
	62	土師器	甌		5				SX782	RP22	表面摩滅		
	63	須恵器	無台杯	140	66	39	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SX782	RP14	
	64	須恵器	無台杯	140	66	39	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SX782	RP13	
	65	須恵器	無台杯	140	54	43	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SX782		
	66	須恵器	甌		5	ロクロ	ロクロ		SX782				
	67	土師器	無台杯		58	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SX782			
	68	黒色土器	甌	(140)	3	ロクロ	ミガキ		SX782	RP16			
	69	黒色土器	甌		4	ロクロ	ロクロ		SX782				
	70	土師器	小型甌	87	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SX782	RP19			
	71	須恵器	甌		9	カキ目	ロクロ		SX782				
	72	土師器	系網甌		7				SX782	RP21	表面摩滅		
42	73	須恵器	無台杯	143	78	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD703	RP61	
	74	須恵器	無台杯	149	78	37	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD703		
	75	須恵器	無台杯	(84)	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD703		底部切離し後調整		
	76	須恵器	無台杯	(135)	78	46	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703		
	77	須恵器	無台杯	143	70	47	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703	RP54	
	78	須恵器	有台杯	76	6	ロクロ	ロクロ	高台	SD703				
	79	須恵器	有古甌	(144)	(71)	70	5	ロクロ	ロクロ	高台	SD703		
	80	須恵器	有台杯	140	92	49	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD703		
	81	須恵器	無台杯	(111)	70	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703			
	82	須恵器	有台杯	(100)	7	ロクロ	ロクロ	高台	SD703		底部糸切痕		
	83	須恵器	無台杯	(100)	66	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD703			
	84	須恵器	無台杯	(50)	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD703		底部切離し後調整		
	85	須恵器	無台杯	90	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD703		底部切離し後調整		
	86	須恵器	無台杯	88	7	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD703		底部切離し後調整		
	87	須恵器	無台杯	56	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703				

表3 大塚遺跡土器觀察表(3)

持國 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値(mm)			調整技法	底部	出土 地点	登録 番号	備考		
				口径	底径	器高							
43	88	須恵器	环	145	4	ロクロ	ロクロ	SD703	RP53				
29	須恵器	环	(76)	5	ロクロ	ロクロ		SD703					
90	須恵器	無台环	(86)	56	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703				
91	須恵器	有台环			5	ロクロ	ロクロ	高台	SD703				
92	須恵器	有台环			6	ロクロ	ロクロ	高台	SD703				
93	須恵器	环			5	ロクロ	ロクロ		SD703				
94	須恵器	环			5	ロクロ	ロクロ		SD703	RP66			
95	須恵器	环			4	ロクロ	ロクロ		SD703				
96	土師器	無台环	145	60	46	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703	RP64		
97	土師器	無台环	132	46	44	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703			
98	土師器	無台环	136	48	59	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703	RP62		
99	土師器	無台环	137	56	49	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703			
100	土師器	無台环	140	64	51	3	ロクロ	ロクロ		SD703	RP69		
101	土師器	有台环			55	5	ロクロ	ロクロ	高台	SD703			
102	土師器	無台环	136	56	59	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD703	RP183		
103	黒色土器	無台环	138	64	68	5	ロクロ	ミガキ		SD703			
104	黒色土器	無台环			46	4	ロクロ	ミガキ	回転糸切	SD703			
105	黒色土器	有台环			70	5	ロクロ	ミガキ	高台	SD703			
106	黒色土器	無台环			3	ロクロ	ミガキ		SD703	RP69			
107	須恵器	蓋			6	ロクロ・ケズリ	ロクロ		SD703	RP65			
44	108	須恵器	甕		8	タタキ	アテ		SD703	RP68			
	109	須恵器	甕		12	ロクロ	ロクロ		SD703				
	110	須恵器	甕		15	ロクロ	ロクロ		SD703		波状文による 瓶部加陶		
	111	須恵器	甕?		11	ロクロ	ロクロ		SD703	RP56			
	112	須恵器	甕?		5	ロクロ	ロクロ		SD703				
	113	土師器	長胴甕		8	ナデ	ナデ		SD703	RP67	朱彩土器		
	114	土師器	長胴甕	(95)	6				SD703		表面磨滅		
	115	須恵器	甕?		9	ケズリ	ロクロ		SD703				
	116	土師器	甕?	17	7				SD703				
45	117	須恵器	無台环	142	80	39	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD706	RP49	底部切離し後調整
	118	須恵器	無台环	(124)	74	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD706			
	119	須恵器	無台环	(160)	(85)	40	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD706	RP42-43	底部切離し後調整
	120	須恵器	無台环	142	66	38	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD706		
	121	須恵器	無台环	139	60	50	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD706		
	122	須恵器	無台环	(64)	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD706				
	123	須恵器	有台环		78	8	ロクロ	ロクロ	高台	SD706	RP47	底部ヘラ切	
	124	須恵器	有台环	(118)	(86)	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD706			
	125	須恵器	無台环	(80)	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD706		底部切離し後調整		
	126	須恵器	有台环	(90)	6	ロクロ	ロクロ	高台	SD706				
	127	須恵器	环		5	ロクロ	ロクロ		SD706				
	128	須恵器	环	114	4	ロクロ	ロクロ		SD706	RP46			
	129	須恵器	無台环	(102)	74	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD706		底部切離し後調整	
	130	須恵器	环		3	ロクロ	ロクロ		SD706				
	131	須恵器	环	(152)	5	ロクロ	ロクロ		SD706				
	132	須恵器	蓋		6	ロクロ	ロクロ		SD706				
	133	須恵器	甕		10	タタキ	ハケ		SD706	RP52			

表4 大塚遺跡土器観察表(4)

押出 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値(mm)			調整技法	底部	出土 地点	登録 番号	備考	
				口径	底径	器高	器厚	外面	内面			
46	134	須恵器	甕			3	ロクロ	ロクロ		SD706	RP48	
	135	須恵器	甕			10	タタキ	ハケ		SD706		
	136	須恵器	甕	170		5	ロクロ	ロクロ		SD706		
	137	黒色土器	長胴甕	(155)		6	ロクロ	ミガ牛		SD706		
	138	土師器	小型甕		70	4				SD706	表面摩滅	
	139	土師器	小型丸底甕			7				SD773	焼成底部穿孔	
47	140	須恵器	無台坪	(600)	(100)	6	ロクロ	ロクロ		SG256		
	141	須恵器	無台坪		(74)	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SG256	底部切離し後調整	
	142	須恵器	無台坪		(78)	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SG256		
	143	須恵器	有台坪	(127)	94	5	ロクロ	ロクロ	高台	SG256		
	144	須恵器	有台坪		86	8	ロクロ	ロクロ	高台	SG256	底部余切	
	145	須恵器	無台坪		(64)	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SG256		
	146	須恵器	甕		90	4	ロクハケアリ	ロクロ		SG256		
	147	須恵器	有台坪			5	ロクロ	ロクロ	高台	SG256	底部余切	
	148	須恵器	坪			5	ロクロ	ロクロ		SG256		
	149	黒色土器	無台坪	141	68	41	3	ケズリ	ロクロ	回転糸切	SG256	
	150	土師器	長胴甕			5				SG256	表面摩滅	
	151	土師器	器種不明			16				SG256		
	152	土師器	小形丸底甕?			5				SG256	表面摩滅	
	153	須恵器	蓋または甕			6	ロクロ	ロクロ		SG256		
	154	須恵器	坪			4	ロクロ	ロクロ		SK300		
	155	須恵器	甕			15	ハケ	アテ		SK300	底部にヘラ痕跡あり	
	156	土師器	小型甕			5				SK322		
48	157	須恵器	坪			4	ロクロ	ロクロ		SK129		
	158	須恵器	瓶?	(112)	68	7	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SP131		
	159	土師器	甕			5	ロクロ	ロクロ		SP158		
	160	須恵器	坪			4	ロクロ	ロクロ		SK339		
	161	土師器	長胴甕			6	ハケ	ハケ		SK333		
	162	須恵器	無台坪	(70)		5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	R区東トレンチ	底部切離し後調整	
	163	須恵器	有台坪	95		7	ロクロ	ロクロ	高台	C区		
	164	須恵器	有台坪			5	ロクロ	ロクロ	高台	C区	トレンチ	
	165	須恵器	有台坪			5	ロクロ	ロクロ	高台	E区		
	166	須恵器	無台坪	(150)	(74)	41	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	D区	
	167	須恵器	無台坪	(24)	94	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	R区		
	168	須恵器	有台坪	83		6	ロクロ	ロクロ	高台	E区		
	169	須恵器	瓶?	(66)		5	ロクロ	ロクロ	高台	XO	底部ヘラ切	
	170	黒色土器	無台坪	48		5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	A区北トレンチ		
	171	黒色土器	無台坪	60		5	ロクロ	ミガキ	回転糸切	I22-162		
	172	須恵器	甕	(150)	(76)	37	7	ロクロ	ロクロ	126-149		
	173	須恵器	甕			8	タタキ	アテ		D区		
	174	須恵器	短甕?			7	ロクロ	ロクロ		122-162G	底部周辺に数箇所円状の欠け	
	175	土師器	甕または甕			6				126-148	表面摩滅	
	176	須恵器	横取			9	ケズリ	ロクロ		XO		

表5 大塚遺跡縄文土器観察表

拂図番号	遺物番号	器種	部位	紋様	地紋	出土地点	登録番号	備考	分類
49	177	深鉢				SH1F	RP130	表面剥落	3
	178	深鉢	口縁部	横化渦巻文		SH1F			4b
	179	深鉢	体部	陰帯文	縄文L R	SH1F	RP132		3
	180	深鉢	体部		縄文	SH1F	RP118		5
	181	深鉢	口縁部	渦巻文		SH1F	RP8		4a
	182			陰帯文		SH1F	RP109		3
	183			陰帯文		SH1F			3
	184		体部	沈縞文		SH1F	RP122		2
	185		体部	陰帯文	縄文	SH1F	RP127		4a
	186	深鉢	体~底部			SH1F	RP110		5
	187	深鉢	体部	陰帯文		SH2F	RP103		3
	188	深鉢	体部	陰帯文		SH2F			3
	189	深鉢	体部	陰帯文		SH2F	RP92		4b
	190		口縁部	刺突文		SH2F			2
	191	深鉢	体部	陰帯文		SH2F	RP128		4b
	192	深鉢	体部	陰帯文		SH2F	RP86		4a
	193	深鉢	体部	陰帯文		SH2F	RP82		4a
	194	深鉢	口縁部	横円文・刺突文		SH2F	RP88		4b
	195	深鉢	体部	渦巻文	陰化縞文	SH2F	RP102		4a
50	196	深鉢	口縁部	陰帯文		SH2F	RP96		4b
	197	深鉢	口縁部		縄文	SH2F	RP85		4a
	198	深鉢	体部	陰帯文		SH2F	RP97		4a
	199	深鉢	口縁部	陰帯文		SH2F	RP2		4a
	200	深鉢	体部	陰帯文		SH2F	RP30		3
	201	深鉢	口縁部	陰帯文		SH2F	RP99		4a
	202	深鉢	体部			SH2F	RP90-94		5
	203	深鉢	体部			SH2F	RP1		5
	204	深鉢	口縁部			SH2F	RP75	表面剥落	2
	205	浅鉢	体部	陰帯文	縄文	SH2F	RP91		4a
	206	浅鉢	口縁部			SH2F	RP87	口縁部に陰帯	2
	207	口縁部		陰帯文		SH2F	RP100		4a
	208	体部		陰帯文		SH2F	RP89		4b
	209	口縁部				SH2F	RP94	口縁部に沈縞	2
	210	体~底部				SH2F	RP34		3
	211	体部				SH2F	RP35		3
	212	口縁部		陰帯文		SH2F	RP78		4b
51	213	深鉢?	体部			SH3F		表面剥落	5
	214	深鉢	口縁部	渦巻文・陰帯文		SH3			4a
	215					SH4F	RP107	表面剥落	5
	216	深鉢	口縁部	刺突文		SH3F		表面剥落	5
	217	深鉢	体部		縄文R L	SH5F	RP39		5
	218	深鉢	口縁部	渦巻文	縄文	SH5F			4a
	219	体部				SH5F	RP37		5
	220	体部				SX782	RP18	表面剥落	5
	221	瓶	沈縞・陰帯文		縄文R L	SX782	RP24		4a
	222	口縁部		渦巻文		SX782	RP25		4b
	223	深鉢	口縁部	渦巻文		SD773			4b
	224	深鉢?	口縁部	陰帯文		SK57		表面剥落	3
	225	深鉢	口縁部	沈縞文	縄文	SK167F			1
	226	深鉢?	体部			SK810	RP178	表面剥落	5
	227	口縁部		横化渦巻文		SP110			4b
52	228			渦巻文・陰帯文		118-165G		内面に縄文	4b
	229	深鉢	口縁部	竹管文		118-116G			4a
	230	深鉢	体部	横化渦巻文		A区			4b
	231	体部		渦巻文・陰帯文		X-4			4a

5 調査のまとめ

今回の調査は、一般国道113号赤湯バイパス改築事業に伴う、大塚遺跡の発掘調査である。

遺跡は、山形県南陽市大字萩生田字大塚に所在し、旧吉野川右岸の自然堤防上に立地する。今回の発掘調査は遺跡範囲内の遺跡にかかる事業実施部分の約8,200m²を対象に実施した。その結果、古墳時代前期末葉の方形に巡る周溝が15基確認された他、奈良・平安時代に構築されたと考えられる溝跡や土坑が見つかった。

出土遺物は古墳時代の土師器、奈良・平安時代の須恵器と土師器、流れ込みと考えられる繩文土器や石器など整理箱にして25箱出土した。

以下に各時代の遺構・遺物について要約する。

本遺跡で出土した最も古い遺物として、縄文時代の土器や石器が出土した。土器の文様は熱糸圧痕や半截竹管による沈線・刺突、そして渦巻文、粘土紐の貼付文などがみられ、その特徴から縄文前期初頭花積下層式に相当するものも一部あるが、概ね縄文中期中葉の大木8a~9式に属すると考えられ、石器もこの時期の範疇と推測される。大半が周溝などの覆土からの出土であり、構築する際の流れ込みと思われる。

古墳時代の遺構と考えられるのは方形容または円形に巡る周溝15基である。これらは、周溝墓群と考えられるが主体部が削平されているため定かではない。但し、その規模からSH1・2・257は古墳の可能性も考えられる。調査区西側に多く検出され、隣接するが、切り合いが無いことから意識して構築していたと推測される。

分布状況から、さらに西側に周溝の分布域が広がると考えられ、調査区の西方約100mに四面神社が建立されている東西17m南北14.5mの方形容の墳丘が存在していることからもそれが窺える。出土遺物には、土師器の器台、高环、壺などが出土した。遺存状態が悪く破片資料が大半を占めるが、朱彩された壺や底部に穿孔された小型丸底壺などもある。

構築時期は出土遺物が少なく、大半が覆土中であることから明確には分からずが、SH2・3・257周溝の底面から出土した高环の脚部、壺などが辻編年Ⅲ-3~4期に相当すると推測されることから、福井森古墳と同時期の古墳時代前期後葉の4世紀後半頃と考えられる。但し、出土遺物が無いものや底面出土の土器が少ないと、全ての周溝が同時期に構築するのかは今後の検討課題となる。

平安時代の遺構と考えられるのは、SD703・706・787溝跡及びSX782性格不明遺構である。各遺構の時期は出土土器が縄文土器の他、古墳時代から平安時代のものまで多岐に渡ることから特定は難しい。

土器の形態や製作技法からはSD703は8~10世紀、SD706・787は8~9世紀、SX782は9世紀代と考えられる須恵器や土師器が出土している。従って集落は8世紀後半から10世紀まで営まれ、中心となる時期は9世紀代と推測される。但し、土器の大半が覆土からの出土であることを考えると、さらなる検討が必要である。

IV 西中上遺跡

1 遺跡の層序

遺跡は、吉野川が形成した宮内扇状地の扇尖部に位置し、旧吉野川左岸の自然堤防上の畠地及び果樹園地帯に立地する。

層序は、調査区の北東側147—118G付近、北側138—121G付近、南西側134—113G付近の計3ヶ所で確認した。

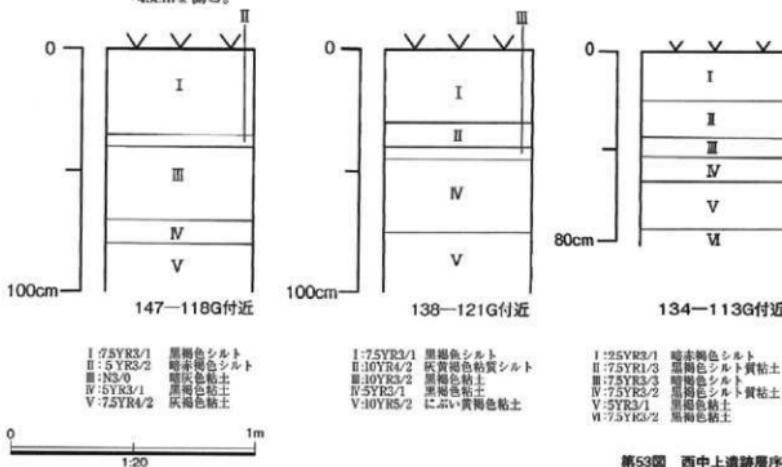
北東側の層序 北東側の基本的な層序は5層に細分され、果樹園だったことからI層目の耕作土が約35cmと厚く堆積する。II層はIII層の土を微量混入し、酸化土を含み、厚さ5cmと薄く堆積している。

III層は酸化土を含んでいる。IV層はV層の土を含み泥炭層の様相を呈する。そして、V層は灰色の粘土を混入していた。II層上面またはIII層上面が遺構の確認面となる。

北側の層序 北側でも層序は5層に細分され、I層目は耕作土となる。II層は酸化土を少量含み、III層は厚さ5cmと薄く堆積しIV層目の土が混入する。IV・V層には酸化土と互いの土を斑状に含む。II層上面またはIII層上面が遺構の確認面となる。

南西側の層序 南西側では、6層に細分され、I層目は耕作土となる。II層は黒色土と酸化土を微量含み、III層にはII層の土が混入する。IV・V・VI層にも酸化土が混じり、IV層目にV層の土が少量混入する。III・IV層は厚さ約10cmと薄く堆積している。遺構確認面はIII層上面となる。

以上、3ヶ所の層序概略を述べたが、調査区の層序は概ねシルト質と粘土質に大別されるが、旧吉野川の影響か、北側と南側で若干の層序の違いが認められた。遺構確認面までの深さは約30cmの深さ～45cmを測る。



第53回 西中上遺跡層序

2 遺構と遺物の分布

今回は、遺跡範囲のうち面積約4,000m²を調査した。調査で検出された主な遺構は井戸跡、土坑、溝跡などであるが、耕作による削平のため遺構の遺存状態は良くない。また、面積に対しての遺構密集度は低い傾向が見え、その分布状況については、東側より西側が集中し、南側よりも北側が密になる傾向がみられた。

調査区の中央を縦断するSD 6 溝跡の東側には長短の溝跡の他に十数基の土坑が点在して分布しているのに対し、西側は121～139・117～121Gを主に井戸跡や土坑が隣接して密集している。また、北側と南側でもその分布に違いが認められ、調査区を東西に横断するSD 5 溝跡の北側に土坑、溝跡などの遺構が多く存在し、南側は、一部に土坑群が存在するが、他は短い溝跡が点在しているのみである。

遺構毎では、溝跡は東側に集中し西側は希薄になり、土坑は北側に多く分布し南側は135・136・113・114Gに土坑群が確認されたのみという状況を示し、調査区の北西部が遺構の集中区域となっている。

遺物は、整理箱にして40箱出土した。奈良・平安時代の土師器、須恵器、黒色土器などが大半を占めるが、土師器は破片資料が多く摩滅も激しく遺存状態が著しく悪い。

遺物の分布状況は、概ね遺構の分布と同様であるが、その出土量には違いがみられた。特に、溝跡からの出土遺物量に顕著な差が認められ、SD 3 溝跡からは須恵器の蓋、有台坏、無台坏、壺や土師器の壺、壺、黒色土器の蓋、有台坏、無台坏等が溝跡北側の144・145・118・119G付近から多量に出土し、まとめて廃棄された様相を示し溝跡全体にも遺物が分布していた。

SD 5・6 も、まとまった土器の出土は無かったが溝跡全体に土器が分布していた。しかし、SD 1・2他の溝跡に関しては出土が無いか、少量の土器破片が出土したにすぎない。

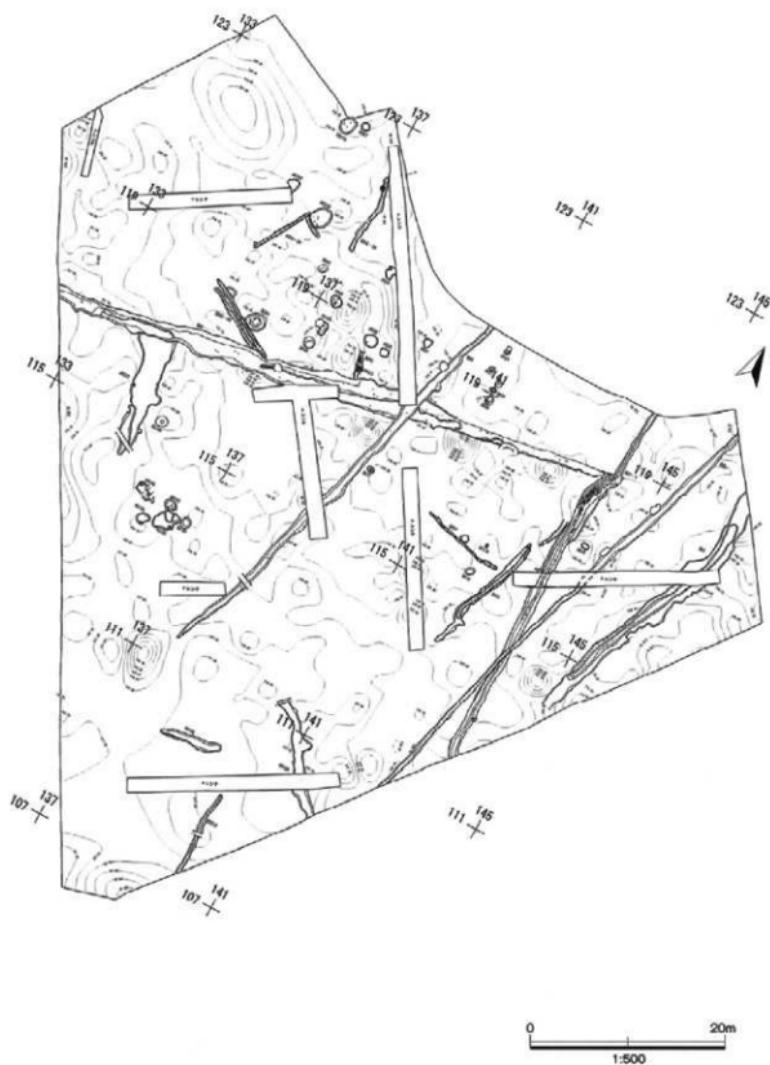
土坑についても、西側に位置するSK49・126・218・219や南側のSK153・SX165からは土師器の壺の一括土器や須恵器の蓋、無台坏、有台坏などが出土したが、他の土坑からは数点の土器片の出土にとどまる。

以上、遺物の分布は調査区北西側の遺構集中区域と、南側の土坑の密集部及び、東側の一部の溝跡から多く出土しており、遺物の出土量に違いがあるものの、ほぼ遺構の分布と同じ傾向を示す。

上記の遺構と遺物の分布および密集度や出土量などから、調査区の北西区域が集落の主たる居住区域と推測される。しかし、遺跡の範囲は南西に広がることから、南西の未調査区部分への存在も考えられ、また後世の削平や耕作によって聚落を構成する堅穴住居跡が破壊されたとも推測される。そして、調査区を縦断または横断する溝跡は切り合いで時期差が認められるものの、居住地域から離れた場所に周辺を流れていた旧河道の水利用のために構築されたと思われる。

整理箱 40 箱

廃棄された様相



3 検出遺構

今回の調査で検出された遺構は、井戸跡2基、溝跡18条、土坑、性格不明遺構、柱穴などである。堅穴住居跡が検出されなかった理由として、後世の削平や耕作によって破壊されたことと、南北の未調査区部分への存在が考えられる。遺構は東側に溝跡、西側に土坑などが集中する傾向が見られた。遺構の時期は概ね奈良時代後半から平安時代初頭と推測される。以下に主な遺構の概略を述べる。

(1) 井戸跡

SE64井戸跡(第55図、写真図版56)

調査区北西側の118-119-167-168Gで検出された。南側をSD65溝跡に切られる。平面プランは長径2.1m、短径1.9mを測る楕円形を呈し、底面までの深さは確認面から約0.7mを測る。断面形は開口部が広く、底が狭くなり、底面が平坦となる鐘鉢状の形態となる素掘りの井戸である。覆土は3層で暗褐色または黒褐色の砂質シルトとなる。覆土から須恵器の有台环の底部が出土した。底部の切り離し等から、8世紀後半に属すると考えられる。

SE143井戸跡(第55図)

調査区南西側の136-116Gで検出された。平面プランは直径1.2mを測る円形を呈し、底面までの深さは確認面から約0.5mを測る。断面形は開口部が広く、底が狭くなり、底面が平坦となる鐘鉢状の形態となる素掘りの井戸である。覆土は3層で暗褐色または黒褐色のシルトとなる。

素掘りの井戸

素掘りの井戸

(2) 土坑・性格不明遺構

SK10土坑(第56図)

調査区東側145-118Gで検出された。平面プランは長径0.8m、短径0.6mを測る楕円形を呈し、底面までの深さは確認面から16cmを測る。断面形は壁面が垂直に掘り込まれ底面が平坦となる形態を示す。覆土は2層で黒褐色シルトとなる。

SK16土坑(第56図)

調査区中央で東側寄りの143-116Gで検出された。平面プランは長径1.0m、短径0.7mを測る楕円形を呈し、底面までの深さは確認面から15cmを測る。断面形は壁面が緩やかに立ち上がり底面は平坦となる逆台形を呈する。覆土は2層で暗褐色シルト及び黒褐色砂質シルトとなる。

SK21土坑(第56図)

調査区中央SD 6 東側139-117Gで検出された。平面プランは長径0.8m、短径0.6mを測る楕円形を呈し、底面までの深さは確認面から30cmを測る。断面形は開口部が広く、底が狭くなるU字状となる。覆土は4層に分かれ、概ね暗褐色や黒褐色の砂質シルトである。須恵器の壺の体部片が出士した。

SK25土坑(第56図)

調査区北側141-120Gで検出され、北側が擾乱を受けている。平面プランは長径0.65m、短径0.4m以上を測る楕円形の小規模な土坑である。底面までの深さは確認面から25cmを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は2層に分かれ暗褐色と黒褐色の砂質シルトとなる。

SK26土坑(第56図)

調査区北側の142—120Gで検出された。平面プランは長径0.7m、短径0.6mを測る楕円形の小規模な土坑で、底面までの深さは確認面から24cmを測る。断面形は壁面が緩やかに立ち上がるレンズ状を呈する。覆土は黒色シルトとなる。

SK27土坑(第56図)

調査区北側の141—120Gで検出された。平面プランは長径0.6m、短径0.45mを測る楕円形の小規模な土坑で、底面までの深さは確認面から10cmを測る。断面形は壁面が緩やかに立ち上がるレンズ状を呈する。覆土は暗褐色砂質シルトとなる。図示できなかったが、覆土から土師器の底部破片が出土している。

SK28土坑(第57図)

調査区北側の141・142—120Gで検出された。平面プランは長径0.7m、短径0.4mを測る楕円形の小規模な土坑で、底面までの深さは確認面から16cmを測る。断面形は壁面が緩やかに立ち上がるレンズ状を呈する。覆土は暗褐色砂質シルトとなる。

SK29土坑(第57図)

調査区北側の141・142—119Gで検出された。平面プランは長径1.0m、短径0.8mを測る隅丸方形を呈し、確認面から底面までの深さは30cmを測る。断面形は壁面が急角度で立ち上がり、底面は若干の凹凸が見られる形態となる。覆土は3層に分かれ暗褐色と黒褐色のシルトに黒色粘質シルトが微量堆積する。

SK31土坑(第57図)

調査区北側でSD 6の西140—120Gで検出された。平面プランは長径1.0m、短径0.9mを測る不整形を呈し、確認面から底面までの深さは10cmと浅い。断面形は壁面が垂直に掘り込まれ底面が平坦となる台形状となる。覆土は2層で暗褐色と灰黄褐色粘質のシルトで炭化粒を含む。

SK38土坑(第57図)

調査区北西側の139—119Gで検出された。平面プランは一辺0.9mを測る正方形を呈する。確認面からの深さは10cmと浅い。断面形は壁面が垂直に掘り込まれ底面が平坦となる台形状となる。覆土は2層に分かれ暗褐色シルトで炭化粒を混入する。外側に黒色処理が施された有台窓が出土した。

SK39土坑(第57図)

調査区北西側の139—119Gで検出され、南側の一部に擾乱を受ける。長径1.4m、短径1.3mを測るほぼ円形を呈する。確認面から底面までの深さは10cmと浅く、断面形は壁面が緩やかに立ち上がり底面は平坦となる形態となる。覆土は黒褐色砂質シルトで微量の炭化粒を含む。須恵器の有台窓と無台窓が出土した。出土土器から、8世紀第3四半期から第4四半期に属すると考えられる。

SK48土坑(第58図)

調査区北西側の138—119Gで検出された。平面プランは径1.2mを測る円形を呈する。確認面から底面までの深さは15cmで、断面形は壁面が緩やかに立ち上がるレンズ状となる。覆土は黒褐色シルトで微量の炭化粒を含む。

SK49土坑(第58図、写真図版56)

調査区北西側の138—120Gで検出された。平面プランは長径1.4m、短径1.1mを測る梢円形を呈する。確認面から底面までの深さは15cmで、断面形は壁が緩やかに立ち上がり、底面に若干の凹凸があるが、ほぼレンズ状となる。覆土は2層に分かれるが黒褐色シルトが大半を占め、黒褐色砂質シルトが少量堆積する。土師器の甕が潰れた状態で出土した。

SK94土坑(第58図、写真図版57)

調査区北西側の137—120Gで検出された。平面プランは長径1.1m、短径0.8mを測る梢円形を呈する。確認面から底面までの深さは40cmを測り、断面形は壁面が急角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦となる台形状となる。覆土は3層に分かれ、概ね黒褐色シルトで炭化粒を含む。須恵器の無台窯の底部と自然軸が付着した甕の口縁部片が出土した。時期は、須恵器の無台窯の底部切り離し等から8世紀後半と考えられる。

SK97土坑(第58図)

調査区北側136—123Gで検出された。平面プランは一辺0.9mを測る兩丸方形を呈し、確認面から底面までの深さは8cmと浅い。断面形は壁面が緩やかに立ち上がり底面は平坦な台形状となる。覆土は1層で暗褐色砂質シルトである。

SK103土坑(第58図)

調査区北側136—121Gで検出され、南側を確認トレントに削平されている。平面プランは長径1.2m、短径1.0mの不整円形を呈する。確認面から底面までの深さは10cmと浅い。断面形は壁面が急角度で立ち上がり底面が平坦な台形状となる。覆土は2層に分かれ暗褐色砂質シルトで、下層に炭化粒が混じる。土師器の無台窯などが出土した。

SK126土坑(第59図、写真図版57)

調査区中央や西側の138—119Gで検出され、西側の一部に攪乱を受ける。平面プランは長径1.4m、短径0.7mの長方形を呈する。確認面から底面までの深さは約20cmを測る。断面形は、底面から張を描いて立ち上がる半円状の形態を示し、覆土は炭化粒を含む暗褐色シルトの1層である。須恵器の接觸と考えられる有台窯と土師器の甕が出土した。8世紀第4四半期頃に属すると考えられる。

SK151土坑(第59図)

調査区西側の137—114Gで検出された。平面プランは径1.1mの円形を呈する。確認面から底面までの深さは約25cmを測る。断面形は、底面から張を描いて立ち上がる半円状となる。覆土は3層に分かれ炭化粒を含む暗褐色または黒褐色のシルトか粘質シルトとなる。須恵器の無台窯、土師器の甕、内面に黒色処理が施された蓋が出土した。出土土器から、時期は8世紀後半と推測される。

SK153土坑(第59図、写真図版56)

調査区西側の137—114Gで検出された。平面プランは径1.2mを測る不整円形を呈し、確認面から底面までの深さは20cmを測る。断面形は壁面が緩やかに立ち上がり底面は平坦な台形状となる。覆土は2層で炭化粒を微量含む暗褐色砂質シルトとなる。須恵器の無台窯、土師器の甕、内面に黒色処理が施された有台窯が出土した。出土土器から、時期は8世紀第4四半期頃と推測される。

SK161土坑(第59図、写真図版57)

調査区西側の135・136—114Gで検出された。平面プランは長径1.4m、短径1.0mを測る楕円形を呈する。確認面から底面までの深さは20cmを測り、断面形は壁面が急角度で立ち上がり、底面は緩やかな傾斜をなす形態となる。覆土は3層に分かれ暗褐色シルトが厚く堆積し、にぶい黄褐色砂質シルトと黒褐色粘質シルトが底に薄く堆積する。須恵器の無台环、有台碗、そして土師器の壺の口縁部が出土した。出土土器から、時期は8世紀第4四半期頃と推測される。

SK218土坑(第60図、写真図版55)

調査区北西隅の136・137—123Gで検出され、北西隅に搅乱を受ける。平面プランは長径1.8m、短径1.5mを測る楕円形を呈する。確認面から底面までの深さは25cmを測り、断面形は掘り方の壁面が垂直または緩やかに立ち上がり、底面は若干の弧を描く形態となる。覆土は暗褐色シルトの1層で炭化粒を微量含む。須恵器の無台环の壺や縫腕となる有台环、有台皿、瓶などが出土した。時期は、須恵器の有台环や無台环などの出土土器より、8世紀第4四半期から9世紀第1四半期頃と推測される。

SK219土坑(第60図、写真図版55)

調査区北西側137—121Gで検出された。平面プランは長径2.4m、短径2.0mを測る楕円形を呈する。確認面から底面までの深さは20cmを測り、断面形は壁面が緩やかに立ち上がるレンズ状となり、底面がほぼ平坦となる。覆土は2層に分かれ微量の炭化粒を含む暗褐色シルトと黒褐色砂質シルトとなる。須恵器の無台环、壺の体部片が出土した。時期は、出土土器から8世紀第4四半期から9世紀前半頃と考えられる。

SX154性格不明遺構(第61図、写真図版57)

調査区西側137—114Gで検出され、西側の一部をSD158に切られる。平面プランは長径2.2m、短径1.4mの不整形を呈し、確認面から底面までの深さ5~18cmを測る。掘り方の壁面は緩やかに立ち上がり、底面は一定せず両端及び中央が深く掘り込まれている。従って、断面形も不整形となる。覆土は一層で黒褐色砂質シルトとなる。縫腕と考えられる須恵器の有台环が出土した。時期は、出土土器から8世紀第4四半期と考えられる。

SX165性格不明遺構(第61図)

調査区西側136—114Gで検出され、北側と北西側の一部に搅乱を受ける。平面プランは長辺2.0m、短辺1.0mの隅丸方形を呈し、確認面から底面までの深さは10cmを測る。掘り方の断面形は壁面が緩やかに立ち上がり底面はほぼ平坦となる台形状になると推測される。覆土は1層で暗褐色砂質シルトとなる。須恵器の蓋、有台环、無台环などが出土した。時期は、出土土器から8世紀第4四半期から9世紀第1四半期と考えられる。

(3)溝跡**SD1溝跡(第62・63図、写真図版54)**

調査区東端145~147—114~121Gで検出され、調査区東端を長さ29mに渡り縱断する溝跡で南北にさらに調査区外に延びる。幅約1.0~2.5m、確認面からの深さ10~15cmを測る。南側にかけて浅くなり、断面形は底面から壁面にかけて緩やかに立ち上がるレンズ状を示す。覆土は、黒褐色シルトや暗赤褐色シルトが堆積する。遺物は須恵器の壺の破片が数点出土した。

SD2溝跡(第62・63図、写真図版55)

調査区東端143-146-111-121Gで検出され、SD1と同様に調査区東端を横断する溝跡で、SD3を切る。長さ51mに渡り検出されたが、さらに南北方向の調査区外に延びる。幅約0.5~1.0mを測り、南側で浅くなる。確認面からの深さは北側で20~25cmを測り、南側では削平によってか10~15cm程度になる。断面形は北側では壁面が急角度で立ち上がる様相を示し底面はほぼ平坦となる台形状となるが、南側ではレンズ状に近い形態になる。覆土は1層~4層に分かれ、概ね黒褐色や暗褐色のシルトそして灰褐色砂質シルトになり部分的に炭化粒を含む。遺物は須恵器の破片が数点出土した。時期は切り合いからSD3よりも新しいと推定される。

SD3より新しい

SD3溝跡(第62~67図、写真図版51・52)

調査区東端144-145-112-121Gで検出され、調査区東側を横断する溝跡で、SD2に切られる。調査区内では長さ40mを測るが、さらに南北方向の調査区外に延びる。幅は約1.0~1.7mを測るが、北側は掘削のため底面付近の検出となったため50cmの幅しか確認できなかった。確認面からの深さは10~20cmを測り、SD1・2と同様に南側で浅くなる。断面形は壁面が急角度で立ち上がる台形状または、底面が弧を描くレンズ状の形態を示す。覆土は概ね暗褐色や黒褐色のシルトと粘質シルトとなるが、部分的に微砂が混入している。遺物は、溝跡全体にから出土したが、特に北側の144-145-118-119G付近からは多量の土器がまとまって出土し、一括廃棄された様相を示した。須恵器の蓋、有台坏、無台坏、壺、壺や土師器の有台坏、壺、内面に黒色処理が施された蓋、有台坏、無台坏、碗、双耳坏、壺などが出土し、中には、「甲」「×」などの字がヘラや墨で書かれたものが12点含まれる他、内面を硯として使用したと考えられる蓋、無台坏も出土した。出土した土器から、8世紀第4四半期頃から9世紀前半頃まで機能していたと推測される。

一括廃棄

ヘラ墨で書き
られた土器**SD5溝跡(第68図、写真図版53)**

調査区中央133-144-117-119Gで検出され、調査区を東西に横断する溝跡で、SD6に切られる。長さ58mを測るが、西側はさらに調査区外に延びる。幅は約1.5~3.0mを測るが、東側では掘削のために北側の立ち上がりが確認できなかった。確認面からの深さは10~30cmを測り、西側にかけて深くなる。断面形は、東側では壁面が急角度で立ち上がり底面がほぼ平坦となる台形状を示すが、西側では壁面が緩やかに立ち上がり底面は弧を描くレンズ状または底面中央部が高くなる瓶頸状の形態をなす。覆土は暗褐色のシルトや砂質シルトと黒褐色砂質シルトが堆積し、部分的に炭化粒を混入している。遺物は溝跡全体に散布しており、須恵器の蓋、有台坏、無台坏、壺、壺、底部穿孔のこね鉢や土師器の壺、そして内面に黒色処理が施された蓋、有台坏、無台坏、双耳坏などが出土し、黒色土器の蓋には内面に「甲」の字がヘラ書きされたものもある。出土土器から、SD3と同時期の8世紀第4四半期頃から9世紀前半頃まで機能していたと推測される。

底部穿孔の
こね鉢
ヘラ書き土器**SD6溝跡(第69・70図、写真図版54)**

調査区中央138-141-112-121Gで検出された、調査区を南北に横断する溝跡でSD5を切る。長さ45.5mを測り、さらに北側の調査区外に延びる。幅は0.7~1.2mを測り、確認面からの深さは20~30cmを測り南側で浅くなる。断面形は壁面が急角度で立ち上がり底面がほぼ平坦となる台形状を呈する。覆土は暗褐色または黒褐色のシルトや粘質シルトで一部に灰褐色砂と暗オリーブ褐色粘質シルトが堆積する。遺物は須恵器の蓋、無台坏、壺、壺や土師器の破片などが出土した。時期は、切り合いからSD5よりも新しい9世紀後半と考えられる。

SD13溝跡(第71図、写真図版54)

調査区西側143・144—114—117Gで検出され、幅50cm、確認面からの深さは5~20cmを測り、長さ8.4mの南北方向の溝跡である。断面は掘り方途中に段を形成し、中央または片側が深くなる形態を示す。覆土は暗褐色や黒褐色のシルトまたは粘質シルトが堆積する。

SD15溝跡(第71図)

調査区西側142・143—116・117GでSK18に隣接して検出され、幅20cm、確認面からの深さは10cmを測り、長さ5.4mの東西方向の溝跡である。断面は壁面が緩やかに立ち上がり底面は弧を描くレンズ状を呈する。覆土は暗褐色や黒褐色のシルトまたは砂質シルトが堆積する。

SD41溝跡(第71図、写真図版55)

調査区中央付近139—118・119Gで検出された幅30~70cm、確認面からの深さ10cmを測り、長さ約3.0m程の南北方向の溝跡である。北側に擾乱を受けている。断面は壁面が急角度で立ち上がり底面が平坦となる台形状を示し、覆土は黒褐色の砂質シルトとなる。溝跡底面に拳大の河原石が堆積していた。

SD55溝跡(第72図)

調査区北西端137・138—121・122Gで検出された幅40~60cm、確認面からの深さ10cmを測り、長さ8.5mの南北方向の溝跡である。断面は壁面が緩やかに立ち上がり、底面が弧を描くレンズ状となる。覆土は黒褐色や黄褐色のシルトまたは砂などが堆積する。

SD58・59溝跡(第72図)

調査区北西側136・137—120・121GでSD59の北側にSD58が直行する状況で検出され、SD58をSD59が切る。SD58は幅40cm、長さ2.5mを測り、深さ10~20cmで、断面形は底面中央が高くなる眼鏡状もしくはU字状となる。覆土は暗褐色や灰褐色のシルトまたは粘質シルトとなる。

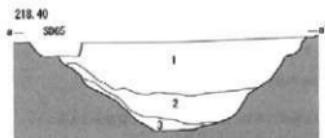
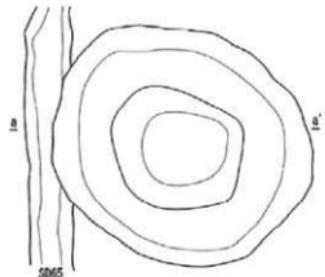
SD59は幅30~40cm、長さ6.8mを測り、深さ10~20cmで、断面形は壁面が急角度で立ち上がり底面は平坦な台形状となる。覆土は黒褐色や暗褐色のシルトまたは粘土質シルトである。

SD65・66溝跡(第72図)

調査区北西端135~137—118・119Gで2つの溝跡が平行する状況で検出された。SD65は幅40~50cm、長さ9.3mを測り、深さ10cmで、断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトが堆積する。

須恵器の有台碗 須恵器の有台碗や土師器の甕が出土している。SD66は、幅30~50cm、長さ7.2mを測り、深さ10cmで、断面形は台形状またはU字状 覆土は暗褐色シルトとなる。

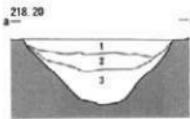
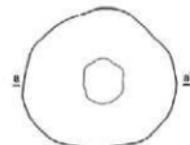
SE64



SE64

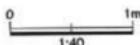
1. 10YR3/4暗褐色砂質シルト 10YR2/2 黒褐色シルトと10YR4/3 に._いい黄褐色シルトを各5% 底に、鰐化土を筋状に3%含む。粒種かくもろい。
2. 10YR2/3黒褐色砂質シルト 10YR2/2 黒褐色シルトを3%底に、鰐化土を筋状に3%含む。 粒種かくやけりあり。
3. 10YR3/3暗褐色砂質シルト 10YR2/2 黒褐色シルトを底に3%、鰐化土を底に5%含む。 粒種かくもろい。

SE143

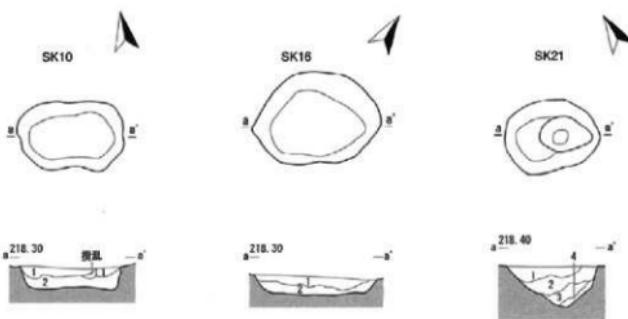


SE143

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 10YR2/1 黒色シルトを底に10%、鰐化土を筋状に5%含む。 粒種かくもろい。
2. 10YR2/3 黑褐色シルト 10YR2/1 黑色シルトを底に5%、鰐化土を筋状に3%含む。 粒種かくやけりあり。
3. 10YR3/2 黑褐色シルト 10YR4/3 に._いい黄褐色熱質シルトを底に10%、鰐化土を筋状に5% 含む。 粒種かくやけりあり。



第55図 SE64・143 井戸跡

**SK10**

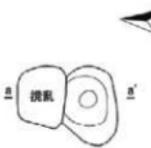
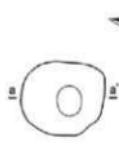
1. 75YR3/1 黒褐色シルト 75YR3/2 砂質シルトをブロック状に30%、酸化物を斑に20%含む。
粒細かくもろい。
2. 5YR2/1 黒褐色シルト 酸化土を斑に20%、微量の砂粒を含む。粘りあり。

SK16

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 酸化土と炭化物を粒状に各3%、微量の砂粒を含む。粒細かくもろい。
2. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 酸化土と炭化物を粒状に各3%含む。粒細かくもろい。

SK21

1. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 10YR3/4 暗褐色シルトを20%ブロック状に、酸化土を筋状に10%含む。粒や粗くもろい。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 1を斑に10%含む。粒細かくもろい。
3. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 酸化土を斑に10%含む。粒細かくもろい。
4. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 10YR2/1 黒色シルトを20%ブロック状に含む。粒細かくもろい。

SK25**SK26****SK27****SK25**

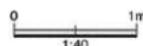
1. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 酸化土を斑に10%含む。粘りあり、もろい。
2. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト

SK26

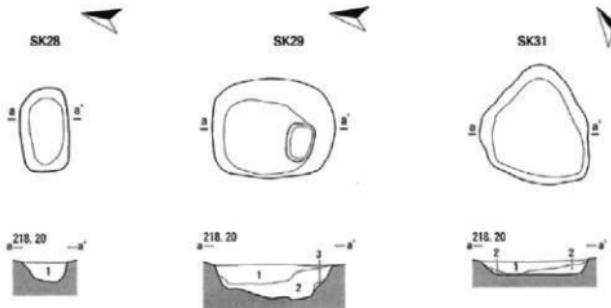
1. 10YR1.7/1 黒色シルト 微量の砂粒含む。粒細かく粘り有り。

SK27

1. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 酸化土を斑に5%含む。粒粗くもろい。



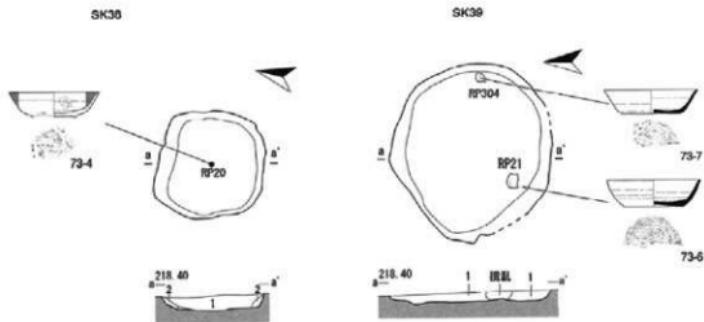
第56図 SK10・16・21・25～27 土坑



SK28
1. 10YR3/3暗褐色砂質シルト 濾化土を底に20%含む。粒細かくもろい。

SK29
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 濾化土を粒状に5%含む。粒細かくもろい。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粒粗い。
3. 10YR1/1 黒色粘質シルト 微量の砂粒を含む。

SK31
1. 10YR3/3 暗褐色シルト。濾化土を底に3%、炭化物を底に5%含む。微量の砂粒を含む。やや粘りあり。
2. 10YR4/2 黄褐色粘質シルト 濾化土及び炭化物を底に各5%含む。

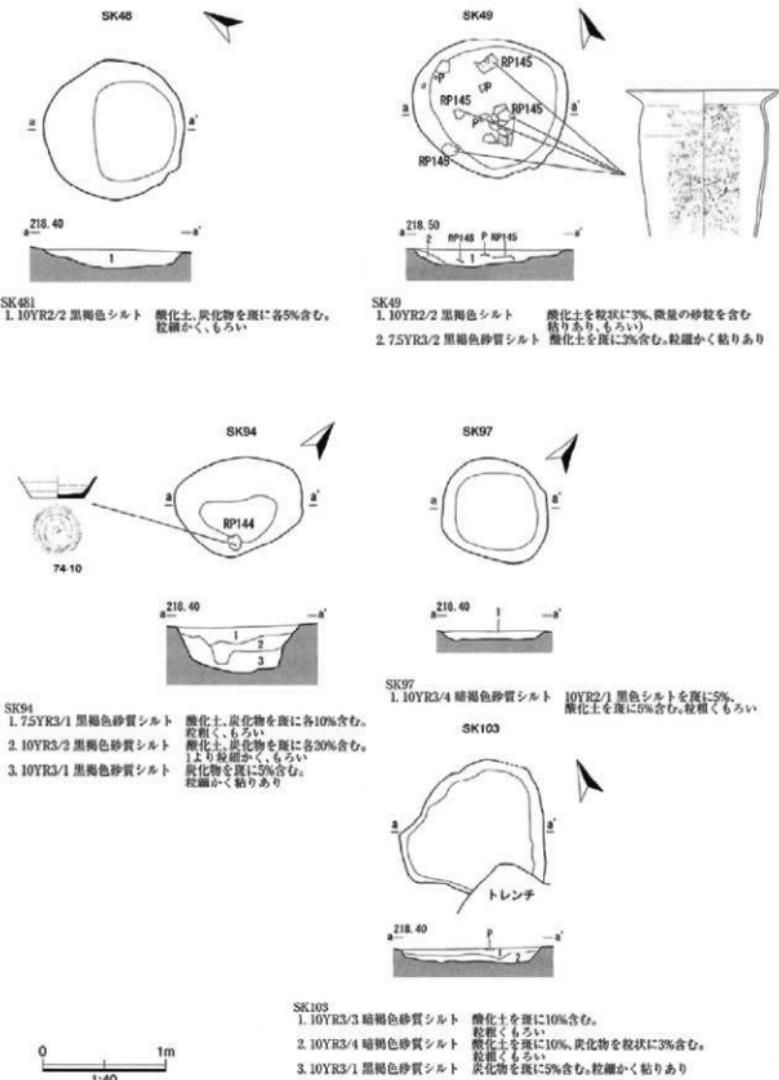


SK36
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 濾化土を底に3%、炭化物を粒状に5%含む。微量の砂粒と木の根を含む。粒細かくもろい。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 濾化土、炭化物を粒状に各3%含む。微量の砂粒を含む。粒細かくより粘る。

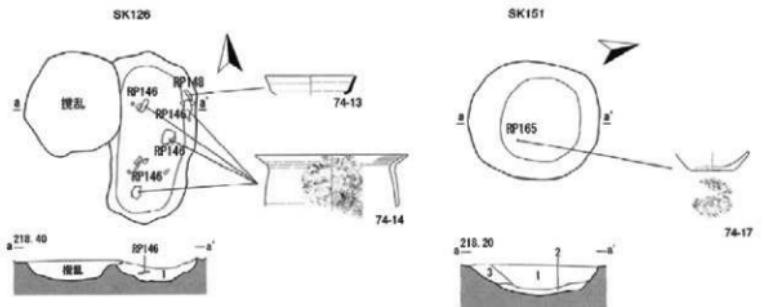
SK39
1. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 濾化土を粒状に5%、炭化物を粒状に3%含む。粒細かくやや粘りあり。もろい。



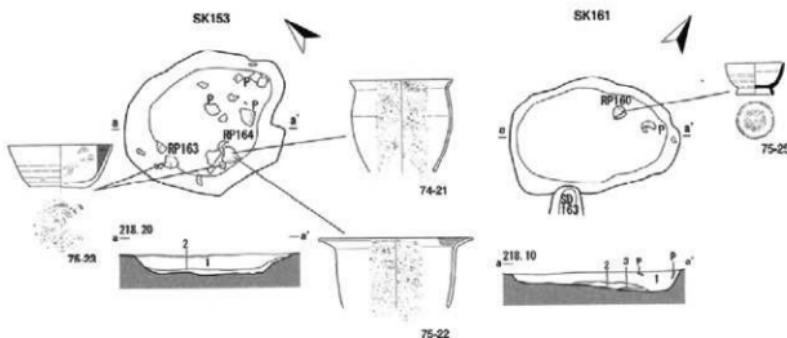
第57図 SK28・29・31・36・39 土坑



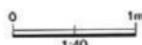
第58図 SK48-49-94-97-103 土坑



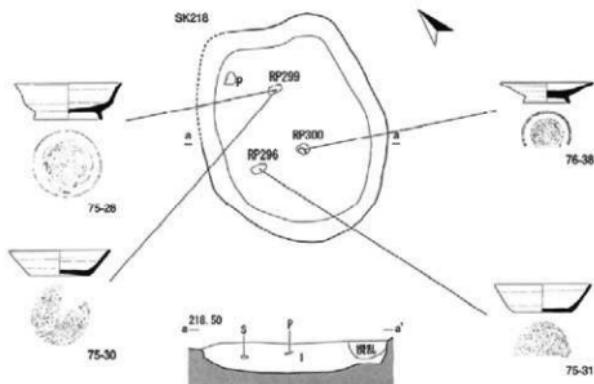
- SK126
1. 10YR3/3 塗褐色砂質シルト 煅化土、炭化物を粒状に各10%含む。粒粗くもろい。
SK151
1. 10YR3/3 塗褐色シルト 25YR5/6 明赤褐色燒土を粒状に各3%含む。煅化土、炭化物を粒状に各3%含む。
粒粗かく粘りあり。
2. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 10YR4/2 黑褐色砂質シルトを底に30%含む。煅化土、炭化物を粒状に各3%含む。
粒粗かく粘りあり。
3. 7.5YR5/2 黒褐色シルト 10YR5/4 にぶい黄褐色色をプロック状に30%、煅化土を粒状に5%、炭化物を粒状に1%含む。粒粗くもろい。



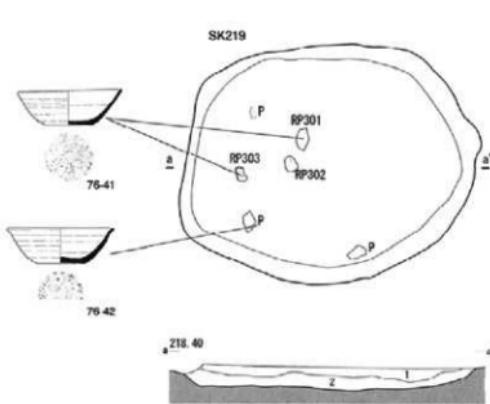
- SK153
1. 10YR3/3 塗褐色砂質シルト 10YR5/3 にぶい黄褐色
3%含む。粒粗くもろい。
2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 煅化土、炭化物を底に各3%含む。粒粗かくやや粘りあり。
SK161
1. 10YR3/3 塗褐色シルト 10YR2/2 黒褐色シルトを底に10%含む。煅化土を底に3%、炭化物を粒状に1%含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトを底に10%含む。粒粗かくもろい。
3. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 1を底に10%、煅化土を粒状に3%含む。粒粗かくもろい。
4. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 煅化土を底に3%含む。



第59図 SK126・151・153・161 土坑



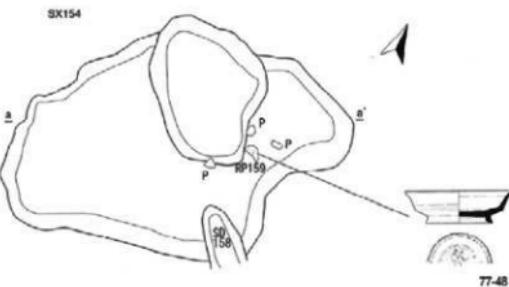
1. 10YR2/3暗褐色シルト 炭化土、炭化物を粒状に各6%含む。粒粗くもろい。
2. 10YR2/2黒褐色沙質シルト 炭化物を粒状に1%、無機物を底に3%含む。粒細かくもろい。



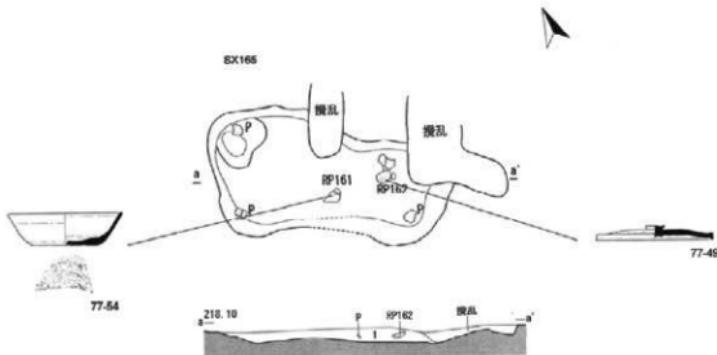
SK219
1. 10YR2/3暗褐色シルト 炭化土を底に3%含む。粒粗くもろい。
2. 10YR2/2黒褐色沙質シルト 炭化物を粒状に1%、無機物を底に3%含む。粒細かくもろい。



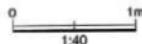
第60図 SK218・219土坑



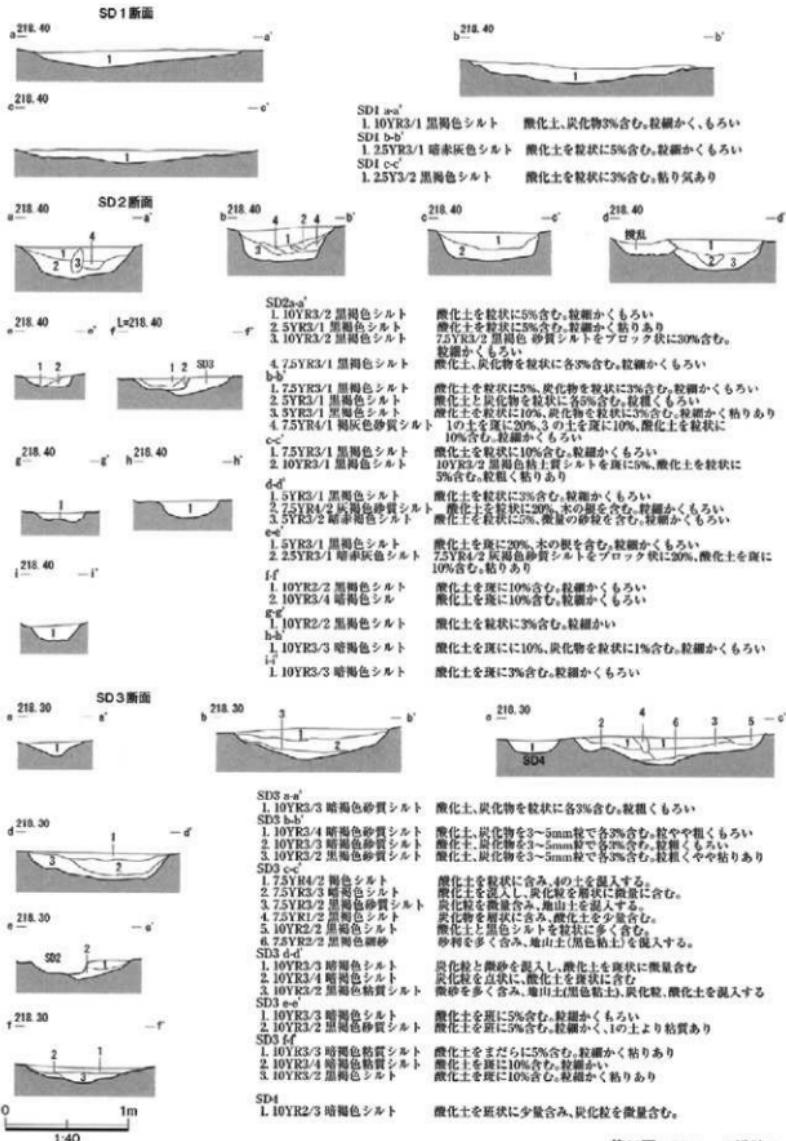
SX154
L. 10YR2/2黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑に10%、酸化鉄を
斑に3%、炭化物を粒状に1%含む。
25YR4/6赤褐色壤土を粒状に1%含む。粒細かくもろい。



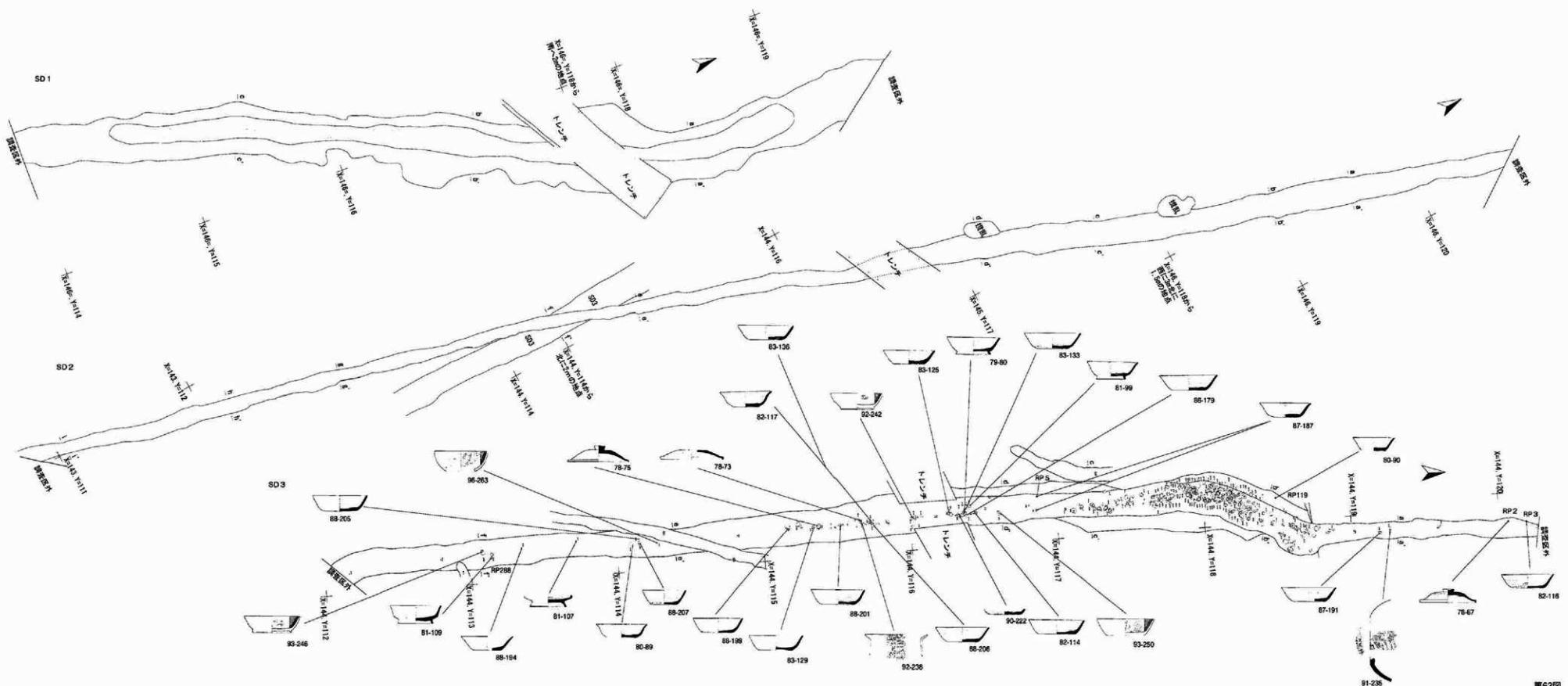
SX165
L. 10YR3/3暗褐色砂質シルト 10YR5/3にぶい黄褐色砂を斑に5%, 酸化土を粒状に3%,
炭化物を粒状に1%含む。



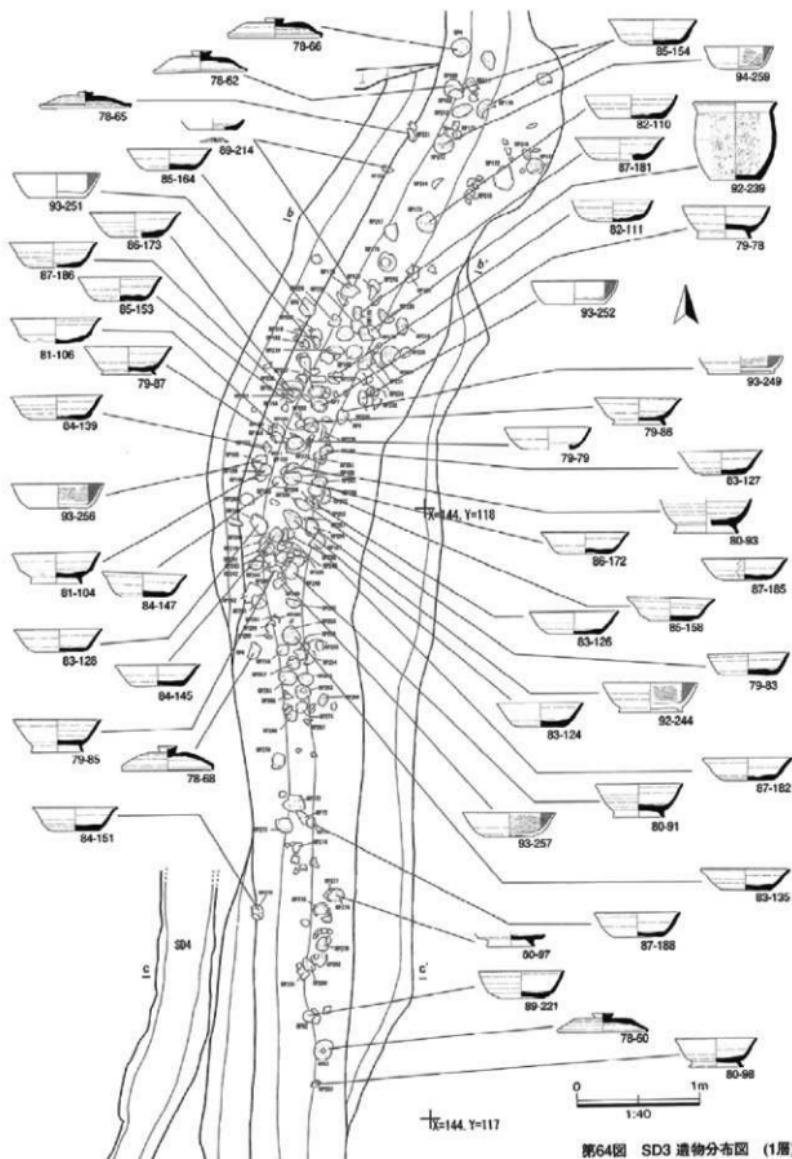
第61図 SX154・165 性格不明遺構



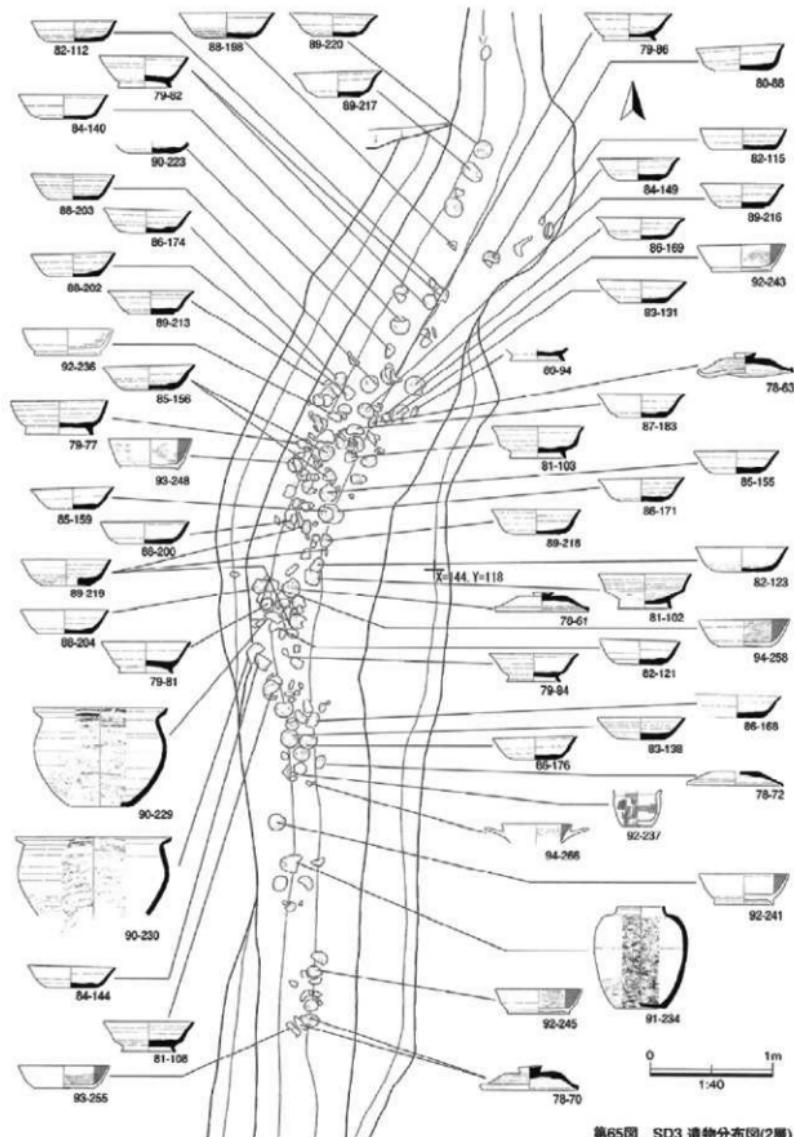
第62回 SD 1~3溝跡(1)



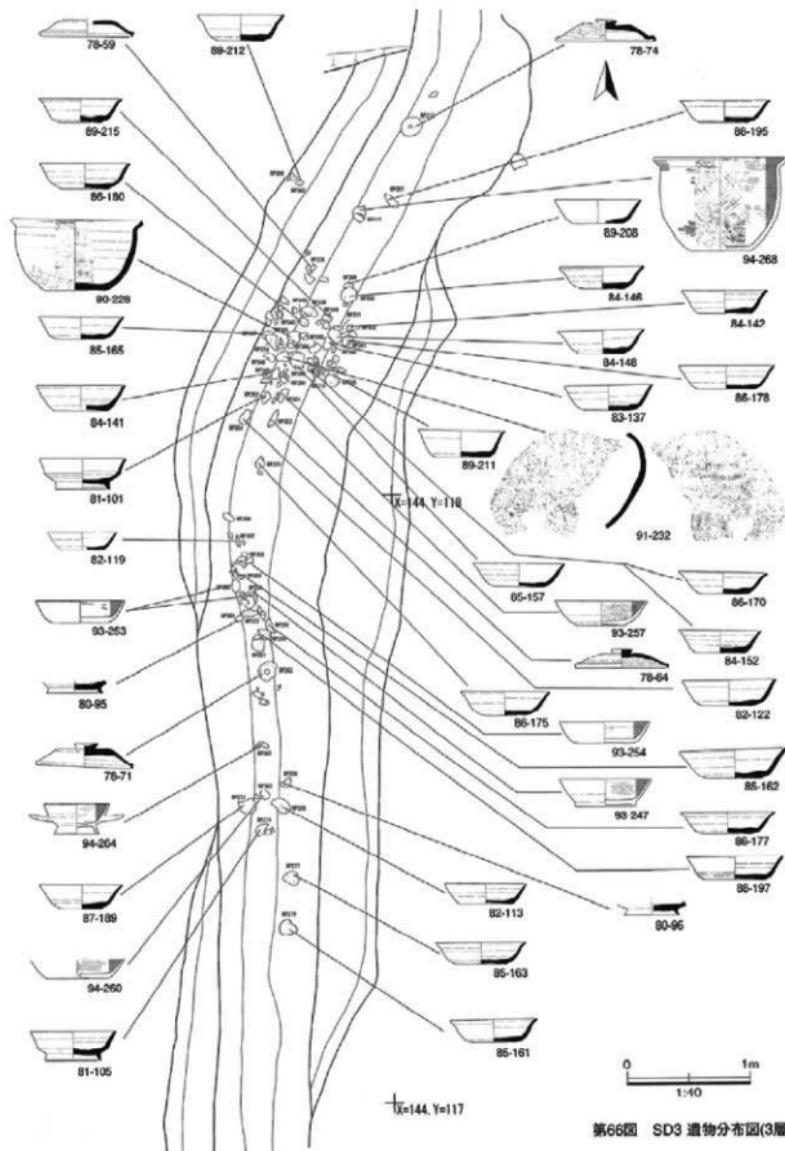
第63図 SD 1~3 溝跡(2)



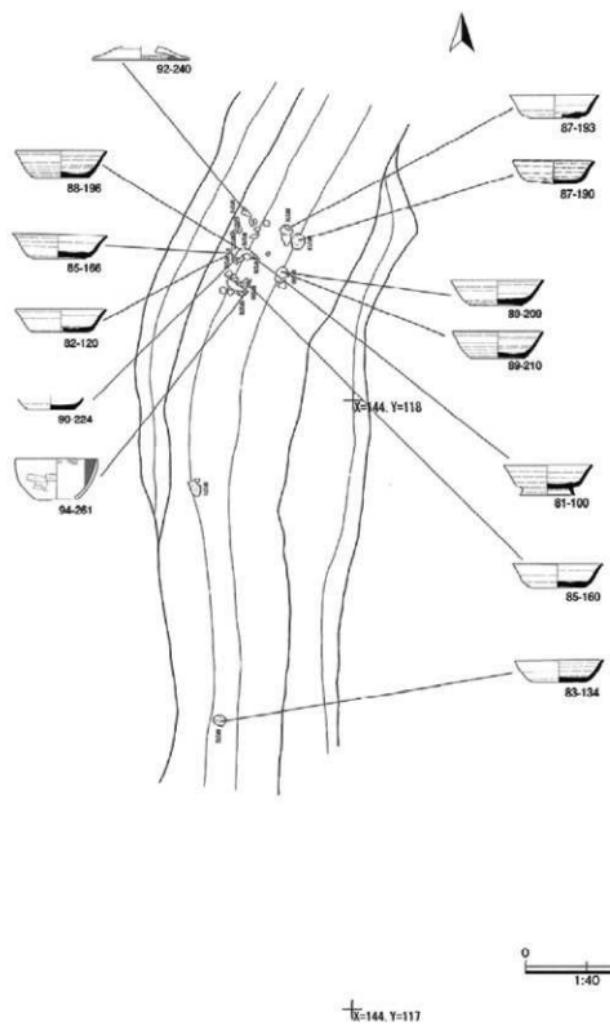
第64図 SD3 遺物分布図 (1層)



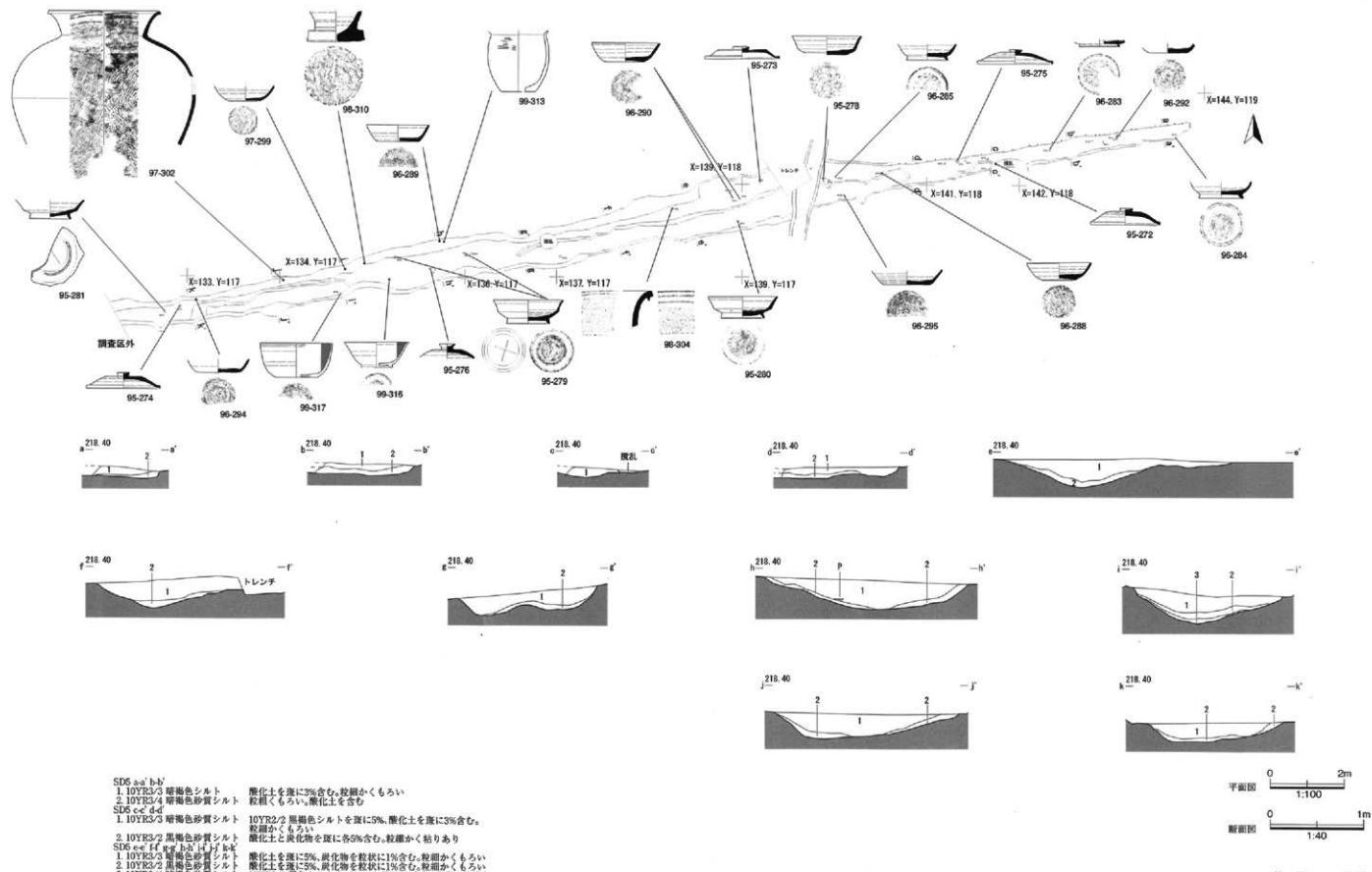
第65図 SD3 遺物分布図(2層)



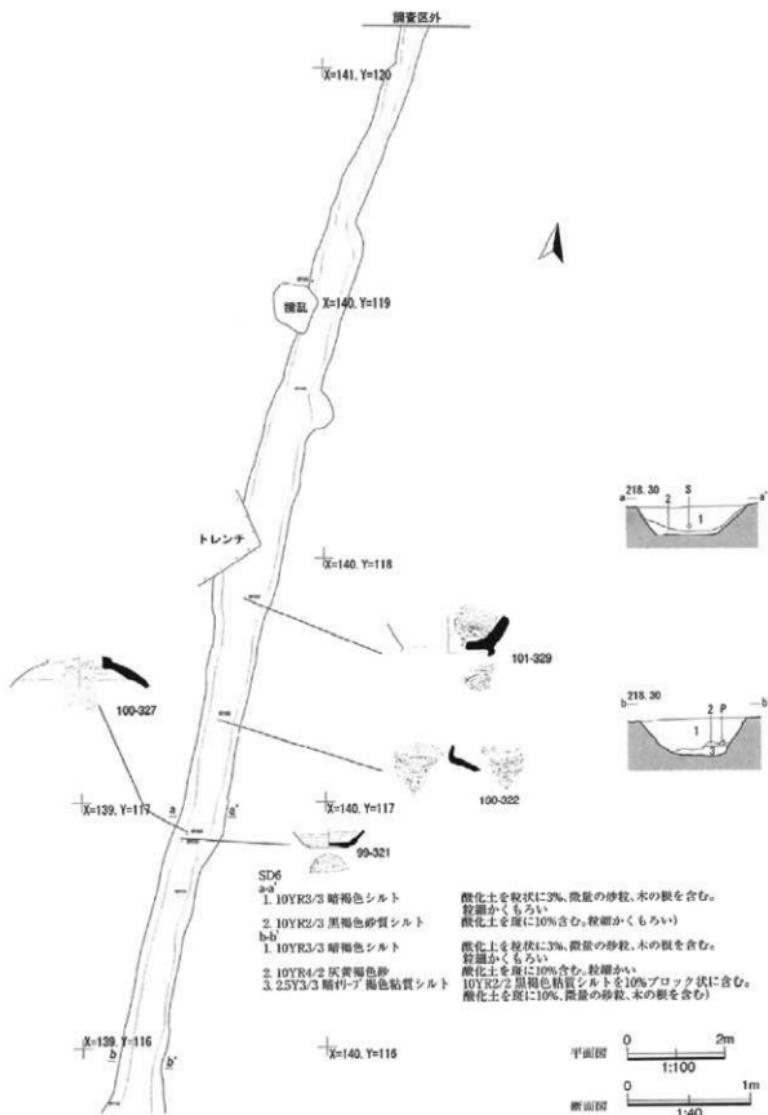
第66図 SD3 遺物分布図(3層)



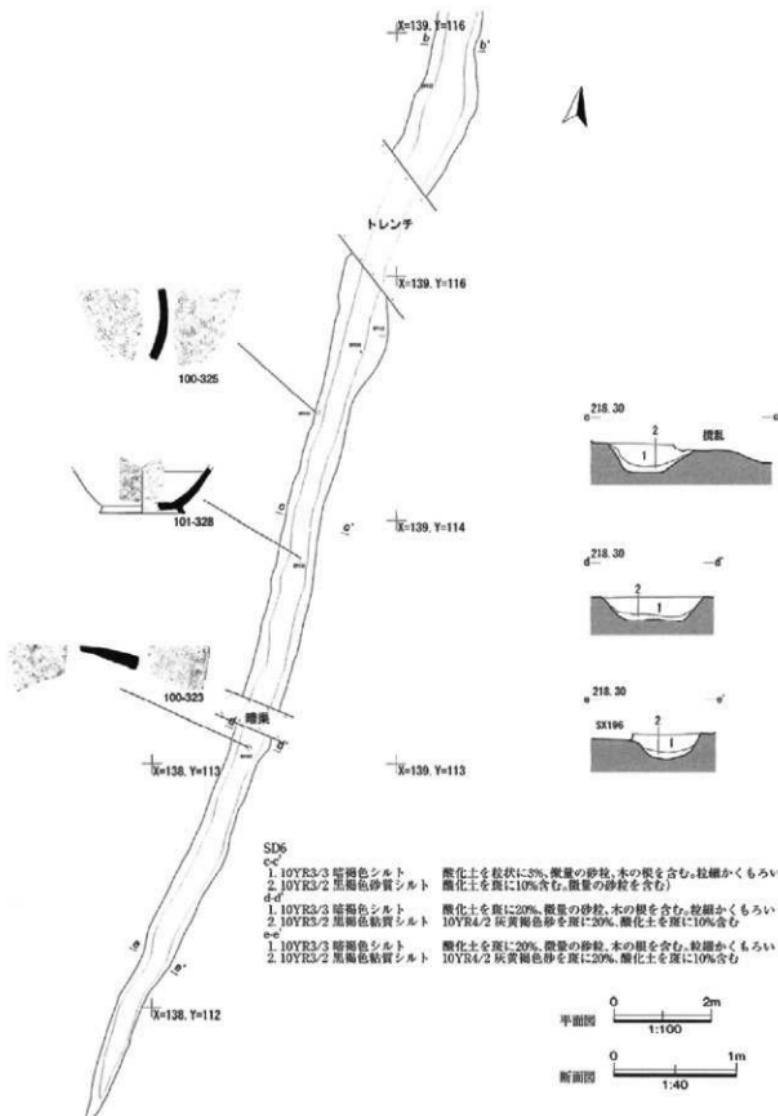
第67図 SD3 遺物分布図(4層)



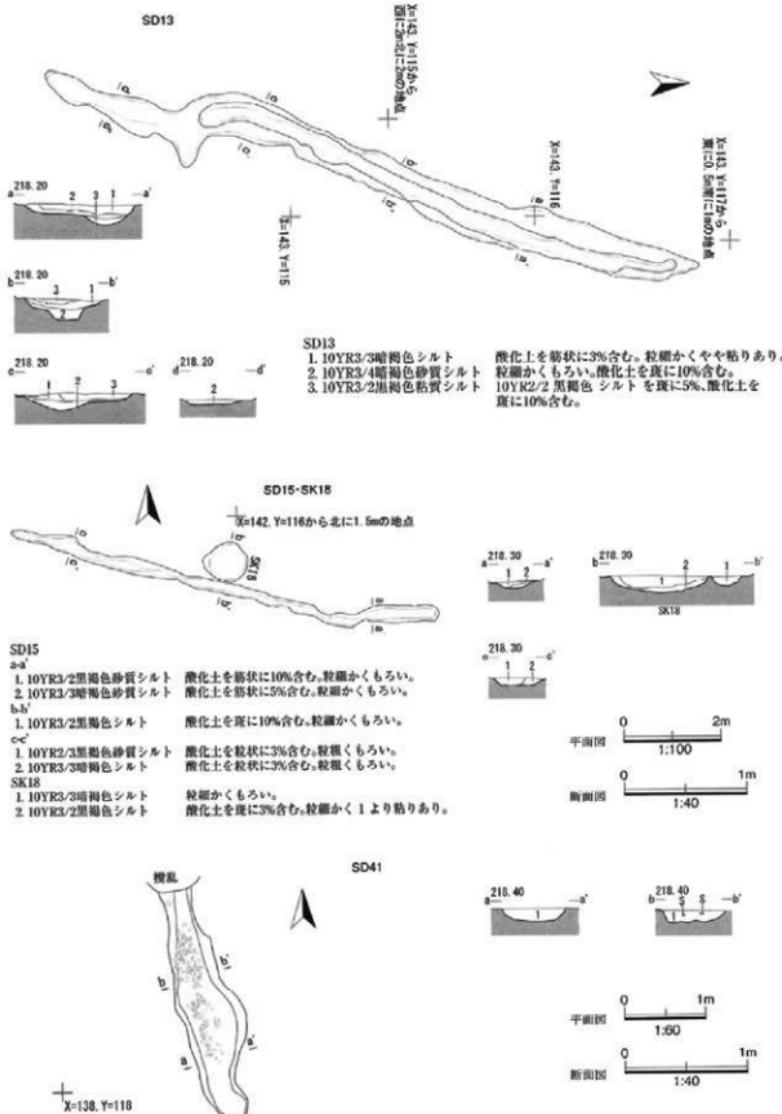
第68図 SD5層 溝跡



第69図 SD 6 溝跡(1)

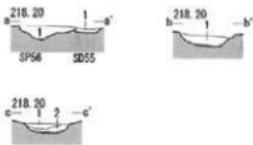


第70図 SD 6 溝跡 (2)



第71図 SD13・15・41溝跡・SK18 土坑

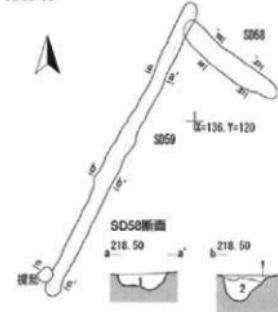
SD55



SD55

- a-a'
1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 酸化土を斑に10%、微量の砂粒を含む。粒粗くもろい。
b-b'
1. 10YR4/4 黄褐色砂 酸化土を斑に10%含む。
c-c'
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 粒細かくもろい。酸化土を粒状に10%含む。
2. 10YR4/2 黄褐色砂質シルト 酸化土を斑に5%含み、粒細かく、やや粘りあり。
SP56
1. 10YR4/4 黄褐色砂 酸化土を斑に10%含む。

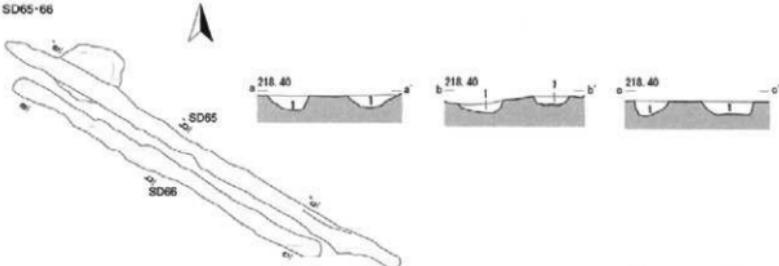
SD58-59



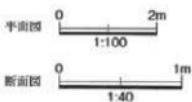
SD58

- a-a'
1. 10YR3/3暗褐色シルト 微量の砂粒を含み、もろい。酸化土を粒状に1%、炭化物を粒状に1%、木の根を含む。
b-b'
1. 10YR4/2暗褐色砂質シルト 酸化土を斑に5%含む。
2. 10YR3/4明褐色砂質シルト 粒細かくもろい。酸化土を粒状に3%、炭化物を3%、木の根を含む。
SD59
a-a' b-b'
1. 7.5YR3/2暗褐色シルト 7.5YR4/3暗砂質シルトを30%まだらに含む。酸化土をまだらに3%、炭化物を粒状に1%含む。
c-c'
1. 10YR3/2黒褐色砂質シルト 1. 酸化土を3%粒状に含む。
2. 10YR3/3暗褐色砂質シルト 粒細かく1より粘りあるが、もろい。酸化土を3%粒状に含む。

SD65-66



- SD65
1. 10YR3/2黒褐色シルト 酸化土を3%粒状に含む。粒細かくやや粘りあり。
SD66
1. 10YR3/3暗褐色シルト 10YR3/2 黒褐色シルトを斑に10%、酸化土を3%粒状に含む。粒細かくやや粘りあり。



第72図 SD55-58-59-65-66 溝跡

4 出土遺物

今回の調査では須恵器・土師器・黒色土器など奈良・平安時代の遺物が整理箱にして総計40箱出土した。その主な分布は調査区北西側の遺構集中区域と、南側の土坑の密集地及び、東側の一部の溝跡から多く出土しており、遺物の出土量に違いがあるものの、ほぼ遺構の分布と同じ傾向を示す。また、遺構外から出土した遺物も大半が遺構集中区域である調査区北西から出土し、同様の傾向を示す。以下に、図示したものを中心にして遺構毎もしくは機種毎に概略を述べる。

(1) 井戸跡・土坑・性格不明遺構出土土器(第73~77図1~58)

SE64出土土器は、須恵器の有台坏(1)で、底径がやや大きく、切り離しが回転ヘラ切となる底部資料である。

SK21から出土した須恵器の体部破片(2・3)は、外面にタタキ目、内面にアテ痕がみられる。

SK38出土の黒色土器の有台坏(4)は、内外面に黑色処理とミガキ調整が施される。

5~8はSK39出土で、5は口縁部と高台が欠損する須恵器有台坏の体部資料の坏部に接続である。6~8は須恵器無台坏で、底径大きく器高が低く体部が内湾ぎみのもの(6)と体部が直線状のもの(7)、そして、底径がやや大きく器高が高いもの(8)がある。底部切り離しは全て回転ヘラ切となる。

SK49出土は土師器の長胴壺(9)で、内外面にハケメ調整が施され、口縁部が「く」の字に外反する。

10~11はSK94出土で、須恵器の無台坏(10)の底部と壺の口縁部資料である。10は底部切り離しが回転ヘラ切で無調整、11は外面に自然剥が付着している。

12はSK103出土で、ロクロ整形となる土師器の無台坏である。13~15はSK126出土で、須恵器接続の体部片(13)、と土師器の壺の口縁から体部資料(14・15)があり、14は内面に15は内外面にハケメ調整が施される。

16~18はSK151出土で、須恵器の壺(16)、土師器の壺(17)の底部の資料、黒色土器の蓋(18)があり、16は底部切り離しが回転糸切、17は外面にケズリ調整、18は内面に黑色処理が施される。

SK153出土は、19~23で須恵器の無台坏(19)、土師器の壺(20~22)、黒色土器の有台坏(23)がある。19は底径がやや大きく器高が高く、口縁部が外反する形態となり、底部切り離しは回転ヘラ切となる。20は底部資料で、内外面にハケメ調整が施され、底部に木葉痕が認められる。21~22は壺の口縁~体部の資料で、体部が丸みをもつて縁部が「く」の字に外反するもの(21)、体部が細長く口縁部が強く外反するもの(22)があり、内外面にハケメ調整が施される。23は高台部が剥離している資料で、内面に黑色処理とミガキが施され、外下面下部にケズリがはいる。

24~27はSK161出土で、24は底径がやや大きく器高は低く口縁部が外反する形態となる須恵器の無台坏で、25は須恵器の有台碗である。26~27は土師器の壺の口縁部資料で、内外面にハケメ調整が施される。

SK218出土は28~39。須恵器の有台坏(28)、無台坏(29~37)、有台皿(38)、蓋(39)が図示できた。28は坏部に後が入る接続で、底部切り離しは回転ヘラ切である。29~33は底径がやや大きく、器高が低く体部が直線状に立ち上がる形態となる。29~36及び170は底部切り離しが回転糸切となる。

39には内面にアテ痕、外面にタクキ目が認められる。

SK219からは須恵器の环(40~42)と壺(43)が出土し、器高が低く底部切り離しが回転ヘラ切のもの(40)と器高が高く底部切り離しが回転糸切となるもの(41・42)がある。43は内面にアテ痕、外面にタクキ目がみられる体部資料である。

SK67・72からは須恵器の無台环(44~45)、SK157は土師器の壺(46)、SK223・154は須恵器の有台环(47・48)を各々1点のみ図示できた。44は底径小さく、器高が高い底部切り離しが回転糸切となり、45は底径やや大きく器高が高い底部切り離しが回転ヘラ切となる。46は内外面にハケメ調整、底部に木業痕が認められる。47は环部にわずかな後が入る有台环で、48は明瞭な後が作出される後碗である。

SX165出土の土器は、須恵器の蓋(49~52)と有台环(53)、無台环(54)が図示された。49~51は平笠タイプで天井部にヘラ削り調整が入るが、49は極端に器高が高い特徴的な形態となる。53は底径がやや大きく、器高が低い形態で底部切り離しが回転糸切となる。54は底径がやや大きく器高が低く、体部が直線的に立ち上がる形態で底部は回転ヘラ切後ナデ調整を施す。

SX24は後碗となる有台环(55)、SX93・142・220は無台环(56~58)が各々1点図示でき、55は环部に明瞭な後が作出され、丁寧な調整が施される。また、外面に自然釉が付着する。56~58は器高が低く体部が直線状に立ち上がる形態となるが、底径の小さいもの(56)、底径がやや大きいもの(57)と底径が大きいもの(58)に区別できる。底部切り離しは56が回転糸切で、他は回転ヘラ切である。

(2) 構跡出土土器(第78~102図59~348)

SD3出土の土器には、須恵器の蓋(59~75)、有台环(76~109)、無台环(110~227)、壺(228~233)、壺(234)、横瓶(235)と土師器の有台环(236)、壺(237~239)、そして黒色土器には、蓋(240)、有台环(241~249)、無台环(250~263)、双耳环(264~267)、壺(268)などがある。大半が、144・145~118・119G付近の一括発掘された様相を示す場所からの出土である。59~75の蓋は、平笠タイプのもの(59~68・70~74)と山笠タイプのもの(69~75)がみられる。口径は150~160mm未満を測るもののが10点あり、150mm未満のものは59の1点だけであった。また、146は外面のほぼ全面にケズリ調整が施されている。

有台环は、环部に後が入らないもの(76~97)と环部に後が作出されるもの(98~109)がある。後が入らない有台环には底径が大きく器高が高いもの(76)、底径がやや大きく器高が高いもの(77~91)、器高が高い形態となるもの(92~93)がある。环部に後が作出される有台环は、环部にわずかな後をもつものの(98~100)と明瞭な後が作出される後碗(101~109)がある。101・102は环部の約1/2

墨書き「甲」付近に明瞭な後が作出される。また、82は底部に墨書きで「甲」の字が、87~100の底部にもヘラで「甲」の字が書かれている。そして、101の底部にも「×」のヘラ書きがある。

「×」 無台环が最も多くSD3からは出土し、図示したものだけで118点ある。底部切り離しは、回転ヘラ切が多くを占め、回転糸切となるものは11点だけである。形態は、底径が大きめで器高が高いものが大半をしめ、時期は8世紀第3四半期~9世紀前半に属すると考えられる。特徴的なものは、116・133・146・153・207・209・219で、底部付近にケズリ調整が施される。128・135・144・217は底部に

「甲」の字 「甲」の字が、163・182の底部にも字は判別できないが墨で書かれる。また、185の体部にヘラ書きが

施され、190の底部には柿渋？が付着する。

須恵器壺では228～230が外面下部にケズリ調整が施され、232は内面にハケメとアテ痕、233は内外面にハケメが施される。234はロクロ整形で外面上部にケズリ、内面にハケメが施されている。235は横瓶で外面にタタキが認められる。SD 3出土の土師器は、遺存状態が悪く図示できたものは5点のみである。236は底径大きく器高が低い須恵器の無台壺に類似する有台壺で高台が低く、内面にミガキ調整が施される。237～239は外面上にハケメ調整が施される土師器の壺で、237・239の底部には木葉痕がみられる。

黒色土器は、蓋(240)が1点、有台壺(241～249)9点、無台壺(250～263)14点、双耳壺(264～267)4点、壺(268)1点が図示できた。全て内面に黒色処理とミガキ調整が施されるものとなる。蓋はロクロ調整で、口径160mmを測る。有台壺は底径が大きくて器高が低いものが多く、221のみ器高がやや高い形態を呈し壺部に柄が作出され、外面上にもミガキ調整が施される。無台壺も有台壺と同様に底径大きく、器高が低い形態が多いが258・259は器高が高くなる。また、261～263は底径小さく器高が高い碗に近い形態で、261と263には外面上にケズリ調整が施される。また、246は底部に「甲」の字がヘラ書きされている。双耳壺は取手部分に丁寧なケズリが施され、268は外面上にハケメ・ナデ調整が施され、内面には炭化物が付着する。

SD 5出土の土器は、須恵器の蓋(269～277)9点、有台壺(278～285)8点、無台壺(286～300)15点、壺(301～307)7点、壺(308～309)2点、こね鉢(310)1点、土師器の壺(311～314)4点、黒色土器の蓋(315)、有台壺(316)、無台壺(317)、双耳壺(318)を各1点が図示できた。須恵器蓋は272のみ山笠タイプとなり、他は平笠タイプである。口径は150mm以上160mm未満のものが多い。有台壺は、壺部に柄が作出される積碗(278～281)と柄が無いもの(282～285)がある。279・281の底部にはヘラ書きがみられ、284・285は底部切り離しが回転糸切となる。

無台壺は底径が大きく器高が低く底部切り離しが回転ヘラ切りのものが多いが、187・190は切り離しが静止糸切で、297～300は底径が小さく器高が高い形態で、底部切り離しも回転糸切となり、時期差が認められる。壺は外面上にタタキ、内面にアテ痕がみられるものが大半を占めるが、304は外面上に自然釉が付着し、頸部に波状文が描かれる。また、307も自然釉が外面上部に付着し、底部にヘラケズリ調整が施される。308・309はロクロ整形の短頸壺である。310はこね鉢で、底部にヘラケズリ調整が施され、底に1cm程の孔が開けられている。土師器壺は小型で外面上にハケメ調整が施され、311・312・314の底部には木葉痕が認められる。黒色土器は全て内面に黒色処理が施される内黒土器である。蓋(315)の内面に「甲」とヘラ書きが施され、317は器高が高い碗の形態となる。

SD 6の土器は須恵器の蓋(319)、無台壺(320・321)、壺(322～326)、壺(327・328)、壺(329)のみ図示できた。土師器も出土したが、遺存状態が悪く破片のみで図示できなかった。319は天井部にヘラケズリ調整がほどこされる平笠タイプの蓋である。無台壺は底径が大きく底部切り離しが回転ヘラ切となるもの(320)と底径小さく、切り離しが回転糸切のもの(321)がある。後者は新しい時期と考えられる。壺は外面上にタタキ、内面にアテ痕が認められる破片資料であるが、324は内面にロクロ目、外面上にケズリ調整がみられる。壺、瓶も体部と底部の破片資料で、328の外面上にタタキ、内面にハケメそして、329の内面にハケメ調整が施される。

SD 65出土土器は須恵器の有台壺(330)と土師器の壺(331)が図示できた。330は高台が高く外に開き、底部切り離しが回転糸切となる。331は底部資料で外面上にハケメ調整が施され、底部に木

こね鉢

時 期 壺

底に1cm程の孔

木葉痕

葉痕がみられる。

SD222から出土した土器は、須恵器の蓋(332)、有台坏(333・334)、無台坏(335～338)、壺(339)、壺(340)、土師器の無台坏(341)、壺(342・343)が図示できた。333・334は底部切り離しが回転ヘラ切で、坏部にわずかな後がみられる。また、333の底部に「甲」のヘラ書きがある。無台坏は底部切り離しが回転ヘラ切のもの(335～337)と回転糸切のもの(338)があり、335は底径が小さく器高が低く、338は底径が小さく器高が高い形態となる。また、339は内面にアテ痕、外面にタタキ調整が施される。土師器では、341の底部切り離しが回転ヘラ切で、342・343の底部には木葉痕がみられる。

他に、SD2からは須恵器の鉢(344)、SD61は土師器の有台坏(345)、SD193は須恵器無台坏(346～348)がそれぞれ図示できた。344は鉢の片口部分で、外面にケズリ、内面にハケメ調整が施される。345は底部資料で、底部に菊花紋が認められる。346は底部にケズリ調整が施され、347・348は底部切り離しが回転糸切で、347は底径が小さく器高が高い形態となる。

(3) 遺構外出土土器(第103～107図349～432)

須恵器は蓋(349～361)、有台坏(362～375)、無台坏(376～416)、有台皿(417・418)、双耳坏(419・420)、壺(421・422)、壺(423・424)などが出土した。

須恵器蓋は平笠タイプのもの(349～351・353～360)と山笠タイプのもの(352・361)があり、大半が天井部にヘラケズリ調整が施され、349には幅の広いケズリがはいる。

須恵器の有台坏は、坏部に後が無いもの(362～370)とあるもの(371～375)がみられた。362は坏部が内湾気味に立ち上がり、363は直線状に立ち上がる形態なり、371・372は坏部の下部にわずかな後が作出されている。また、373～375は明瞭な後を持つ稜腕で、373の外面に自然軸が付着する。底部切り離し技法は、369のみ回転糸切となる。

須恵器無台坏は41点が図示できたが、406～416は底部のみの資料である。378・380・381・391の底部付近にはケズリ調整が施され、393の坏部に墨書痕が、402の底部にはヘラ書きが認められた。また、回転糸切による底部切り離しは389～391・393～396・398・400～403・405・413～416の17点で、他は全て回転ヘラ切となる。但し、384～388は切り離し後にナテ調整を施している。

419・420は須恵器双耳坏の取手部分の資料で、丁寧なケズリ調整が施されている。須恵器の壺では422の外面にハケメ、423の外面にタタキとナテ、内面にアテ痕が認められる。

土師器は無台坏(425・426)、壺(427・428)が図示できた。425は底径やや大きく器高が低い形態で、底部切り離しが回転ヘラ切となる。455は底径小さく器高が高い形態を呈し、底部切り離しが回転糸切である。また、427は外外面にナテ調整が施され、428は内面にハケメ調整が施され、底部に木葉痕が認められる。

黒色土器は蓋(429)、有台坏(430・431)、有台皿(432)が図示でき、429と432は内面に、430・431は外外面に黑色処理及びミガキが施されるが、431は摩滅が激しくミガキが判然としない。

(4) 土器の分類

本遺跡から比較的まとまって出土した須恵器の蓋、有台坏、無台坏、土師器の壺、黒色土器の有台坏、無台坏の5種について、法量及び器形などの観点から分類をおこなった。土師器の坏は遺存状態が悪く、器形・法量が不明確なものが大半を占めるため、除くこととした。また、還元焰によっ

て焼成された土器を須恵器、酸化焰によって焼成された土器を土師器とした。各機種の分類基準は以下のとおりである。

[須恵器蓋]

形態で2類に分類

須恵器蓋の分類

A類:平笠タイプとなるもの

B類:山笠タイプとなるもの

口径で3類に細分

1類:口径が150mm未満のもの

2類:口径が150mm以上160mm未満のもの

3類:口径が160mm以上を測るもの

[須恵器有台坏]

須恵器有台坏の
分類

A類:底径が大きく、器高が低く坏部が直線上に立ち上がるもの

B類:底径がやや大きく、器高が低いもの

a類:坏部が内湾ぎみに立ち上がるもの

b類:坏部が直線状に立ち上がるもの

c類:口縁部が外反するもの

1類:底部切り離しが回転ヘラ切のもの

2類:底部切り離しが回転糸切のもの

C類:底径が大きく、器高が高いもの

a類:坏部が直線状に立ち上がるもの

b類:口縁部が外反するもの

1類:底部切り離しが回転ヘラ切のもの

2類:底部切り離しが回転糸切のもの

D類:坏部の下半部にわずかな後が作出されるもの

E類:坏部に明瞭な後をもつもの(後頭)

a類:坏部の約1/2付近に後が入るもの

b類:坏部の約1/3付近に後が入るもの

c類:坏部の約1/3未満の位置に後が入るもの

[須恵器無台坏]

須恵器無台坏の
分類

法量で5類に分類

A類:底径が大きく器高が低いもの

B類:底径がやや大きく、器高が低いもの

C類:底径がやや大きく器高が高いもの

D類:底径が小さく、器高が低いもの

E類:底径が小さく、器高が高いもの

器形で3類に細分

a類:体部が内湾ぎみに立ち上がるもの

b類:体部が直線状に立ち上がるもの

c類:口縁部が外反するもの

底部の切り離し技法で3類に細分

1類:底部切り離しが回転ヘラ切のもの

2類:底部切り離しが静止糸切のもの

3類:底部切り離しが回転糸切のもの

土師器底の分類 [土師器窓]

器形で2類に分類法量及により分類

A類:体部が丸みをもち、口縁部が外反するもの

B類:体部が細長く、口縁部強く外反する。

法量で3類に細分

a類:胴部最大径が15cm未満または器高が15cm未満の小型のもの

b類:胴部最大径が15~20cmで器高が15~20cmの中型

c類:胴部最大径が20cmを超えるもの

黒色土器有台坏 [黑色土器有台坏]:黒色土器の有台皿を含む

坏の分類 A類:底径が大きく、器高が低いもの

a類:口縁部が内湾するもの

b類:体部が直線状に立ち上がるるもの

c類:口縁部が外反するもの

B類:底径が大きく、器高が高いもの(坏部に後が入る)

C類:底径が小さく、器高が高いもの

D類:底径に比べて、器高が著しく低いもの。(皿)

黒色土器無台坏 [黑色土器無台坏]

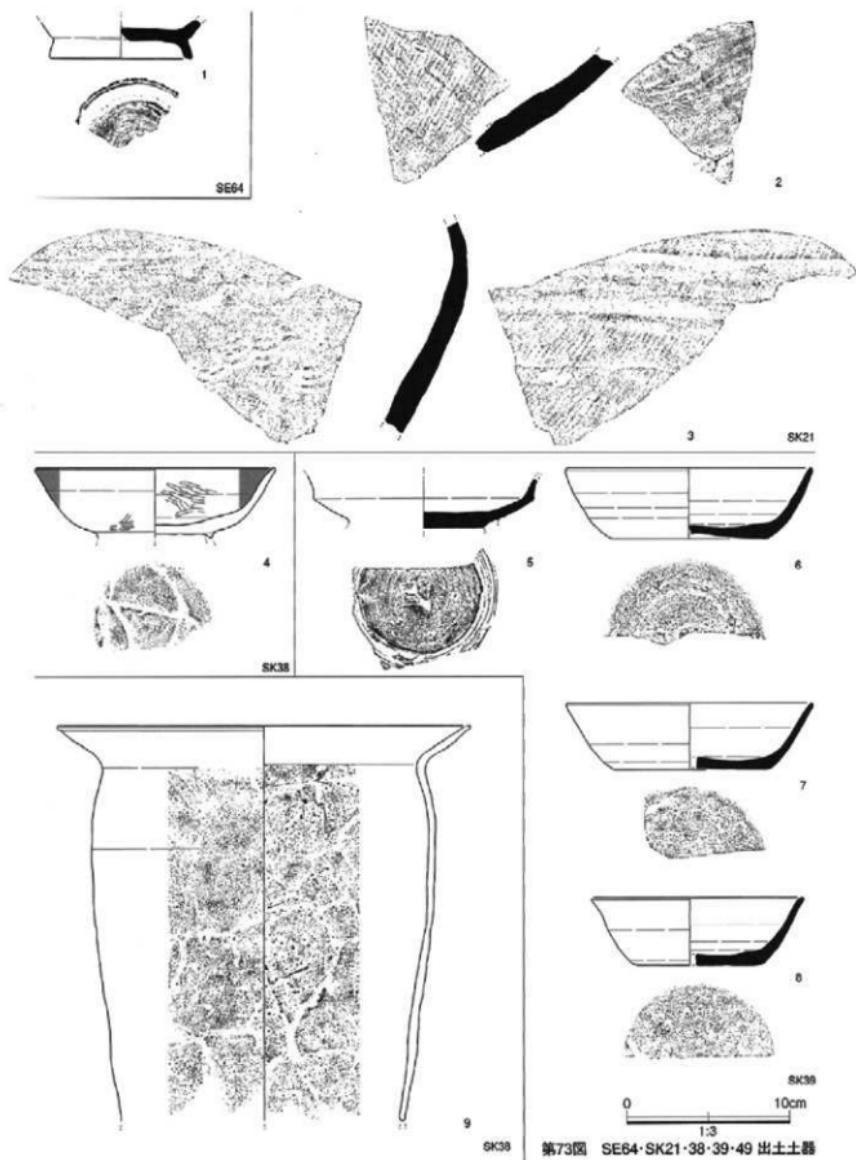
坏の分類 A類:底径が大きく、器高が低いもの

1類:体部が直線状に立ち上がるもの

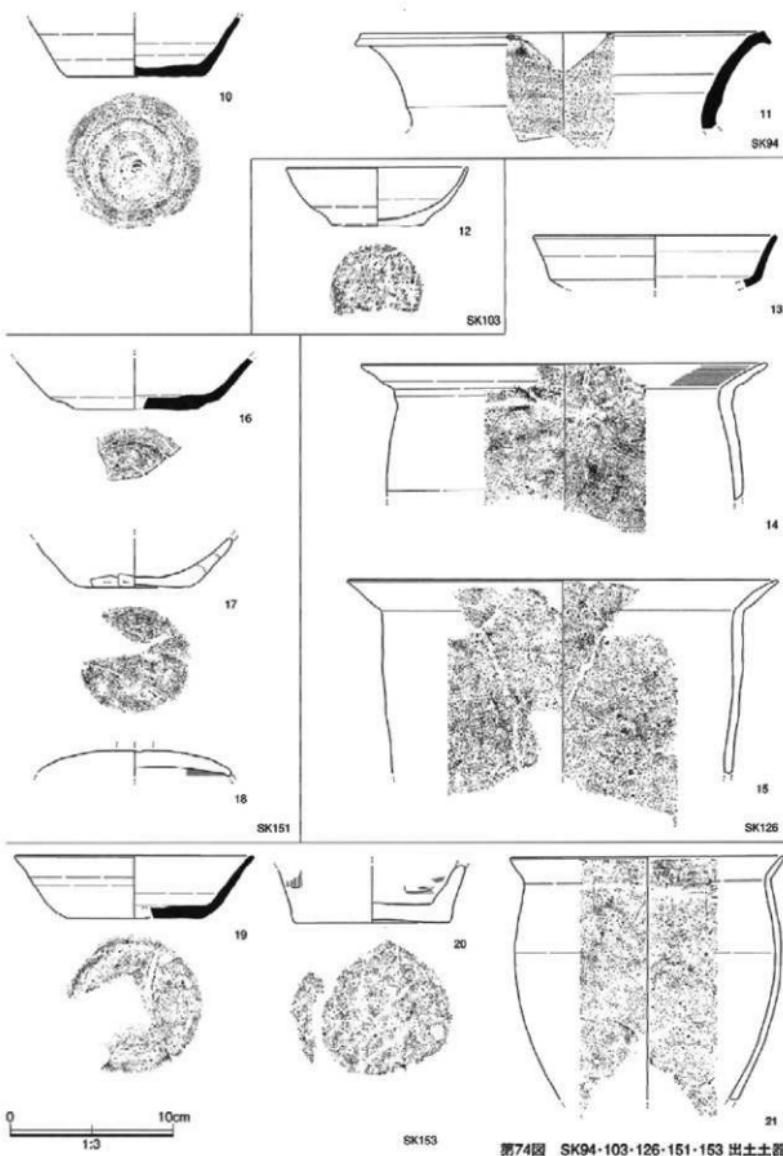
2類:口縁部が外反するもの

B類:底径が大きく、器高がやや高くなるもの

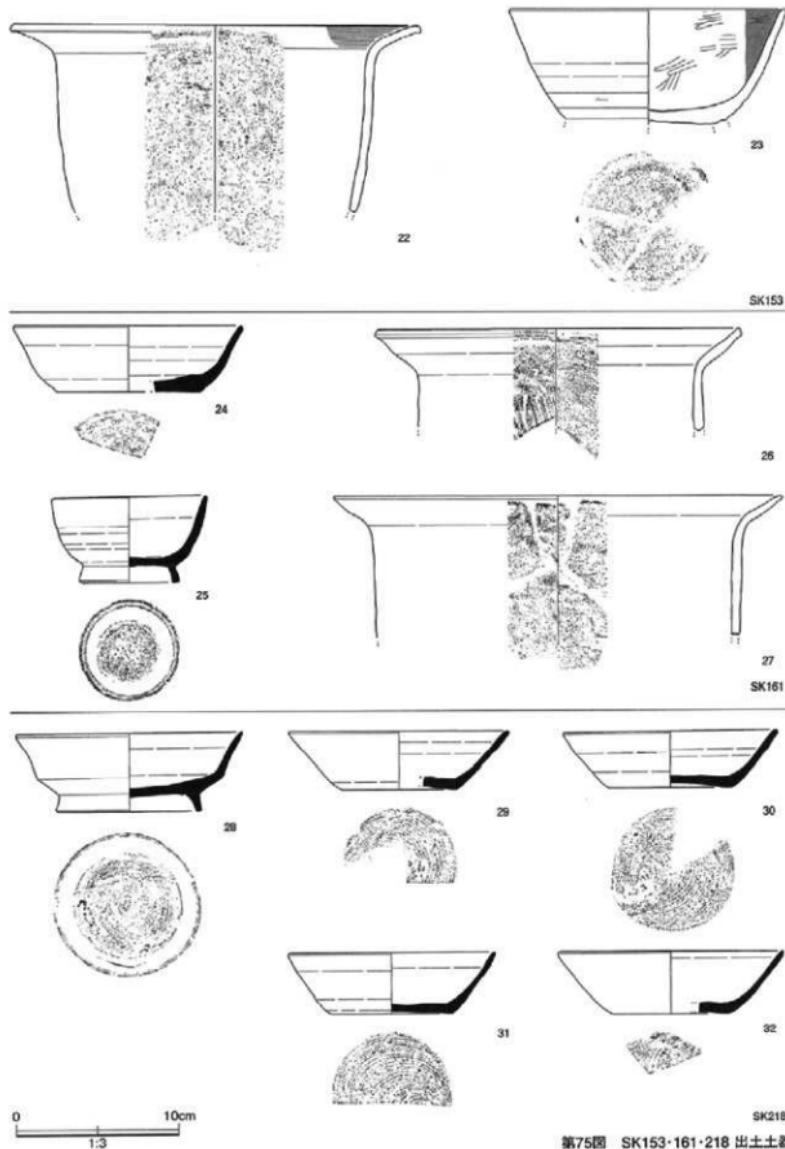
C類:底径小さく、器高が高い碗となるもの



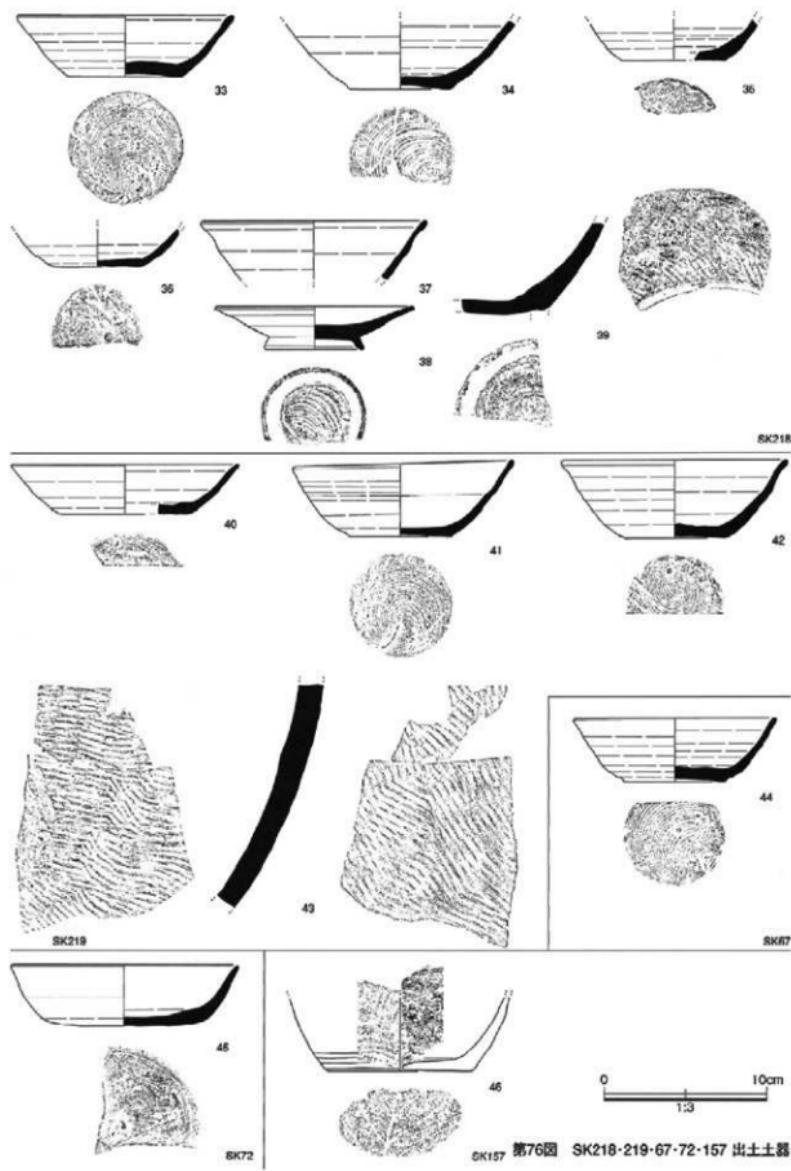
第73図 SE64・SK21・38・39・49 出土器



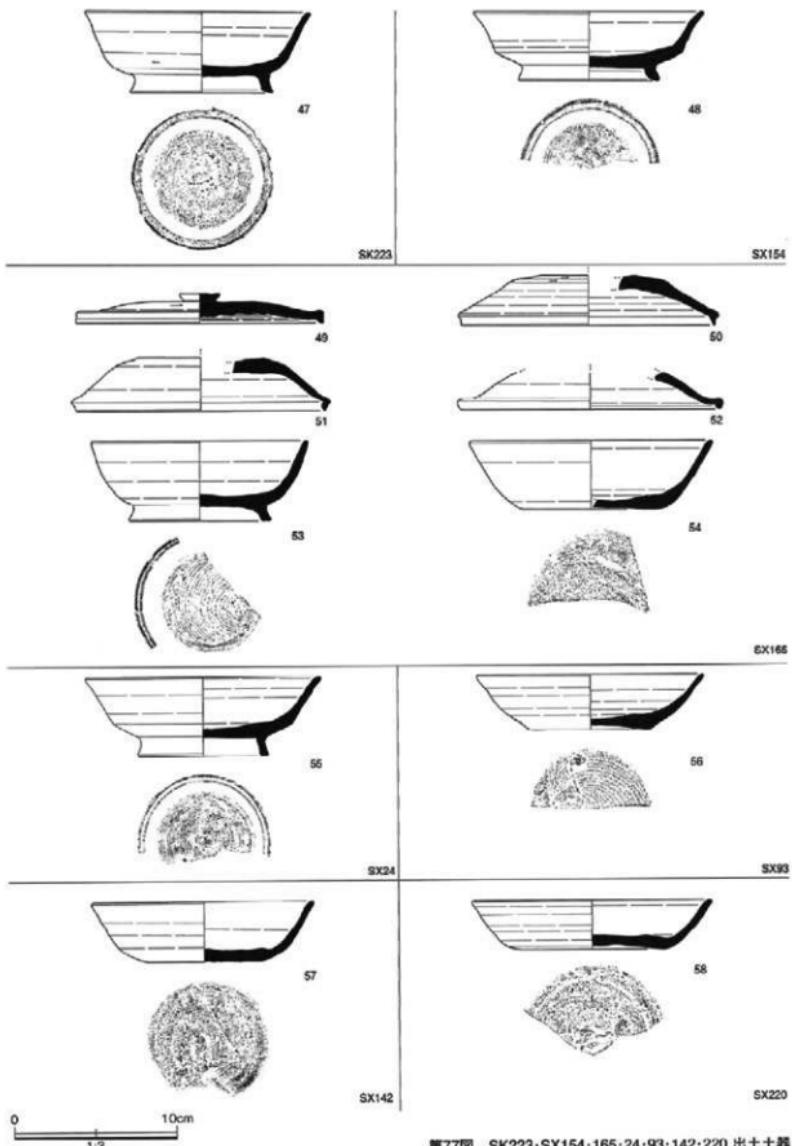
第74図 SK94-103-126-151-153 出土土器



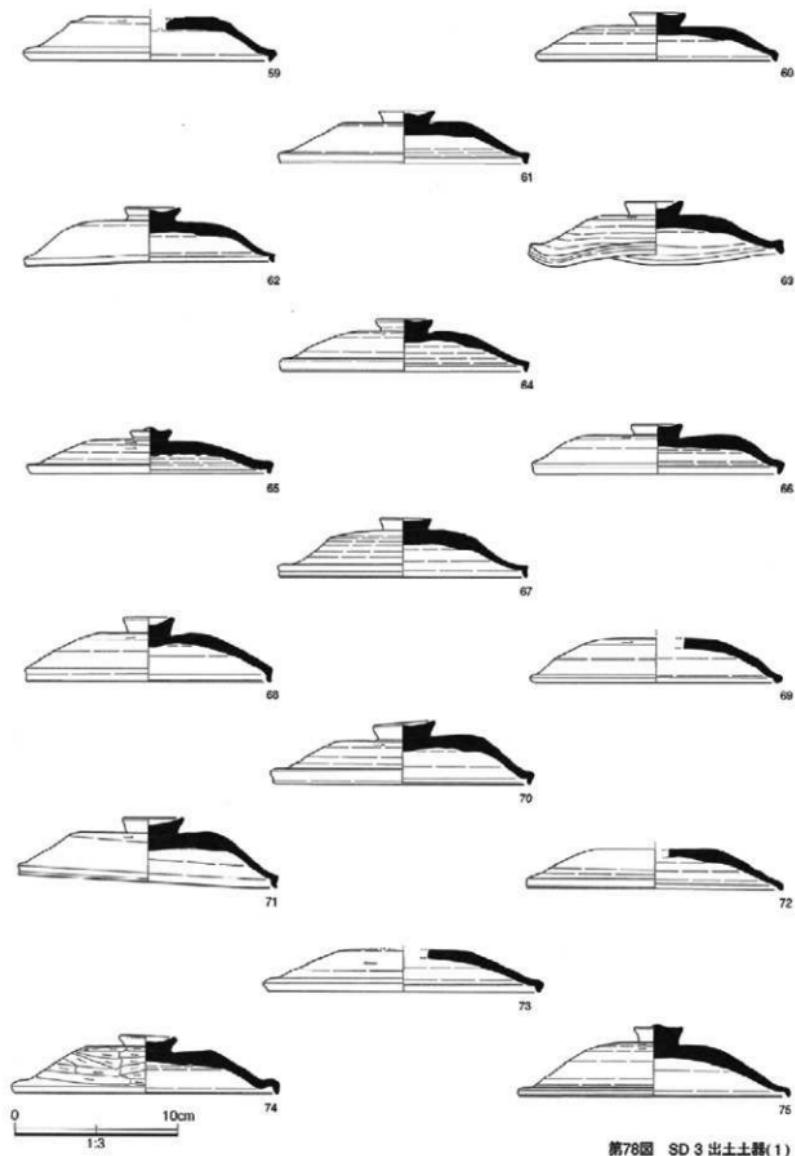
第75図 SK153・161・218 出土土器



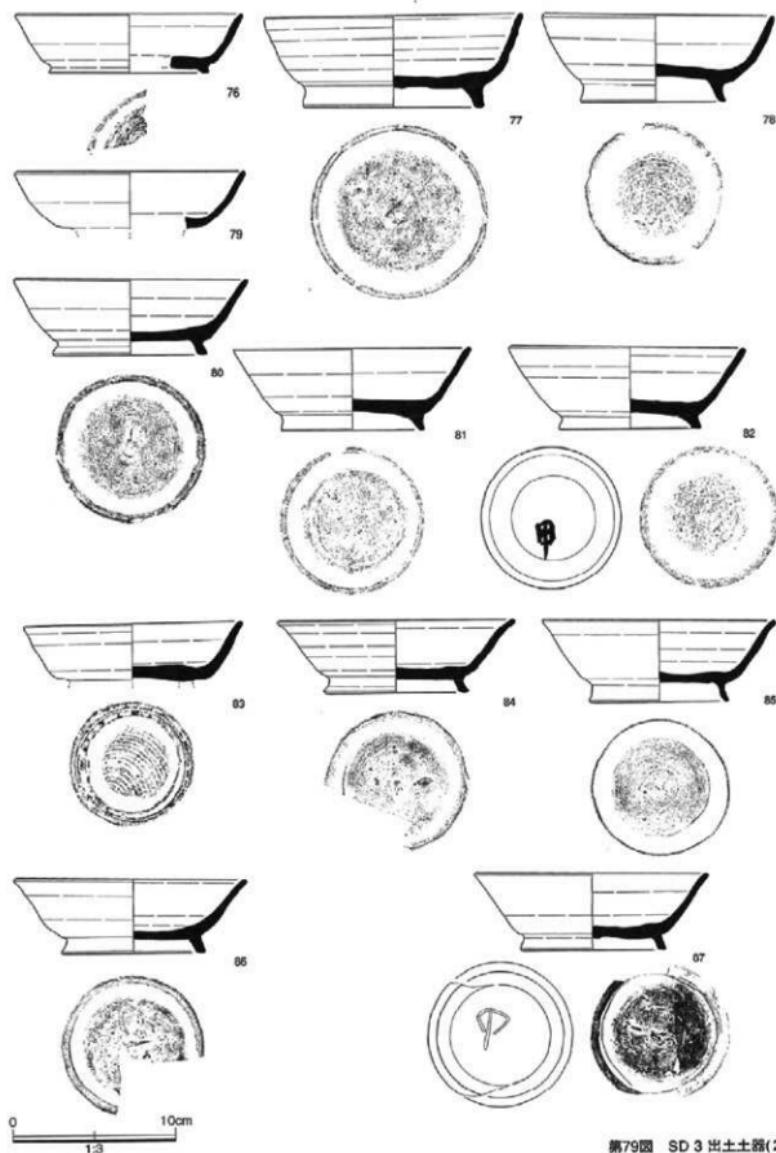
SK157 第76回 SK218-219-67-72-157 出土土器



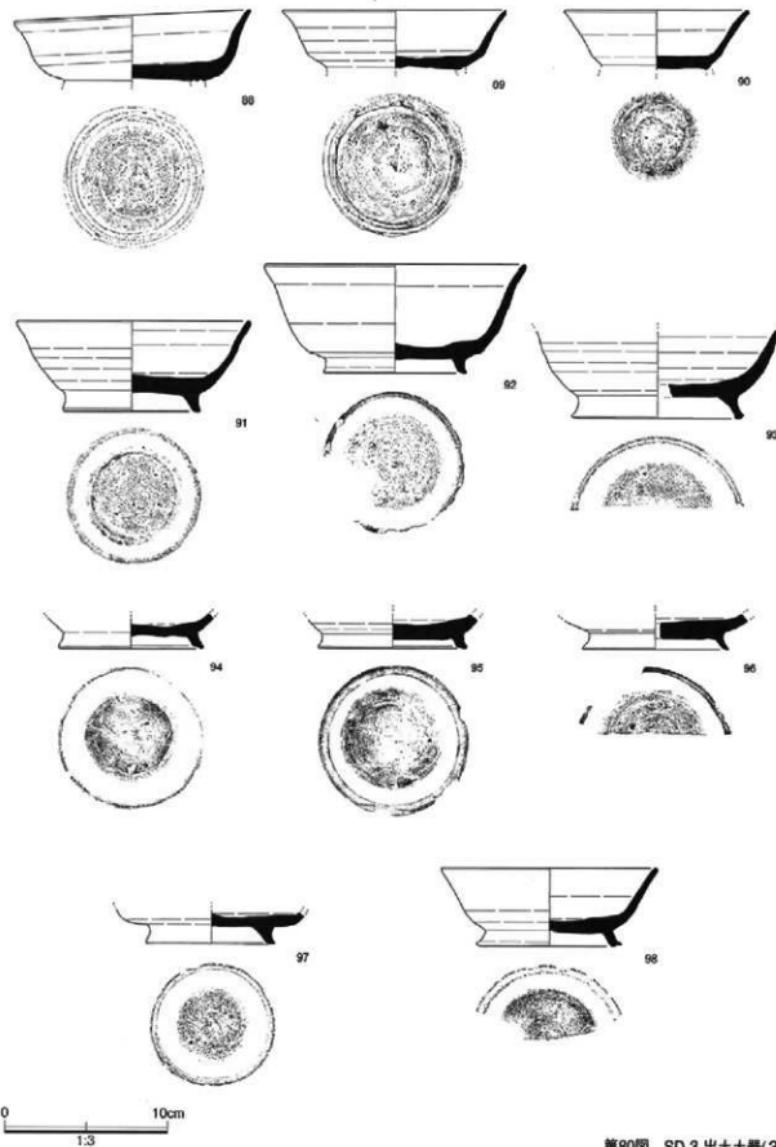
第77図 SK223・SX154・165・24・93・142・220 出土土器



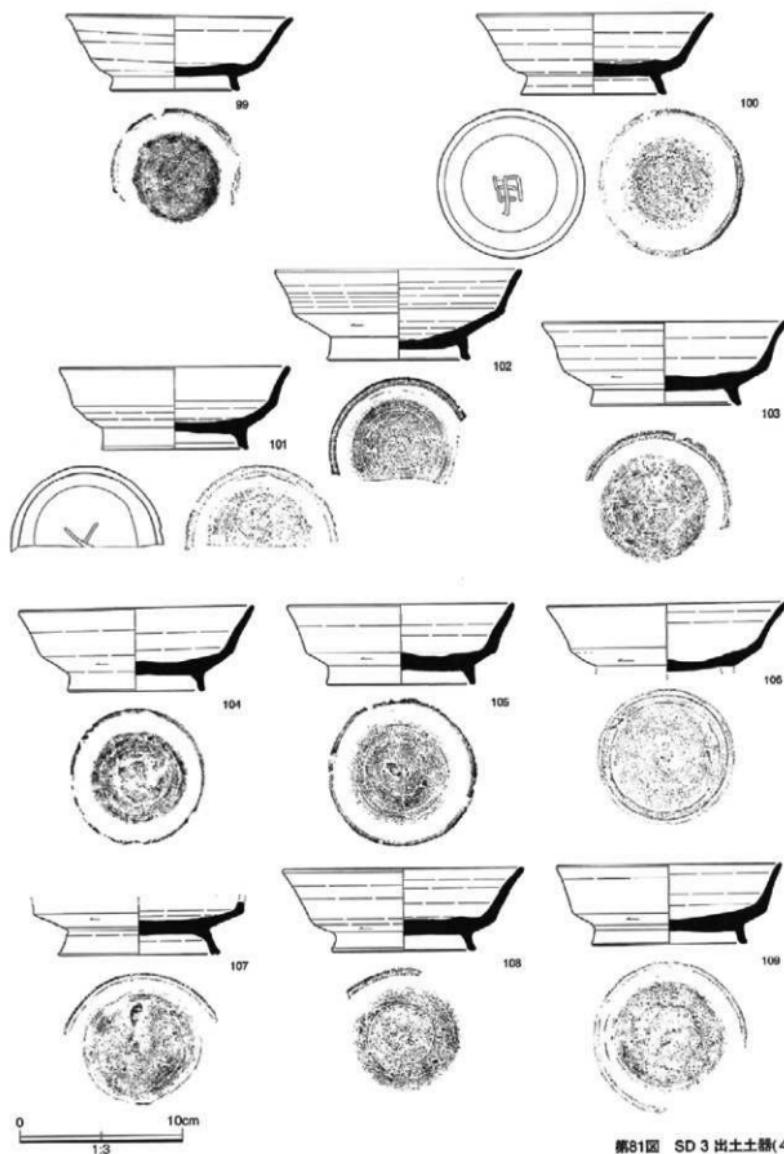
第78図 SD 3 出土土器(1)



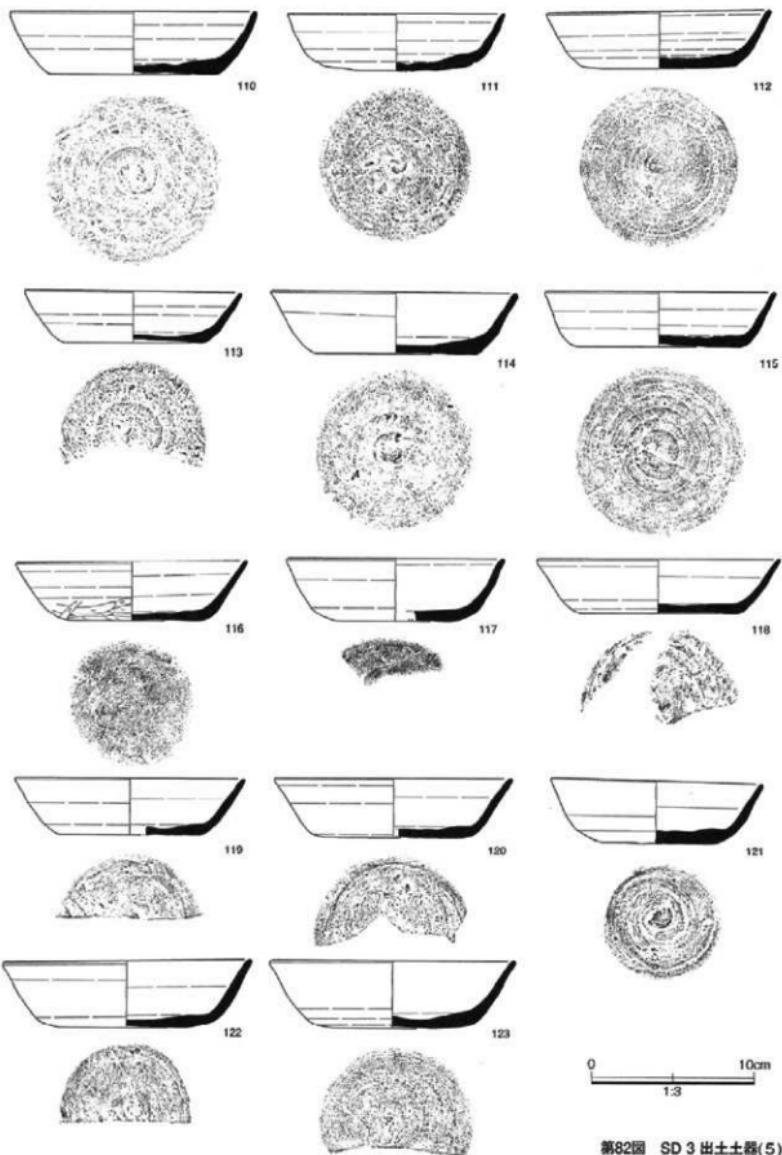
第79圖 SD 3 出土土器(2)



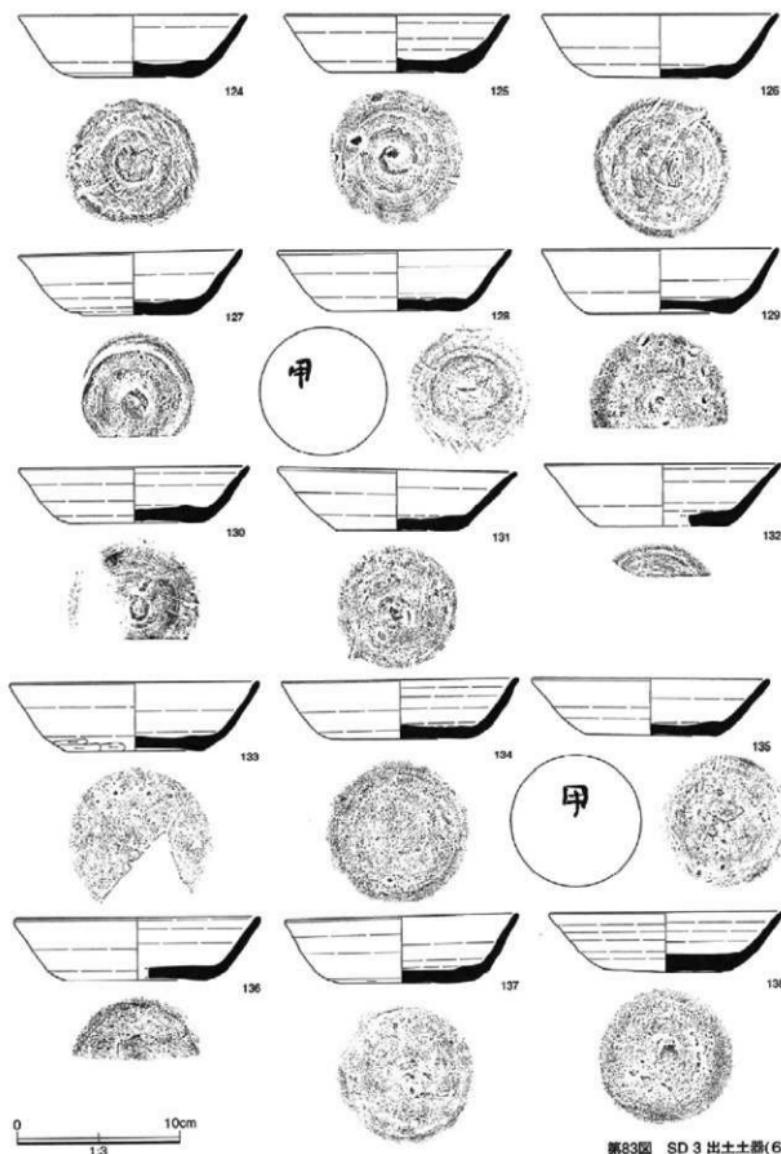
第80圖 SD 3 出土土器(3)



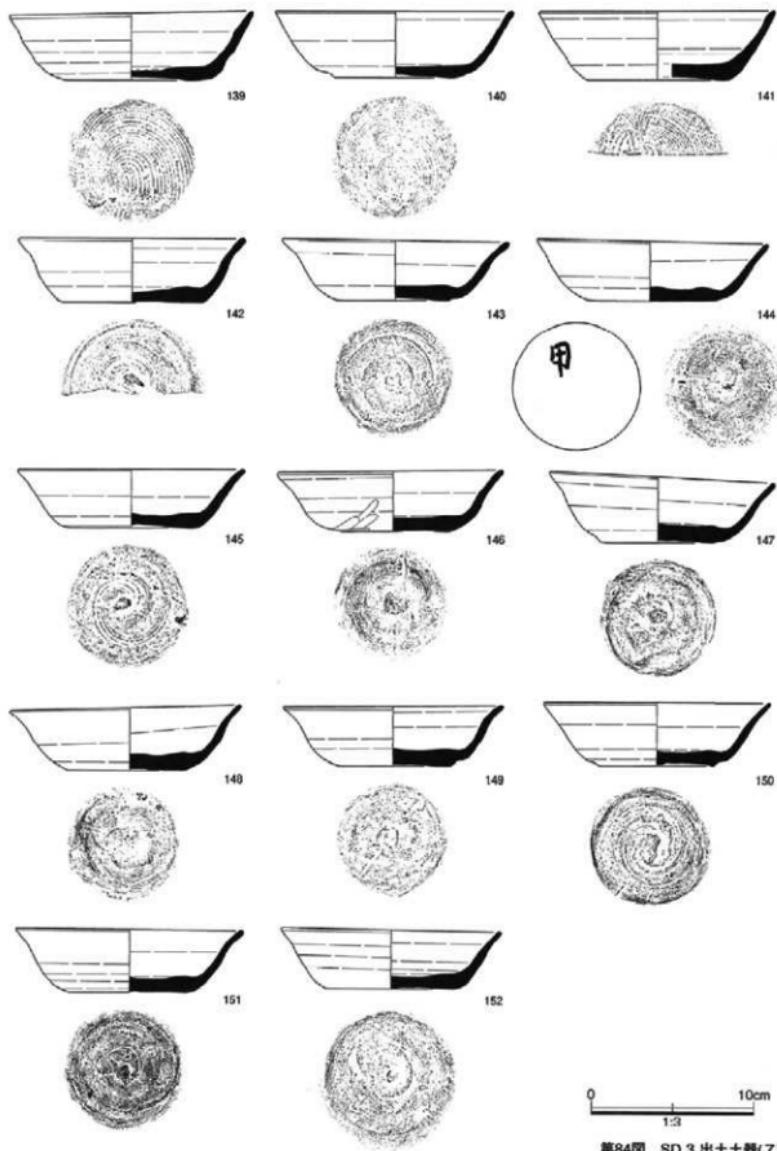
第81図 SD 3 出土土器(4)



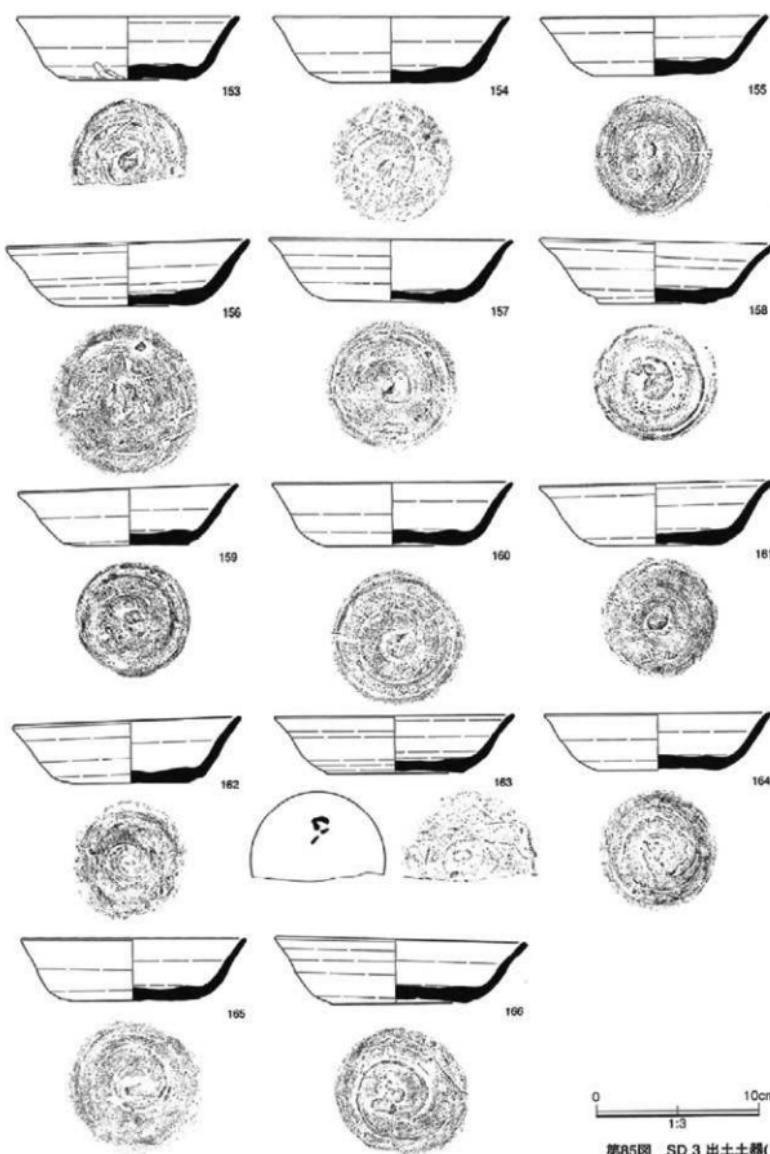
第82図 SD 3 出土土器(5)



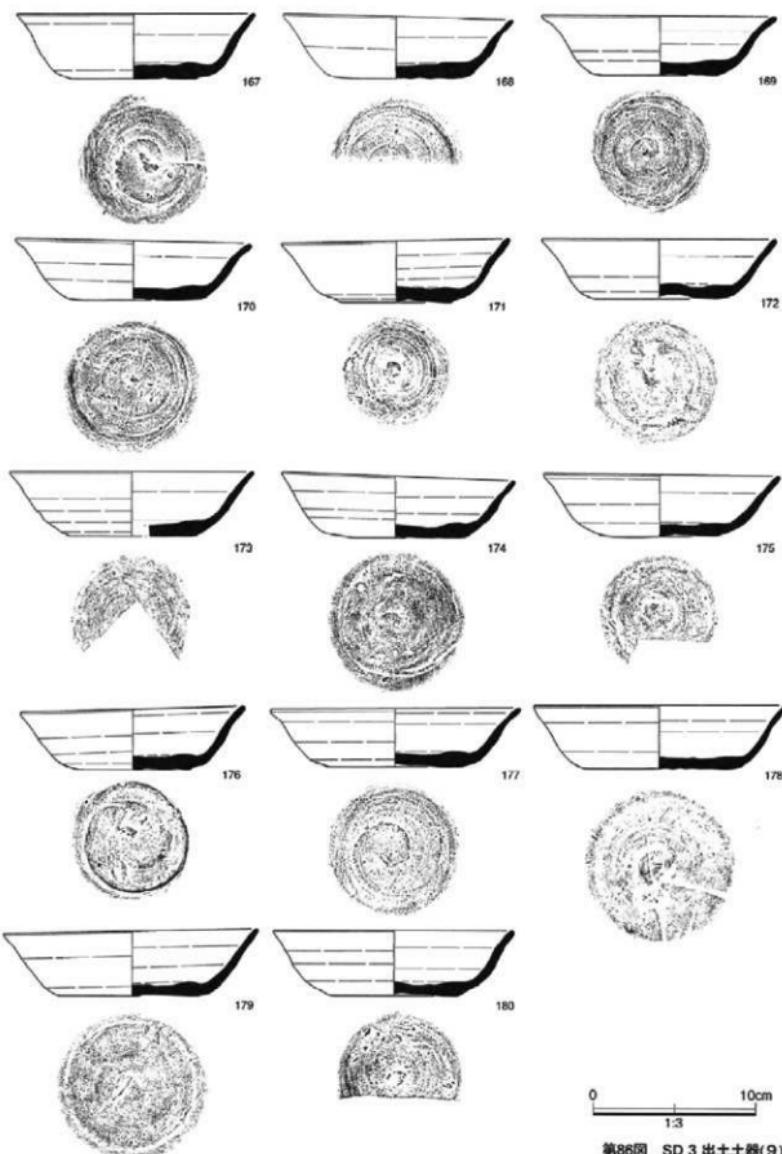
第83図 SD 3 出土土器(6)



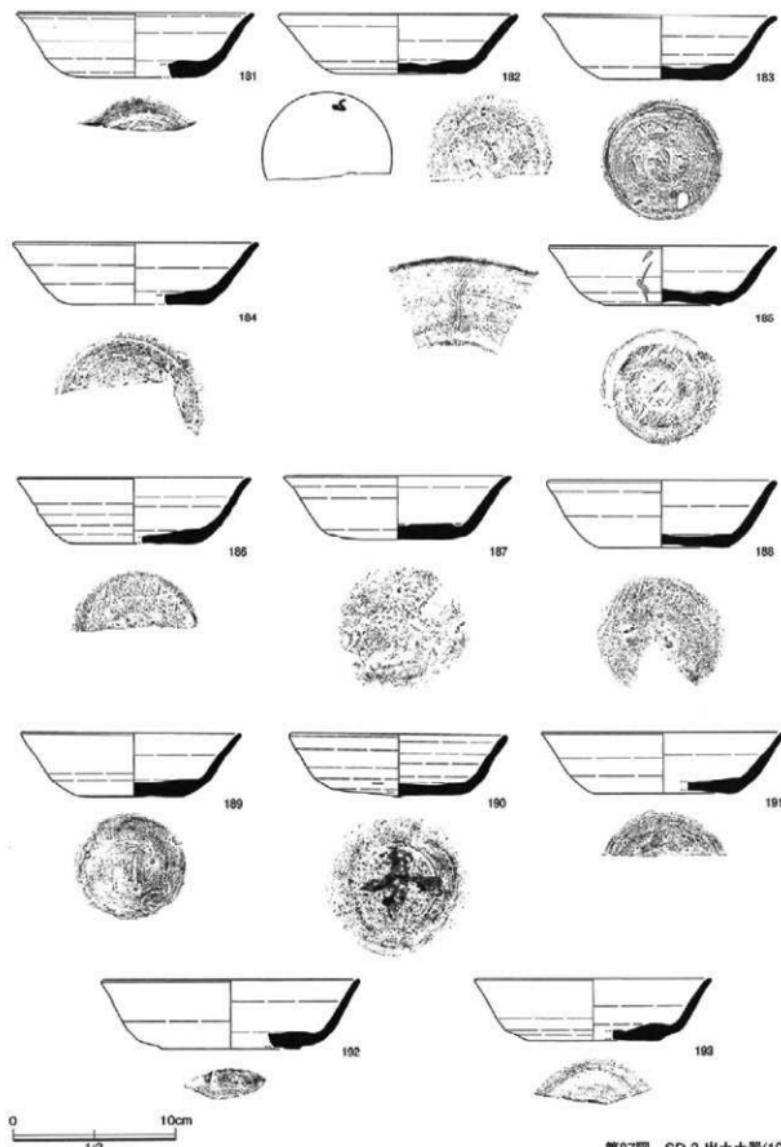
第84図 SD 3 出土土器(7)



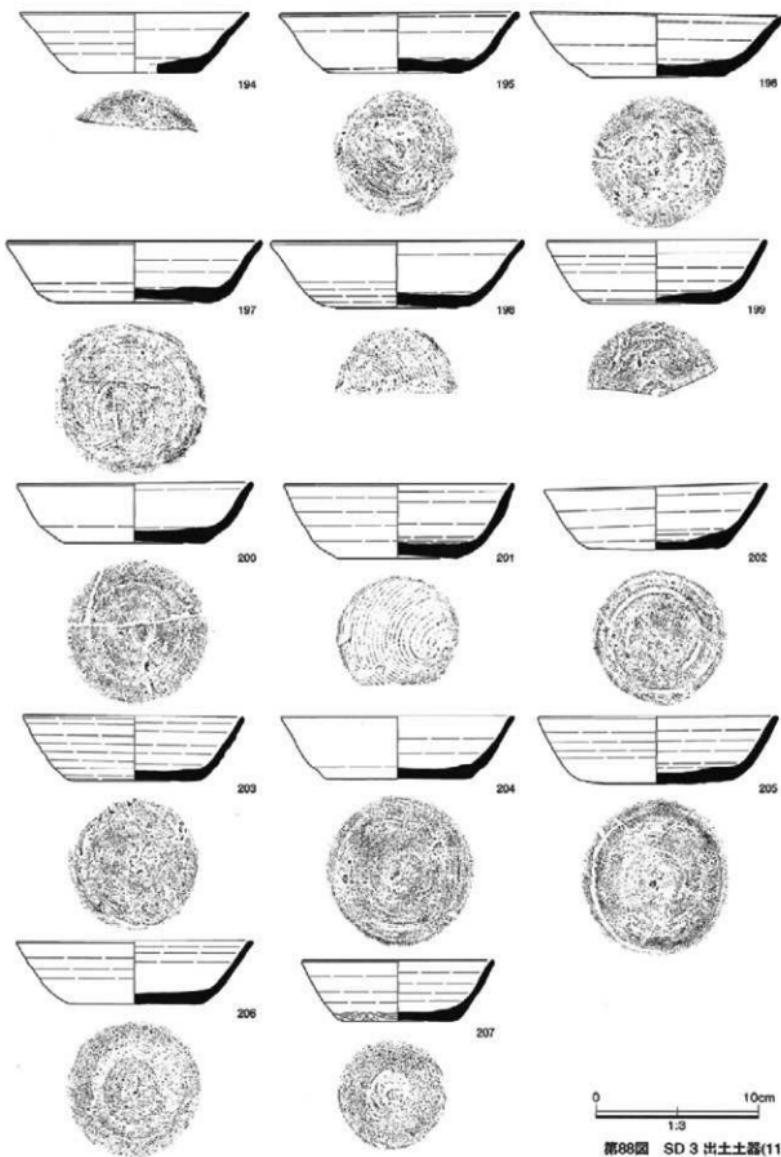
第85図 SD 3 出土土器(8)



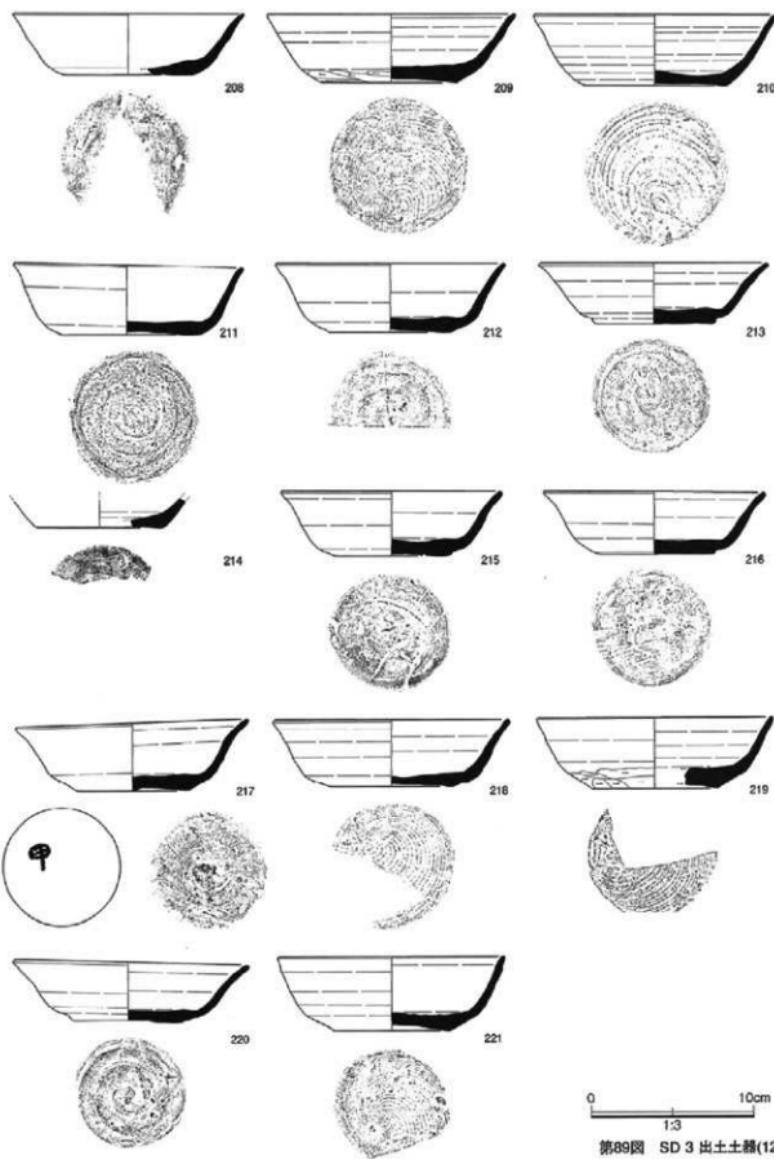
第86図 SD 3 出土土器(9)



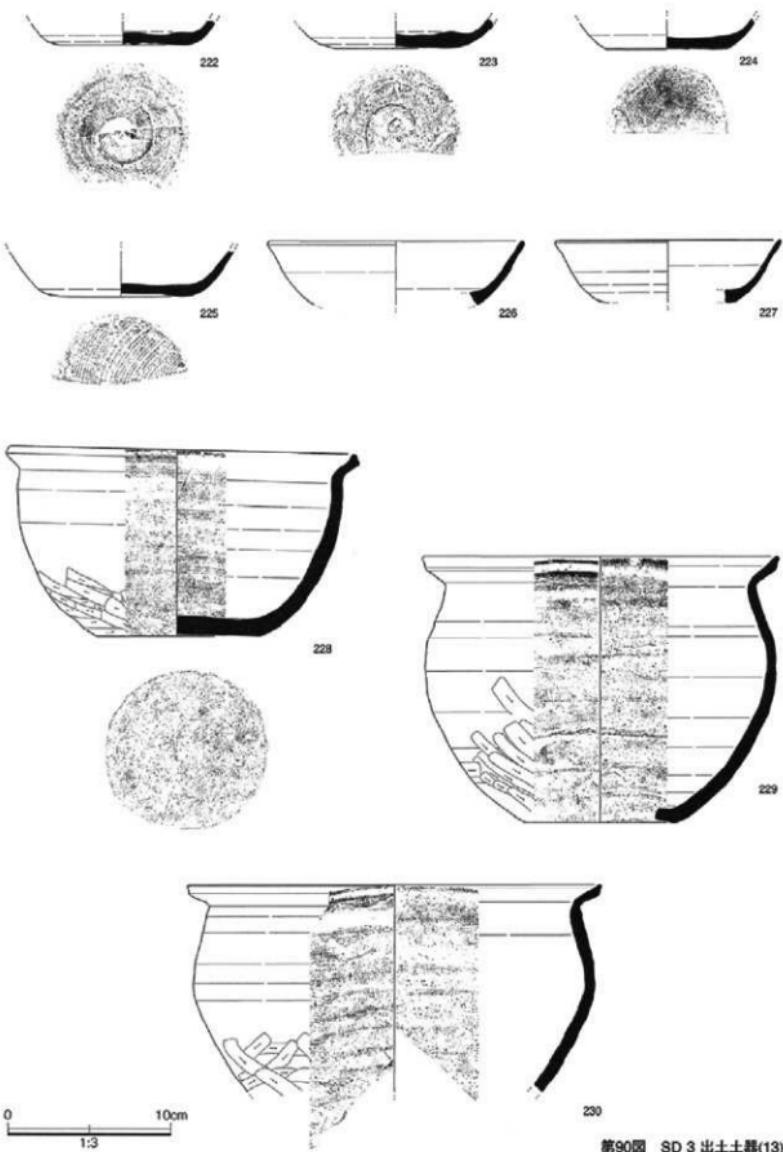
第87図 SD 3 出土土器(10)



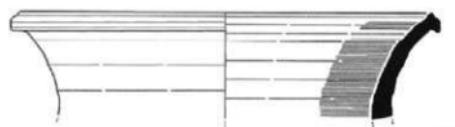
第88図 SD 3 出土土器(11)



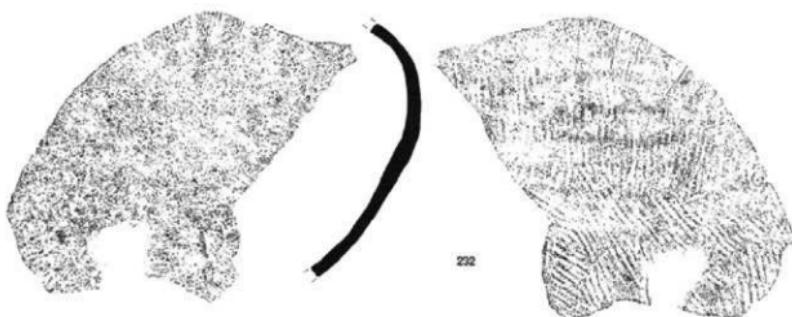
第89図 SD 3 出土土器(12)



第90図 SD 3 出土土器(13)



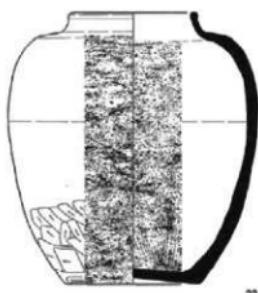
231



232



233



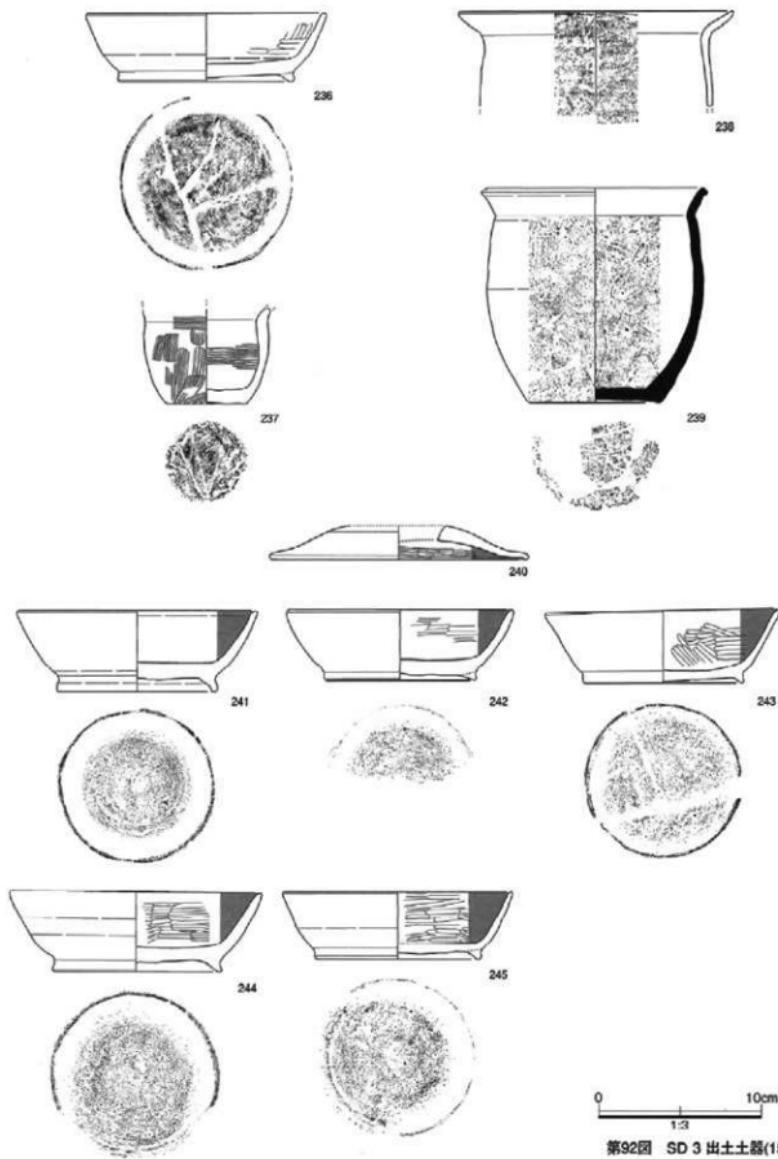
234



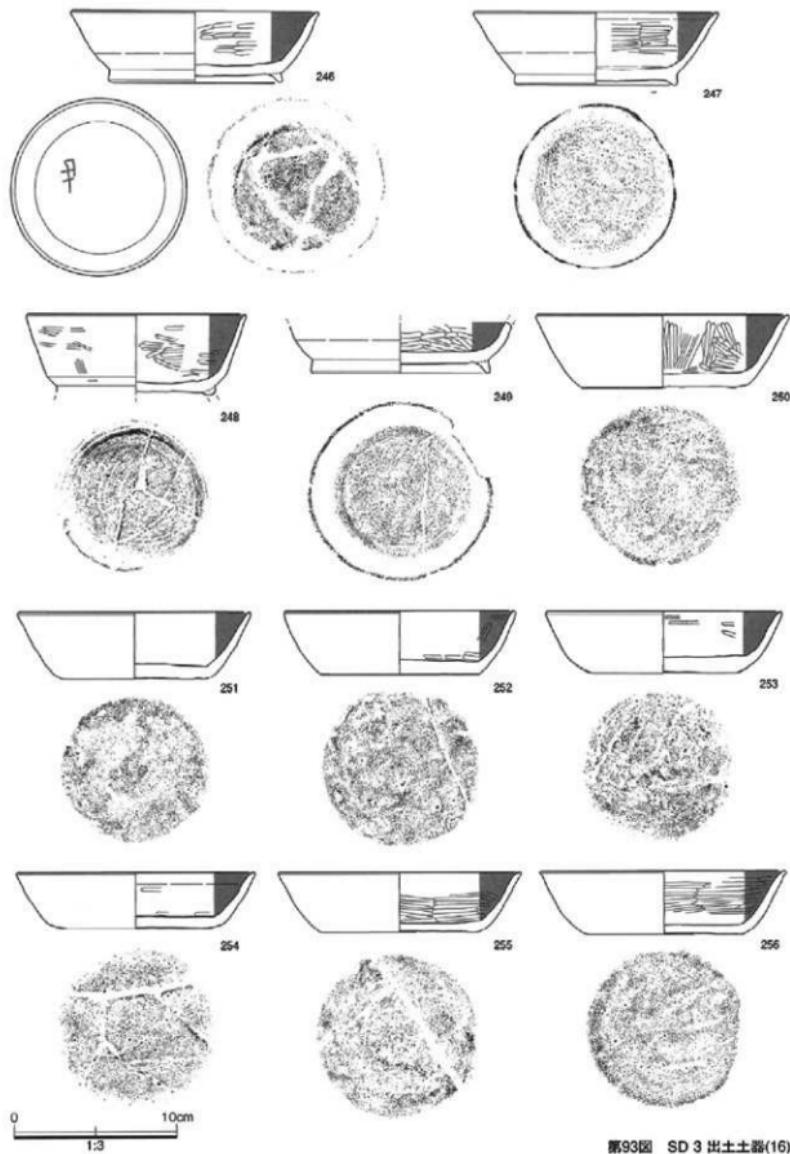
235



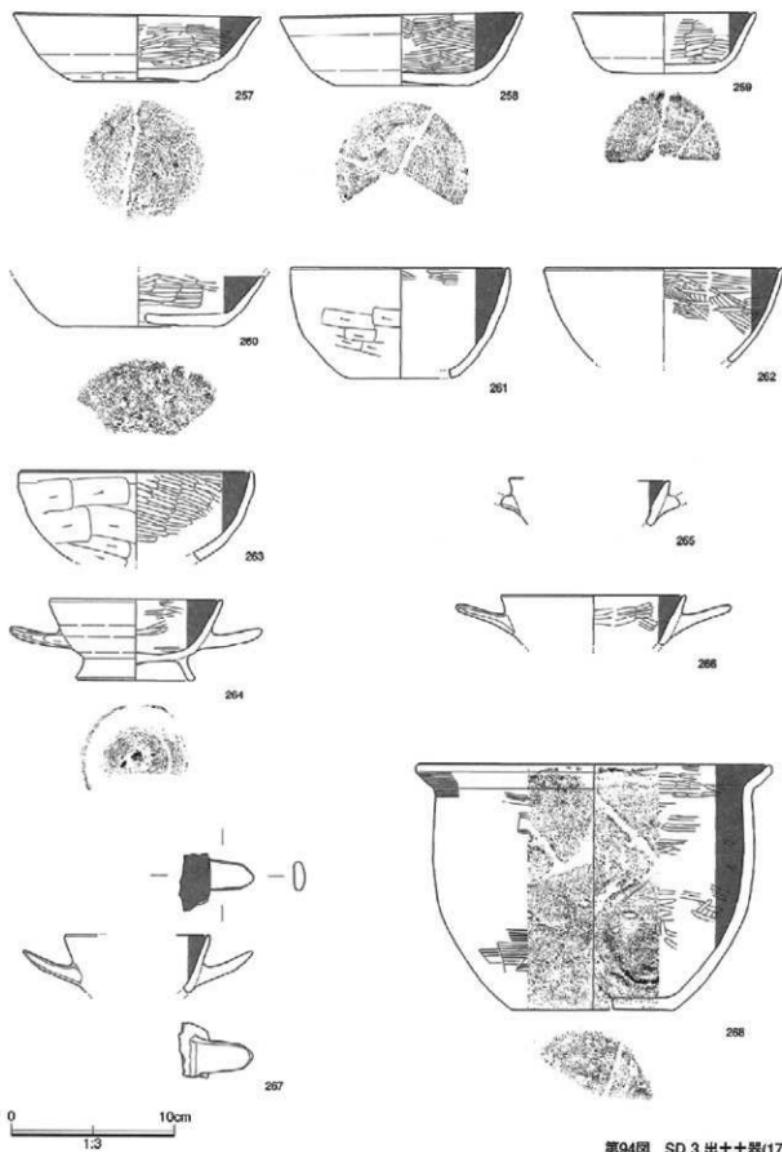
第91図 SD 3 出土土器(14)



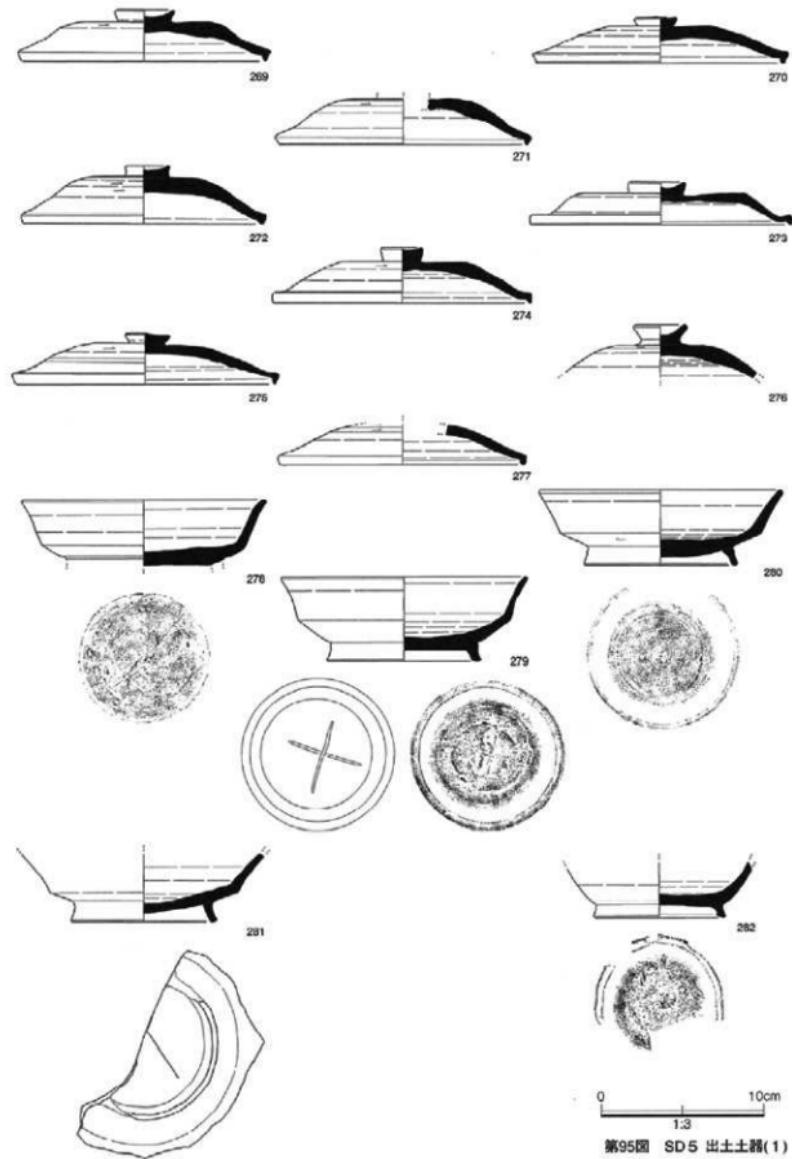
第92図 SD 3 出土土器(15)



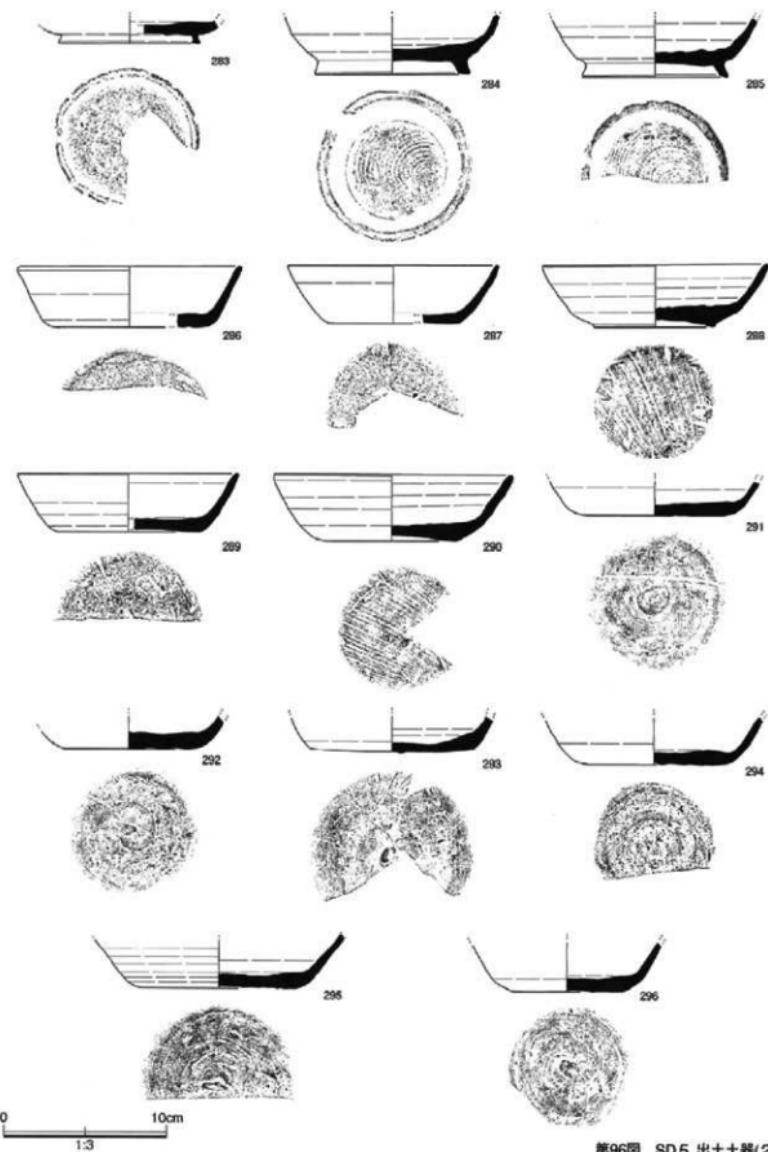
第93図 SD 3 出土土器(16)



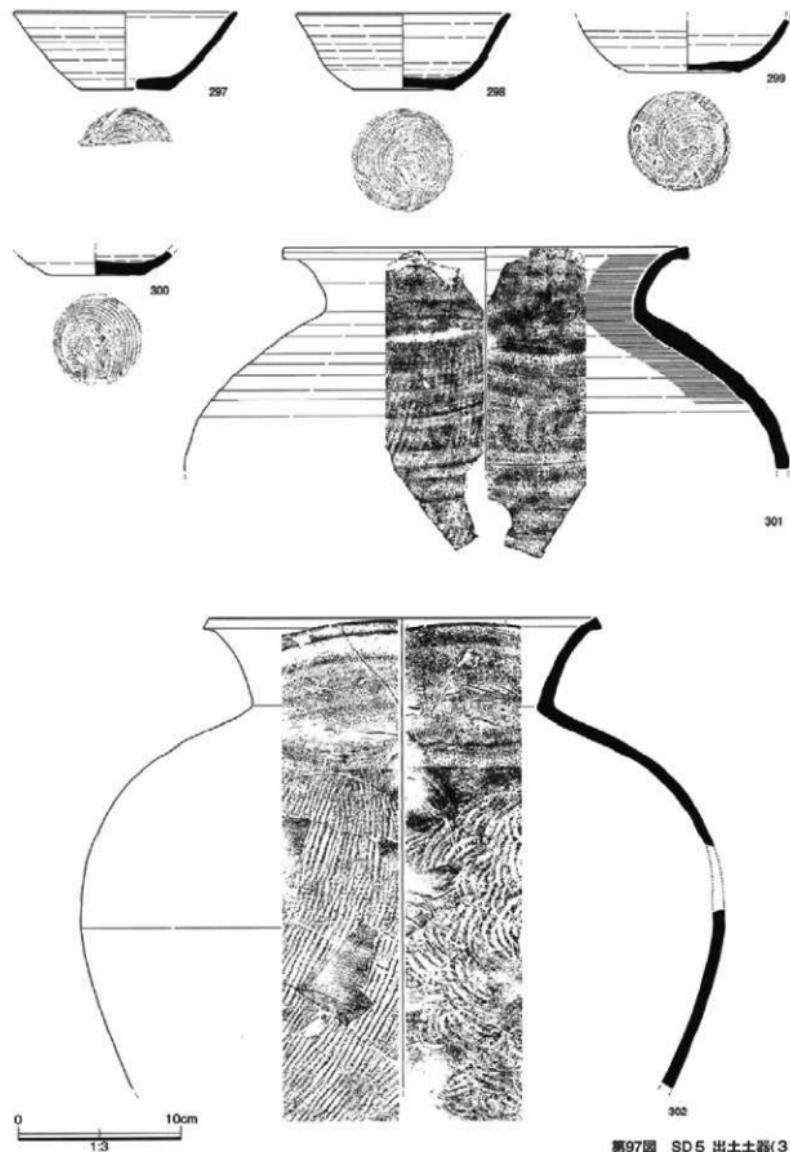
第94図 SD 3 出土土器(17)



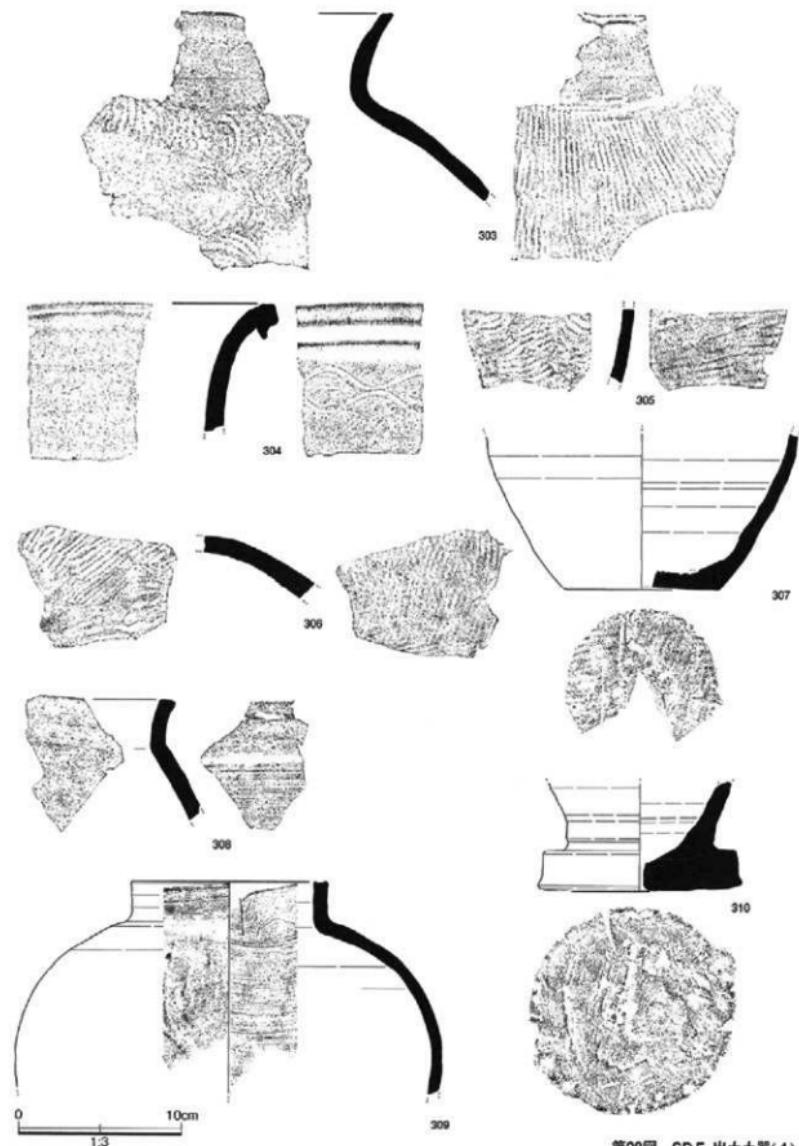
第95図 SD 5 出土土器(1)



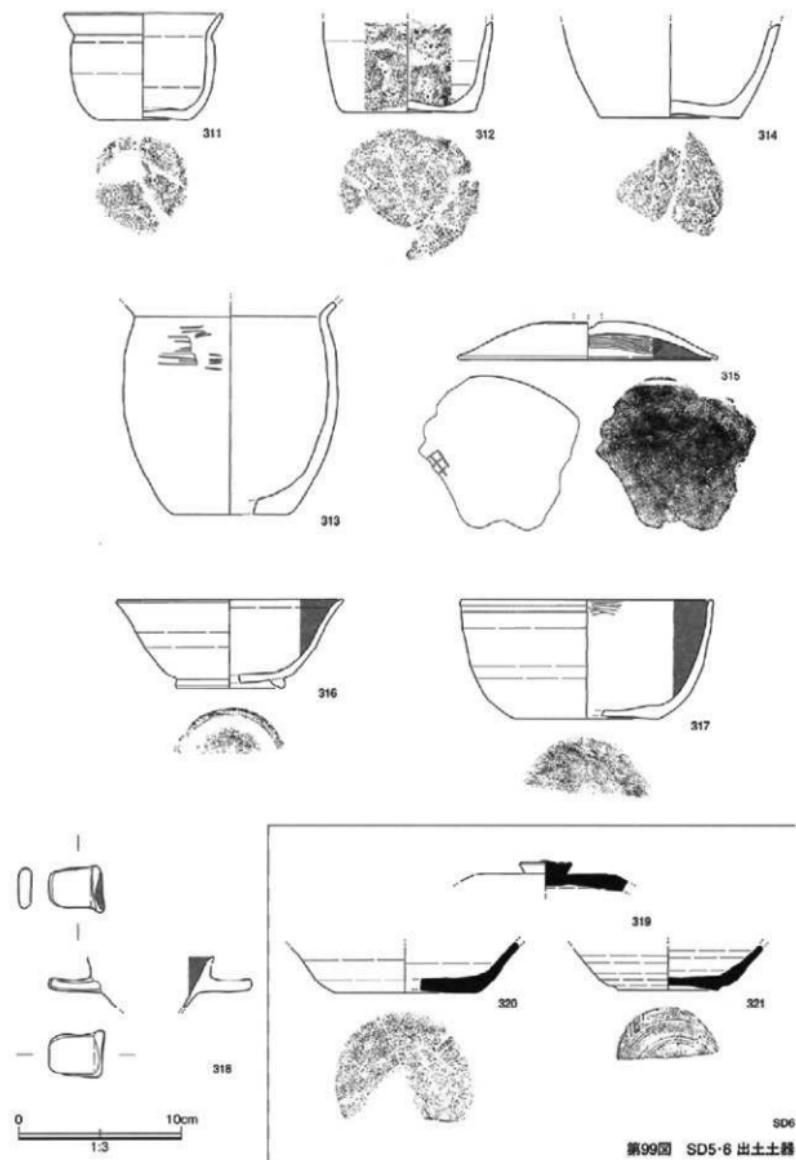
第96圖 SD 5 出土器(2)

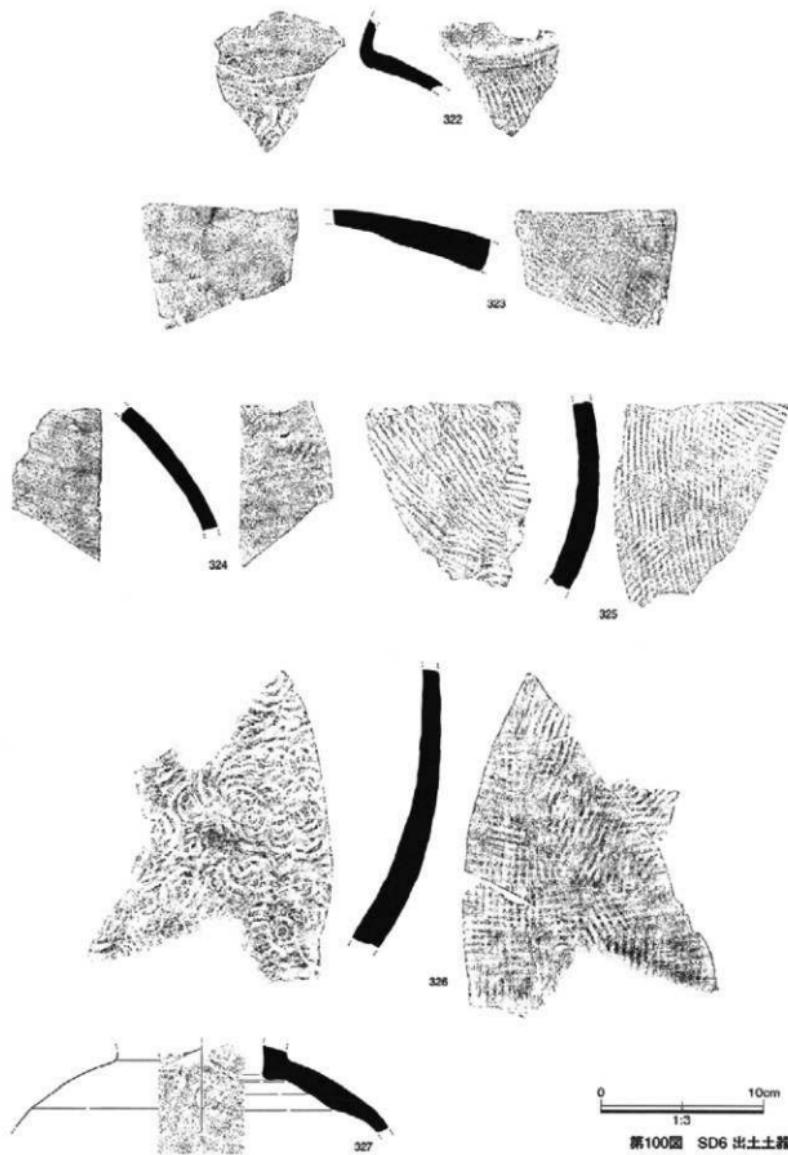


第97図 SD 5 出土土器(3)

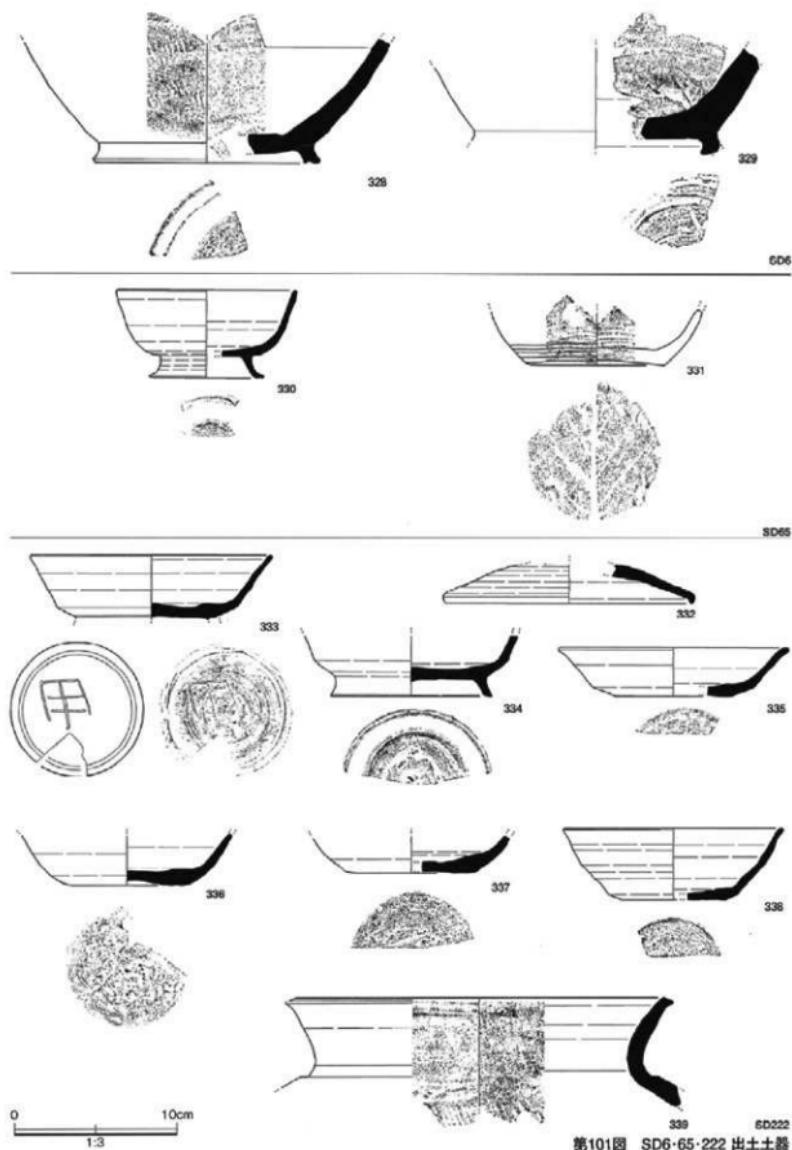


第96図 SD 5 出土土器(4)

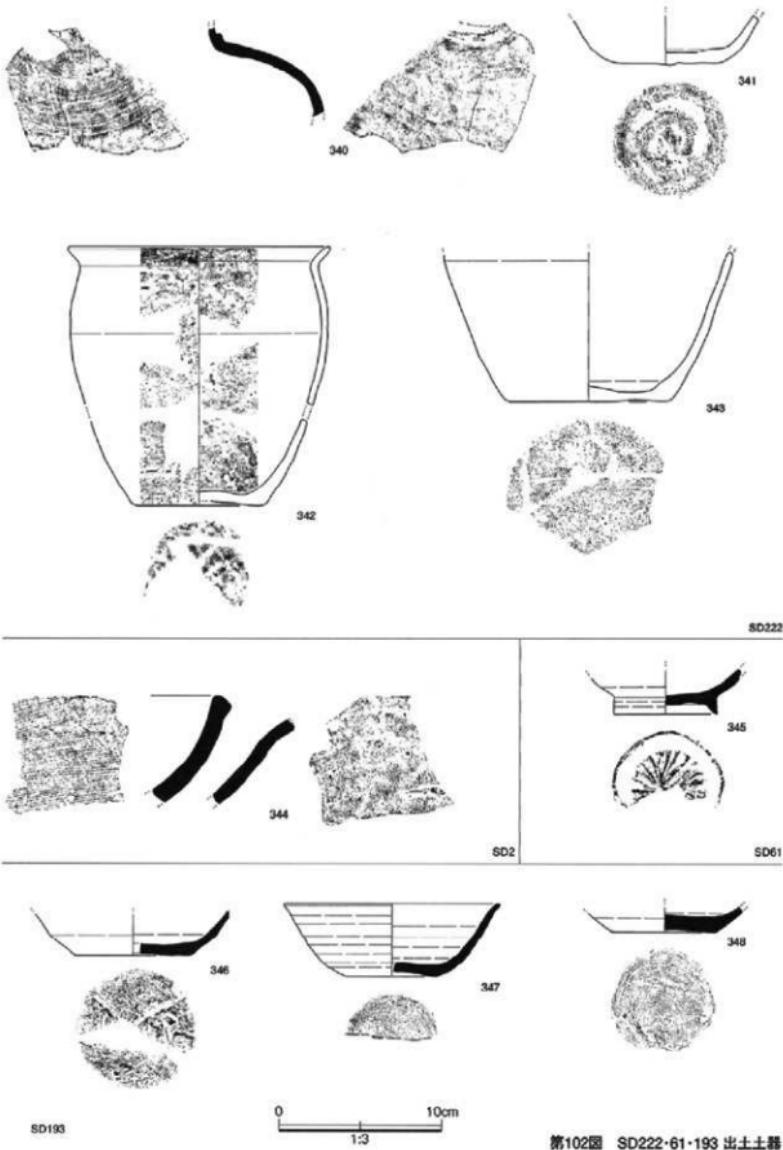




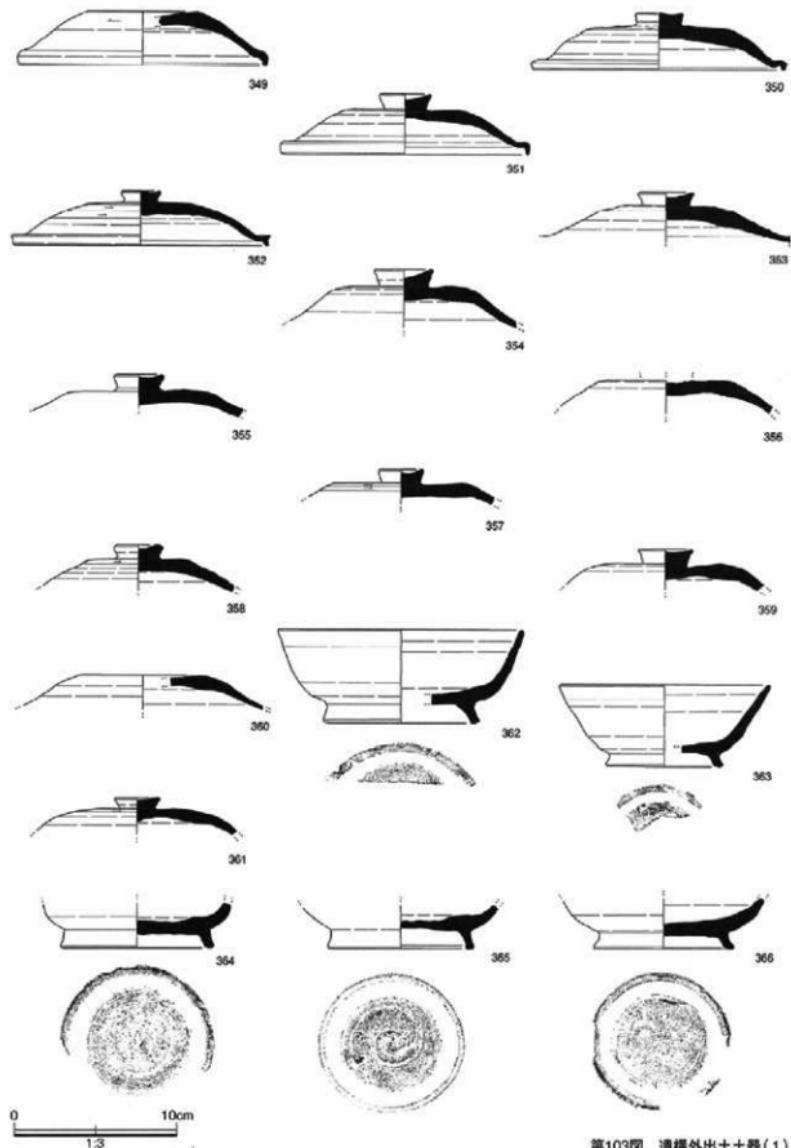
第100圖 SD6 出土土器



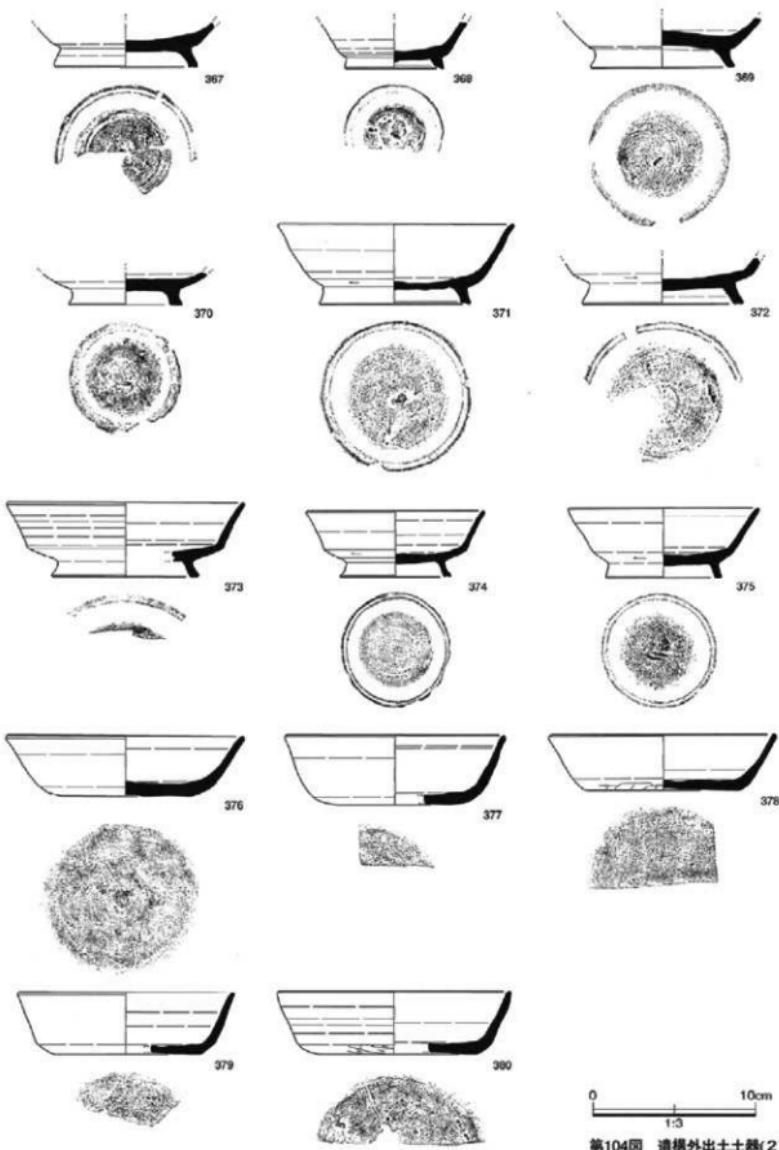
第101図 SD6-65-222 出土器



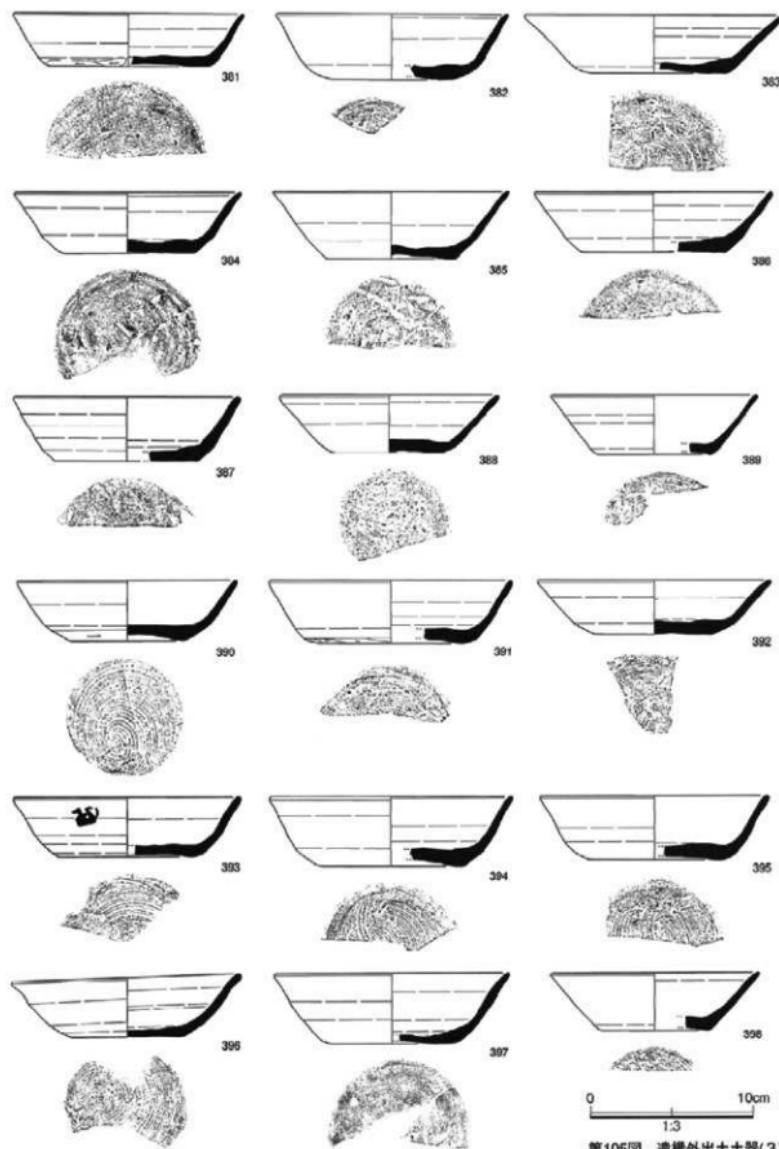
第102圖 SD222·61·193 出土土器



第103図 遺構外出土土器(1)

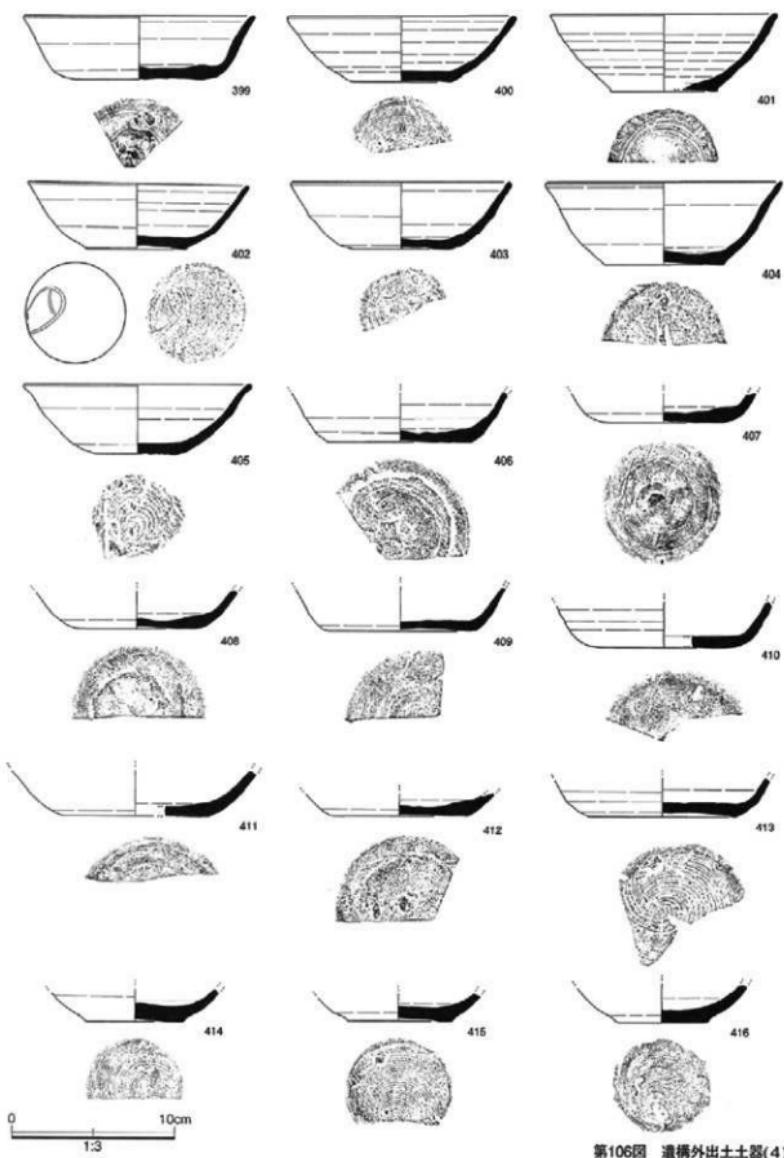


第104図 造横外出土土器(2)

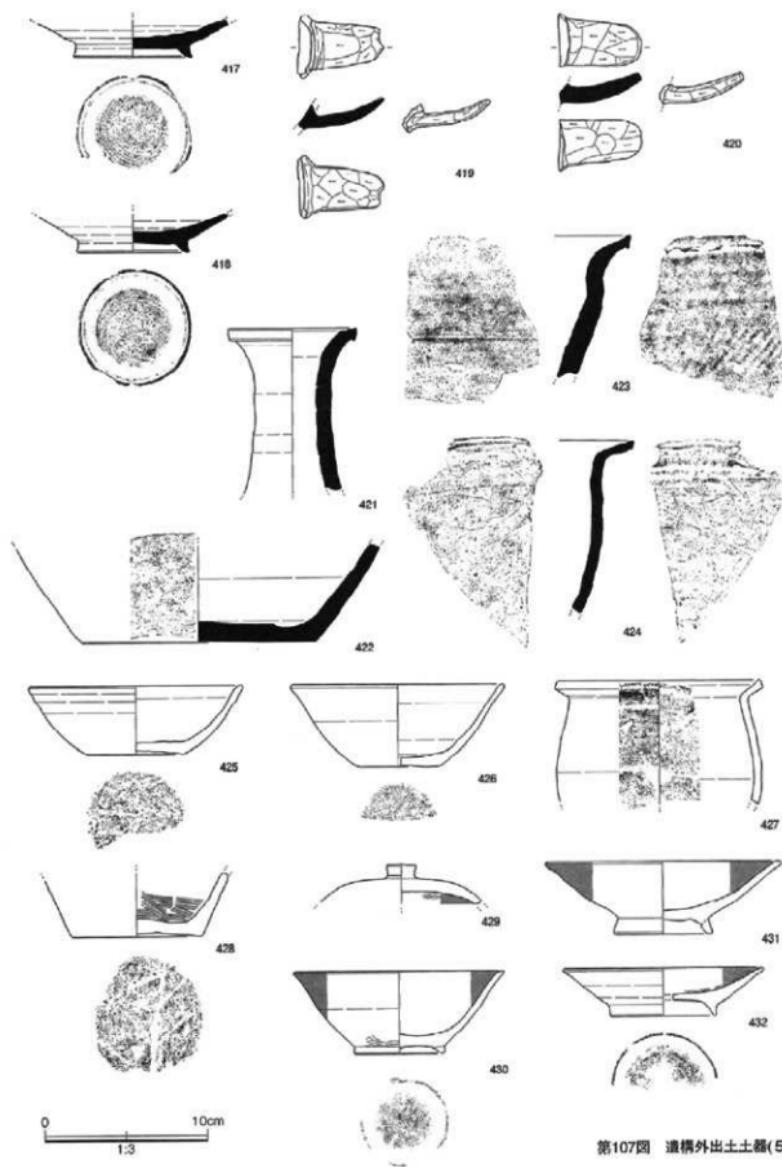


第105図 造模外出土土器(3)

0
1:3
10cm



第106図 遺構外出土土器(4)



第107図 遺構外出土土器(5)

表6 西中上遺跡土器觀察表(1)

番号	番号	種別	器種	計測値(mm)			調整技法		底部	出土 地点	登録 番号	備考	分類		
				口径	底径	器高	器厚	外面							
73	1	須恵器	有台坏	(88)	6	ロクロ	ロクロ	高台・回転ヘラ切	SE64	RP28					
	2	須恵器	甕		12	タクナ	アテ		SK21						
	3	須恵器	甕		12	タタキ	アテ		SK21	RP118					
	4	黒色土器	有台坏	(148)	4	ロクロ・ミガキ	ミガキ	高台	SK38	RP20	内外面黒色處理				
	5	須恵器	有台坏		3	ロクロ	ロクロ	高台	SK39		接觸?	Ec			
	6	須恵器	無台坏	152 96	44 5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK39	RP21		Bal			
	7	須恵器	無台坏	(152) (94)	41	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK39	RP304		Bb1		
	8	須恵器	無台坏	(141) (90)	42	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK39			Ccl		
	9	土師器	甕	(256)		5	ハケメ	ハケメ		SK49	RP145		Ee		
74	10	須恵器	無台坏	85	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK94	RP144					
	11	須恵器	甕	250	7	ロクロ	ロクロ		SK94		外周自然輪				
	12	土師器	無台坏?	(112) 88	37	3			SK103		表裏面摩滅				
	13	須恵器	有台坏?	150	4	ロクロ	ロクロ		SK126	RP148	接觸?				
	14	土師器	甕	(252)	7	ロクロ	ロクロハナ		SK126	RP146		Ec			
	15	土師器	甕	(266)	6	ハケメ	ハケメ		SK126			Ec			
	16	須恵器	無台坏	(76)	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK151						
	17	土師器	甕	66	6	ケズリ			SK151	RP165					
	18	黒色土器	甕		9	ヘラグゼリ	ミガキ		SK151		内面黒色處理				
	19	須恵器	無台坏	147 82	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK153			Ccl		
	20	土師器	甕	96	8	ハケメ	ハケメ	本葉痕	SK153						
	21	土師器	甕	170	4	ハケメ-ケズリ	ハケメ		SK153	RP164		Ab			
	22	土師器	甕	250	6	ハケメ	ハケメ		SK153	RP164		Eb			
	23	黒色土器	有台坏	171	5	ロクロ-ケズリ	ミガキ		SK153	RP163-164	内面黒色處理-高台部剥離				
	24	須恵器	無台坏	(142) (90)	40	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK164			Bc1		
	25	須恵器	有台陶	96	62	53	5	ロクロ	ロクロ	高台	SK161	RP160			
	26	土師器	甕	(254)	5	ハケメ			SK161			Eb			
	27	土師器	甕	(276)	6	ハケメ	ハケメ		SK161			Bc			
	28	須恵器	有台坏	140 90	48 4	ロクロ	ロクロ	高台-回転ヘラ切	SK218	RP299	接觸?	Eb			
	29	須恵器	無台坏	(136) (70)	36	3	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK218			Eb3		
	30	須恵器	無台坏	132 76	35	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK218	RP299		Eb3		
	31	須恵器	無台坏	128 75	38	3	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK218	RP296		Eb3		
	32	須恵器	無台坏	(142) (72)	36	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK218			Eb3		
75	33	須恵器	無台坏	134 70	37	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK218			Eb3		
	34	須恵器	無台坏	64	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK218						
	35	須恵器	無台坏	(64)	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK218						
	36	須恵器	無台坏	52	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK218						
	37	須恵器	無台坏	140	3	ロクロ	ロクロ		SK218						
	38	須恵器	有台陶	123 60	27	4	ロクロ	ロクロ	高台-回転系切	SK218	RP300				
	39	須恵器	甕		9	タタキ	アテ	(高台)	SK218		高台部剥離				
	40	須恵器	無台坏	140 (80)	31	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK219			Eb3		
	41	須恵器	無台坏	136 63	45	3	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK219	RP301-303		Eb3		
	42	須恵器	無台坏	140 62	48	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK219	RP302		Ee3		
	43	須恵器	甕		14	タタキ	アテ		SK219						
	44	須恵器	無台坏	126 62	40	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK67	RP40		Eb3		
	45	須恵器	無台坏	140 (90)	38	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK72	RP54		Bal		
	46	土師器	甕	90	6	ハケメ	ハケメ	本葉痕	SK157						
76	47	須恵器	有台坏	139 88	49	4	ロクロ	ロクロ	高台	SK223	RP35	接觸?	D		
	48	須恵器	有台坏	142 86	43	4	ロクロ	ロクロ	高台	SX154	RP159	接觸	Ec		
	49	須恵器	甕	153	18	6	ロクロ-ケズリ	ロクロ		SX165	RP162	天井部ヘラケズリ	A2		

表7 西中上遺跡土器観察表(2)

探査番号	遺物番号	種別	器種	計測値(mm)		調整技法		底部	出土地点	登録番号	備考	分類	
				D径	底径	器高	器厚	外面	内面				
77	50	須恵器	蓋	(150)	5	ロクロ	ロクロ			SX165	天井部ヘラケズリ	A2	
	51	須恵器	蓋	(160)	4	ロクロ	ロクロ			SX165Y	天井部ヘラケズリ	A3	
	52	須恵器	蓋	(160)	4	ロクロケズリ	ロクロ			SX165			
	53	須恵器	有台杯	134	88	49	5	ロクロ	ロクロ	高台・回転系切	SX165Y	Ba2	
	54	須恵器	無台杯	(150) (90)	43	4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SX165 RP161	Bb1	
	55	須恵器	有台杯	145	80	48	5	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	SX24 RP14	続碗・外腹自然輪	Ec
	56	須恵器	無台杯	(140) (72)	34	5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転系切	SX93 RP132	Db3	
	57	須恵器	無台杯	136	70	37	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SX142 RP56	Bb1	
	58	須恵器	無台杯	148	(90)	30	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SX220	Ab1	
78	59	須恵器	蓋	148	4	ロクロ	ロクロ			SDG-Y RP338	天井部ヘラケズリ	A1	
	60	須恵器	蓋	150	30	5	ロクロ	ロクロ			SD3Y RP83	天井部ヘラケズリ	A2
	61	須恵器	蓋	154	32	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP246	天井部ヘラケズリ	A2
	62	須恵器	蓋	154	34	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP169	天井部ヘラケズリ	A2
	63	須恵器	蓋	157	39	7	ロクロ	ロクロ			SD3 RP234	天井部ヘラケズリ	A2
	64	須恵器	蓋	(154)	31	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP353	天井部ヘラケズリ	A2
	65	須恵器	蓋	151	39	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP221・121	天井部ヘラケズリ	A2
	66	須恵器	蓋	156	31	6	ロクロ	ロクロ			SD3 RP4	天井部ヘラケズリ	A2
	67	須恵器	蓋	(154)	37	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP2	天井部ヘラケズリ	A2
	68	須恵器	蓋	152	39	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP6	天井部ヘラケズリ	A2
	69	須恵器	蓋	(156)	5	ロクロ	ロクロ			SDG-Y	天井部ヘラケズリ	B2	
	70	須恵器	蓋	162	40	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP280・282	天井部ヘラケズリ	A3
	71	須恵器	蓋	160	42	4	ロクロ	ロクロ			SDG-Y RP263	天井部ヘラケズリ	A3
	72	須恵器	蓋	160	5	ロクロ	ロクロ			SD3Y RP264・366	天井部ヘラケズリ	A3	
	73	須恵器	蓋	172	5	ロクロ	ロクロ			SD3Y RP136	天井部ヘラケズリ	A3	
	74	須恵器	蓋	165	36	5	ロクロケズリ	ロクロ			SD3Y RP213	A3	
	75	須恵器	蓋	168	44	7	ロクロ	ロクロ			SD3Y RP93	口縁部打ち欠き?	B3
79	76	須恵器	有台杯	(140) (98)	36	4	ロクロ	ロクロ	高台	SD3Y		A	
	77	須恵器	有台杯	158	110	56	4	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	SD3 RP236	Ba1	
	78	須恵器	有台杯	143	88	53	4	ロクロ	ロクロ	高台・回転系切	SD3 RP7	Ba2	
	79	須恵器	有台杯	142	4	ロクロ	ロクロ			SD3 RP238	底部欠損		
	80	須恵器	有台杯	145	94	46	4	ロクロ	ロクロ	高台	SD3Y RP143	Bb1	
	81	須恵器	有台杯	146	88	52	4	ロクロ	ロクロ	高台・回転系切	SD3 RP243	Bb2	
	82	須恵器	有台杯	146	86	53	4	ロクロ	ロクロ	高台・回転系切	SD3 RP206・306	底部墨書き「甲」?	Bb2
	83	須恵器	有台杯	135	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP203	高台部剥離	Bb2	
	84	須恵器	有台杯	146	89	46	4	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	SD3 RP251	Bc1	
	85	須恵器	有台杯	144	86	51	4	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	SD3 RP245	Bc1	
	86	須恵器	有台杯	144	86	45	4	ロクロ	ロクロ	高台	SD3 RP185・220	Bc1	
	87	須恵器	有台杯	144	(90)	47	4	ロクロ	ロクロ	高台	SD3 RP184	底部ヘラ書「甲」?	Bc1
80	88	須恵器	有台杯	146	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP215	高台部剥離	Bc1	
	89	須恵器	有台杯	140	4	ロクロ	ロクロ			SD3 RP100	高台部剥離	Bc1	
	90	須恵器	有台杯	114	4	ロクロ	ロクロ			SD3Y RP119	高台部剥離	Bc1	
	91	須恵器	有台杯	144	84	55	4	ロクロ	ロクロ	高台・回転系切	SD3 RP240	Bc2	
	92	須恵器	有台杯	162	88	67	5	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	SD3	Cb	
	93	須恵器	有台杯	105	6	ロクロ	ロクロ			SD3 RP188		Cb	
	94	須恵器	有台杯	89	5	ロクロ	ロクロ			SD3 RP228			
	95	須恵器	有台杯	92	7	ロクロ	ロクロ			SD3Y RP261			
	96	須恵器	有台杯	(90)	6	ロクロ	ロクロ			SD3Y RP336			
	97	須恵器	有台杯	80	4	ロクロ	ロクロ			SD3 RP226			
	98	須恵器	有台杯	(134) (90)	48	5	ロクロ	ロクロ			SD3Y RP283		D

表8 西中上遺跡土器観察表(3)

排図番号	遺物番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整技法		底部	出土地点	登録番号	備考	分類	
				口径	底径	器高	器厚	外面	内面						
81	99	須恵器	有台坏	140	80	47	4	ロクロ	ロクロ	高台、 回転ヘラ切	SD3Y	RP86	D		
	100	須恵器	有台坏	146	90	50	5	ロクロ	ロクロ	高台	SDG-Y	RP276	底部ヘラ書「甲」	D	
	101	須恵器	有台坏	142	90	50	4	ロクロ	ロクロ	高台	SD3	RP352	朱色・底部ヘラ書×	Ea	
	102	須恵器	有台坏	152	(88)	57	4	ロクロ	ロクロ	高台	SDG-Y	RP134-328	接縫	Ea	
	103	須恵器	有台坏	151	92	52	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP237	接縫	Eb	
	104	須恵器	有台坏	145	84	51	5	ロクロ	ロクロ	高台、 回転ヘラ切	SD3	RP196	接縫	Eb	
	105	須恵器	有台坏	140	90	50	6	ロクロ	ロクロ	高台、 回転ヘラ切	SD3Y	RP8-24- 37	接縫	Eb	
	106	須恵器	有台坏	149		3		ロクロ	ロクロ	高台	SD3	RP190	高台部剥離	Eb	
	107	須恵器	有台坏	(100)		3		ロクロ	ロクロ	高台	SD3	RP101	接縫	Eb	
	108	須恵器	有台坏	148	(88)	50	5	ロクロ	ロクロ	高台	SDG-Y	RP290	接縫	Ec	
	109	須恵器	有台坏	140	95	49	4	ロクロ	ロクロ	高台	SD3Y	RP288	接縫	Ec	
82	110	須恵器	無台坏	152	108	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP173	Aal		
	111	須恵器	無台坏	134	92	35	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP233	Aal		
	112	須恵器	無台坏	138	96	35	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDG-Y	RP305	Ab1		
	113	須恵器	無台坏	134	88	33	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP335	Ab1		
	114	須恵器	無台坏	152	100	36	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP287-97	Ab1		
	115	須恵器	無台坏	143	102	35	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP216	Ab1		
	116	須恵器	無台坏	141	78	37	4	ロクロケベ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP3	Ab1		
	117	須恵器	無台坏	(130)	(76)	40	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDG-Y	RP92	Ab1		
	118	須恵器	無台坏	(150)	(95)	34	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDG-Y		Ab1		
	119	須恵器	無台坏	(142)	(90)	36	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP357	Ab1		
	120	須恵器	無台坏	149	92	38	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDG-Y	RP327	Ac1		
	121	須恵器	無台坏	134	68	40	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP248	Bal		
	122	須恵器	無台坏	154	82	42	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP354	Bal		
	123	須恵器	無台坏	152	90	42	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP327	Bal		
83	124	須恵器	無台坏	142	74	39	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP207	Bb1		
	125	須恵器	無台坏	140	82	36	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP89	Bb1		
	126	須恵器	無台坏	146	84	40	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP204	Bb1		
	127	須恵器	無台坏	138	70	36	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP199	Bb1		
	128	須恵器	無台坏	145	80	37	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP269	底部墨書「甲」	Bb1	
	129	須恵器	無台坏	146	86	40	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP94	Bb1		
	130	須恵器	無台坏	142	84	35	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3		Bb1		
	131	須恵器	無台坏	175	70	40	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP227	Bb1		
	132	須恵器	無台坏	(146)	(78)	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3		Bb1		
	133	須恵器	無台坏	154	86	43	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP142	底部軸用縫?	Bb1	
	134	須恵器	無台坏	146	84	37	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDG-Y	RP94-372	Bb1		
	135	須恵器	無台坏	146	80	35	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP283	底部墨書「甲」	Bb1	
	136	須恵器	無台坏	(151)	(84)	39	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP92	Bb1		
	137	須恵器	無台坏	144	83	42	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDG-Y	RP344	Bb1		
	138	須恵器	無台坏	145	80	37	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP261	Bb1		
84	139	須恵器	無台坏	150	80	41	5	ロクロ	ロクロ	四軒条切	SD3	RP183	Bb3		
	140	須恵器	無台坏	147	74	40	4	ロクロ	ロクロ	四軒条切	SD3	RP174	Bb3		
	141	須恵器	無台坏	(146)	(86)	42	5	ロクロ	ロクロ	四軒条切	SD3	RP349	Bb3		
	142	須恵器	無台坏	140	88	39	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP181-311	Bc1		
	143	須恵器	無台坏	140	70	37	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3		Bc1		
	144	須恵器	無台坏	145	80	36	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP291	底部墨書「甲」	Bc1	
	145	須恵器	無台坏	140	78	36	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP200	Bc1		
	146	須恵器	無台坏	139	72	37	5	ロクロ・留ナ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP308	Bc1		
	147	須恵器	無台坏	139	70	38	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP197	Bc1		

表9 西中上遺跡土器観察表(4)

辨別番号	遺物番号	種別	器種	計測値(mm)			調整技法		底部	出土地点	登録番号	備考	分類
				口径	底径	器高	器厚	外面					
84	148	須恵器	無台坪	143	70	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP312	Bcl
	149	須恵器	無台坪	136	68	36	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP171	Bcl
	150	須恵器	無台坪	140	75	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP258	Bcl
	151	須恵器	無台坪	140	75	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP275	Bcl
	152	須恵器	無台坪	136	80	36	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP315	Bcl
85	153	須恵器	無台坪	(137)	72	39	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP194	Bcl
	154	須恵器	無台坪	146	76	41	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP170-182	Bcl
	155	須恵器	無台坪	140	74	37	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP318	火だしき痕
	156	須恵器	無台坪	150	86	39	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP220-314	Bcl
	157	須恵器	無台坪	150	78	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDOF-Y	RP346	Bcl
	158	須恵器	無台坪	144	68	38	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP202	Bcl
	159	須恵器	無台坪	136	70	35	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP201	Bcl
	160	須恵器	無台坪	148	80	40	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP239-350	Bcl
	161	須恵器	無台坪	144	78	39	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP279	Bcl
	162	須恵器	無台坪	141	74	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDOF-Y	RP359	Bcl
	163	須恵器	無台坪	148	82	35	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP277	底部墨書き
	164	須恵器	無台坪	140	74	36	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	KP8	Bcl
	165	須恵器	無台坪	139	74	38	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP347	Bcl
	166	須恵器	無台坪	150	84	40	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDOF-Y	RP377	Bcl
86	167	須恵器	無台坪	147	75	40	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP319	Bcl
	168	須恵器	無台坪	142	75	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	KP254	Bcl
	169	須恵器	無台坪	145	70	37	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP219	Bcl
	170	須恵器	無台坪	145	74	37	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP315	Bcl
	171	須恵器	無台坪	142	68	38	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP294	Bcl
	172	須恵器	無台坪	145	76	36	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP169	Bcl
	173	須恵器	無台坪	(150) (74)	40	5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP10	Bcl
	174	須恵器	無台坪	144	84	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP229	Bcl
	175	須恵器	無台坪	146	70	38	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP302-335	Bcl
	176	須恵器	無台坪	138	72	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP262	Bcl
	177	須恵器	無台坪	154	78	36	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP255	Bcl
	178	須恵器	無台坪	151	90	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP341	Bcl
	179	須恵器	無台坪	157	90	41	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP154-141	Bcl
	180	須恵器	無台坪	148	74	41	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP343	Bcl
87	181	須恵器	無台坪	(146) (70)	39	5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	KP178	Bcl
	182	須恵器	無台坪	(146)	76	36	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP187	底部墨書き
	183	須恵器	無台坪	144	70	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP313	Bcl
	184	須恵器	無台坪	152	90	38	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDOF-Y		Bcl
	185	須恵器	無台坪	(140) (72)	36	4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP186	体部にヘラ痕
	186	須恵器	無台坪	(144) (76)	40	5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	KP193	Bcl
	187	須恵器	無台坪	140	78	39	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDOF-Y	RP5-84	Bcl
	188	須恵器	無台坪	(142) (78)	41	5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP71	Bcl
	189	須恵器	無台坪	134	68	38	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP273	火だしき痕
	190	須恵器	無台坪	137	65	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDOF-Y	RP373	底部剥離？付着
	191	須恵器	無台坪	(150) (26)	37	5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	KP80	Bcl
	192	須恵器	無台坪	(160) (66)	41	5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3		Bcl
	193	須恵器	無台坪	(146) (80)	38	5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP370	Bcl
88	194	須恵器	無台坪	(141) (80)	37	4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP102	Bcl
	195	須恵器	無台坪	148	76	37	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDOF-Y	RP218-307	Bcl
	196	須恵器	無台坪	156	82	41	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SDOF-Y	RP330-375 内面付着物	Bcl

表10 西中上遺跡器觀察表(5)

押図 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値(mm)				調整技法	底部	出土 地点	登録 番号	備考	分類
				口径	底径	器高	器厚						
88	197	須恵器	無台环	158	90	38	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD3	RP256	Bc3
	198	須恵器	無台环	156	78	42	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD3	RP214	Bc3
	199	須恵器	無台环	(136)	(82)	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP139	Ca1
	200	須恵器	無台环	145	88	48	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP235	Ca1
	201	須恵器	無台环	142	74	47	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD3-Y	RP138	Ca3
	202	須恵器	無台环	138	80	42	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP225	Cb1
	203	須恵器	無台环	136	78	41	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP226	Cb1
	204	須恵器	無台环	144	88	40	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP230	Cb1
	205	須恵器	無台环	148	88	42	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP98	Cb1
	206	須恵器	無台环	145	84	49	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP91	Cb1
	207	須恵器	無台环	119	68	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP99	外下面下部ケズリ
89	208	須恵器	無台环	(143)	(80)	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP309	Cb1
	209	須恵器	無台环	153	82	42	5	ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転糸切	SD3-Y	RP380	Cb3
	210	須恵器	無台环	150	90	44	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD3	RP24-36	Cb3
	211	須恵器	無台环	142	76	42	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP316	Cc1
	212	須恵器	無台环	142	72	42	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP368	Cc1
	213	須恵器	無台环	142	74	43	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP223	Cc1
	214	須恵器	無台环	145	74	48	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP176-222	Cc1
	215	須恵器	無台环	136	72	40	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3-Y	RP25-340	Cc1
	216	須恵器	無台环	138	72	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP180	Cc1
	217	須恵器	無台环	144	73	43	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP212	底部墨書き「甲」
	218	須恵器	無台环	146	74	41	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD3	RP222	Cc3
	219	須恵器	無台环	(146)	(76)	44	4	ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転糸切	SD3	RP23-32	Cc3
	220	須恵器	無台环	145	66	36	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP211-328	Dc1
	221	須恵器	無台环	140	70	45	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD3	RP82	Ea3
90	222	須恵器	無台环	79	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP68-134			
	223	須恵器	無台环	78	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP177			
	224	須恵器	無台环	76	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3Y	RP378			
	225	須恵器	無台环	76	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD3-Y				
	226	須恵器	無台环	158	4	ロクロ	ロクロ		SD3				
	227	須恵器	無台环	140	4	ロクロ	ロクロ		SD3				
	228	須恵器	壺	214	100	112	8	ロクロ・ケズリ	ロクロ	ケズリ	SD3-Y	RP27-365	
	229	須恵器	壺	(220)	(96)	165	7	ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3	RP244	
	230	須恵器	壺	236	7	ロクロ・ケズリ	ロクロ		SD3	RP252			
91	231	須恵器	壺	(269)	10	ロクロ	ロクロ		SD3				
	232	須恵器	壺	7	タタキ	ハケヌ・アツ			SD3	RP364			
	233	須恵器	壺	8	ハケヌ	ハケヌ			SD3Y		外下面自然輪		
	234	須恵器	短颈壺	78	82	167	7	ロクロ・ケズリ・タタキ	ハケヌ	ケズリ	SD3	RP87-272	
	235	須恵器	横瓶	10	ロクロ・タタキ	ロクロ			SD3	RP79			
92	236	土器器	有台环	(148)	106	42	5	ロクロ	ミガキ	高台	SD3	RP230	
	237	土器器	壺	48	6	ハケヌ	ハケヌ	木葉痕	SD3Y	RP266	Aa		
	238	土器器	壺	170	4	ハケヌ	ハケヌ		SD3Y	RP137	Ba		
	239	土器器	壺	139	82	132	6	ハケヌ	ハケヌ	木葉痕	SD3	RP179	Aa
	240	黒色土器	壺	(160)	5	ロクロ	ミガキ		SD3Y	RP374	内面黑色處理		
	241	黒色土器	有台环	148	96	50	5	ロクロ・ナデ	ミガキ	高台	SD3Y	RP270	内面黑色處理
	242	黒色土器	有台环	(149)	(94)	44	6	ロクロ	ミガキ	高台	SD3Y	RP133	内面黑色處理
	243	黒色土器	有台环	144	99	46	4	ロクロ	ミガキ	高台	SD3	RP231	内面黑色處理
	244	黒色土器	有台环	155	104	49	7	ロクロ	ミガキ	高台	SD3	RP206	内面黑色處理
	245	黒色土器	有台环	142	100	41	4	ロクロ	ミガキ	高台	SD3Y	RP278	内面黑色處理

表11 西中上遺跡土器観察表(6)

押出番号	遺物番号	種別	器種	計測値(mm)			調整技法		底部	出土地点	登録番号	備考	分類	
				口径	底径	器高	器厚	外面						
93	246	黑色土器	有台环	153	108	46	5	ロクロ	ミガキ	高台・回転ヘラ切	SD3	RP289	内面黒色処理・底部 ヘラ削印記	Ab
	247	黑色土器	有台环	151	100	46	5	ロクロ	ミガキ	高台	SDP-Y	RP334	内面黒色処理	Ac
	248	黑色土器	有台环	136		4		ロクロ・ミガキ	ミガキ	高台・回転ヘラ切	SD3	RP321	内面黒色処理・高台 部削離	B
	249	黑色土器	有台环	110		6		ロクロ	ミガキ	高台・回転ヘラ切	SD3	RP9	内面黒色処理	
	250	黑色土器	無台环	(159)	100	45	5	ロクロ	ミガキ	回転ヘラ切	SD3	RP8	内面黒色処理	A1
	251	黑色土器	無台环	(142)	94	41	5	ロクロ	ミガキ		SD3	RP310	内面黒色処理	A1
	252	黑色土器	無台环	142	96	38	4	ロクロ	ミガキ		SDP-Y	RP285	内面黒色処理	A1
	253	黑色土器	無台环	146	92	37	5		ミガキ	回転ヘラ切	SDP-Y	RP334-369	内面黒色処理	A1
	254	黑色土器	無台环	147	96	35	5	ロクロ	ミガキ	回転ヘラ切	SD3	RP358	内面黒色処理	A1
	255	黑色土器	無台环	150	97	37	4	ロクロ	ミガキ	回転ヘラ切?	SD3	RP281	内面黒色処理	A2
	256	黑色土器	無台环	152	97	39	5	ロクロ	ミガキ		SD3	RP11	内面黒色処理	A2
94	257	黑色土器	無台环	153	76	42	5	ロクロケズリ	ミガキ	回転系切	SD3	RP249-351	内面黒色処理	A2
	258	黑色土器	無台环	150	82	44	5	ロクロ	ミガキ	回転系切	SD3	RP239	内面黒色処理	B
	259	黑色土器	無台环	114	70	37	5	ロクロ	ミガキ	回転ヘラ切	SD3	RP175	内面黒色処理	B
	260	黑色土器	無台环	(102)		5			ミガキ		SD3	RP363	内面黒色処理	
	261	黑色土器	無台环	(136)	(70)	68	6	ケズリ	ミガキ		SDP-Y	RP379	内面黒色処理	C
	262	黑色土器	無台环	(148)		3			ミガキ		SD3Y		内面黒色処理	C
	263	黑色土器	無台环	142		5		ケズリ	ミガキ		SDP-Y	RP97	内面黒色処理	C
	264	黑色土器	双耳环	107	73	51	4	ロクロ	ミガキ	高台	SD3Y	RP362	内面黒色処理	
	265	黑色土器	双耳环								SD3		内面黒色処理	
	266	黑色土器	双耳环	114		4			ミガキ		SD3	RP287	内面黒色処理	
	267	黑色土器	双耳环			3		ケズリ	ミガキ		SD3		内面黒色処理	
	268	黑色土器	釜	220	100	152	7	ハケメ・ナデ	ミガキ		SDP-Y	RP217	内面黒色処理・火化物 付着	
95	269	須恵器	釜	(156)	32	5		ロクロ	ロクロ		SD5		天井部・ヘラケズリ	A2
	270	須恵器	釜	157	29	6		ロクロ	ロクロ		SD5		天井部・ヘフケズリ	A2
	271	須恵器	釜	158		7		ロクロ	ロクロ		SD5		天井部・ヘラケズリ	A2
	272	須恵器	釜	(151)	36	5		ロクロケズリ	ロクロ		SD5	RP73	天井部・ヘラケズリ・ 内面黒色	B2
	273	須恵器	釜	(162)	27	5		ロクロ	ロクロ		SD5	RP150	天井部・ヘラケズリ	A3
	274	須恵器	釜	160	35	6		ロクロケズリ	ロクロ		SD5	RP157	天井部・ヘラケズリ	A3
	275	須恵器	釜	164	31	5		ロクロ	ロクロ		SD5	RP127	天井部・ヘラケズリ	B3
	276	須恵器	釜			5		ロクロ	ロクロ		SD5	RP50	天井部・ヘラケズリ	
	277	須恵器	釜	(150)	5			ロクロ	ロクロ		SD5		天井部・ヘラケズリ	
	278	須恵器	有台环	151	5			ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD5	RP131	接続・高台部剥離	Ec1
	279	須恵器	有台环	(153)	95	51	3	ロクロ	ロクロ	高台	SD5	RP48-155	接続・底部ヘラ削+」En	
	280	須恵器	有台环	150	94	47	5	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	SD5	RP182	接続	Ec
	281	須恵器	有台环	(90)		3		ロクロ	ロクロ	曲台	SD5	RP158	接続・底部ヘラ削	Ee
	282	須恵器	有台环	81		5		ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	SD5			
96	283	須恵器	有台环	87		5		ロクロ	ロクロ	高台	SD5	RP124		
	284	須恵器	有台环	96		4		ロクロ	ロクロ	高台・回転系切	SD5	RP12		
	285	須恵器	有台环	90		4		ロクロ	ロクロ	高台・回転系切	SD5	RP166		
	286	須恵器	無台环	(138)	(98)	36	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD5			Abl
	287	須恵器	無台环	(130)	(82)	35	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD5			Bal
	288	須恵器	無台环	140	74	38	4	ロクロ	ロクロ	静止系切	SD5	RP129	内外面自然離	Ba2
	289	須恵器	無台环	136	86	36	4	ロクロ	ロクロ	ヘラケズリ	SD5	RP45	Bbl	
	290	須恵器	無台环	147	80	41	5	ロクロ	ロクロ	静止系切	SD5	RP151-168	Bb2	
	291	須恵器	無台环	86		3		ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD5			
	292	須恵器	無台环	80		5		ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD5	RP120		
	293	須恵器	無台环	102		5		ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD5			

表12 西中上遺跡器物觀察表(7)

番号	種別	器種	計測値(mm)			調整技法		底部	出土 地点	登録 番号	備考	分類	
			口径	底径	器高	外面	内面						
294	須恵器	無台坏	74	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD5	RP61				
295	須恵器	無台坏	96	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD5	RP130				
296	須恵器	無台坏	68	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD5					
297	須恵器	無台坏	138 (60)	48	4	ロクロ	ロクロ	回転条切	SD5		Eb3		
298	須恵器	無台坏	132	62	47	4	ロクロ	ロクロ	回転条切	SD5		Ec3	
299	須恵器	無台坏	62	4	ロクロ	ロクロ	回転条切	SD5	RP75				
300	須恵器	無台坏	56	4	ロクロ	ロクロ	回転条切	SD5					
301	須恵器	壳	(250)		10	ロクロ・ナガメ	ロクロ・ タタキ	ハケメ	SD5				
302	須恵器	壳	240		6	ロクロ・タタキ	ロクロ・アテ		SD5	RP76			
303	須恵器	壳			9	ナデ・タタキ	ハケメ・アテ		SD5				
304	須恵器	壳			10	ナデ	ハケメ	SD5	RP23	内面凹縁自然釉部 波状紋			
305	須恵器	壳			7	タタキ	アテ	SD5					
306	須恵器	壳			11	タタキ	アテ	SD5					
307	須恵器	壳	94		7	ロクロ・ナガメ	ロクロ・ タタキ	ハケメ	ヘラケズリ	SD5	外面下部自然釉		
308	須恵器	壳			9	ロクロ	ロクロ		SD5				
309	須恵器	短腹壺	120		7	ロクロ	ロクロ		SD5				
310	須恵器	こね鉢	126		10	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	SD5	RP53	底部穿孔		
311	土師器	小型壺	(98)	60	65	5		本體痕	SD6-Y		Aa		
312	土師器	小型壺		84	5	ハケメ	ハケメ	本體痕	SD6-Y				
313	土師器	壳	(76)	7		ハケメ	ヘラケズリ	SD5	RP49		Aa		
314	土師器	壳	88	6	ハケメ	ハケメ	本體痕	SD5					
315	墨色土器	蓋	160		5	ミガキ		SD5	内面黒色処理・内面に ヘラ削り甲				
316	墨色土器	有台坏	(140) (66)	56	4	ロクロ	ミガキ	高台	SD5	RP52	内面黒色処理		
317	墨色土器	無台碗	(156) (88)	75	6	ロクロ	ロクロ・ミガキ		SD5	RP156	内面黒色処理	C	
318	墨色土器	双耳坏			4			SD5			内面黒色処理		
319	須恵器	蓋			8	ロクロ	ロクロ		SD6		天井部ヘラケズリ		
320	須恵器	無台坏	84		5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD6				
321	須恵器	無台坏	(62)		4	ロクロ	ロクロ	回転条切	SD6	RP110			
322	須恵器	壳			8	タタキ	アテ	SD6	RP108				
323	須恵器	壳			18	タタキ	アテ	SD6	RP117				
324	須恵器	蓋			9	ケズリ・タタキ	ロクロ	SD6-Y					
325	須恵器	壳			12	タタキ	アテ	SD6	RP115				
326	須恵器	壳			14	タタキ	アテ	SD6					
327	須恵器	蓋			14	ロクロ	ロクロ	SD6	RP109				
328	須恵器	蓋	(140)		11	タタキ	ハケメ	高台	SD6	RP116	外面底部自然釉		
329	須恵器	瓶			15	ロクロ	ロクロ・ ハケメ	高台	SD6-Y	RP107			
330	須恵器	有台碗	(112) (69)	55	3	ロクロ	ロクロ	高台・回転条切	SD6-Y				
331	土師器	壳	82	5	ハケメ	ハケメ	本體痕	SD6					
332	須恵器	蓋	(152)		5	ロクロ	ロクロ	SD222					
333	須恵器	有台坏	150		4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD222	高台部剥離・ 底部ヘラ削り甲			D
334	須恵器	有台坏	(100)		5	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	SD222				D
335	須恵器	無台坏	142 (72)	30	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD222				De1
336	須恵器	無台坏	70	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD222					
337	須恵器	無台坏	(76)	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD222					
338	須恵器	無台坏	(136) (64)	44	4	ロクロ	ロクロ	回転条切	SD222		Eb3		
339	須恵器	壳	(240)		10	ロクロ・タタキ	ロクロ・アテ		SD222				

表13 西中上遺跡土器観察表(8)

掲出番号	遺物番号	種別	器種	計測値(mm)		調整技法		底部	出土地点	登録番号	備考	分類			
				口径	底径	器高	器厚								
102	340	須恵器	豆		6	ロクロ	ロクロ			SD222					
	341	土師器	無台环	68	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切		SD222					
	342	土師器	壺	(162) (76) (160)	5	ハケメ	ハケメ	木製帆		SD222		Ab			
	343	土師器	甕	106	5			木製帆		SD222					
	344	須恵器	鉢	7	ロクロケズリ	ハケメ			SD2	RP70	片口・内外面白地釉				
	345	土師器	有台环	64	5	ロクロ	ロクロ	高台		SD61		底部帯花紋			
	346	須恵器	無台环	74	4	ロクロ	ロクロ	ヘラケズリ		SD193					
	347	須恵器	無台环	133 (56) 45	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切		SD193		Ec3			
	348	須恵器	無台环	66	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切		SD193	RP24				
103	349	須恵器	盃	143	5	ロクロケズリ	ロクロ		XO	天井部ヘラケズリ	A1				
	350	須恵器	盃	158	35	7	ロクロ	ロクロ		135A19G	天井部ヘラケズリ	A2			
	351	須恵器	盃	154	38	5	ロクロ	ロクロ		135-11G	天井部ヘラケズリ	A2			
	352	須恵器	盃	160	33	4	ロクロ	ロクロ		135-11G	天井部ヘラケズリ	B3			
	353	須恵器	盃		5	ロクロ	ロクロ		XO	天井部ヘラケズリ					
	354	須恵器	盃		5	ロクロ	ロクロ		135-11G	天井部ヘラケズリ					
	355	須恵器	盃		5	ロクロ	ロクロ		135-11G	天井部ヘラケズリ					
	356	須恵器	盃		5	ロクロ	ロクロ		135-11G	天井部ヘラケズリ					
	357	須恵器	盃		5	ロクロ	ロクロ		XO	天井部ヘラケズリ					
	358	須恵器	盃		5	ロクロ	ロクロ		135-11G	天井部ヘラケズリ					
	359	須恵器	盃		5	ロクロ	ロクロ		XO						
	360	須恵器	盃		4	ロクロ	ロクロ		XO	天井部ヘラケズリ					
	361	須恵器	盃		4	ロクロ	ロクロ		135-11G	天井部ヘラケズリ					
	362	須恵器	有台环	(152) (96)	57	5	ロクロ	ロクロ	高台	XO		Bal			
	363	須恵器	有台环	(130) (72)	50	5	ロクロ	ロクロ	高台	135-11G		Ca			
	364	須恵器	有台环	(94)	6	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切		140A13G RP18					
	365	須恵器	有台环	90	5	ロクロ	ロクロ	高台		142A2G RP13					
	366	須恵器	有台环	86	6	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切		135-11G RP63					
104	367	須恵器	有台环	88	5	ロクロ	ロクロ	高台		135-11G					
	368	須恵器	有台环	61	5	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切		134-11G					
	369	須恵器	有台环	88	4	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転糸切	XO						
	370	須恵器	有台环	70	4	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切		132-11G RP85					
	371	須恵器	有台环	145	93	49	4	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	XO		D		
	372	須恵器	有台环	(100)	6	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切		130-10G RP26	種疏?		D		
	373	須恵器	有台环	146	90	46	4	ロクロ	ロクロ	高台	134-11G	種疏・自然釉	Ec		
	374	須恵器	有台环	110	68	41	3	ロクロ	ロクロ	高台	135-12G RP36	種疏	Ec		
	375	須恵器	有台环	118	71	43	3	ロクロ	ロクロ	高台・ 回転ヘラ切	XO	種疏	Ec		
	376	須恵器	無台环	147	90	36	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	XO		Ab1		
	377	須恵器	無台环	(136) (80)	44	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	140A15G					
	378	須恵器	無台环	140	(96)	38	3	ロクロケズリ	ロクロ	回転ヘラ切	XO		Ab1		
	379	須恵器	無台环	(130) (92)	39	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	135-11G					
	380	須恵器	無台环	(144) (96)	39	5	ロクロケズリ	ロクロ	回転ヘラ切	XO		Ab1			
105	381	須恵器	無台环	(142) (96)	33	3	ロクロケズリ	ロクロ	回転ヘラ切	XO		Ab1			
	382	須恵器	無台环	(150) (70)	41	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	133-12G		Bb1			
	383	須恵器	無台环	(160) (78)	37	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	XO		Bb1			
	384	須恵器	無台环	140	82	38	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	XO		Bb1		
	385	須恵器	無台环	146	80	42	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	137-12G		Bb1		
	386	須恵器	無台环	(147) (88)	37	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	XO		Bb1			
	387	須恵器	無台环	(140) (90)	39	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	XO		Bb1			
	388	須恵器	無台环	(136)	66	35	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	136-12G		Bb1		

表14 西中上遺跡土器観察表(9)

掲番	番号	種別	器種	計測値(mm)			調整技法	底部	出土 地点	登録 番号	備考	分類	
				口径	底径	器高							
105	389	須恵器	無台坏	(128) 70	36	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	I35-130G		Bb3	
	390	須恵器	無台坏	136	72	37	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	I38-118G		Bb3
	391	須恵器	無台坏	(150) 88	39	4	ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転糸切	XO		Bb3	
	392	須恵器	無台坏	(144) 74	34	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	I35-116G		Ecl	
	393	須恵器	無台坏	(140) 84	37	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	XO	体部墨痕	Ec3	
	394	須恵器	無台坏	(149) 92	43	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	XO		Ec3	
	395	須恵器	無台坏	(141) 78	40	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	XO		Ec3	
	396	須恵器	無台坏	142	70	40	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	I34-117G		Ec3
	397	須恵器	無台坏	(145) 84	45	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	I35-116G		Cbl	
	398	須恵器	無台坏	(127) 66	38	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	XO		Cbl	
106	399	須恵器	無台坏	(143) 80	38	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	I34-112G		Cel	
	400	須恵器	無台坏	142	(60)	40	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	XO		Db3
	401	須恵器	無台坏	(140) 66	47	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	XO		Eb3	
	402	須恵器	無台坏	137	60	41	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	I33-117G	底部ヘラ切	Eb3
	403	須恵器	無台坏	(136) 56	41	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	I35-117G		Eb3	
	404	須恵器	無台坏	146	72	51	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	XO		Ecl
	405	須恵器	無台坏	140	52	45	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	I34-50G		Ec3
	406	須恵器	無台坏	90		4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	XO			
	407	須恵器	無台坏	76		5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	140-146 RP17			
	408	須恵器	無台坏	(80)		4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	I34-115G			
	409	須恵器	無台坏	(90)		4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	XO			
	410	須恵器	無台坏	(86)		5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	I34-118G			
	411	須恵器	無台坏	(92)		6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	I35-116G			
	412	須恵器	無台坏	(86)		6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	XO			
	413	須恵器	無台坏	(92)		4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	XO			
	414	須恵器	無台坏	66		4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	XO			
	415	須恵器	無台坏	65		7	ロクロ	ロクロ	回転糸切	I35-116G			
	416	須恵器	無台坏	56		5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	I40-145G			
107	417	須恵器	有台坏	73		5	ロクロ	ロクロ	高台・回転糸切	I38-116G RP19			
	418	須恵器	有台盤	70		4	ロクロ	ロクロ	高台・回転糸切	I38-116G RP29			
	419	須恵器	双耳坏	7			ケズリ			I36-114G	取手のみ		
	420	須恵器	双耳坏	8			ケズリ			XO	取手のみ		
	421	須恵器	長颈瓶	80		8	ロクロ	ロクロ			内面輪積痕		
	422	須恵器	壺	144		8	ロクロ	ハケヌ					
	423	須恵器	壺	12			ロクロ・ナデ	ロクロ・アテ					
	424	須恵器	壺	7			ロクロ	ロクロ					
	425	土師器	無台坏	132	58	41	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	I35-116G RP46		
	426	土師器	無台坏	132	(50)	50	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	I35-117G		
	427	土師器	甕	(134)		5	ナデ	ナデ			XO	Aa	
	428	土師器	小型甕	80		6	ハケヌ	本素汎					
	429	黒色土器	蓋	7			ロクロ	ミガキ		T11	内面黒色処理		
	430	黒色土器	有台坏	130	56	51	4	ロクロ・ミガキ	ロクロ・ミガキ	高台	I34-117G	内外面黒色処理	C
	431	黒色土器	有台坏	146	(60)	45	4				I35-116G RP47	内外面黒色処理	D
	432	黒色土器	有台盤	(124)	(66)	30	5	ロクロ	ミガキ	高台	XO	内面黒色処理	D

5 調査のまとめ

今回の調査は、一般国道113号赤湯バイパス改築事業に伴う、西中上遺跡の発掘調査である。調査によって得られた成果を以下に述べる。

西中上遺跡は、山形県南陽市大字高梨字西中上に所在し、旧吉野川左岸の自然堤防上に立地する。発掘調査は遺跡にかかる事業実施地区の側道部分を除く約4,000m²を対象に実施した。その結果、遺跡は奈良時代後半から平安時代初頭を中心とする集落跡と確認された。

遺構と遺物の分布状況は概ね同一傾向で調査区西側及び東側と南側の一部に多く分布する。但し、遺物の出土量には大きな違いが認められ溝跡・土坑の一部から多量の土器や一括土器が出されている。特にSD3からは一括廃棄された様相を示すまとまった土器が出土した。

検出された遺構は、井戸跡2基・土坑22基・溝跡18条・性格不明遺構などで、溝跡の多さから隣接した旧吉野川から水を引いて生活に利用していた集落とも考えられる。また、多量の土器が出土したSD3から一定規模をもつ集落の存在が推測できるが、今回の調査では堅穴住居跡が検出されなかった。これは、遺跡の範囲がさらに南西に広がることから、南西の未調査区部分への存在及び、後世の耕作や削平により破壊されたと考えられる。各遺構の深さが確認面から全体的に浅かったことからもそれが窺える。現に、堅穴住居跡の一部と考えられる焼土が調査区北西部の擾乱層に見られた。

土器について、須恵器の器種では供膳形態の蓋、有台杯(接碗含む)、無台杯と貯藏形態の壺や甕などが出土した。蓋は天井部に回転ヘラケツリを施し、器高がやや高い平笠タイプのA2類とA3類ものが大半を占め、SD3・5から多く出土している。有台杯は底部切り離しが回転ヘラ切りで、底径・口径がやや大きく器高が低く口縁部が外反するBc1類と杯部に微細な稜をもつD類そして、杯部の1/3未満の位置に稜が入る稜碗のEc類が多くみられ、Bc1類はSD3からEc類はSD3・5・SX24・154などから出土している。無台杯は底部切り離しが回転ヘラ切りで、底径・口径が大きく器高が低く口縁部が直線的に立ち上がるAb1類やBb1類と、底径・口径がやや大きく器高が低く口縁部が緩やかに外反するBc1類が多く、SD3の他SK39・219・SX142・161・165などから出土している。須恵器の蓋、有台杯の稜碗、無台杯は米沢市大神窯跡出土資料に同様のものがみられ、蓋は2-2、4-2・3・5類、有台杯の稜碗は2-3、3-1・4・5類に器形が類似し、無台杯は1-1、2-2・3、3-1類に類似するものが多い。

土師器は全体的に造存状態が悪く、図示できるものが限られたが、供膳形態の無台杯、有台杯、煮沸形態の甕・鉢などが出土した。黒色土器は蓋や有台杯、無台杯、甕、双耳杯があり、大半が内面に黒色処理を施す内黒土器であるが、内外面に黒色処理を施した両黒土器が3点みられた。また、墨書き及びヘラ書きされた土器が18点出土しており、その内の「甲」の字が書かれたものが10点を占める。

各遺構の所属時期では、出土土器の形態・調整技法からSE64・SK39・94・151は8世紀第3-4四半期に属すると考えられ、SK126・153・161・154が8世紀第4四半期、SK218・219・SX165・SD3・5は8世紀第4四半期~9世紀前半頃と推測される。また、SD2・6は切り合いかから、それぞれSD3と5に後続する時期と思われる。従って、本遺跡の集落は8世紀後半から9世紀初頭を中心に営まれ、9世紀末まで続いていると考えられる。

遺構

土器

大神窯跡

[甲]の字が10点

8世紀後半から

9世紀初頭

参考文献

- 長橋至ほか 1996 「分布調査報告書(23)」(山形県埋蔵文化財調査報告書第197集)山形県教育委員会
長橋至ほか 1997 「分布調査報告書(24)」(山形県埋蔵文化財調査報告書第198集)山形県教育委員会
名和達朗ほか 2004 「分布調査報告書(30)」(山形県埋蔵文化財調査報告書第204集)山形県教育委員会
名和達朗ほか 2005 「分布調査報告書(31)」(山形県埋蔵文化財調査報告書第205集)山形県教育委員会
高橋敏ほか 2006 「分布調査報告書(32)」(山形県埋蔵文化財調査報告書第206集)山形県教育委員会
阿子島功ほか 1983 「土地分類基本調査—赤湯・上山一丁目地形分類」山形県
佐藤鎮雄ほか 1982 「南陽市史—考古資料編—」南陽市
佐藤庄一ほか 1985 「沢田遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財調査報告書第88集)山形県教育委員会
渋谷孝雄 1986 「諏訪前遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財調査報告書第102集)山形県教育委員会
佐藤庄一ほか 1986 「唐越遺跡」分布調査報告書(13)」(山形県埋蔵文化財調査報告書第96集)山形県教育委員会
野尻 保ほか 1986 「東六角遺跡」分布調査報告書(13)」(山形県埋蔵文化財調査報告書第96集)山形県教育委員会
名和達朗 1987 「富貴田遺跡発掘調査」「分布調査報告書(14)」(山形県埋蔵文化財調査報告書第14集)山形県教育委員会
佐藤鎮雄ほか 1990 「南陽市史上巻—地質・原始・古代・中世—」南陽市
高橋敏ほか 1998 「植木場一遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第59集)財団法人山形県埋蔵文化財センター
押切智紀ほか 2003 「東畠A遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第116集)財団法人山形県埋蔵文化財センター
石井浩幸 2006 「萬の木館跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第150集)財団法人山形県埋蔵文化財センター
秦昭繁 1977 「松原」復興考古学会
松本茂ほか 1991 「東北横断自動車道遺跡調査報告書Ⅱ 法正尻遺跡」(福島県文化財調査報告書第243集)福島県教育委員会(財)福島県文化センター・日本道路公団
阿部明彦 1992 「庄内平野の古墳時代史」「東北文化論のための先史学歴史学論集」
阿部明彦ほか 2004 「出羽の土器とその編年」「出羽の古墳時代」古志書院
須賀井新入 2003 「出羽南半における黒色土器の編年」「山形考古第7卷3号」山形考古学会
辻秀人 1995 「東北南部における古墳出現期の土器編年」「東北学院大学論集 歴史学・地理学第27号」
須賀井新入ほか 1994 「今塚遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第7集)
眞壁 建ほか 1995 「畠田遺跡・中野遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第22集)
山口博之ほか 2004 「萩原遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第120集)
手塚孝ほか 1998 「大神窟跡発掘調査報告書」(米沢市埋蔵文化財発掘調査報告書第57集)
田嶋明人 1986 「漆町遺跡Ⅰ」石川県立埋蔵文化センター
国土交通省東北地方整備局道路部 2005 「国道113号赤湯バイパス」「2005年度版・5年で見えるみちづくり」
山形県教育委員会 2004 「山形県遺跡地図」山形県教育委員会
第25回古代城柵官衙遺跡検討委員会事務局 1999 「第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料」
財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004 「六角壇遺跡・西中上遺跡」調査説明資料
財団法人山形県埋蔵文化財センター 2005 「中落合遺跡」調査説明資料
財団法人山形県埋蔵文化財センター 2005 「庚塙遺跡」調査説明資料
山形県教育委員会 2004 「山形県遺跡地図」山形県教育委員会

写真図版





遺景（南より）



遺景（東より）

大塚道路



A区造橋検出状況（北西より）



B区SH257検出状況（東より）

大塚遺跡



C区遺構棲出状況（南西より）



D区遺構棲出状況（南西より）



E区遺構棲出状況
(南西より)

人塚道路



E区東側 (SH330付近) 検出状況 (南より)



B区検出状況 (東より)



C区東側検出状況 (北より)



E区東側検出状況 (北より)



A区基本層序 (1)



A区基本層序 (2)



A区実掘状況（北より）

大塙遺跡



C・D・E区（南より）



C・D・E区（東より）



上空より（東より）



上空より（北より）



上空より（南より）

大塚遺跡



C・D・E区（上が北西）



C・D・E区（上が北西）



B区（上が北西）



E区（上が北西）



A区（上が北西）



B・C・D・E区（上が北）
完備状況空中撮影

大塚道路



東より



南より



上空より（上が西）

四面神社

大塚遺跡



完掘状況（南東より）



完掘状況（西より）



検出状況（西より）



土層断面a-a'（西より）



土層断面b-b'（西より）



土層断面c-c'（西より）



RP128-191出土状況（西より）
A区SH1 (1)



RP108(1)-109-110(186)111出土状況 (西より)



RP121出土状況 (南より)



RP113-114出土状況 (南より)



SD787出土状況 (東より)



SD787検出状況 (東より)



SD787-RP41(10)出土状況 (東より)
A区SH1 (2)

大塚遺跡



完掘状況（南より）



検出状況（西より）



完掘状況（北より）

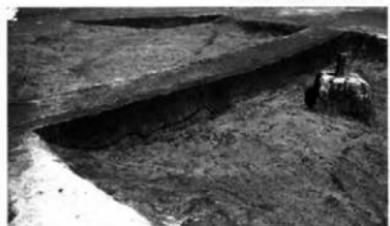
A区SH2 (1)



土層断面a-a'（西より）



土層断面b-b'（西より）



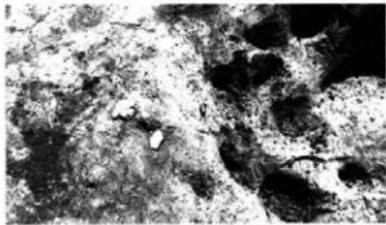
土層断面c-c'（南より）



土層断面d-d'（南より）



土層断面e-e'（南より）



RP82(193)-B3出土状況（北より）



RP97～104出土状況（西より）



RP108-109-110-111出土状況（西より）



RP184～94出土状況（北より）

A区SH2 (2)

大塚遺跡



完備状況（南より）



完備状況（北より）



検出状況（西より）
A区SH3 (1)



土層断面a-a'西面（西より）



土層断面a-a'東面（東より）



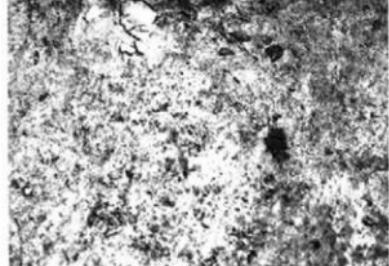
土層断面b-b'（西より）



土層断面c-c'（南より）



RP71出土状況（西より）



RP77(15)出土状況（西より）



RP79(16)-80出土状況（西より）

A区SH3 (2)

大塚遺跡



完掘状況(北より)



横出状況(西より)



土層断面a-a' (南より)
A区SH4



実掘状況（東より）



横出状況（北より）

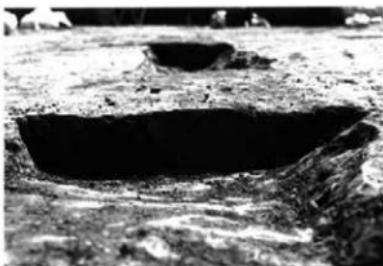
実掘状況（南より）

A区SH5 (1)

大塚遺跡



調査状況（西より）



土層断面a-a'（西より）



土層断面b-b'（西より）



土層断面c-c'（西より）



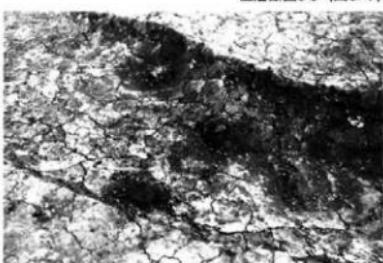
土層断面d-d'（西より）



土層断面e-e'（西より）



RP39出土状況（西より）



RP37出土状況（西より）
A区SH5 (2)



調査状況（北より）



土層断面a-a'（南より）



土層断面b-b'（西より）



土層断面c-c'（北より）



土層断面d-d'（北より）

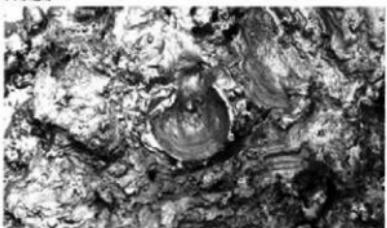


土層断面e-e'（西より）



土層断面f-f'（西より）

大塚遺跡



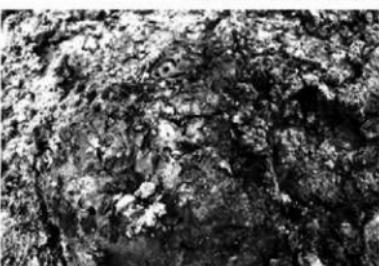
RP146(21)出土状況（西より）



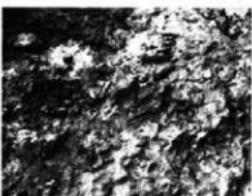
RP148(22)出土状況（北より）



RP147(20)出土状況（西より）



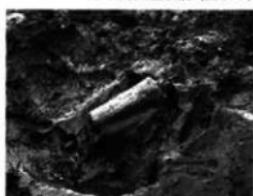
RP150出土状況（西より）



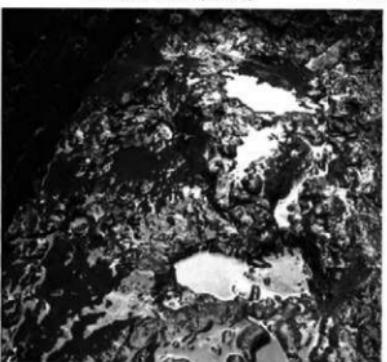
RP142出土状況（南より）



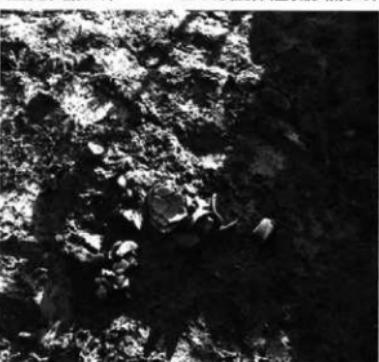
RP149出土状況（東より）



RP145(23)出土状況（南より）



RP138(19)出土状況（北より）



RP162(18)出土状況（北より）

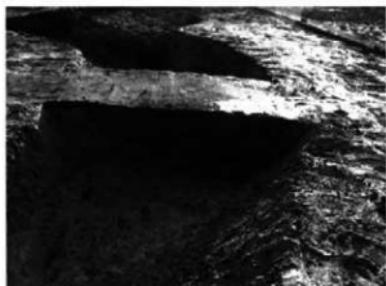
B区SH257 (2)



実掘状況（東より）



検出状況（西より）



土層断面a-a'（東より）



土層断面b-b'（西より）



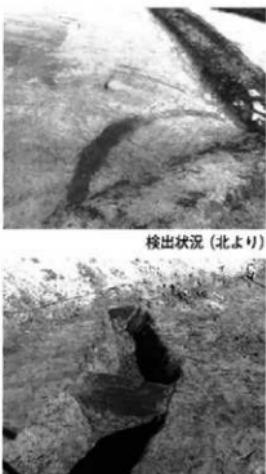
土層断面c-c'（西より）

B区 S H258

大塚遺跡



完掘状況（西より）



検出状況（北より）

土層断面a-a'-b-b'（西より）
B区SH808



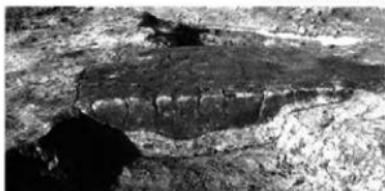
完掘状況（北より）
C区SH331(1)



検出状況（北より）



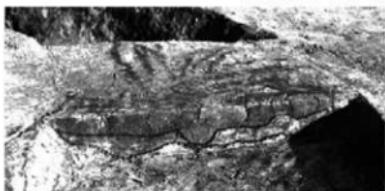
SH331内 SX807 土層断面（南より）



土層断面a-a'（西より）



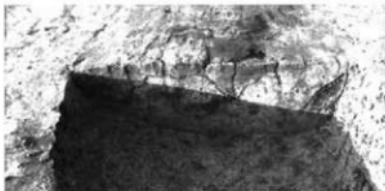
土層断面b-b'（西より）



土層断面c-c'（北より）



土層断面d-d'（北より）



土層断面e-e'（西より）



土層断面f-f'（西より）



土層断面g-g'（西より）

C区 SH331(2)

大堤道路



完備状況（西より）



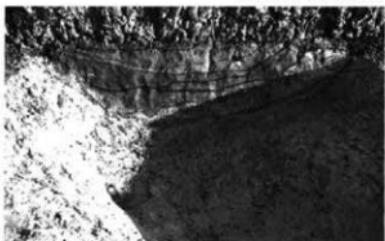
土層断面a-a' (西より)



土層断面b-b' (西より)



土層断面c-c' (西より)



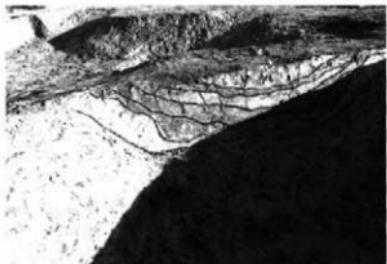
土層断面d-d' (北より)
C・D区SH262(1)



土層断面e-e' (南より)



土層断面f-f' (西より)



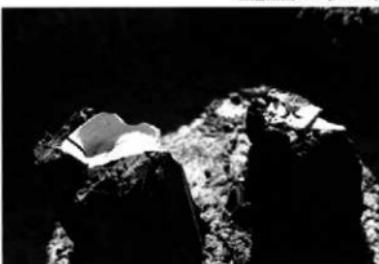
土層断面g-g' (西より)



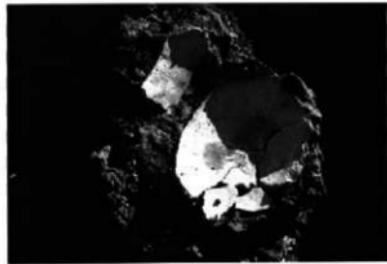
土層断面h-h' (西より)



土層断面i-i' (南より)



RP154出土状況 (北より)



RP158(43)出土状況 (北より)



RP179出土状況 (西より)
C・D区SH262(2)

大坂遺跡



完擺状況（西より）



陸橋横出状況（東より）



土層断面a-a'（南より）



土層断面b-b'（南より）
D区SH260



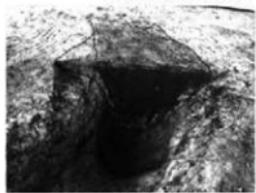
土層断面c-c' (南より)



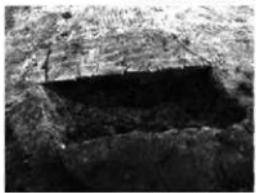
土層断面d-d' (東より)



土層断面e-e' (北より)



土層断面f-f' (西より)



土層断面g-g' (西より)



土層断面h-h' (西より)
D区SH260 (2)



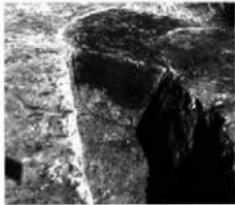
完掘状況 (西より)



土層断面a-a' (西より)



土層断面b-b' (西より)

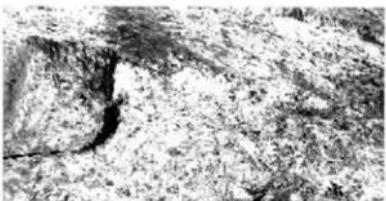


土層断面c-c' (南より)
D区SH261

大坂遺跡



完備状況（西より）



土層断面a-a' (南より)



土層断面b-b' (南より)



土層断面c-c' (南より)



土層断面d-d' (東より)

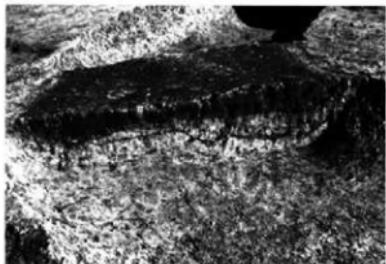


土層断面e-e' (北より)

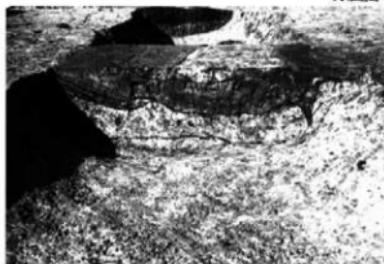


土層断面f-f' (西より)
E区SH263 (1)

大塚道路



土層断面gg' (西より)



土層断面hh' (西より)



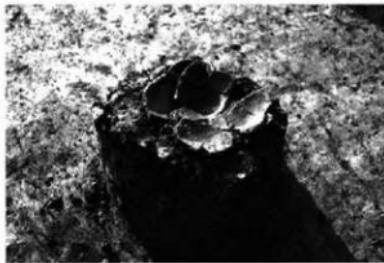
主体部東西面土層断面 (北より)



主体部南北面土層断面 (西より)



RP136(53)出土状況 (北より)



RP181(55)出土状況 (東より)



SH263内SK810・RP178出土状況 (東より)

E区SH263(2)

大塚遺跡



実機状況(北より)



土層断面a-a' (西より)



土層断面b-b' (北より)



土層断面c-c' (西より)

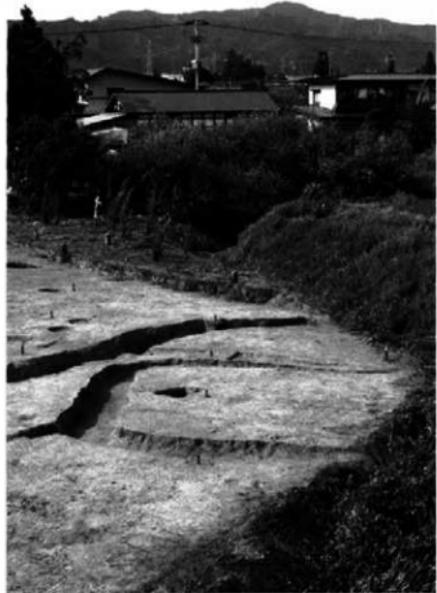


土層断面d-d' (西より)



土層断面e-e' (南より)

E区SH748

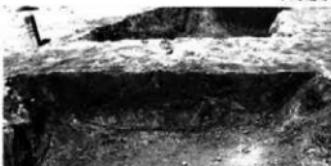


完掘状況（西より）



R P 57(56)・58・59出土状況（西より）

大塚遺跡



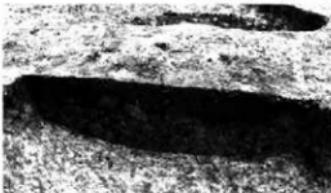
土層断面a-a'（南より）



土層断面b-b'（南より）



土層断面c-c'（西より）

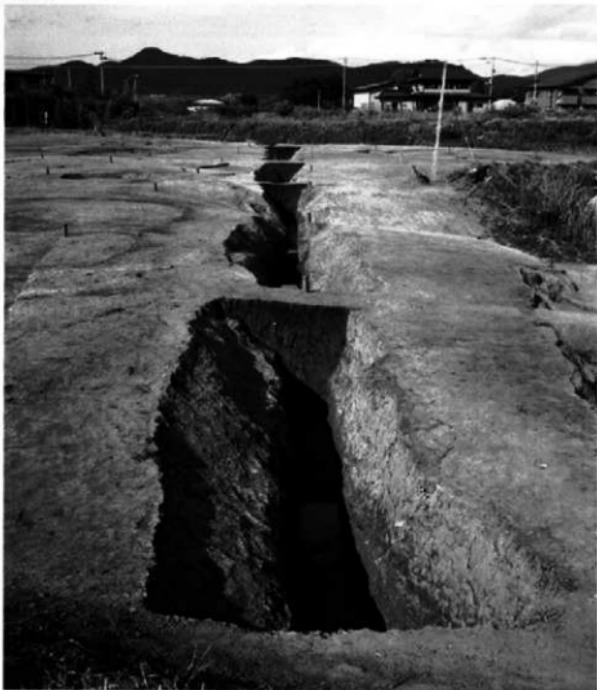


土層断面d-d'（南より）

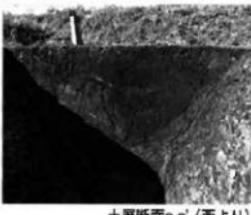


土層断面e-e'（南より）
E区 S H330

大坂遺跡



完掘状況（西より）



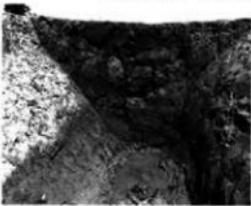
土層断面α-α'（西より）



土層断面c-c'（西より）



土層断面d-d'（南より）



土層断面f-f'（西より）



土層断面g-g'（西より）



土層断面h-h'（西より）

E区SH703 (1)



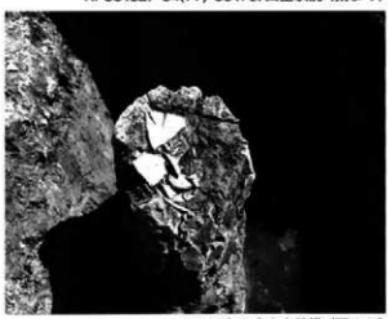
RP53(82)・54(77)・55(76)出土状況（東より）



RP60(106)出土状況（南より）



RP68(108)出土状況（西より）



RP69(100)出土状況（西より）



RP64(96)出土状況（北より）



RP62(75)出土状況（南より）

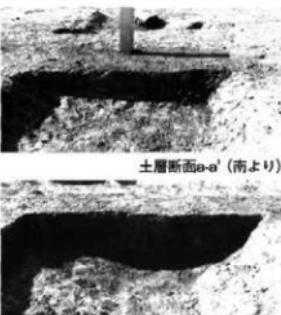


RP61(73)出土状況（東より）
E区SH703(2)

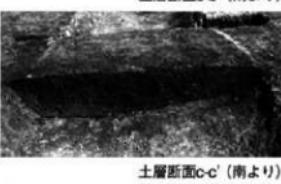
大塚遺跡



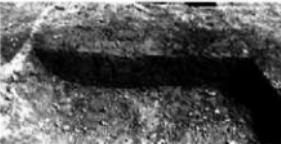
実施状況（西より）



土層断面a-a'（南より）



土層断面b-b'（南より）



土層断面c-c'（南より）



調査状況（南より）



調査状況（南より）

E区SD706



調査状況 (上が北)



土層断面a-a' (南より)



土層断面b-b' (南より)



土層断面c-c' (南より)



土層断面d-d' (南より)

B~D区SG256

大塚遺跡



SX782完掘状況（北より）



SX782調査状況（南より）



土層断面東西面（北より）



土層断面南北面（西より）



SD13完掘状況（西より）



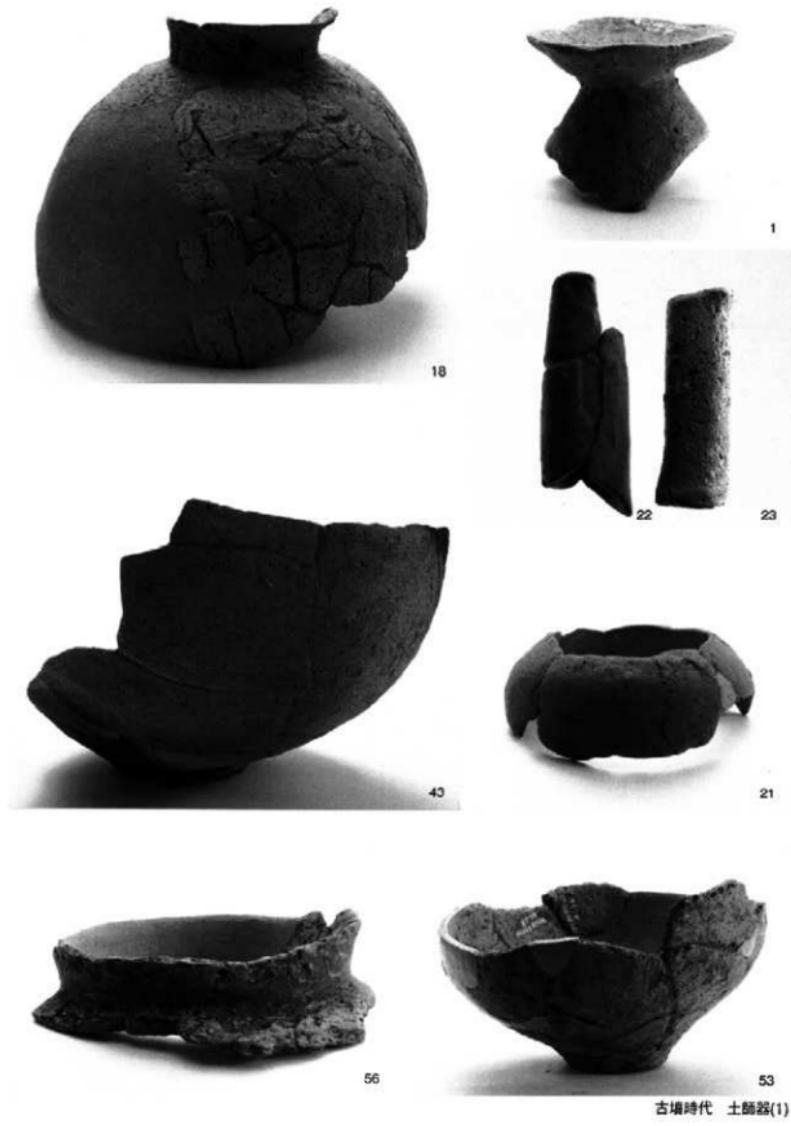
SD16完掘状況（西より）



SH1出土 古墳時代土器



SH1出土 古墳時代土器



古墳時代 土器(1)



2



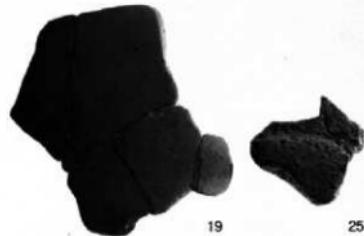
139



3



15



19

25



16



20

24



55

古墳時代 土器(2)



60



58



61



59



12



11



175



22

57

116



44



17



152

古墳時代 土師器 (3)



SD703 出土土器

古代 土器須恵器



80

79

76



88

73

74



77

75

96

SD703 出土土器



SX782-SD703 出土土器



118



117



121



138



134

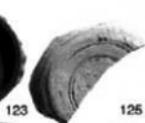


133

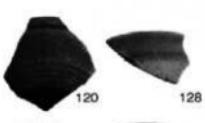
135



123



125

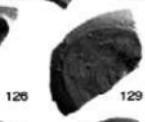


120

128



126

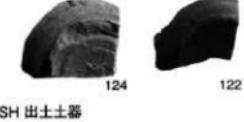


129



130

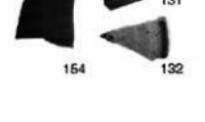
127



124



122



154

132



136



137

SH 出土土器



6



4



7



5



10



8



9



14



13

SD706・SH 出土土器



SH 出土土器



65



70



172



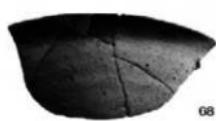
122



121



58



68



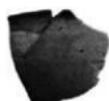
130



71



62



69



155

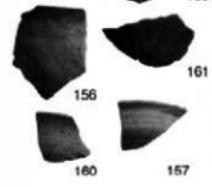


174

173



171



156



161



176



170



150



158



159

SX-SK-SP・造構外 出土土器

大埠遺跡



縹文土器·石器



遠景（北より）



遠景（南より）

西中上道路



上空より（西より）



上空より（北より）

西中上遺跡



上空より（上が東）



SD3（上が東）

西中上道路



遺構検出状況（西より）



遺構検出状況（北より）



完掘状況（南より）



遺物出土状況（西北より）



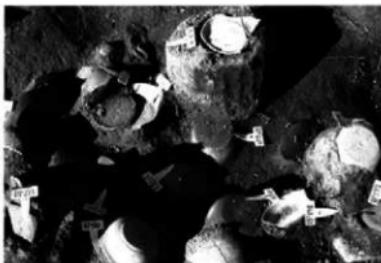
遺物出土状況（西北より）



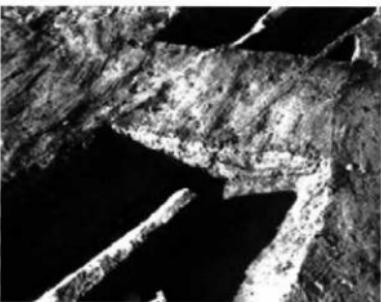
遺物出土状況（西北より）

SD 3(1)

西中上遺跡



遺物出土状況(北より)



土層断面b-b' (北西より)



土層断面d-d' (北西より)
SD3 (2)



実機状況（南より）



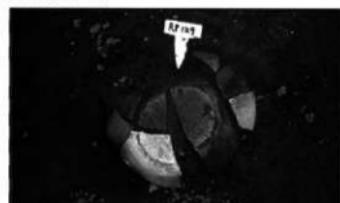
RP126・127出土状況（北より）



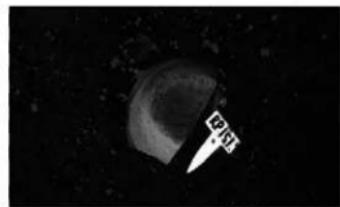
RP出土状況（西より）



遺物出土状況（西より）



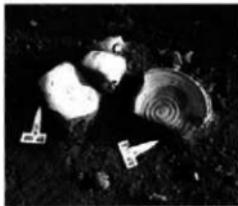
RP129出土状況（西より）



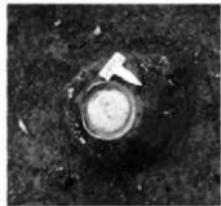
RP151出土状況（西より）



土層断面（北西より）



RP120・121出土状況（西より）



RP152出土状況（西より）

SD5

西中上道路



SD1完掘状況（南より）



SD6（南より）



完掘状況（南より）



完掘状況（南より）



土層断面c-c'（南より）

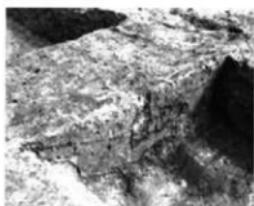
SD13



SD 2 完掘状況（南より）



SD 4 完掘状況（南西より）



土層断面a-a'（南より）



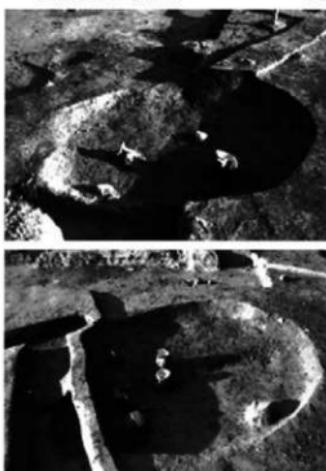
土層断面b-b'（南より）



土層断面c-c'（南より）



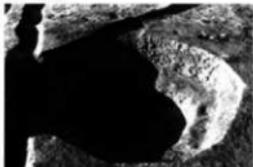
SD 41 遺物出土状況（西より）



SK218完掘状況
(西より)

SK219完掘状況
(南より)

西中上遺跡



SE64完掘状況（東より）



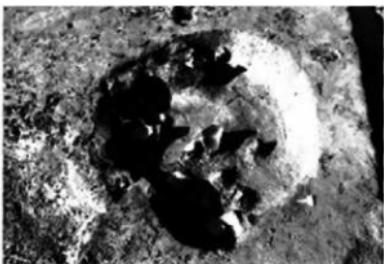
SE64土層断面（東より）



SK49土層断面（南より）



SK49完掘状況（北西より）



SK153完掘状況（東より）



SK153土層断面（南より）

西中上遺跡



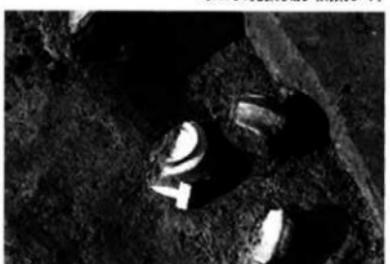
SK126完掘状況（南東より）



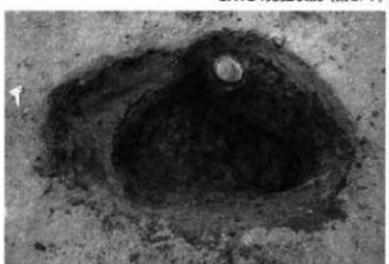
SK161完掘状況（南東より）



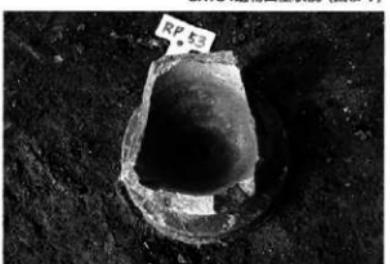
SX154完掘状況（東より）



SX154遺物出土状況（西より）



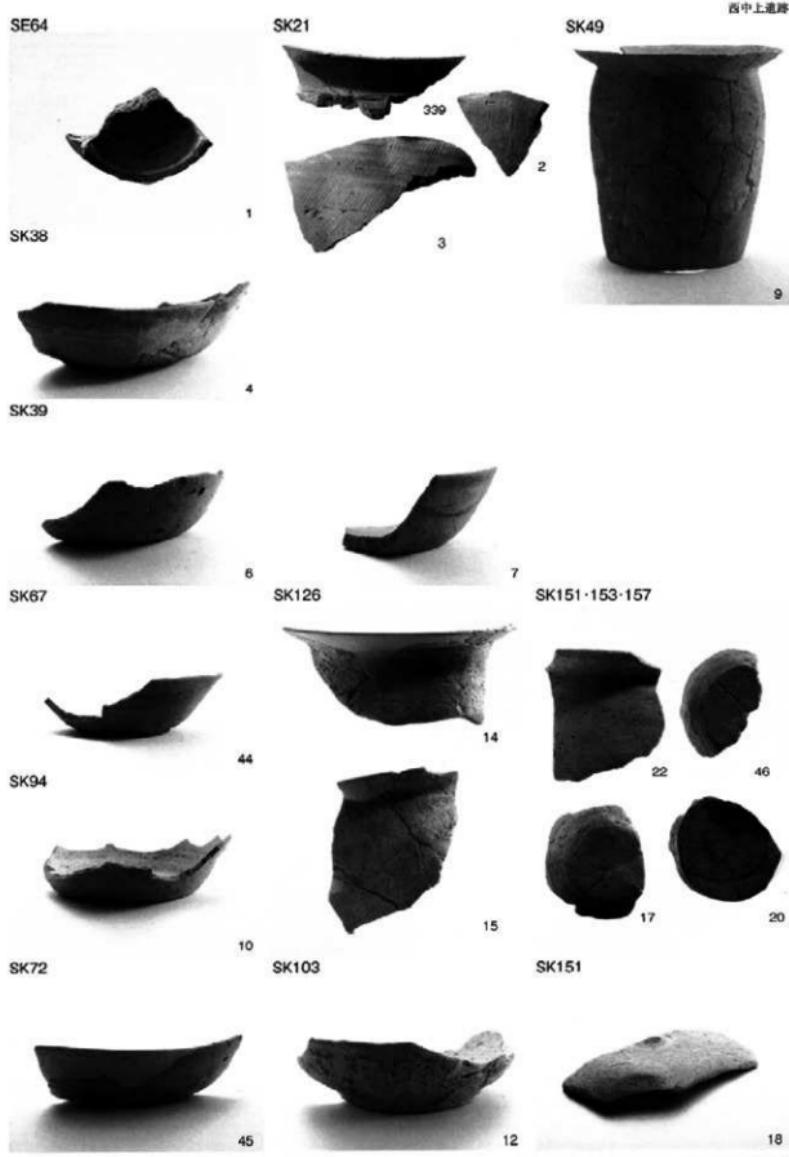
SK94完掘状況（南東より）



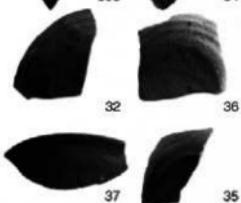
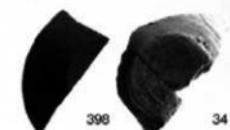
RP53出土状況（東より）



SD5 出土土器



西中上遺跡
SK218



SK219

SK39·126·151·161



SK161



SK 出土土器

SK153

SX24

SX93

西中上道器



19



55



56



21



47



57

SX165



51



49



50



53



54



52

SX154

SX220

SD2



48



56



344

SD65



330

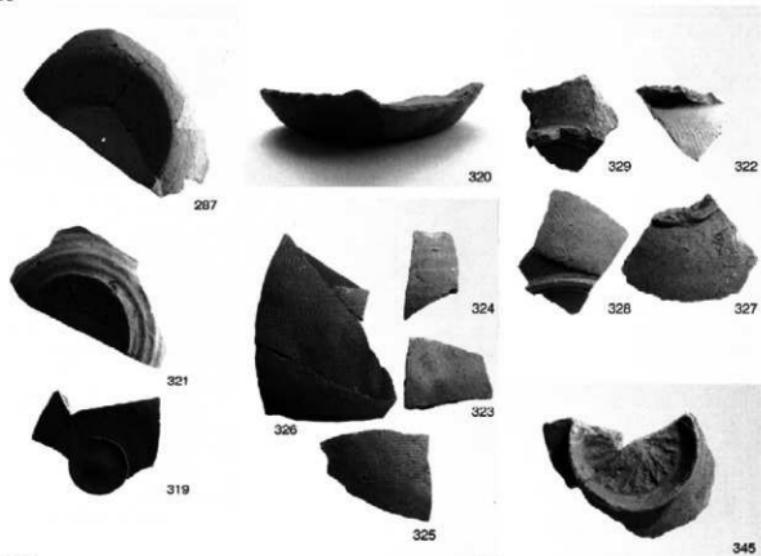


347

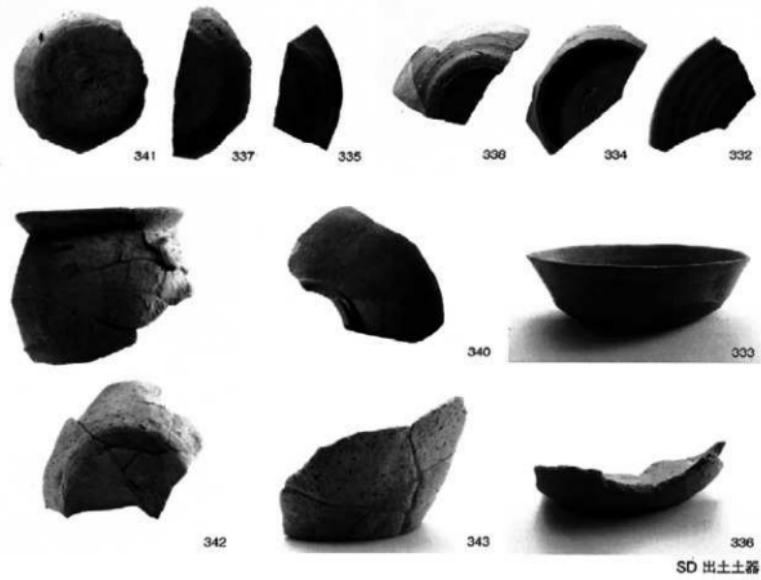


346

SK 出土土器



SD222



SD 出土土器



269



268



9

21



239



311



233



275

280

278



290



205

250

255

出土土器



59



60



65



62



63



64



61



66



67



68



70



71



72



73



74



75



77



78



79



80



81



83

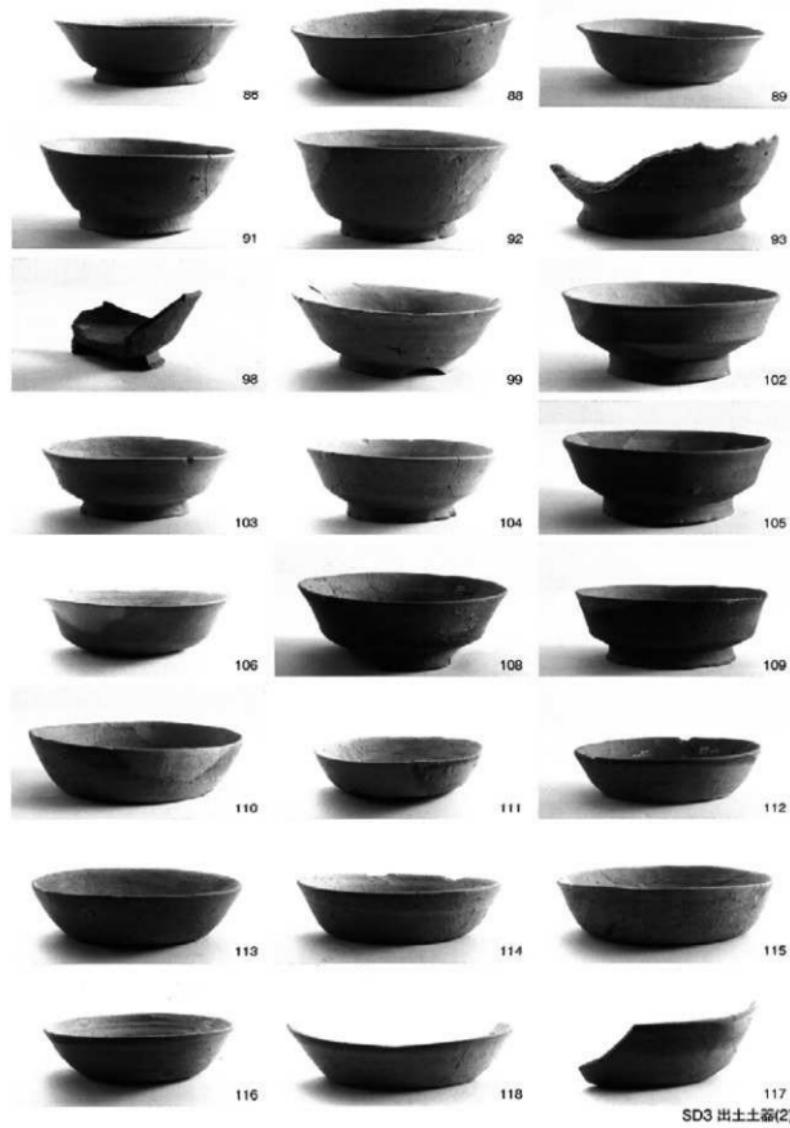


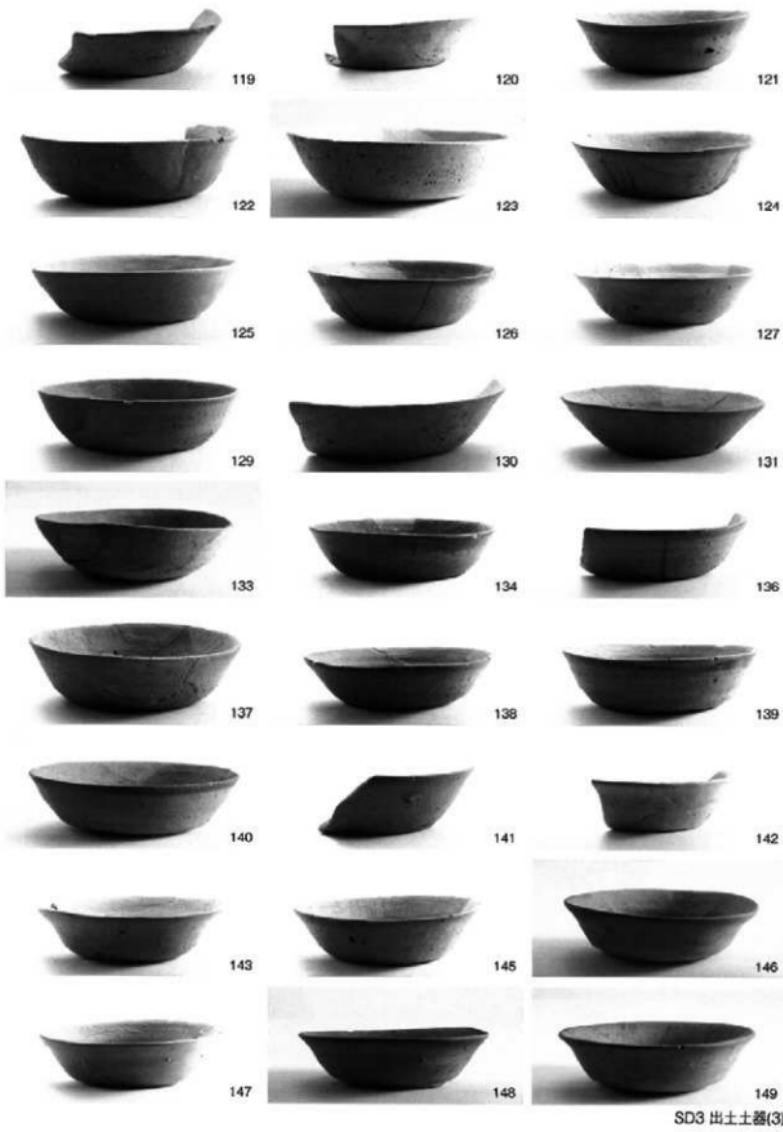
84



85

SD3 出土土器(1)





西中上造跡



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



164



165



166



167



168



169



170



171



172



173



174



175

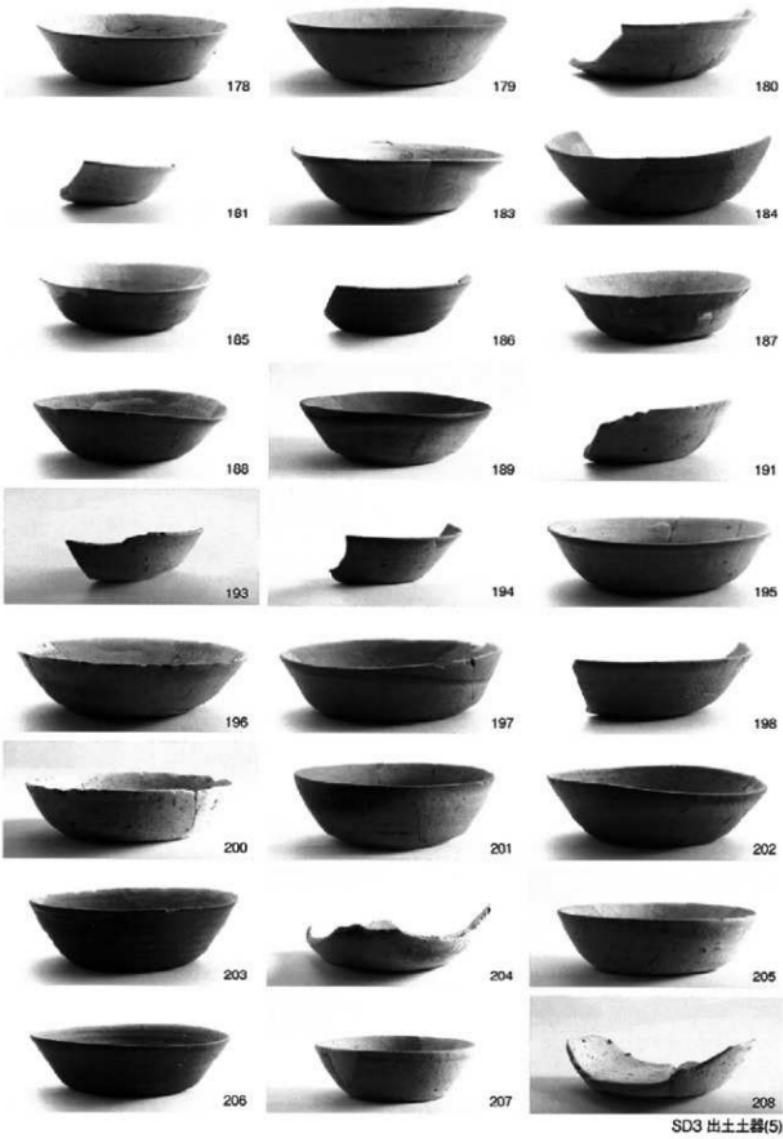


176



177

SD3 出土土器(4)





209



210



211



212



213



214



215



216



218



219



220



221



97



95



222

223



132

227



94



96



224

199



76

107

225

192

226

69



236



241



242



243



244



245

SD3 出土器(6)



SD3 出土土器(7)



249 260

263

262
240

268

239

231

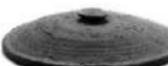
237



269

270

272



273

274

275



276

280

284



288

289

290

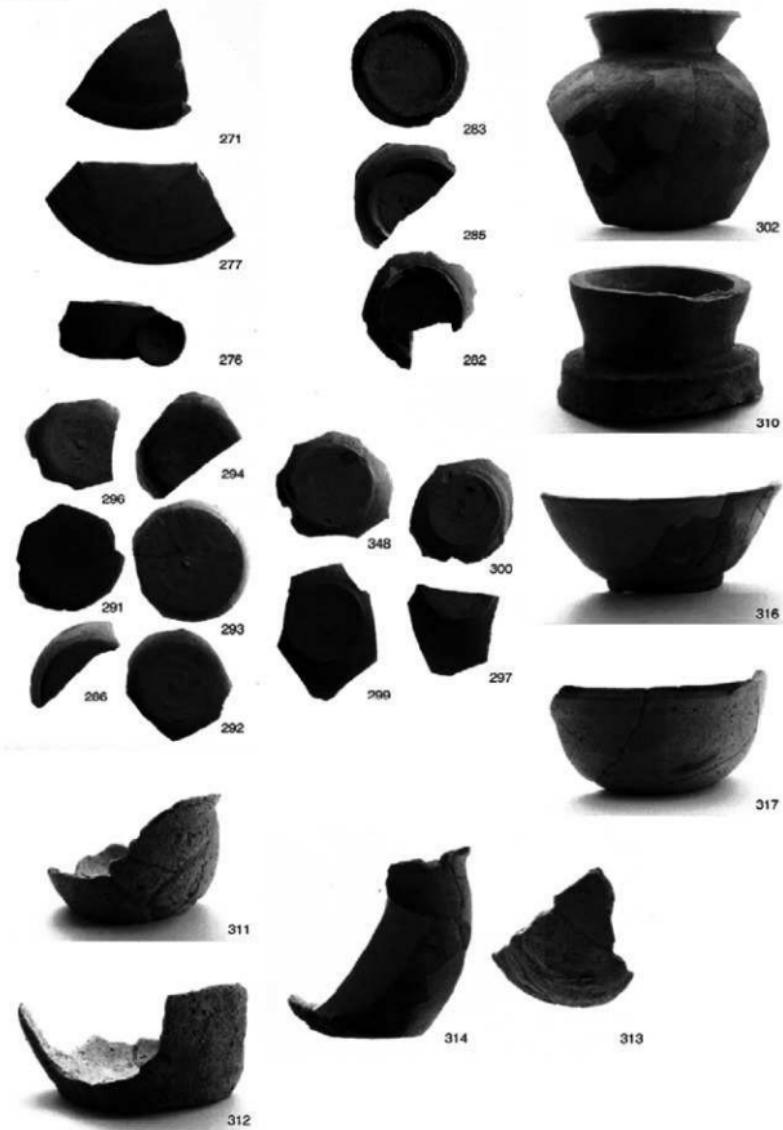


295

90

296

SD3・5 出土土器



SD5 出土土器(2)



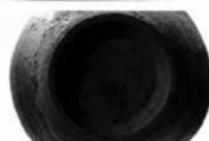
82



87



100



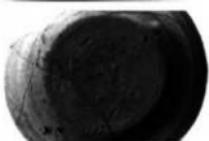
101



128



135



144



163



182



217



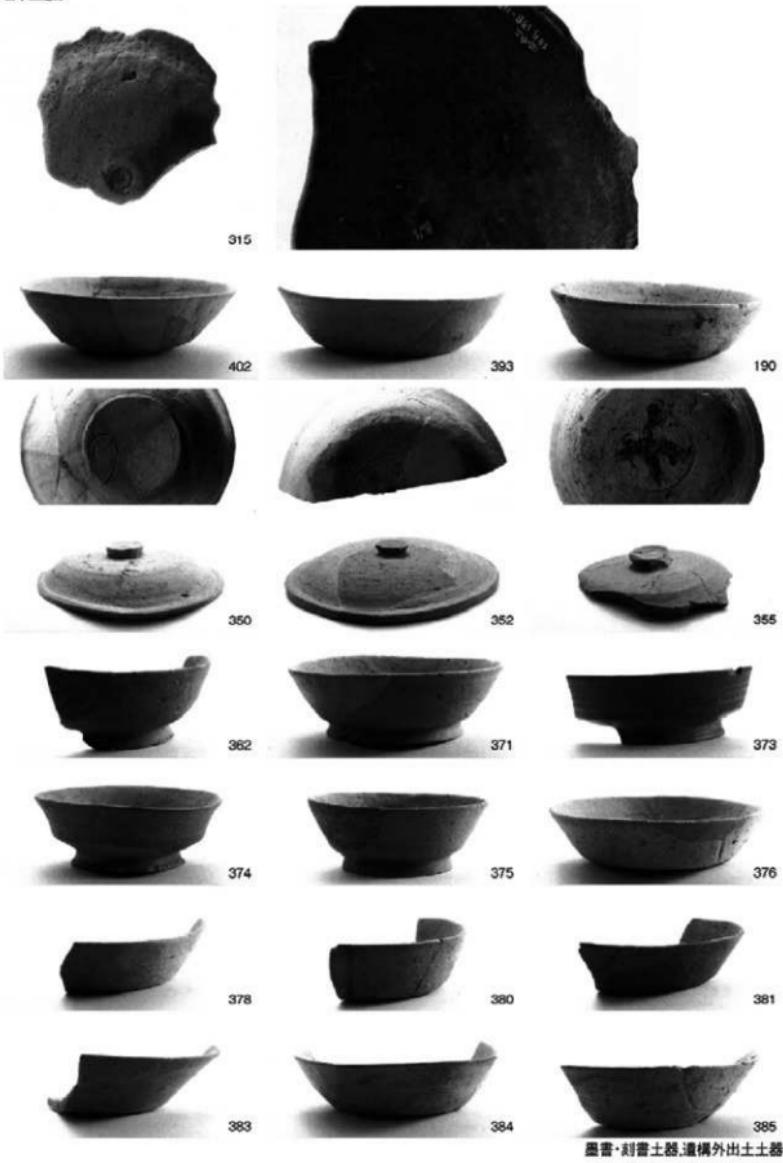
281

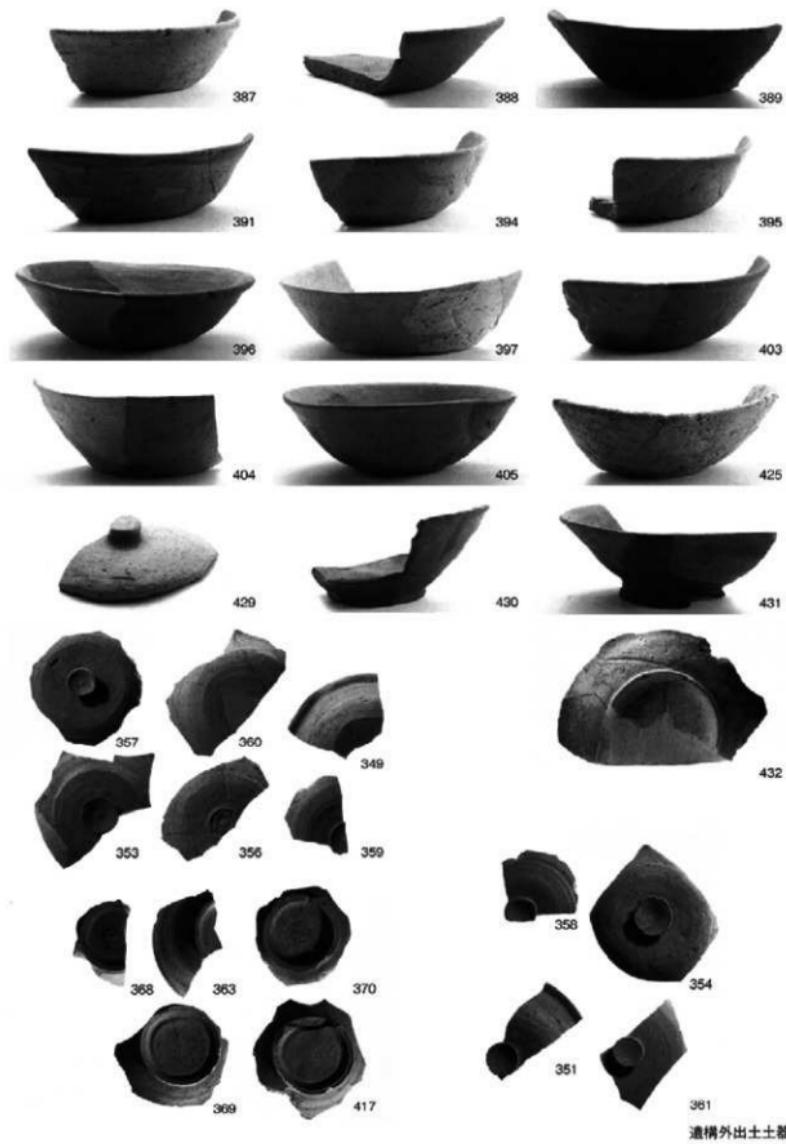


279

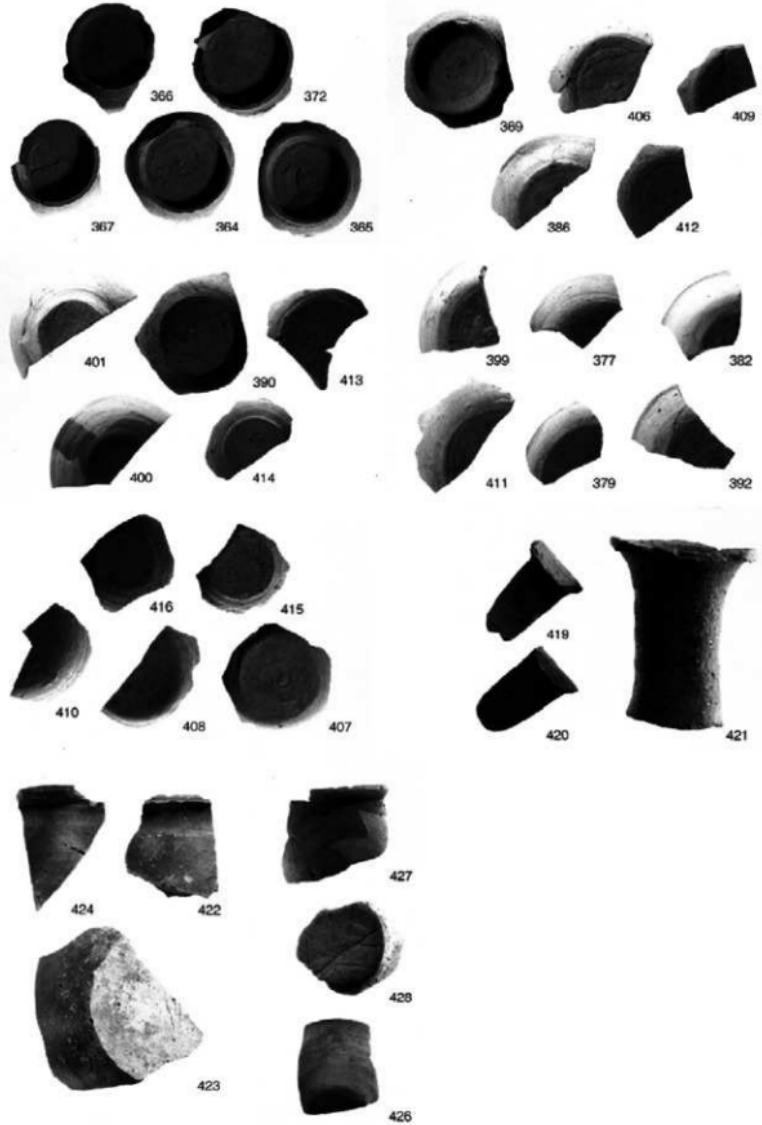


SD3・5・墨書・鉢





遺構外出土土器



遺構外出土遺物

付 編

大塚遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

南陽市に所在する大塚遺跡は、吉野川が形成した宮内扇状地の扇尖部に位置する。遺跡の東側には、吉野川の旧河道とされる低地が分布し、遺跡はその河道にともなって形成された自然堤防上に立地している。発掘調査では、古墳時代4~5世紀とされる方形周溝墓あるいは方墳の周溝の可能性があるとされている方形に巡る溝跡が多数検出され、また、平安時代9~10世紀とされる溝跡や土坑なども検出されている。

本報告では、古墳時代の周溝跡を対象として、その覆土中より噴出年代の明らかにされているテフラの検出を行い、溝跡にかかる年代資料を得るとともに、覆土より出土した材および種実の同定を行い、当時の植物利用や植生について考察する。

1.試料

テフラ分析の対象とされた遺構は、古墳時代とされる方形の周溝跡のSH257とSH262である。これらの周溝の覆土1層より、それぞれSH257F2(火山灰)①とSH262F2(火山灰)②の2点の試料が採取された。いずれも黒褐色を呈する腐植質の砂質シルトである。

材は、SH257の床面より出土した試料3点である。試料名はSH257Y①、SH257Y②、SH257Y③とされている。また、種実分析には、同様にSH257の覆土2層より採取された土壌であるSH257F1植物サンプルとされた試料1点が供された。

2.分析方法

(1)テフラ分析

試料約20 gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

(2)材同定

剥刀の刃を用いて木口(横断面)・極目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

(3)種実分析

土壌試料200cc(3229g)を水に一晩浸し、0.5mm目の篩を通して水洗する。篩の残渣をシャーレに集め、双眼立体顕微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出する。検出された種実遺体の形態的特徴を、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか2000)等と比較し、種類を同定し個数を求

める。微細片を含み個数の推定が困難な炭化材や不明炭化物は、70℃48時間乾燥後の重量を求める。分析後の種実遺体と見虫遺骸は、種類毎にビンに入れ、70%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施す。炭化材、不明炭化物は、ビンに入れて保管する。

3.結果

(1)テフラ分析

2点の試料は、ともにスコリア・軽石は全く認められず、極めて微量の無色透明のバブル型火山ガラスが認められたのみである。

(2)材同定

木材は全て落葉広葉樹のトチノキに同定された。解剖学的特徴等を記す。

・トチノキ(*Aesculus turbinata* Blume)　トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、單列、1-15細胞高。

現生のトチノキと比較すると放射組織の階層状配列が明瞭ではないが、その他の特徴がトチノキと一致しており、他に類似する種類も無いため、トチノキに同定した。

(3)種実分析

結果を表1に示す。種実分析の結果、草本2分類群15個の種実が検出された他に、炭化材、部位・種類共に不明の炭化物が各0.1g未満、見虫遺骸の破片が1個確認された。

以下に、本分析にて同定された種実の形態的特徴を記す。

・オモダカ科(*Alismataceae*)

種子が4個検出された。茶褐色、倒U字状に曲がった円柱状で偏平。径1mm程度。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縫筋が目立つ。

・カヤツリグサ科(*Cyperaceae*)

果実が11個検出された。形態上差異のある複数の種を一括した。黒褐色、片凸レンズ状の広倒卵形。長さ1.8mm、径1.5mm程度。頂部はやや尖る。表面には微細な網目模様がありざらつく。

表1.種実分析結果			
分類群	学名	部位	SH257/P1
オモダカ科	<i>Alismataceae</i>	種子	4
カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	果実	11
炭化材			<0.1g
不明炭化物			<0.1g
見虫遺骸			1
		土壤分析量	200cc(222.9g)

4.考察

テフラ分析の試料として採取された堆積物は、いずれもテフラではなく、溝周囲の土壌あるいは堆積物に由来すると考えられる。検出された火山ガラスについても同様である。なお、火山ガラスは、極めて微量であるため、現時点ではその由来するテフラを明らかにすることは難しい。

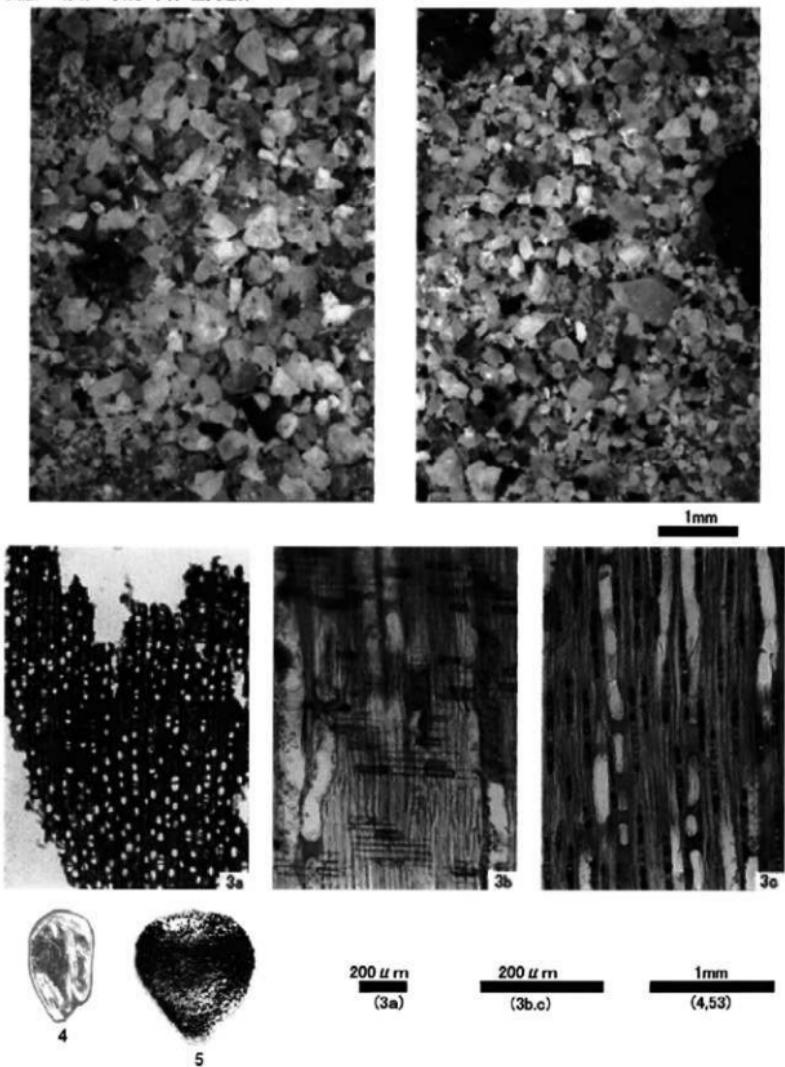
材試料については、用途等の詳細は不明である。全てトチノキに同定された。トチノキは、河川沿い等の肥沃な土地に生育する落葉高木であり、木材は加工が容易であるが、保存性は低い。本地域では現在でも山地にトチノキが生育しており、遺跡周辺に生育していた樹木を利用したことが推定される。

一方、溝の覆土からは、水生植物のオモダカ科、湿生～中生植物のカヤツリグサ科などの草本種実が確認された。何れも、人里近くに開けた草地を形成する、いわゆる人里植物に属する種類であることから、調査区付近に生育していたものに由来すると思われる。

引用文献

- 石川 茂雄,1994.原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志,2000.日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.

図版1 砂分の状況・木材・種実遺体



3.トチノキ(SH257Y③) a:木口,b:柾目,c:板目

4.オモダカ科 種子(SH257F1)

5.カヤツリグサ科 果実(SH257F1)

報告書抄録

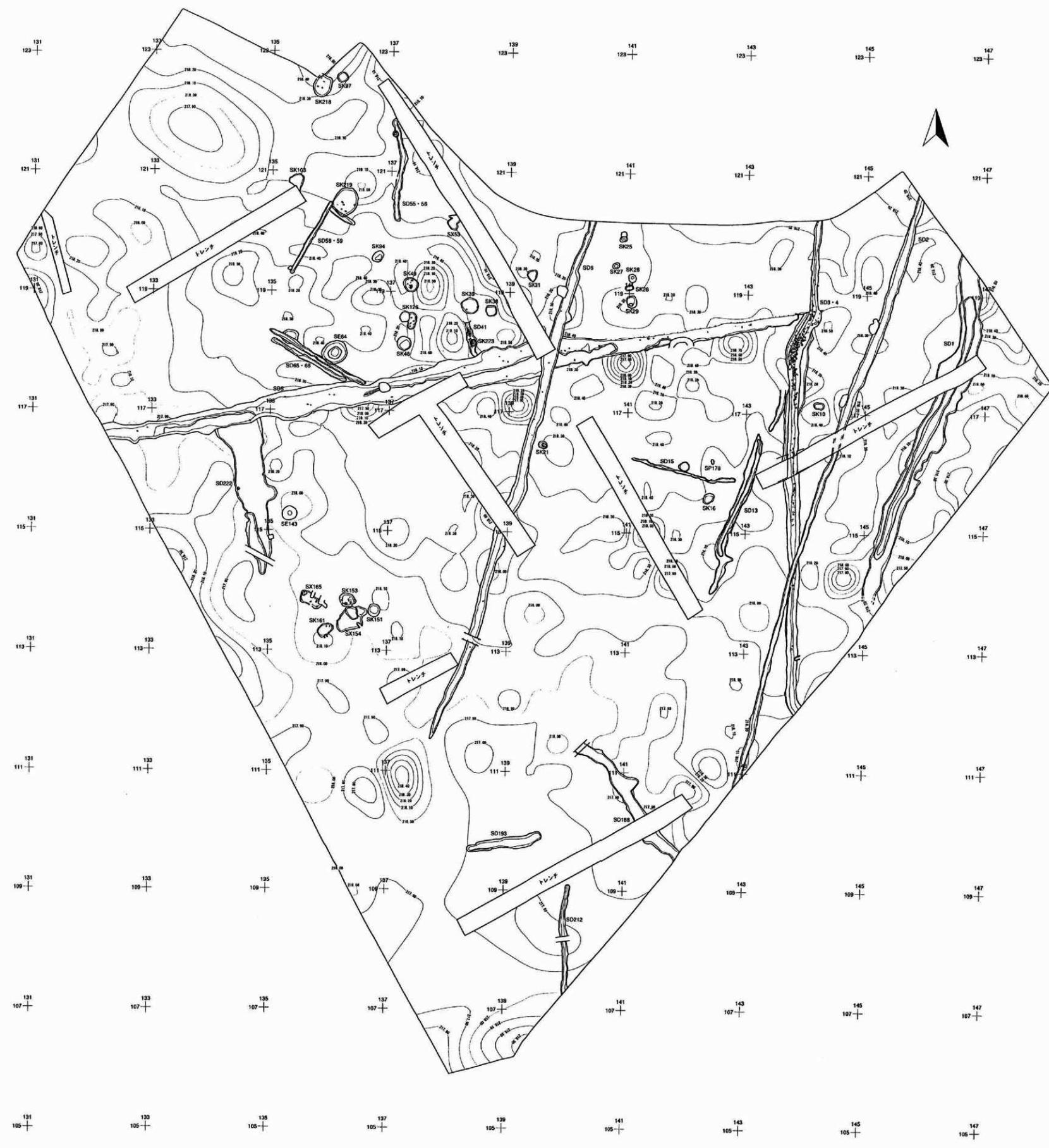
ふりがな	おおつかいせき・にしなかがみいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	大塚遺跡・西中上遺跡発掘調査報告書						
副書名							
卷次							
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第158号						
編著者名	氏家信行 吉田江美子 佐藤正俊						
編集機関	財團法人山形県埋蔵文化財センター						
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301						
発行年月日	2007年3月28日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
おおつかいせき 大塚遺跡	やまがたけん 山形県 なんようし 南陽市 あおあづは 大字秋生田 あざわらわ 字大塚	6213	平成4年度 登録	38度 02分 40秒	140度 08分 16秒	20040511 20040831 20041004 20041217	8,200 一般国道 113号赤湯バイパス改築事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
集落跡	縄文時代			縄文土器 石器		流れ込みと考えられる縄文時代中期中葉の土器片と石器が出土した。	
墓跡	古墳時代	周溝 土坑		土師器		方形に巡る周溝が15基確認され、4世紀後半頃に構築された古墳もしくは方形周溝墓群と考えられる。	
集落跡	奈良・平安時代	土坑 溝跡 河川跡		土師器須恵器		9世紀代の構築されたと考えられる溝跡や土坑が確認された。 (文化財認定箱数:25箱)	
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
にしなかがみいせき 西中上遺跡	やまがたけん 山形県 なんようし 南陽市 あおあづかねし 大字萬葉 あずにじよのかわせ 字西中上	6213	平成8年度 登録	38度 02分 29秒	140度 08分 19秒	20040818 20041217	4,000 一般国道113号赤湯バイパス改築事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
集落跡	奈良・平安時代	井戸跡 土坑 溝跡		土師器 須恵器 黒色土器		置賜地域で類例の少ない8世紀後半から9世紀初頭の集落跡が確認され、多量の土器が溝跡から出土した。 (文化財認定箱数:40箱)	

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第158集

大塚遺跡・西中上遺跡発掘調査報告書

2007年3月28日発行

発行 財團法人 山形県埋蔵文化財センター
〒990-5161 山形県上山市弁天二丁目15番1号
電話 023-672-5301
印刷 大場印刷株式会社
〒990-2251 山形県山形市立谷川二丁目485-2
電話 023-686-6155



付図 西中上道路選択配置図